

たくましく生きる力をはぐくむ

はばたく群馬の 指導プラン



実践の手引き

平成26年3月

群馬県教育委員会
群馬県市町村教育委員会連絡協議会
群馬県小学校長会・中学校長会
群馬大学教育学部・附属学校共同研究推進センター

たくましく生きる力をはぐくむ

はばたく群馬の 指導プラン

実践の手引き

はじめに

学力向上を図るには、まず、子どもたちの学力の状況を把握し、課題を明らかにした上で、解決のための授業改善をしていくことが必要です。県教育委員会では、県独自の学力調査「ぐんまの子どもの基礎・基本習得状況調査」や「全国学力・学習状況調査」結果等を踏まえ、各教科で伸ばしたい資質・能力や、指導の基本等を示した指導資料「はばたく群馬の指導プラン(平成24年3月)」を作成しました。そして、この指導プランを、全ての小・中学校の先生方が手元において活用できるように配付した上で、様々な機会を通じてその周知に努めるとともに、26の小中学校で、各教科・領域の授業公開をするなど、指導プランに基づく授業改善を推進して参りました。

指導プランでは、義務教育9年間を見通した系統的な指導を重視し、全ての教科・領域において、必要となる内容を精選・焦点化して掲載してあります。このたび、各先生が、自分の専門以外の教科についても、より一層の理解を深め、この指導プランに基づく授業の具現化が図れるよう、各教科等の特質に応じて、必要な内容を補足した指導資料を、「はばたく群馬の指導プランー実践の手引きー」として、作成しました。

平成26年度から始まる第二期群馬県教育振興基本計画では、これまでと同様「たくましく生きる力をはぐくむ」を基本目標に、「知識・技能を活用し課題解決を図る力の育成」を取組の柱の1つとし、県教育委員会としても、新たな取組を進めていきます。各学校においても、学力向上委員会を中心に、自校の子どもたちの学力向上を目指し、授業改善を核としながら、指導体制の工夫・改善、教員の指導力の向上、家庭・地域との連携を視点に、組織的・継続的に取り組んでいくことが大切です。本県の小中学校において、「はばたく群馬の指導プラン」と同様、本冊子が、全ての先生方に活用され、各学校における子どもたちの学力が一層向上することを願っております。

最後に、本冊子を作成するに当たり、基礎・基本習得プロジェクト会議の委員として御尽力いただきました皆様をはじめ、関係学校の皆様に深く感謝申し上げます。

平成26年3月

群馬県教育委員会
教育長 吉野 勉

冊子の見方

本冊子は、本県の全ての先生が、「はばたく群馬の指導プラン」を十分理解し、各教科・領域において、指導プランを具現化した授業ができるようにするために作成したものです。

従って、「はばたく群馬の指導プラン」では、各教科等が共通の様式で、伸ばしたい資質・能力と指導の基本を示しましたが、本冊子は、それぞれの教科の特質に応じて、掲載してある内容が異なります。

例えば、指導プランでは、各教科の授業のつくり方について、1つの流れで示しましたが、単元や領域、内容に応じて、同じ教科の中でも違いがあることも事実です。そこで、特定の領域や内容に応じた授業のつくり方を示している教科もあります。

また、指導プランでは、基本的な授業の流れは示しましたが、どのような手順で授業づくりをしていけばよいか言及していなかったため、そのつくり方の過程を示している教科もあります。

そこで、各教科・領域のトップページには、その教科等で、何を示したのかを分かるようにしました。

小学校では、学級担任が、自分の専門以外の教科についても指導していくため、指導例等は、小学校に視点を当てて示してあります。各教科等の指導を進めていく上での基本的な考え方は、小学校でも中学校でも変わりありませんので、小中連携の視点からも、小学校はもとより、中学校においても積極的に御活用ください。

◆その教科等で大事にしたいことをもとに、どのような意図・構想で、本冊子の内容を作成したかを示してあります。

◆作成の意図・構想に従い、その教科ごとに、項立てしてあります。

◆索引としても使えるようにしてあります。

<項立ての例>

- 各教科等で伸ばしたい資質・能力に応じた指導のポイントや指導例
- 各教科等の特性に応じた学習過程の具体的なつくり方
- 特定の領域や内容に応じた授業のつくり方とその指導例

国語
Japanese Language

児童が主体的に学習を進めていくために

国語科では、「実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力」の育成が求められています。この能力を伸ばすには、受動的に学習するのではなく、様々な能力を生かしながら児童が主体的に学んでいく必要があります。そのためには、はばたく群馬の指導プランの「指導の基本」に示したように、「単元を貫く言語活動」を設定して、目的も課題解決的に児童が学習を進められるよう単元を構想するとともに、児童に身に付けさせたい力を確実に付けさせていくための学習活動を工夫していくことが重要です。

そこで、本資料では、まず、児童が主体的に学習を進めていけるよう単元を構想する上でのポイントを「読むこと」の領域を例に示しました。次に、各領域における学習活動の工夫を示し、さらに、実際の単元、授業のつくり方の例、グループでの学びを効果的に行うための例を示しました。

1 「読むこと」の学習を主体的に行わせるために	
(1) 単元を貫く言語活動の設定	P 2
(2) 単元の評価規準の重点化	P 3
(3) 身に付けさせたい力の一般化	P 3
2 各領域の指導における学習活動の工夫	
(1) 「読むこと」説明的な文章	P 4
(2) 「読むこと」文学的な文章	P 6
(3) 「話すこと」「書くこと」	P 8
3 各領域の単元、授業のつくり方	
(1) 「読むこと」説明的な文章	P 10
(2) 「読むこと」文学的な文章	P 12
(3) 「話すこと・聞くこと」	P 14
(4) 「書くこと」	P 16
4 グループでの学び合いを効果的に行うために	P 18

目 次

はじめに

冊子の見方

目 次

国 語	1
社 会	19
算 数	31
理 科	51
生 活	67
音 楽	75
図 画 工 作	83
家 庭	93
体 育	103
道 徳	113
外国語活動	121
総合的な学習の時間	127
学 級 活 動	137
情 報 教 育	145

関係者名簿

国語

Japanese Language

児童が主体的に学習を進めていくために

国語科では、「実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力」の育成が求められています。この能力を伸ばすには、受動的に学習するのではなく、様々な能力を生かしながら児童が主体的に学んでいく必要があります。そのためには、はばたく群馬の指導プランの「指導の基本」に示したように、「単元を貫く言語活動」を設定して、目的をもち課題解決的に児童が学習を進められるよう単元を構想するとともに、児童に身に付けさせたい力を確実に付けさせていくための学習活動を工夫していくことが重要です。

そこで、本資料では、まず、児童が主体的に学習を進めていけるよう単元を構想する上でのポイントを「読むこと」の領域を例に示しました。次に、各領域における学習活動の工夫を示し、さらに、実際の単元、授業のつくり方の例、グループでの学びを効果的に行うための例を示しました。

1 「読むこと」の学習を主体的に行わせるために

- (1) 単元を貫く言語活動の設定 P 2
- (2) 単元の評価規準の重点化 P 3
- (3) 身に付けさせたい力の一般化 P 3

2 各領域の指導における学習活動の工夫

- (1) 「読むこと」説明的な文章 P 4
- (2) 「読むこと」文学的な文章 P 6
- (3) 「話すこと」「書くこと」 P 8

3 各領域の単元、授業のつくり方

- (1) 「読むこと」説明的な文章 P 10
- (2) 「読むこと」文学的な文章 P 12
- (3) 「話すこと・聞くこと」 P 14
- (4) 「書くこと」 P 16

4 グループでの学び合いを効果的に行うために P 18

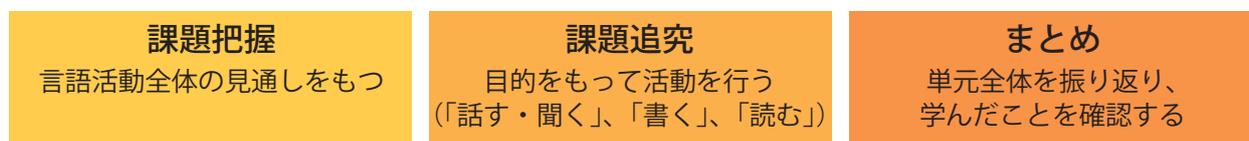
1 「読むこと」の学習を主体的に行わせるために

(1) 単元を貫く言語活動の設定

国語科の学習の中で「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の領域では、スピーチをする、意見文を書くなど、学習の目的が明確です。そして、その目的に向かって各時間の授業が行われていきます。

しかし、「読むこと」の領域では、教科書に掲載されている教材文を初めから終わりまで平板に読むという授業になりがちです。「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の領域と同じように、何のために読むのか、児童が主体的に学びたいような目的を明確にもたせて、課題解決的に学習させていく必要があります。目的をもつことで、児童の学習に対する意識が変わり、必要な情報を収集し、自分の考えに結び付けていくようになります。

単元を貫く言語活動（課題解決的な学習活動）



「読むこと」の領域でも、指導プランP77に示されている「単元を貫く言語活動の設定例」を参考に、以下の3つの視点に留意して設定していきましょう。

1 身に付けさせたい力の明確化
<ul style="list-style-type: none"> ○本単元で指導する指導事項を年間指導計画で確認する。 ○指導事項の中にある指導すべき要素を確認し、複数の要素がある場合は重点化を図り、身に付けさせたい力を明確にする。
2 最適な言語活動の選択
<ul style="list-style-type: none"> ○児童の実態や学習歴、教材文を考慮しながら、指導要領解説の各領域に示されている言語活動例を参考にして、身に付けさせたい力を付けるために最適な言語活動を選択する。 ○教材文の特徴、選択した言語活動の特徴を分析し、具体的に行わせる活動と身に付けさせたい力をどのように関連させるか考える。
3 学習課題の提示
<ul style="list-style-type: none"> ○教材文に対する疑問やもっと知りたいこと等、児童の思いを生かしながら、単元を貫く言語活動を単元のゴールがイメージできるような言葉にして、学習課題として提示する。

「読むこと」の単元を貫く言語活動の設定例

関連ページP4～

学年	身に付けさせたい力<指導事項>	教材文	<言語活動例>	単元を貫く言語活動・学習課題
1年	順序に気を付けて読む力（イ）	「どうぶつの赤ちゃん」 （光村図書）	<オ 紹介する>	自分の好きな動物について書かれた本を読んで、動物の育ち方図鑑を作ろう
2年	登場人物の行動を中心に想像を広げて読む力（ウ）	「お手紙」 （学校図書等）	<イ 演じる>	お手紙のお気に入りの場面を、ペープサート劇で発表しよう
3年	目的に応じて、中心となる語や文をとらえて読む力（イ）	「すがたをかえる大豆」 （光村図書）	<イ 図鑑を利用する>	興味のある食べ物について、食べ物の秘密新聞を作ろう
4年	物語の場面の移り変わりに注意して読む力（ウ）	「ごんぎつね」 （三省堂等）	<エ 説明する>	新美南吉の本を読んで、おすすめの本をリーフレットで紹介しよう
5年	優れた叙述について自分の考えをもつ力（エ）	「大造じいさんとガン」 （教育出版等）	<エ 推薦の文章を書く>	椋鳩十の本を読んで、お気に入りの場面を帯紙で推薦しよう
6年	事実と感想、意見などの関係を押さえて読む力（ウ）	「生き物はつながりの中に」 （光村図書）	<イ 意見文を利用する>	生き物のつながりについて考える意見交流会を開こう

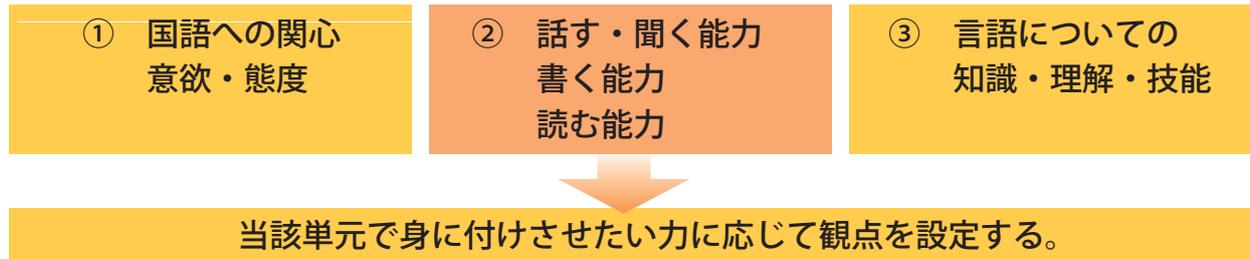
教材研究段階で、取り上げようとする言語活動を教師が実際に行うことで、より効果的な課題追究の進め方や児童のつまずく場所はどこなのか等を明確にして、授業を構想することができます。

(2) 単元の評価規準の重点化

国語は、1単元又は1時間の授業の中で、話す、聞く、書く、読むという学習活動が様々に行われます。しかし、各領域の内容を指導し、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」として評価するのは、必要となる時間数が増えてしまったり、児童に身に付けさせたい力が不明確になったりするなどの問題点があります。

そこで、指導する能力を重点化することで、評価の観点も明確にしやすくなり、指導と評価の一体化が図られます。したがって、どの単元でも一律に5つの観点すべてを評価するのではなく、指導する能力に応じて必要な観点を設定します。

<1つの単元で評価する観点>



○「読む能力」に重点化した例

前ページ「読むこと」の単元を貫く言語活動の設定例で示したように、「説明する」「紹介する」など、話したり、書いたりする活動を単元の中で行うことがあります。しかし、「読む能力」を身に付けさせるために単元を構成すれば、これらの活動は読みを深めるための活動であり、「読む能力」で評価します。

課題把握	課題追究		まとめ
初発の感想を書く	心情の変化について話し合う	自分の考えを文章でまとめる	お気に入りの場面を紹介する
↑	↑	↑	↑
読む能力を身に付けさせる活動＝読む能力を評価する			

○「読む能力」と「書く能力」を複合させた例

説明的な文章を読み、その文章の書き方を参考に児童が新たに文章を書く場合などは、上記②の観点を「読む能力」と「書く能力」とする複合単元として、2つの観点で評価することもできます。

課題把握	課題追究			まとめ
初発の感想を書く	表現の仕方について話し合う	自分の考えを文章でまとめる	文章を読んで学んだ表現の仕方を活用して文章を書く	文章を読み交流する
↑	↑	↑	↑	↑
読む能力を身に付けさせる活動＝読む能力を評価			書く能力を身に付けさせる活動＝書く能力を評価	

指導プランP77の「既習事項を生かすために」を参考に、どの能力を重点化して指導し評価するか、単元重点一覧を作成するなど、年間の見通しと学年の系統に留意して身に付けさせたい力を整理しておきましょう。

(3) 身に付けさせたい力の一般化

身に付けさせたい力を他の学習場面で活用できるようにするには、授業で扱った教材文を読んだ際の視点等を生かして、他の文章を読めるようにすることが重要です。そこで、1単位時間の終わりや単元のまとめの段階に振り返りの時間を設定し、以下のような視点で、自己評価や相互評価を行わせて、繰り返し身に付けさせたい力について確認させていきましょう。

そして、新たな学習場面で学習の視点を確認する際には、既習事項として活用させましょう。

<評価内容>

- ・当該単元や一単位時間の授業を通して学んだり身に付けたりしたことについて
- ・学習の流れを振り返らせ、読み取りの視点にしたこと、表現の仕方等、学び方について
- ・学習した教材文等の内容について
- ・今後の国語の学習や他の教科、日常生活で生かせる場面について など

2 各領域の指導における学習活動の工夫

指導プランP3～6

(1)「読むこと」 説明的な文章

「読むこと」(説明的な文章)の指導で、以下の「着目させたいこと」に示した視点を参考に、学習活動を工夫して、目的や意図に応じて説明的な文章を読み取る能力を段階的に高めていきましょう。教材文が違って、「着目させたいこと」を視点として指導を進めることができます。

(「はばたく群馬の指導プラン」P3の課題「目的や意図に応じて説明的文章の内容を読み取ること」と対応)

伸ばしたい資質・能力	着目させたいこと	具体的な例
【1・2年】 順序をとらえることができる	・順序を表す言葉や表現	・まず ・次に ・最後に ・～する前に ・～すると、その後に ・4月 ・5月 ・朝 ・夕
【3・4年】 段落相互の関係をとらえることができる	・接続語	・そして ・しかし ・さらに ・また ・では
	・指示語	・このように ・これらは ・これ ・それ ・この
	・問いと答え	・～でしょうか ・～なのです
【5・6年】 事実と感想、意見の関係をとらえることができる	・段落の中心となる語や文(キーワード・キーセンテンス)	・段落の中心的内容 ・繰り返し使用されている言葉 ・題名に関係する言葉
	・文章構成	・序論、本論、結論 ・頭括型 ・尾括型
	・意見	・～と考える ・～である ・～と思う
	・事実(意見の根拠)	・具体例 ・図表 ・例示

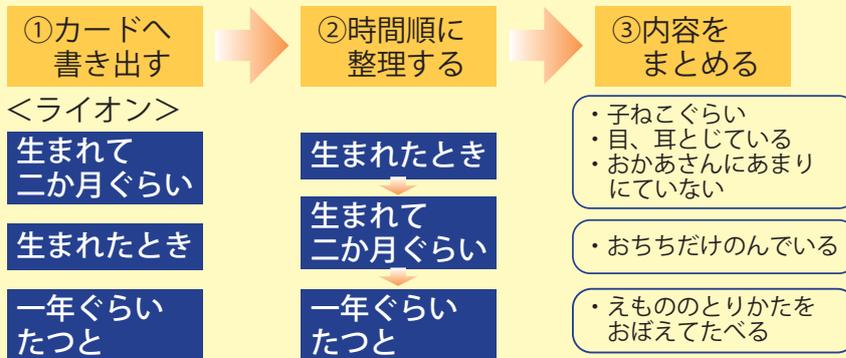
「伸ばしたい資質・能力」を確実に伸ばしていくための学習活動の例

例:【1・2年】順序をとらえることができる

単元名:「自分の好きな動物の育ち方図鑑を作ろう ～時間の経過に着目して読む～」

教材文:「どうぶつの 赤ちゃん」(光村図書:第1学年)

学習活動:時間を表す言葉に着目して文章を読み、時間順に整理して内容をまとめる。



時間を表す言葉を端的に示し、視覚的に文章の流れがわかるようにすることが大切です。学習したことを生かして、教材文にある他のものや、他の文章で考えさせる場面をつくりましょう。

＜しまうま＞

生まれたとき

生まれて三十ぶん

つぎの日

七日ぐらいのあいだ

【学習の進め方を生かせる他の教材文】

- ・「まめ」(学校図書:第1学年) ・「すみれと あり」(教育出版:第2学年)
- ・「つばめの すだち」(三省堂:第2学年) 等

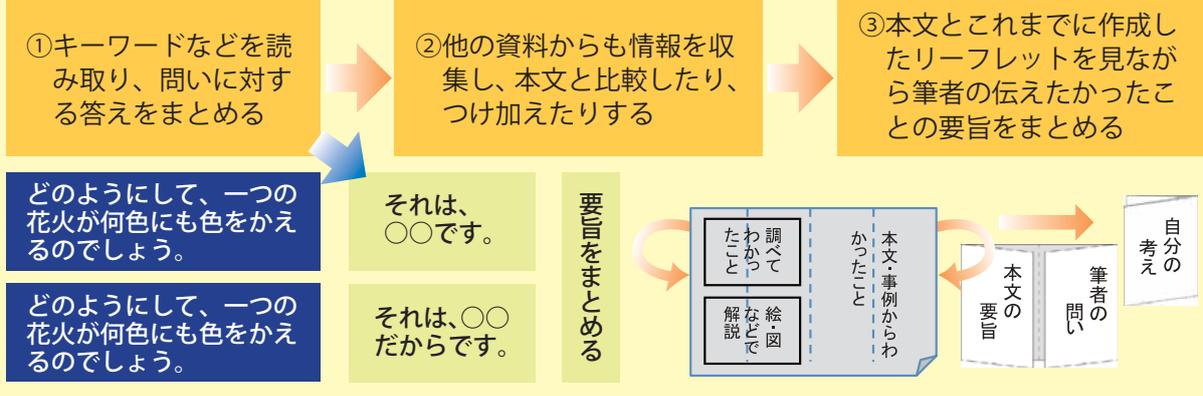
例：【3・4年】段落相互の関係をとらえることができる

単元名：「紹介しよう ○○のひみつ ～段落や文章相互のつながりを意識して読む～」

教材文：「打ち上げ花火のひみつ」(三省堂：第4学年)

学習活動：問いと答え（課題と結論）に着目して内容を読み取り、リーフレットに書く。

問いと答えに着目させながら、文や段落相互のつながり方に注意して筆者の伝えたいことを読み取らせませす。問いと答え、課題とまとめの関係から読み取ることをおさえ、他の文章にも活用させましょう。



【学習の進め方を生かせる他の教材文】

- ・「すがたをかえる大豆」(光村図書：第3学年)
- ・「むささびのひみつ」(学校図書：第4学年)
- ・「花を見つける手がかり」(教育出版：第4学年) 等

例：【5・6年】事実と感想、意見の関係をとらえることができる

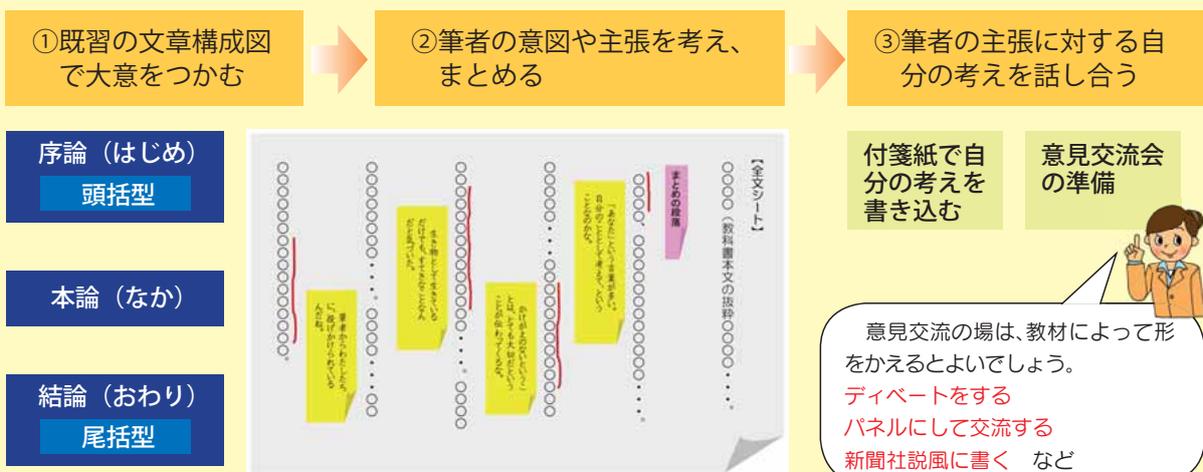
関連ページP10・11

単元名：「生き物のつながりについて考える意見交流会を開こう

～筆者の主張を読み取り自分の考えをもつ～

教材文：「生き物はつながりの中に」(光村図書：第6学年)

学習活動：文章構成に着目して筆者の主張を読み取り、それに対する自分の考えをもつ。



【学習の進め方を生かせる他の教材文】

- ・「まんがの方法」(教育出版：第5学年)
- ・「新聞の読み方を考える」(学校図書：第5学年)
- ・『なべ』の国日本」(三省堂：第6学年) 等

(2)「読むこと」 文学的な文章

「読むこと」(文学的な文章)の指導の中で、以下の「着目させたいこと」に示した視点を参考に、学習活動を工夫して、文章の特徴や表現の仕方について考える能力を段階的に高めていきましょう。教材文が違って、「着目させたいこと」を視点として学習を進めることができます。

(「はばたく群馬の指導プラン」P3の課題「文章の特徴や表現の仕方について考えること」と対応)

伸ばしたい資質・能力	着目させたいこと	具体的な例
【1・2年】 行動を表す叙述に気付き、想像を広げることができる	・登場人物の言動	・～する ・～した ・と思う ・地の文 ・会話文
	・主語と述語の呼応	・だれ(何)が…どうした なんだ
	・挿絵	・登場人物 ・場面の様子
【3・4年】 人物像を表す叙述に気付き、想像を広げることができる	・人物を表す叙述や表現	・場面の設定 ・文末表現 ・修飾語(句) ・表現記号(ダッシュ、…、等)
	・クライマックス	・繰り返し使用されている言葉
	・語り手の視点	・題名に関する言葉
【5・6年】 優れた叙述に気付き、想像を広げることができる	・文脈 ・文体	・ストーリー ・プロット
	・文章構成	・冒頭 ・結末 ・起承転結
	・表現上の技法	・オノマトペ ・体言止め ・情景描写 ・心情描写
		・比喩(暗喩・直喩) ・色彩語
・伝統的な言語文化	・短歌、俳句、故事成語	

「伸ばしたい資質・能力」を確実に伸ばしていくための学習活動の例

例：【1・2年】行動を表す叙述に気付き、想像を広げることができる

単元名：「ペープサート劇で発表しよう ～登場人物の行動に着目して読む～」

教材文：「お手紙」(三省堂・光村図書・学校図書：第2学年)(教育出版：第1学年)

学習活動：登場人物の行動に着目して文章を読み、ペープサートにして演じる。



紙人形を動かすために、本文の叙述にある行動に着目して読み取りながら練習をさせます。

アーノルド＝ローベルのシリーズ作品でも同様のペープサート劇が作れるよう並行読書をすすめます。

【学習の進め方を生かせる他の教材文】

- ・「スイミー」(光村図書・学校図書：第2学年) ・「おおきなかぶ」(学校図書・三省堂：第1学年)
- ・「きつねのおきゃくさま」(三省堂・教育出版：第2学年) 等

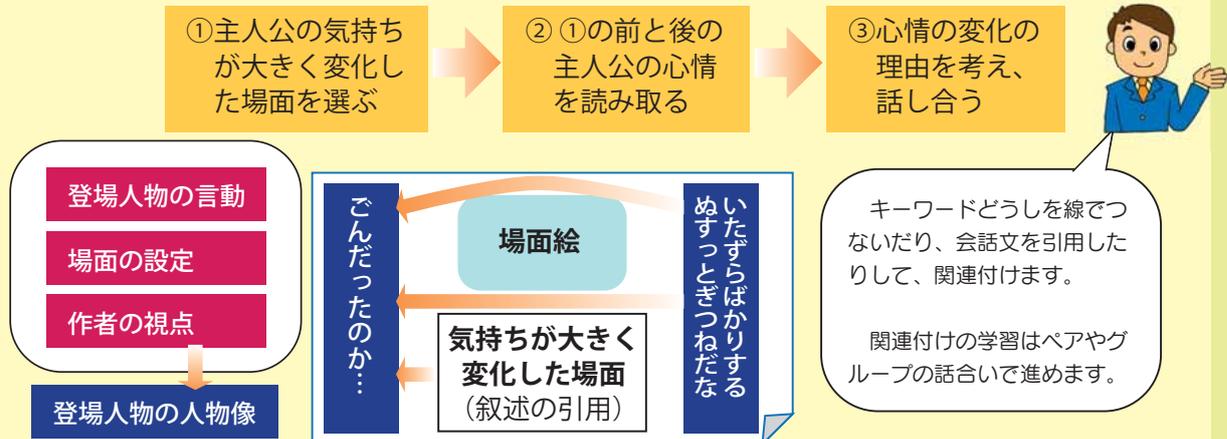
例：【3・4年】人物を表す叙述に気付き、想像を広げることができる

関連ページ P12・13

単元名：「新美南吉のおすすめの本をリーフレットで紹介しよう ～心情の変化に着目して読む～」

教材文：「ごんぎつね」（光村図書・三省堂・教育出版・学校図書：第4学年）

学習活動：登場人物の気持ちの変化を表す叙述に着目して文章を読み、「リーフレット」に表す。



【学習の進め方を生かせる他の教材文】

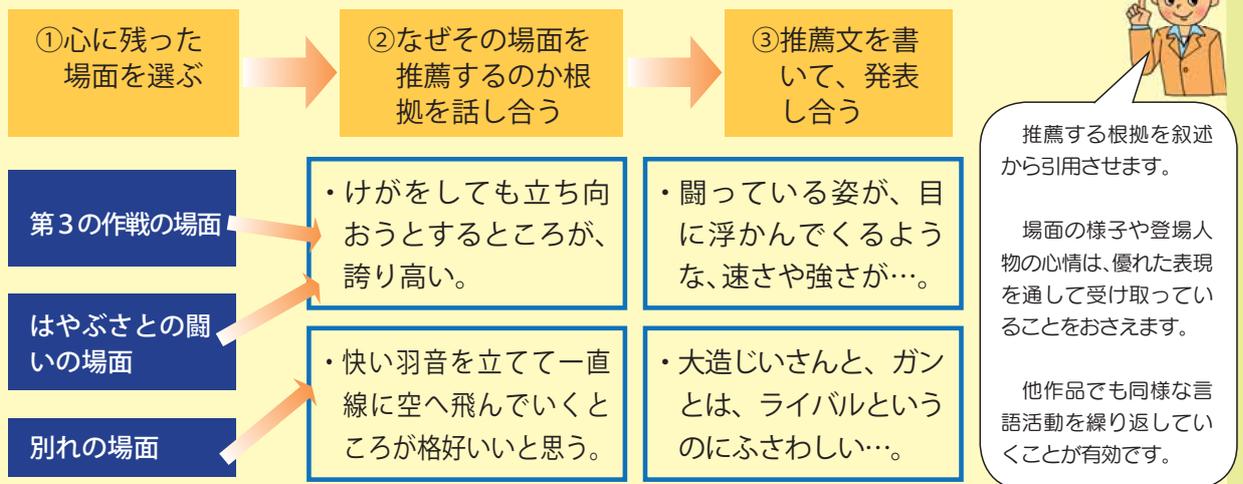
- ・「モチモチの木」(教育出版・光村図書・学校図書：第3学年) ・「わすれられないおくりもの」(三省堂・教育出版：第3学年)
- ・「白いぼうし」(三省堂・光村図書・学校図書：第4学年) 等

例：【5・6年】優れた叙述に気付き、想像を広げることができる

単元名：「お気に入りの場面を帯紙で推薦しよう ～優れた表現を読み取り、推薦文を書く～」

教材文：「大造じいさんとガン」(光村図書・三省堂・教育出版・学校図書：第5学年)

学習活動：場面の描写に着目して文章を読み、心に残った場面の叙述について根拠を明確にしながらか推薦する文章を書く。



【学習の進め方を生かせる他の教材文】

- ・「きつねの窓」(学校図書：第6学年) ・「雪わたり」(三省堂：第6学年、教育出版：第5学年)
- ・「やまなし」「わらぐつの中の神様」(光村図書：第6学年) 等

(3)「話すこと」「書くこと」

「話すこと」「書くこと」の指導の中で、以下の「着目させたいこと」に示した視点を参考に、学習活動を工夫して、自分の考えや伝えるべき内容を相手や目的に応じて表現する能力を段階的に高めていきましょう。教材文が違って、「着目させたいこと」を視点として学習を進めることができます。

(「はばたく群馬の指導プラン」P3の課題「自分の考えや伝えるべき内容を相手や目的に応じて表現すること」と対応)

伸ばしたい資質・能力	着目させたいこと	具体的な例
【1・2年】 考えを明確にして、順序立てて表現することができる	・簡単な構成	・問い—答え ・はたらき—つくり ・始め—中—終わり
	・順序を表わす言葉	・まず ・次に ・最後に
	・時を表わす言葉	・～になると ・～すると
【3・4年】 必要に応じて理由や事例を挙げて表現することができる	・段落相互の関係	・累加や並列といった接続関係 ・具体的な事例と抽象的な事柄、結論とその理由や根拠といった配列関係
	・事例の取り上げ方	・エピソード ・考えに該当する事例 ・具体的な本や文章 ・絵や写真などの事物
	・関心をもった理由、考えの根拠や事例を表す文章表現	・～ので、～について調べた(考えた) ・なぜかという ・その理由は～ ・例えば～ ・事例を挙げると～
【5・6年】 事実、感想、意見などを区別して表現することができる	・目的や意図に応じた構成	・頭括型 ・尾括型 ・双括型
	・事実と感想、意見とを区別する文章表現	・～と考える ・～である ・～なのだ
	・目的や意図に応じた述べ方	・事実と感想、意見などを詳しく書いたり、簡単に書いたりすること

「伸ばしたい資質・能力」を確実に伸ばしていくための学習活動の例

例：【1・2年】考えを明確にして、順序立てて表現することができる

関連ページP14・15

単元名：『「あったらいいなこんなもの」はっぴょう会をひらこう ～説明の順序を工夫してわかりやすく話す～』
教材文：「あったらいいな、こんなもの」(光村図書：第2学年)

学習活動：順序を表す言葉や内容を視点にスピーチを聞き合い、メモを付け足したり順序を見直したりする。

スピーチを聞く観点を明らかにしてアドバイスする

スピーチを聞く観点
・「形・大きさ」→「使い方」
の順序で話しているか。

「いつでもとべるん」のスピーチ
(「形・大きさ・使い方など」のまとめ)
「形はとんぼの形をしています。使わない時はたためます。とても軽いです。せなかにつけて使います。」

アドバイスの内容

・「大きさがわからないよ。」
・『「たためます」は使い方だから後がいいよ。」

話す事柄や順序を考える活動を繰り返し取り入れ、順序に沿って具体的に話す力を伸ばしましょう。



アドバイスを基にメモを見直す

とんぼの形をしている

付け足したメモ

手をひろげたくらいの大きさ

とてもかるい

せなかにつけてつかう

つかわない時はたためる

【学習の進め方を生かせる他の教材文】

- ・「かきたい ことを 一つ えらんで」「知らせたい ことを 話そう」(教育出版：第1学年、第2学年)
- ・「これは、なんでしょう」「おもちゃの作り方」(光村図書：第1学年、第2学年)
- ・「わたしのたからもの」「体けんしたことをつたえよう」(学校図書：第1学年、第2学年)
- ・「できるように なったこと」「見て、聞いて、さわって」(三省堂：第1学年、第2学年) 等

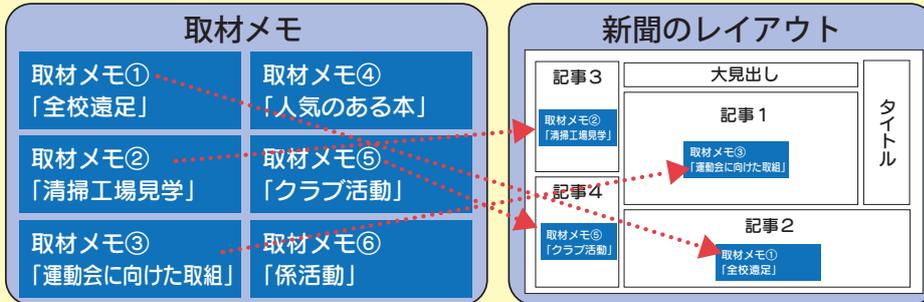
例：【3・4年】必要に応じて理由や事例を挙げて表現することができる

関連ページ P16・17

単元名：「○○小の今を知らせる学級新聞を作ろう ～学校生活の出来事から取材し、新聞を作る～」

教材文：「学級新聞を作ろう」(教育出版：第4学年)

学習活動：事例の取り上げ方を視点に自分たちの新聞の目的に合わせて、学級新聞のレイアウトを決める。



相手や目的を意識して、大切な記事だと思う順を考えさせましょう。
新聞のレイアウトに記事の内容を書いた付箋紙等を貼り付けることで、新聞のイメージをもてるようにすることが大切です。



【学習の進め方を生かせる他の教材文】

- ・「調べたことをほうこくしよう」「見学したことを報告しよう」(教育出版：第3学年、第4学年)
- ・「しりょうからわかったことを発表しよう」「仕事リーフレットを作ろう」(光村図書：第3学年、第4学年)
- ・「まとまりを考えながら書こう」「しょうらいのゆめを語ろう」(学校図書：第3学年、第4学年)
- ・「こんなやり方をおすすめします」「新聞でニュースを伝える」(三省堂：第3学年、第4学年) 等

例：【5・6年】事実、感想、意見などを区別して表現することができる

単元名：「身の回りの生活を見直して、意見文を書こう ～理由や根拠をふまえ、考えを筋道立てて述べる～」

教材文：「意見文を書こう」(教育出版：第6学年)

学習活動：構成表を基に、事実と感想、意見とを区別する文末表現を視点に意見文を書く。

意見文の構成表

A子の題材「ゴミの出し方」

始め (課題を述べる)

○どうしたらゴミ出しの決まりが守れるだろうか。

中 (具体的な例)

○現状

- ・決められた日以外に出されている。
- ・集積場が汚れていてもそのままになっている。

○他の集積場の様子

- ・ゴミの種類ごとに出す場所が区切られている。
- ・そうじの当番表がはられている。
- 交代でそうじをしている

終わり (自分の考え)

- ・出す場所をわかりやすくしたり、交代でそうじするようにしたりすることで、きれいにしようという意識が高まる。

事実と考えが明確に区別できるように、段落構成や文末表現、接続語を意識させましょう。



構成表を基に意見文を書く

わたしが登校するとちゅうには、別の集積場があります。そこは、ゴミの種類ごとに場所が区切られています。また、順番でそうじするために、当番表がはられていることに気が付きました。ゴミを出している方に聞くと、みんなで交代でそうじをしているそうです。

このように、出す場所をわかりやすくしたり、交代でそうじするようにすることで、自分たちでその場所をきれいにしようという意識が高まると思いました。

事実

考え

【学習の進め方を生かせる他の教材文】

- ・「効果的に発表しよう」「学んだことを生かして調べよう」(教育出版：第5学年、第6学年)
- ・「グラフや表を引用して書こう」「平和について考える」(光村図書：第5学年、第6学年)
- ・「自分の考えを提案しよう」「しょうかい文を書こう」(学校図書：第5学年、第6学年)
- ・「メディアについて考える」「説得力のある意見」(三省堂：第5学年、第6学年) 等

3 各領域の単元、授業のつくり方

(1)「読むこと」説明的な文章

単元を貫く言語活動の設定（第5学年）

- ・指導事項ウ：「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。」
- ・言語活動例イ：「自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。」

「生き物のつながりについて考える意見交流会を開こう。」
教材：「生き物はつながりの中に」（国語六 光村図書）



1 単位時間の流れ (第8時)

関連ページ P 5

1 本時の学習課題を把握する。 (5分)

〈本時の学習課題〉

要旨をわかりやすくまとめ、筆者の考えに対する自分の考えを書こう。

2 課題を追究する。 (35分)

○最後の段落について話し合わせ、文章全体を要約する文章を書かせる。

- ・全文ワークシートに貼ってある付箋を基に、筆者の意図を考えさせる。

T: 筆者が「あなた」という言葉を5回も使ったのはなぜでしょう?



生き物として生きることがすてきなことだということを、自分のこととして考えてほしいのかな?

T: なぜ、筆者は、生き物の例として、イヌ→チロと言葉をかえて、本論から説明しているのでしょうか?

だんだん具体的な言葉にかえて、読者に身近なこととして考えてさせたいんじゃないかな。



- ・筆者の考えが表れている最終段落の文章を用意し、筆者に対する自分の考えを300字程度で書かせる。
- ・要旨をワークシートに簡単に記述させ、筆者の考えに対する自分の考えをまとめさせる。

3 本時のまとめをする。 (5分)

- 本時の自己評価をさせる。
- 次時は「生き物のつながり」について考える意見交流会を開くことを知らせる。

読みを深める交流

- 要旨をまとめたり、自分の考えを書いたりする前に、筆者の主張が明確に示されている段落について話し合う。意見交流会に向けて、それぞれが読みを深められるよう、教師は意図的な発問を工夫する。
- 教師は、あらかじめ黄色の付箋紙(子どもの考え)を確認しておき、付箋紙が集中しているところや、考えをより深めさせたいところをチェックしておく。

自分の考えをまとめさせる工夫

- 重要な点を落とさず、自分の考えをまとめられるよう、まず、筆者の考えが表れている最後の段落のみについて書かせる。その後、それがどのような事例(根拠)に基づいているか、読み取っていくようにする。
- 並行読書で知ったことや、考えたことと比較させながら
 - ①筆者の考えに納得した。
 - ②納得できないところもあった。
 - ③納得できなかった。
 の3つの立場から1つを選んで根拠を挙げて考えを述べさせる。
- 自分の考えをまとめさせるときは、必要に応じて分量に制限を設け、求められている分量や表現に合わせてまとめることができるようにする。

事実と意見の読み分け

- 全文を読み返し、事実と意見(ここでは、事例と筆者の考え)を読み分けるために、ワークシートのような形式(①~③に事例、④に筆者の考えを入れる)で要約させる。それぞれ簡潔に一文で記述することで、事例と考えの関係を明らかにする。

本時で学んだことの確認

- 自分の課題をもって資料を読み、自分の考えをまとめられたかを評価させる。

(2)「読むこと」文学的な文章

単元を貫く言語活動の設定（第4学年）

- ・指導事項ウ：「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」
- ・言語活動例イ：「紹介したい本を取り上げて説明すること。」

「新美南吉の本を読んで、おすすめの本をリーフレットで紹介しよう。」
教材：『ごんぎつね』（四年下 学校図書）、新美南吉作品

学習課題の把握

- 読む目的を明確に設定し、主体的に取り組めるようにする。
- 初発の感想や教師自作のモデルなどを基にリーフレットの内容を話し合わせるなど、学習の見通しをもてるようにする。
- 学習の内容が指導事項に合ったものになるように支援し、言語活動を通して指導事項が指導できるようにする。

目的をもった主体的な読み取り

- 場面ごとの平板な読み取りではなく、パンフレットの各パーツを作ることを目的に、「場面の移り変わり」「登場人物の性格」「登場人物の気持ちの変化」など、指導事項に関わる観点で全文を繰り返し読み返させる。
- 〈並行読書〉
- 導入前から、同じ作者の本やシリーズ本を数冊ずつ教室に準備し、主教材への興味・関心を高めたり、学習への意欲付けしたりする。
 - 並行読書した本を用いて、主教材で学習したことを生かし、自力で言語活動を行わせたり、主教材と比較して読ませ、児童の考えを広げさせたり深めさせたりする。

身に付けさせたい力の一般化

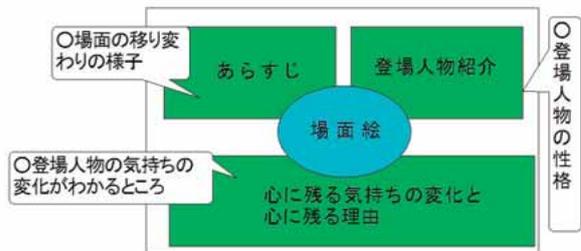
- 単元を通して学んだことを確認させ、今後の学習に生かせるようにする。
 - ・人物を表す叙述や表現
 - ・クライマックス 等

単元の流れ（10時間予定）

関連ページP7

1 単元の学習課題を把握する。（第1時）

- 「教材文を読んで初発の感想を話し合わせたり、作者や教師自作のリーフレットを紹介したりする中で、単元の学習課題について見通しをもたせる。



（児童に作成させるリーフレット）

- 新美南吉の作品を紹介し、並行読書への意欲をもたせる。

2 課題を追究する。（第2～9時）

- 教材文を読み、リーフレットにまとめさせる。
 - ・「場面の移り変わり」に着目して読ませ、リーフレットの「あらすじ紹介」をまとめさせる。（第2時）
 - ・「登場人物の性格」に着目して読ませ、リーフレットの「登場人物紹介」をまとめさせる。（第3時）
 - ・「登場人物の気持ちの変化」に着目して読ませ、リーフレットの「心に残った気持ちの変化」についてまとめさせる。（第4・5時）
 - ・リーフレットを完成させ、紹介し合わせる。（第6時）
- 並行読書してきた物語から1作品を選ばせ、自分のおすすめの本を紹介するリーフレットを作らせる。（第7・8時）
- ・完成したリーフレットを用いて本を紹介し合わせ感想を交流させる。（第9時）

3 単元をまとめる。（第10時）

- 単元を振り返り、感じたこと、考えたこと、学んだことなどを文章でまとめさせる。

評価について

- リーフレット作りを通して、「場面の移り変わり」や「登場人物の性格や気持ちの変化」などを読み取ることができているかを評価する。

1 単位時間の流れ (第4・5時)

関連ページP7

1 本時の学習課題を把握する。(15分)

- 本時の学習課題を確認する。

〈本時の学習課題〉

リーフレットの「心に残る気持ちの変化」の部分について原稿をまとめよう。

- 既習事項を振り返らせ、学習の見通しをもたせる。



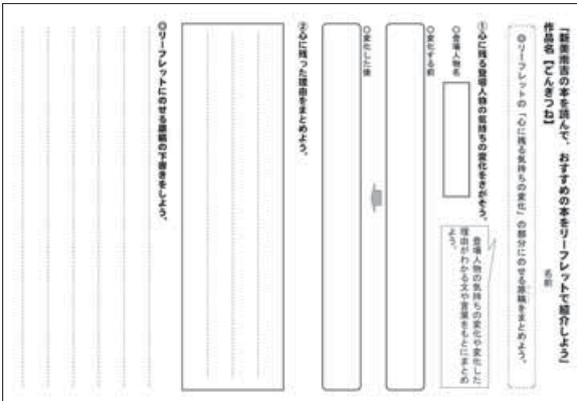
登場人物の気持ちの変化を考えるには、文章のどんなところに着目してきましたか。



登場人物の行動や会話などを表す文に着目してきました。

2 課題を追究する。(55分)

- 「心に残る気持ちの変化」を探させながら、全文を通読させる。
- 最も「心に残る気持ちの変化」の部分を選ばせる。
 - ・変化する前と変化した後の登場人物の気持ち、気持ちが変わった理由がわかる文、言葉などに線を引かせたり、文や言葉同士をつながせたりして、叙述を関係付けながら考えをまとめさせる。
- 根拠となる叙述を基に、選んだ理由をワークシートにまとめさせる。



- 同じ部分を選んだ児童同士で、なぜその部分の気持ちの変化が心に残ったのか理由について交流させる。



わたしは、ごんがくりやまつたけを持っていくところが心に残りました。兵十のおっかあが死んでしまったのを知って、兵十がおっかあのために取ったうなぎをいたずらしたのを反省し、兵十につぐないをしようとしているごんの気持ちがわかるからです。

ほくも同じところが心に残りました。そこを選んだ理由は、今までいたずらをしていただけ、自分と同じひとりぼっちになってしまった兵十と仲良くしたいなと思っているごんの気持ちがわかるからです。



3 本時のまとめをする。(20分)

- 本時の学習を基に、「心に残る気持ちの変化」と「心に残る理由」をリーフレットの原稿として書かせる。
- 次時は、リーフレットを完成させることを知らせる。

本時の位置付けの明確化

- この時間はリーフレットのどの部分を作るのかを示すなど、単元の学習課題と本時の関係がわかるように課題を工夫する。

既習事項やこれまでの学習経験を活用した読み

- 学習経験を想起させ、読む観点や着目する叙述に気付かせるなど、既習事項やこれまでの学習の仕方を繰り返し活用し、指導事項を身に付けさせる。

叙述に基づいて考えさせる工夫

- 叙述に線を引かせたり、囲わせたりするなどして、視覚的にとらえやすくしながら、叙述を関係付けて考えさせるようにする。



読みを交流させる工夫

- 全文を拡大して掲示し、それぞれの児童の心に残った場面にマークをさせるなど、児童の考えを視覚化できるようにする。
- ねらいや単元の流れに応じて、同じ場面を選んだ児童同士や異なる場面を選んだ児童同士でグループを作り交流させ、読みを深めたり感じ方の違いに気付かせたりできるようにする。
- 意図的な指名を行い、児童の発言内容について全体に問い直したり、意味付けを行ったりする。

単元を貫く言語活動につながるまとめ

- リーフレットの各パーツの原稿作りを通して、再度、叙述に即して自分の考えを深めさせる。

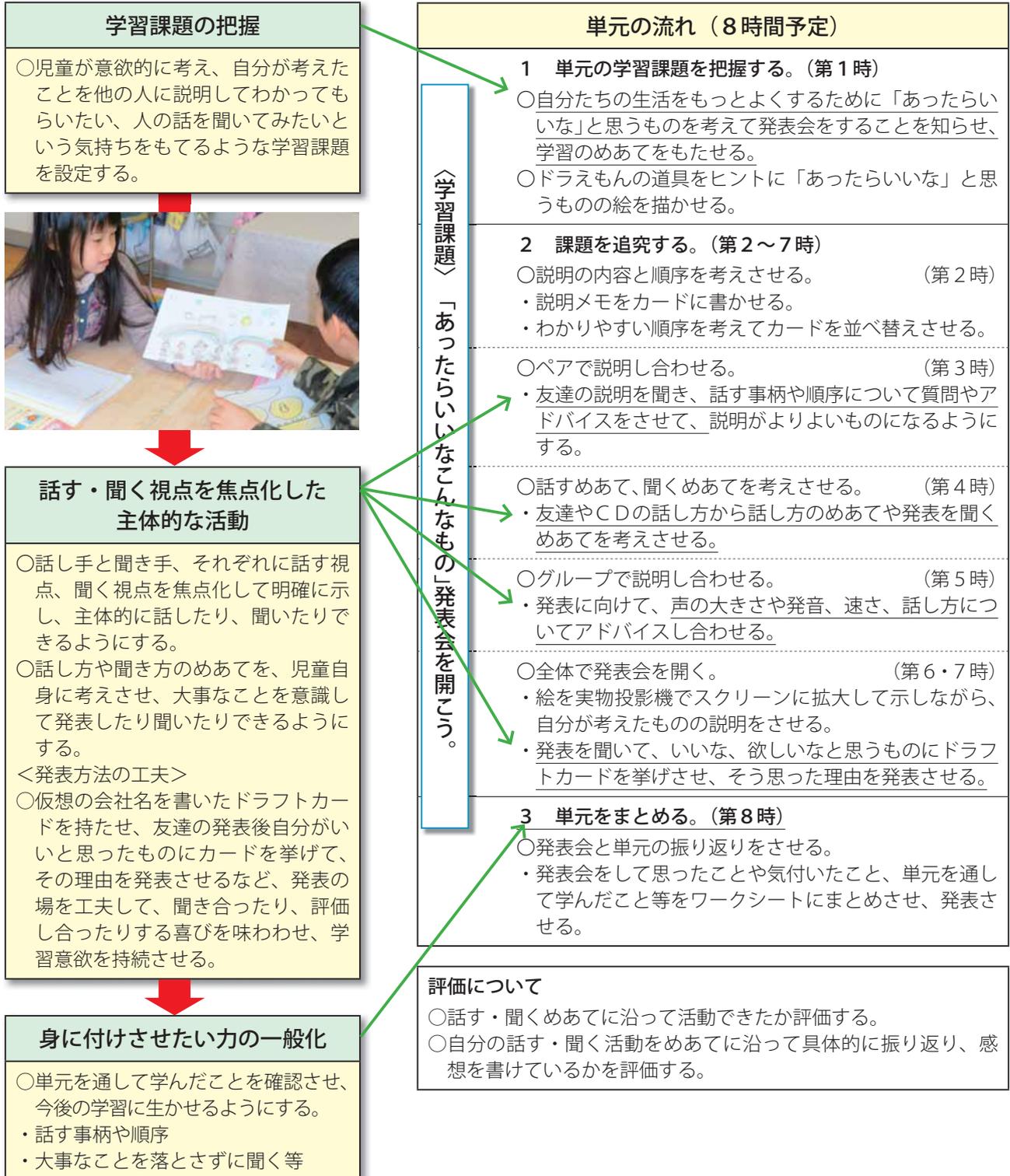
(3)「話すこと・聞くこと」

単元を貫く言語活動の設定（第2学年）

- ・指導事項イ：「相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて話すこと。」
- ・指導事項エ：「大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。」
- ・言語活動例エ：「知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。」

「『あったらいいなこんなもの』発表会を開こう。」

教材：「あったらいいな、こんなもの」（こくご 二上 光村図書）



〈学習課題〉「あったらいいなこんなもの」発表会を開こう。

1 単位時間の流れ (第3時)

関連ページ P 8

1 本時の学習課題を把握する。 (10分)

〈本時の学習課題〉

あったらいいなと思うものについて友達とお話キャッチボールをして、聞く人によさがわかるようにしましょう。

○教師が示範し、説明の仕方とメモの取り方、質問の仕方を確認する。

- ・メモの取り方を練習をする。
- ・質問の仕方を練習する。
- ・話の内容と話し方で気付いたことを発表する。

2 課題を追究する。 (30分)

○話したい順序に並べ替えたカードを基に、ペアの友達に自分が考えたものについて説明させる。

- ・一人で説明の練習をさせる。
- ・ペアの友達に絵を指し示しながら説明をさせる。

○友達の説明を聞いて、わからないことやもっと知りたいことについて質問やアドバイスをさせる。

- ・聞く人は絵を手掛かりに、話題にそった質問が出来るよう、大事な言葉をメモしながら、説明する人が伝えようとしていることを落とさずに聞かせる。

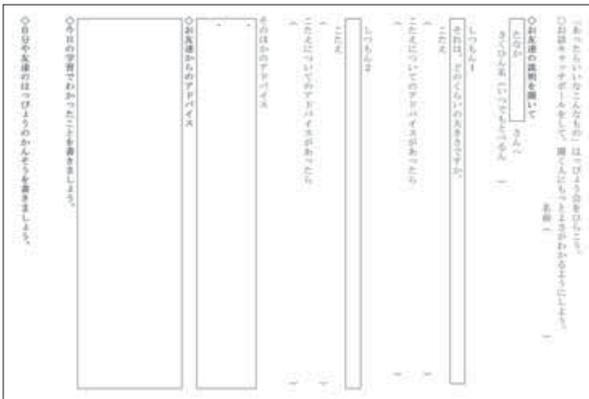


これでどのくらいの大きさなの?
じゃあ、手を広げたぐらいの大きささっていったら?

このくらいの大きさ。
わかった。そうしてみ
るね。



○友達の質問やアドバイスに答え、全体の発表で使える大事なことをワークシートにメモさせる。



- ・友達の意見を参考にして、カードの順番替えや相手を意識した言葉への書き換えさせたり、追加用のカードに説明メモを書いたりさせる。

○修正したものを基に、説明の練習をさせる。

3 本時のまとめをし、次時の学習の確認をする。 (5分)

○ワークシートで振り返りをして感想を交流させる。

- ・キャッチボールの交流ができたか、聞く人にわかりやすい順序に直せたか、不足を補えたかなど、観点にそって感想を交流させる。

○次時はグループで発表の練習をすることを伝える。

本時の課題の明確化

- 「お話キャッチボール」として、言葉のやりとりを通してよりよい説明ができるようにすることなど、児童一人一人にめあてを明確にもたせる。

聞くためのメモ

- キーワードや単語でメモをまとめられるようにする。
- どんな項目をメモすればよいか、一つ一つ確認しながら全員でまとめる練習をする。
- ワークシートのメモを見せながらアドバイスさせる。

話す・聞くねらいの明確化

- 「聞く人によさがわかるように」とねらいを明確に伝えて、話す事柄や順序を工夫させるなど、順序に沿って具体的に話す力を伸ばす活動にする。
- 聞き手として主体的に聞けるよう、「一番聞きたいことは何かな。」「どんなお話かな。」「一番欲しいものは。」といった興味を喚起する声掛けが重要となる。
- 「大事なこと」には、話し手が伝えたいことと聞き手が聞きたいことがある。

学習の流れの視覚化

- 学習の流れがわかるワークシートを準備し、見通しをもったり、学習意欲を持続したりできるようにする。また、ワークシートを拡大したものを掲示し、活動を確認させながら進める。

学んだことを実感するまとめ

- 漠然とした振り返りではなく、観点を示して感想を交流させることで、本時の学習で学んだことを意識させる。

(4)「書くこと」

単元を貫く言語活動の設定（第4学年）

- ・指導事項ウ：「書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。」
- ・言語活動例イ：「疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。」

「学級新聞を作って〇〇小の今を知らせよう。」
教材：「学級新聞を作ろう」（国語 四年上 教育出版）

学習課題の把握

- 「書くこと」では、書く相手は、眼前にいない人を想定することになり、相手意識がもちにくくなる。そこで、右のように、実際に相手や目的を決めて学習課題を設定することで、課題達成の必要感を高め、言語活動に対する意欲化を図る。
- 児童に行わせる言語活動について、教師自ら「学級新聞」を作るなど、モデルを提示できるようにすることで、児童に学習のゴールを明確に理解させる。



単元の中核的な活動

- 指導事項を念頭に、単元の中核となる学習活動を設定する（右ページ「学習課題への意欲化」参照）。
- モデルとして提示したものなどを用いて、学習の流れやポイントを話し合わせたり、説明させたりして、ねらいの達成を図る。

身に付けさせたい力の一般化

- 単元を通して学んだことを確認させ、今後の学習に生かせるようにする。
 - ・中心を明確にすること
 - ・事例を挙げること 等

単元の流れ（9時間予定）

1 単元の学習課題を把握する。（第1時）

- 単元の学習について見通しをもたせる。
- ・作った新聞を「〇〇小の卒業生」に送ることを伝え、相手意識をもたせたり、内容について考えさせたりする。

卒業生に〇〇小の今を伝えるとしたら、文字だけより写真を入れたほうがいいかな。卒業生は学校のことは知っているから学校の紹介ではおかしいぞ。最近の様子など、卒業生の知りたいと思うことを考えて工夫しないと…。



〈学習課題〉

「学級新聞を作って〇〇小の今を知らせよう。」

2 課題を追究する。（第2～8時）

- 「編集会議①」を開く。（第2時）
 - ・教師自作の「学級新聞」を基に各班で記事の内容や分担について話し合わせる。
- 「取材活動」をさせる。（第3・4時）
 - ・「編集会議①」で決定した記事の内容や分担に従って取材させ、取材メモを書かせる。
- 「編集会議②」を行わせる。（第5時）
 - ・班で取材の報告をし、トップ記事の選定や記事、写真等の配置などについて話し合わせる。
- 新聞を作らせる。（第6・7時）
 - ・「編集会議②」での話し合いを基に担当の記事を書かせ、学級新聞を仕上げさせる。
- 新聞を読み合い、意見交流させる。（第8時）
 - ・「書こうとすることの中心が明確になっているか」「理由や事例が目的や必要に応じて挙げられているか」という観点で交流させる。

3 単元をまとめる。（第9時）

- 単元全体を振り返らせる。
 - ・新聞作りを通して学んだことや気付いたことを文章でまとめさせ、発表させる。

評価について

- 「〇〇小の卒業生」という相手に応じて、伝える中心が明確になっているかどうかを評価する。
- 新聞の形式に従い、〇〇小の今を伝えるという目的に応じて、理由や事例を挙げているかどうかを評価する。

1 単位時間の流れ (第6時)

関連ページP9

1 学習課題を把握する。(10分)

〈本時の学習課題〉

自分たちの記事を順位付けして伝えたいことを中心を決め、記事をレイアウトしよう。

- 教師自作の「学級新聞」で、レイアウトの意味を確認し、実際の新聞記事について感想を述べ合わせる。
 - ・同じ内容でも、記事のレイアウトによって印象が異なることを、実際の新聞記事を通して理解させる。

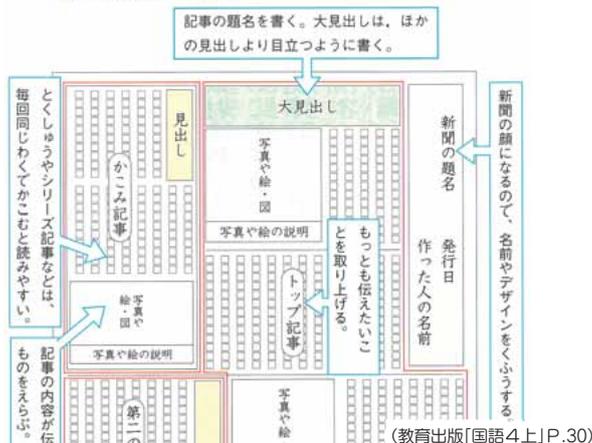


同じ内容でもレイアウトでこんなにも印象が違うなんて。レイアウトって大事ね。私たちの新聞でも何を中心に伝えるかを決めた上でレイアウトを考えないと。

2 課題を追究する。(30分)

- 班ごとに一人ずつ、取材メモを基に調べたことを発表させ、順位付けをさせる。
 - ・書く相手(△△中にいる卒業生)や目的(○○小の今を知らせる)から考えて、自分で重要だと思う順に順位付けをさせる。
 - ・発表を聞いて、○○小の卒業生に伝えたいことを中心を決めさせる。
- 記事の順位付けについて班で話し合い、記事をレイアウトさせる。
 - ・どのような順位付けがふさわしいのか、理由付けをしながら話し合わせるとともに、下の補助資料[新聞の組み立て方]などを用いて効率的に話し合わせる。
 - ・図や写真、グラフ、キャプションなど、「資料」の果たす役割についても話し合わせることで、「資料」の効果的な活用の仕方について理解させる。

〔新聞の組み立て方〕



3 本時のまとめをする。(5分)

- 本時を振り返り、伝えたいことを中心を決めた理由を書かせる。
 - ・班で最終的に決まった記事の順位付けについて、その理由とレイアウトする上でわかったことや気付いたことをノートに書かせる。

学習課題への意欲化

- 同一の事柄を扱った、複数の新聞記事を用意し、感想を述べ合うという手立てを用意することで、レイアウトの重要性を児童に理解させる。
- 新聞作りを進めていく上で、〈本時の学習課題〉の達成が必要であることを児童に感じさせることで、学習活動に意欲的に取り組めるようにする。

個別に思考する時間の保障

- 個人で考える時間を保障することで、自分の考えをもってから、グループでの交流に参加できるようにする。

少人数での意見交流

- 他の児童は、どんな理由で記事に順位付けをしたのかを知ることで、自分の考えと比べて考えられるようにする。
- 自分の考えと、他の児童やグループとしての考えとが比較しやすいようにワークシート等を工夫しておき、少人数での交流がより効果的になるようにする。
- このような学習過程を積み重ねていくことで、児童の思考力や判断力を高めることにつなげる。

「資料」の活用の仕方

- 実際に記事を書き出す前の編集会議の中で教師自作の「学級新聞」を基に話し合わせることで、「資料」の効果的な活用への理解を促す。

本時の学習の確認

- 相手や目的に応じて、書くことを中心を決めることが大切であり、それによってレイアウトも変わってくることを理解できたかどうかを自分で確認させる。

社 会

Social Studies

調べて得た事実を基に考える学習を進めていくために

社会科は、「調べて得た事実を基に考え、社会のしくみや人々の営みについて理解する」教科です。そのためには、「必要な資料を集める」、「資料から事実を正しく読み取る」、「読み取った事実を基に考える」という学習活動が大切です。本資料では、「読み取った事実を基に考えさせる学習指導の流れ」や、「資料から事実を正しく読み取るために、身に付けさせる知識・技能と指導のポイント」を記述しました。

また、「はばたく群馬の指導プラン」に示した「指導の基本」にあるように、児童が目的意識をもちながら主体的に学習していくためには、単元を貫く課題を設定して、問題解決的な学習を展開していく必要があります。本資料では、単元「店ではたらく人」を例に、「つかむ」、「追究する」、「考え・まとめる」の問題解決的な学習の各過程における授業のつくり方のポイントを記述しました。

1 人々の工夫や努力を考えさせる学習指導の流れ

- (1) 小学校3・4年生 P 20
- (2) 小学校5年生 P 23

2 各学年で身に付けさせる「地図を活用するための知識や技能」一覧 … P 25

3 グラフを正確に読み取らせるための指導のポイント …… P 26

4 問題解決的な学習の各過程ごとの授業づくりのポイント

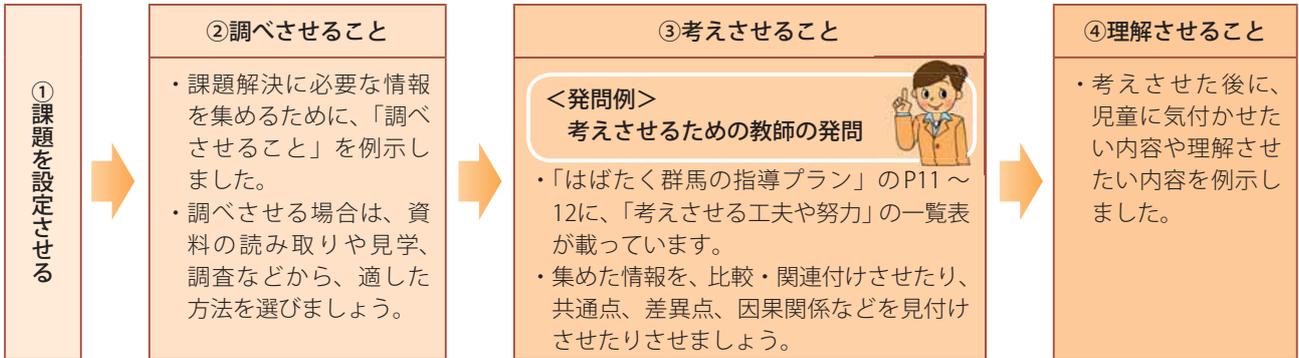
(単元：3年生「店ではたらく人」を例に)

- (1) 「つかむ過程」のポイント P 28
- (2) 「追究する過程」のポイント P 29
- (3) 「考え・まとめる過程」のポイント P 30

1 人々の工夫や努力を考えさせる学習指導の流れ

社会科は、調べて得た事実を基に考え、社会のしくみや人々の営みについて理解する教科です。

学習指導の流れは、以下の①～④に示した通りです。授業づくりの際は、まず教師が「④理解させること」を確認しましょう。また、「②調べさせること」で終わらせずに、調べさせたことを基に、「③考えさせること」を大切にしましょう。



(1) 小学校3・4年生（人々の工夫や努力を考え、地域のまちづくりを理解する）

単元	学 習 の 流 れ			
身近な地域や市町村の様子	①課題 学校の周りの様子は、どのようになっているのだろうか。	②調べさせること <ul style="list-style-type: none"> ○特色ある地形 <ul style="list-style-type: none"> ・土地の低いところ、高いところ ・川の流れているところや橋のあるところ ○土地利用の様子 <ul style="list-style-type: none"> ・田や畑が多いところ ・住宅や商店、工場が集まっているところ ・みんなが使う施設、古くから残る建造物 ○交通の様子 <ul style="list-style-type: none"> ・道路の広さや鉄道の様子 ・信号やバス停、踏切のあるところ ・車の多さ 	③考えさせること <p><発問例> なぜ、学校の東側は家が多くて西側はお店が多いのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域や市における特色ある地形や交通を生かす工夫 	④理解させること 学校の周りは、道の様子によって、家の集まっているところ、店の多いところがある。このように地域の様子は、場所によって違いがある。
	①課題 私たちの市(町村)の様子は、どのようになっているのだろうか。	②調べさせること <ul style="list-style-type: none"> ○特色ある地形 <ul style="list-style-type: none"> ・土地の低いところ、高いところ ・川の流れているところ ・広々と開けた土地や山々に囲まれた土地 ○土地利用の様子 <ul style="list-style-type: none"> ・田や畑が多いところ ・畑で作られている農作物 ・住宅や商店、工場が集まっているところ ○交通の様子 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々が利用している道路や鉄道の様子 ・駅の周りの様子 ○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが使う施設 ・見所のある場所(観光名所) 	③考えさせること <p><発問例> なぜ市の南部に工業団地があり、西部には大型商店が集まっているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域や市における特色ある地形や交通を生かす工夫 	④理解させること 高速道路のICの周りに工業団地、郊外の広い土地に大型商店がつけられている。このように、交通や土地の広さなどの特色を生かして、土地利用を行っている。

(1) 小学校3・4年生（人々の工夫や努力を考え、地域のまちづくりを理解する）

単元	学 習 の 流 れ				
生産や販売	【生産（農家、工場）の様子】	①課題 う。なぜ、生産量が全国上位なんだろ は、なぜ、群馬の○○（例：きゅうり） 群馬の○○（例：きゅうり）	②調べさせること 【農家について調べる内容】 ・農作物ができるまでの流れ ・施設・設備、使う道具 ・生産の工夫（大量生産、品質改善） ・生産物の販売（輸送方法、輸送先） ・農家の人の願い 【工場について調べる内容】 ・原料と仕入先 ・製品ができるまでの流れ ・働く人の服装や仕事の進め方 ・生産の工夫（大量生産、品質改善） ・製品の販売（輸送方法、輸送先）	③考えさせること  <発問例> 農家（工場）で働く人たちは、どのような気持ちで、このような工夫や努力をしているのでしょうか。 ・生産をよりよく行うための工夫や努力	④理解させること ものをつくる人々は、お客に喜んでもらうために、安くて、安全で、よい品にするよう、様々な工夫をしている。そのおかげで、私たちは毎日おいしい食事をとることができている。
	【販売（商店）の様子】	①課題 るのた。なぜ、スーパーには、たくさんのお客が集まるのだろうか。	②調べさせること 【商店について調べる内容】 ・商品の仕入 ・商品の品質管理 ・売り場での並べ方や値段の付け方 ・宣伝の仕方 【消費者の願いについて調べる内容】 ・求める商品の条件 ・よく買い物に行くお店の条件	③考えさせること  <発問例> お店で働く人たちは、どのような気持ちで、このような工夫や努力をしているのでしょうか。 ・販売をよりよく行うための工夫や努力	④理解させること 商店は、たくさんのお客に喜んでもらうために、様々な工夫をしている。そのおかげで私たちは安心して買物をする事ができている。
健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動	【飲料水の確保】	①課題 全な水がでるのだろうか。なぜ、水道の蛇口をひねるといつもきれいで安全な水がでるのだろうか。	②調べさせること ・水道の水の使われ方（家庭、学校、工場、商店等） ・水道の水の使用量や変化 ・水が蛇口まで送られてくる道すじ（森林、ダム、川、貯水池、浄水場） ・水源を守るための取組 ・安全な水道水のつくり方 ・水を安定して確保するための取組 ・節水や水の再利用の方法	③考えさせること  <発問例> 水道の水をつくる人たちは、なぜ、このように地道な取組を行っているのでしょうか。 ・人々の健康な生活、良好な生活環境の維持・向上に結び付く、飲料水の確保に関わる関係機関や地域の人々の工夫や努力	④理解させること 私たちが健康で良好な生活を送るために、多くの人が協力して、きれいで安全な水をつくっている。私たちは、限りある水を大切に使用するのはいけない。
	【廃棄物の処理】	①課題 う。私たちの生活から出るごみは、どのように処理されるのだろうか。	②調べさせること ・家庭や学校から出るごみについて →ごみの種類 →ごみの量 ・地域から出るごみの量の変化 ・ごみの行方 ・ごみの収集方法 ・ごみの処理方法（もえるごみ、もえないごみ、資源ごみ） →衛生的に処理する方法 →廃棄物を資源として活用する取組 ・ごみを減らすための取組	③考えさせること  <発問例> ごみの処理に関わる人たちは、なぜ、苦勞しながら、このような取組を行っているのでしょうか。 ・人々の健康な生活、良好な生活環境の維持・向上に結び付く、廃棄物の処理に関わる関係機関や地域の人々の工夫や努力	④理解させること 多くの人たちの協力によるごみ処理により、私たちは、よい環境で生活することができる。また、限りある資源を大切にするために私達も協力する必要がある。

(1) 小学校3・4年生（人々の工夫や努力を考え、地域のまちづくりを理解する）

単元	学 習 の 流 れ			
安全を守るための諸活動	【消防署・警察】 ①課題 消防署（警察）で働く人たちは、火事を消すことができるのだろうか。	②調べさせること 【消防署】 <ul style="list-style-type: none"> ・火事の発生件数 ・火事発生時(119番～消火)の活動 ・火事を防ぐための取組 ・消防署以外の火事発生時に関係する機関 ・身の回りの火事に備える設備、施設 ・火事に備える地域の人々の取組 ・学校の中にある火事に備える設備、施設 【警察】 <ul style="list-style-type: none"> ・交通事故の発生件数 ・交通事故発生時(110番から)の活動 ・交通事故や事件を防ぐための警察の取組 ・警察以外の交通事故発生時の関係機関 ・交通事故や事件を防ぐためのきまり ・交通事故や事件を防ぐための地域の人々の取組 	③考えさせること ＜発問例＞  消防署（警察）で働く人たちは、どのような思いでこれらの取組をしているのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々の安全な生活に結び付く、消防署（警察）に従事している人々や地域の人々の工夫や努力 	④理解させること 消防署（警察）や地域には、地域の人々を火事（事故）から守るための様々なしくみがあり、たくさんの人たちが力を合わせている。そのおかげで私たちは安全な生活を送ることができている。
生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働き	①課題 地域には、どのような文化財や年中行事があるのだろうか。	②調べさせること 【地域の文化財や年中行事】 <ul style="list-style-type: none"> ・内容、歴史、願いや言い伝え ・保存や継承のための地域の人々の活動 【人々の生活の変化】 <ul style="list-style-type: none"> ・古くから残る暮らしに関わる道具の様子と使い方 ・古い道具を使っていた頃の生活の様子 ・道具の変化とそれに伴う生活の変化 【発展に尽くした先人】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の発展に尽くした先人の具体的事例（開発、教育、文化、産業） ・先人の願い、思い、工夫・努力、苦心 ・現在の生活に与えた影響 	③考えさせること ＜発問例＞  地域の文化財や年中行事には、先人のどのような願いや思いが込められているのだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々の願いの実現や生活の向上に結び付く、先人の働きや苦心、文化遺産や年中行事を受け継いできた人々の努力 	④理解させること 地域に伝わる文化財や年中行事には、地域の歴史的な出来事や、先人の地域の発展を願う思いが込められている。また、伝統を守るための取組も行われている。私達も、地域の一員として、地域の伝統を受け継いでいく必要がある。
県の様子（地域の地理的環境）	①課題 群馬県の自然や産業の魅力を全国に紹介しよう。	②調べさせること 【県や自分たちの市町村の地理的位置】 <ul style="list-style-type: none"> ・日本全体から見た群馬県の位置 ・群馬県全体から見た自分たちの市町村の位置 ・隣接する県 【県全体の概要】 <ul style="list-style-type: none"> ・県内のおもな山地、平地、川、湖 ・県内のおもな高速道路、国道、県道、新幹線や鉄道 ・上毛カルタから見える群馬の特色 ・生産量が全国上位に入る産業 ・県内の市町村の特色 	③考えさせること ＜発問例＞  自然や歴史で特色のある地域に住む人々は、地域の特色を生かすためにどのような取組をしているのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・県内の特色ある地域における、地場産業や自然環境、伝統や文化の保護・活用に関わる工夫や努力 	④理解させること 群馬県は、気候や地形を生かした農業や観光業、高速道路を生かした工業など自然や交通を生かした産業や生活が営まれている。また、そこに住む人々は、地域の特色を守るための様々な努力をしている。

(2) 小学校5年生（人々の工夫や努力の意味を考え、国土の環境や産業を理解する）

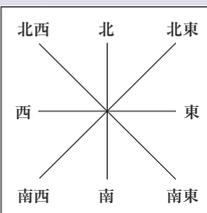
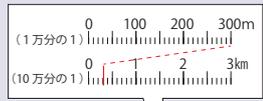
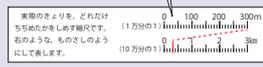
単元	学 習 の 流 れ			
国土の自然などの様子	【わが国の国土】			
	<p>①課題</p> <p>〇〇市の人々は、その土地で生活していくために、どのような工夫をしているのだろうか。</p>	<p>②調べさせること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高地：涼しい気候を生かした農業 山地の自然を生かした観光 ・低地：水害から身を守るしくみ 平らな土地を生かした米づくり ・雪国：雪から暮らしを守る工夫 雪を生かした産業 ・温かい島：台風の被害を防ぐ工夫 温暖な気候を生かした農業や観光 <p>※上記のような特色ある地形や気候条件をもつ地域を選択する。</p>	<p>③考えさせること</p> <p>＜発問例＞ 〇〇市に住む人々は、地域の特色を生かすために、どのような取組をしているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境に適応しながら生活している人々の工夫や努力の意味 	<p>④理解させること</p> <p>人々は、国土の環境を生活や産業に生かすために、地形や気候といった自然条件に合わせて生活している。</p>
	【公害から国土を守る】			
<p>①課題</p> <p>なぜ〇〇市は公害から環境を再生することができたのだろうか。</p>	<p>②調べさせること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公害の発生と経過 ・国や県の対策(公害の研究、条例の制定や会議における議定書の発信、公害を防ぐための工事や研修会の実施) ・地域の人々の努力(清掃活動や啓発活動などの環境保護活動) ・景観政策の実施 ・健康で安全な町づくりを目指した環境モデル都市への取組 	<p>③考えさせること</p> <p>＜発問例＞ 〇〇市の人々は、どのような思いで、このような取組を行っているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公害の防止や環境改善に向けて成果を上げてきた関係機関の人々の工夫や努力の意味 	<p>④理解させること</p> <p>国や県、地域の人々が、環境を保護するための取組を行っている。そのおかげで、私たちは、健康で豊かな暮らしを守ることができている。</p>	
【森林資源の働き】				
<p>①課題</p> <p>なぜ、多くの人たちが、「ナショナルトラスト運動」に協力しているのだろうか。</p>	<p>②調べさせること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林の役割や働き(土砂災害の防止、地球温暖化対策) ・森林の利用方法 ・山地で生活している人々の暮らしの工夫 ・林業を盛んにするために林業に関わっている人々の暮らしの工夫 ・環境保全の大切さ ・森林の手入れ ・県や地域と協力しての森林の育成方法 	<p>③考えさせること</p> <p>＜発問例＞ 森林にたずさわる人々は、どのような思いで、このような取組を行っているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林資源の育成や保護に従事している人々の工夫や努力の意味 	<p>④理解させること</p> <p>森林には、私たちのくらしを、安全で豊かにする働きがあり、国土の保全のために、森林資源やその育成、保護に従事している人々がいる。</p>	
農業や水産業	【わが国の食料生産】			
	<p>①課題</p> <p>なぜ、庄内平野では米づくりがさかんなのだろうか。(なぜ、気仙沼港ではかつおの水揚げ量が日本一なんだろうか。)</p>	<p>②調べさせること</p> <p>○農業を調べる内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米づくりが盛んな地域の土地や気候の様子 ・米づくり農家の1年間の仕事(土づくり(肥料)や農業の利用等) ・病気や害虫から稲を守るための工夫 ・共同作業や協同組合の働き ・新鮮さを考えた運輸や費用と価格の問題 ・これからの農業生産(安全、エコ)の工夫 <p>○水産業を調べる内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産物の輸入が多い日本の漁業の様子 ・捕る漁業(カツオ漁のしくみや200海里問題等) ・育てる漁業(養殖と栽培、孵化や稚魚を育てる研究等) ・新鮮さを考えた運輸や費用と価格の問題 ・漁獲量の減少と今後の量(資源)確保 	<p>③考えさせること</p> <p>＜発問例＞ 農業で働く人々は、消費者に選ばれる作物をつくるために、どのような工夫や努力をしているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食料生産(農業や水産業)に従事する人々の、消費者の需要にこたえ、新鮮で良質な物を生産し出荷するための工夫や努力の意味 	<p>④理解させること</p> <p>農業で働く人々は、消費者に作物を選んでもらった、喜んでもらうために、自然環境を生かしたり、運輸の工夫をしたりしながら、鮮度や安全など消費者のニーズに応じた作物をつくっている。</p>

(2) 小学校5年生（人々の工夫や努力の意味を考え、国土の環境や産業を理解する）

単元	学 習 の 流 れ				
工業生産	【わが国の工業生産】 ①課題 なぜ、日本の自動車は世界の中でも人気が高いのだろうか。	②調べさせること ○自動車づくり(組立工場見学) ・自動車をつくる過程 ・自動車づくりの工夫 ・自動車づくりに必要な部品の種類や数 ・関連工場との協力の仕方 ・新しい自動車の開発の仕方 ・消費者のニーズ内容 ・環境保全や資源の有効活用への取組内容 ○自動車の部品づくり(関連工場見学) ・つくっている部品の種類や数 ・部品づくりの工夫 ・組立工場等との協力の仕方 ・環境保全や資源の有効活用への取組内容 ○貿易の役割や運輸などの働き ・原材料の輸入先 ・原材料輸入の方法や輸送の費用 ・製品の輸送先や輸出先 ・製品の輸送や輸出の方法や費用	③考えさせること <発問例> 自動車工場で働く人々は、消費者に選ばれる製品をつくるために、どのような工夫や努力をしているのでしょうか。 ・工業生産に従事する人々の消費者の多様な需要にこたえ、環境に配慮しながら、優れた製品を生産するための工夫や努力の意味	④理解させること 自動車工場で働く人々は、安全や環境など消費者のニーズに応じた、安くて品質の良い製品を製造するために、生産や運輸を工夫している。そのおかげで私たちは、便利で快適な生活を送ることができている。	
	情報産業や情報化した社会の様子	【情報産業】 ①課題 マスメディアは、情報を伝えるために、どのような取組をしているのだろうか。	②調べさせること ○毎日の生活の中での情報の入手と活用の仕方 ・テレビ、新聞、インターネット、携帯電話など ・目的による活用の違い ○テレビ局などの報道が生活や産業に与える影響や役割 ・災害や事故 ・台風接近 ○情報産業の情報収集・提供の仕方 ・世界の情報を得る仕組み(特派員、通信社) ・様々なメディアの特徴(速さ、便利さ)	③考えさせること <発問例> マスメディアの取組は、私たちの生活に、どのような影響を与えているのでしょうか。 ・日常生活や産業活動における情報の入手に関わる人々の工夫や努力の意味	④理解させること 情報産業で働く人々が、国民生活や産業活動に必要な情報を収集・提供しているおかげで、私たちの生活が便利になったり、産業が発展できたりしている。
		【くらしに生きる情報】 ①課題 情報ネットワークによる私たちの生活はどのように変化するのだろうか。	②調べさせること ○情報ネットワークを有効に活用して公共サービスの向上に努めている事例 ・情報ネットワークのサービスの内容(例)地震速報、メール配信、地域防災ネットワーク ・情報ネットワークの仕組みとそれが完成するまでの経過や努力 ○自分たちの身の安全を守るための情報入手やネットワークへの参加の仕方 ・情報化の進展により生じている問題点 ・有効な情報活用の方法	③考えさせること <発問例> 私たちは、どのように情報を活用する必要がありますでしょうか。 ・現代社会において情報を有効に活用することの意味	④理解させること 情報化の進展は、私たちの生活に大きな影響を及ぼしている。私たちは、情報を有効に活用するために、責任ある行動が求められている。

2 各学年で身に付けさせる「地図を活用するための知識や技能」一覧

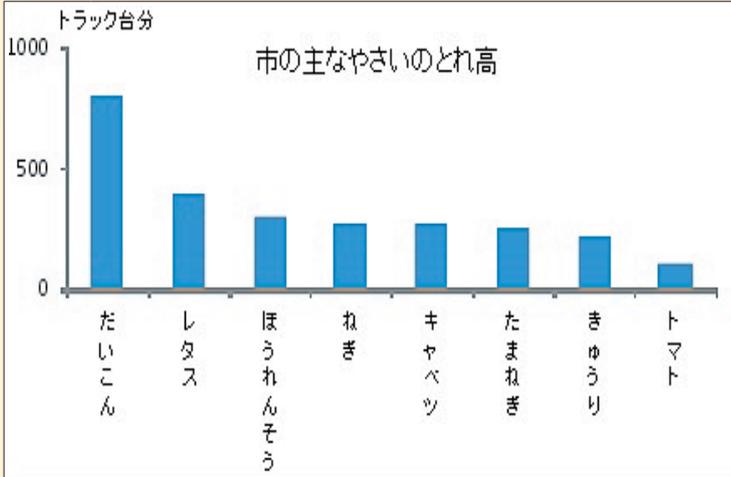
地図を活用するために身に付けさせる知識や技能を、学年ごとに系統的に示しました。それぞれの学年でくり返し扱っていくことが大切です。

	3・4年生	5年生	6年生	
	○身近な地域や市町村の様子	○住んでいる都道府県の様子	○日本全国 ○世界の国々	
【方位】	○4方位 ・太陽が昇るのが東 ・昼の12時が南 ・太陽が沈むのが西 ○8方位 ・4方位の頭に北か南を付ける。 ○方位を使った表現 ・学校から見て東は ・役所から見て西は ・自分の住んでいる市から見て南は	○8方位  ○方位を使った表現 ・住んでいる市町村から見て南東は ・住んでいる市町村は県の中で北西部に位置している。	○緯度と経度を使った表現 ・群馬県の位置は、およそ北緯36度、東経139度 ○方位を使った表現 ・日本の西にある大陸は ・日本の北の端は	
【地図記号・地勢図】	○地図記号 ・建物の記号 …… ㄨ ⊗ ⊗ ⊗ ⊗ ⊗ ⊗ ㄇ ㄐ ㊦ ㊧ ・土地利用の記号 …… ▽ ◊ ◊ ◊ ◊ ◊ ◊ ・交通の記号 …… — ㄣ — ○地形を表した地勢図 ・茶色は土地の高い所 ・緑色は土地の低い所	【主に扱う地図記号】 ○地形を表した地勢図 ・茶色は山地 ・緑色は平野	○地形を表した地勢図 ・茶色は山地、山脈 ・緑色は平原、砂漠	
【縮尺】		○「2万5千分の1」「5万分の1」 ・市の土地利用を調べる時に活用する。 ○「20万分の1」 ・県全体の土地利用を調べる時に活用する。	○縮尺物差し ・表記する数字の桁が大きくなるため、実際の縮尺は記載しない場合が多い。	
【距離】	○縮尺物差し (拡大)  ・コンパスで測る。 ○距離を使った表現 ・学校から400mの場所に図書館がある。	○縮尺活用の計算 ・「5万分の1」の地図上の1cmの長さ $1 \times 50000 = 50000\text{cm} = 500\text{m}$ ○曲線の計測 ・糸を活用する。 ○距離を使った表現 ・A市は県庁から約30km離れている。	○縮尺物差し ・300km～500kmの物差しを使用する。 ○距離を使った表現 ・日本の北の端から南の端まで約3300km	○縮尺物差し ・500km～2000kmの物差しを使用する。 ○距離を使った表現 ・日本とA国までは約10000km
【等高線】		○間隔と傾斜 ・間隔が「広い」と傾斜が「ゆるやか」	○地勢図での活用 ・等高線を使い、おおよその地形を確認する。	

3 グラフを正確に読み取らせるための指導のポイント

算数科で学習する以前に社会科で扱うグラフも複数あります。新出グラフや複数データが存在するグラフは、丁寧に読み取り方を指導する必要があります。また、発達の段階や算数科との関連も考慮し、その都度繰り返し指導することが大切です。

3年 棒グラフ



農家の仕事

○指導のポイント

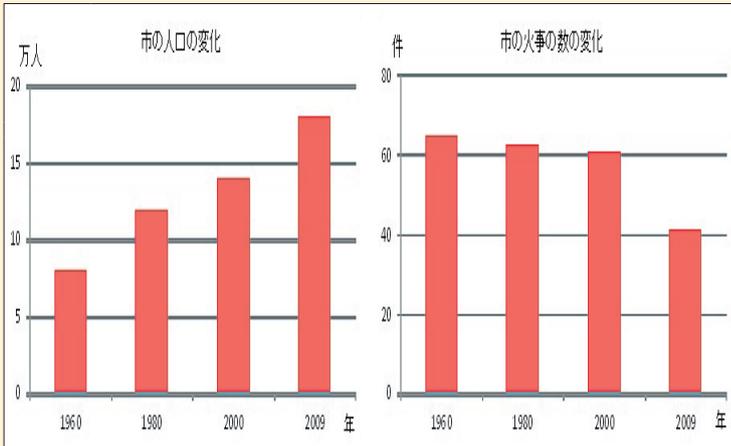
表題、縦軸、横軸、単位等の基本的な読み取りをさせる。

○発問の流れ

- ①このグラフは何の数を表していますか。
- ②表題を読みましょう。
- ③縦軸は何の数を表していますか。
- ④横軸は何を表していますか。
- ⑤メモリを基に、およその数を読み取りましょう。
- ⑥一番多くとれる野菜は何でしょう。

「だいこんです。トラック800台分くらいとれているからです。」

4年 棒グラフ(複数)



火事からくらしを守る

○指導のポイント

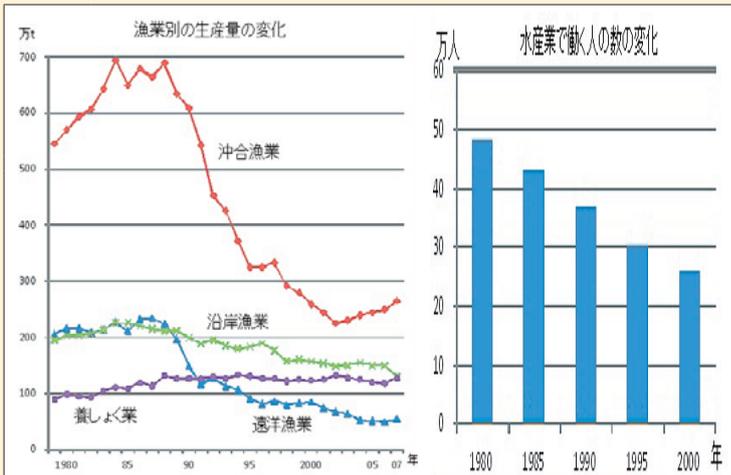
2つの棒グラフの変化の様子を関連付けて読み取らせる。

○発問の流れ

- ①市の人口と火事の数、それぞれどのように変化していますか。
- ②市の人口と火事の数とはどのような関係がありますか。
- ③市の人口が増えているのに、火事の数が減っているのはなぜでしょう。

「消防署の人たちが火事を防ぐためにいろいろな工夫をしてくれているからです。」

5年 複数折れ線グラフと棒グラフの関連



水産業のさかんな静岡県

○指導のポイント

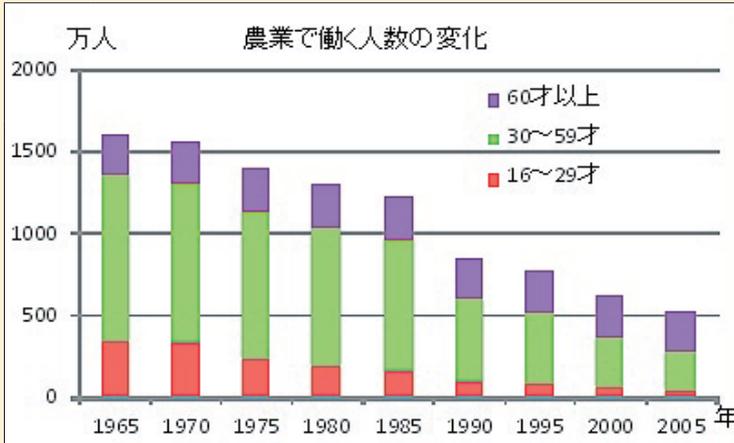
一つ一つのデータの変化から全体の変化の様子をつかませ、他のグラフと関連付けて読み取らせる。

○発問の流れ

- ①それぞれの漁業の生産量はどのように変化していますか。
- ②水産業で働く人の数は、どのように変化していますか。
- ③生産量の変化と働く人の変化にはどのような関係がありますか。

「漁業全体の生産量が減っているため、水産業で働く人も減ってきています。」

5年 棒グラフの中の複数データ



これからの食料生産とわたしたち

○指導のポイント

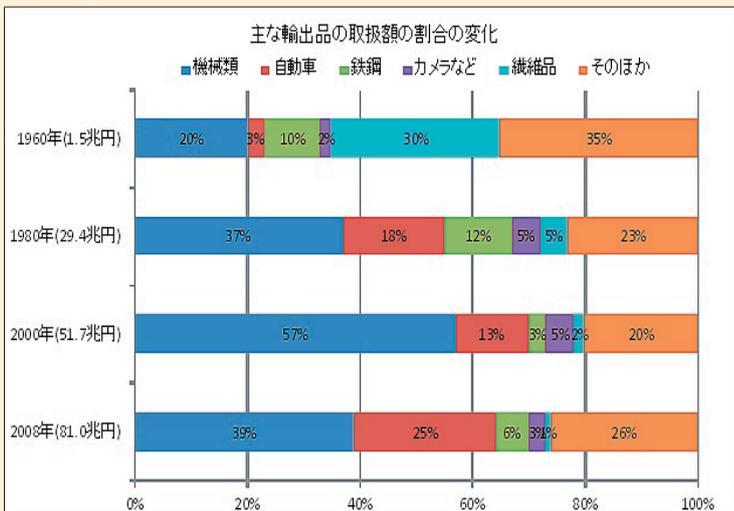
全体の変化の様子と複数データの占める割合に注目させて読み取らせる。

○発問の流れ

- ①農業で働く人の数は全体ではどのように変化していますか。
- ②1965年を年齢別にみると最も割合が大きいのはどの年齢ですか。
- ③2005年にかけて、年齢構成の割合はどのように変化していますか。

「16才~59才の人がどんどん減っていて、逆に60歳以上の高齢者の割合が増えています。」

5年 複数帯グラフの比較



工業生産と貿易

○指導のポイント

総額の変化や割合の変化から個別のグラフを読み取らせて、全体の特色をつかませる。

○発問の流れ

- ①どんな輸出品について比べていますか。
- ②輸出品取扱額の総額はどのように変化していますか。
- ③それぞれの製品の割合はどのように変化していますか。
- ④輸出品取扱額や割合の変化から、日本の工業全体の特色を考えましょう。

「日本の工業は、この50年間で機械類や自動車等の輸出を中心として大きく発展してきました。」

6年 折れ線グラフと複数帯グラフの関連



世界に歩み出した日本

○指導のポイント

1つのグラフの全体の変化と、他のグラフを関連付け、歴史的事象との関係について考えさせる。

○発問の流れ

- ①明治期の工場数は、全体的にどのような変化を示していますか。
- ②変化の様子が特に変わっている年がありますか。
- ③2つのグラフの変化の様子の関連について調べましょう。
- ④変化の大きい年に起こったできごととの関連を調べましょう。

「日清戦争をきっかけに輸入量が急激に増え、日露戦争後にさらに国内工場の数も増加していることから、2つの戦争を通して日本の工業が大きく発展していることが分かります。」

4 問題解決的な学習の各過程ごとの授業づくりのポイント

〈指導例：単元 第3学年「店ではたらく人」(全12時間)〉

(1)「つかむ過程」のポイント

つかむ過程では、「単元を貫く課題を設定」し、「課題の答えを予想」させましょう。

教師が予め課題を設定しておく

○課題設定の手順

- ①単元の目標を確認する
- ②目標に対して表れてほしい児童の姿をイメージする
- ③表れてほしい児童の姿が出るような課題の型を選択する

(例)

【①単元目標】

販売の仕事に携わっている人々の工夫を理解する。

【②表れてほしい児童の姿】

お店の人は、たくさんのお客に喜んで商品を買ってもらうために、お客のニーズを把握しながら、商品の仕入れ方や売り場での並べ方など、様々な工夫をしている。

【③課題の設定】

なぜ、スーパーマーケットには、たくさんのお客が集まるのだろうか？

児童に課題を見いださせる

○疑問をもたせる方法

- ・複数のグラフや表の比較
- (例)なぜ、人口が増えているのに、水道使用量は減っているの？
- ・複数の絵の比較
- (例)なぜ、江戸時代と明治時代では、こんなに生活の様子が違うの？

○興味や驚きをもたせる方法

- ・調査をする
- (例)買い物の場所は、スーパーマーケットが多いな。どうしてだろう？
- ・写真を提示する
- (例)外国の街なのに、日本の自動車がたくさん走っている。なぜだろう？
- ・グラフや表を提示する
- (例)群馬は〇〇の生産が全国上位だ。すごいな、どうしてだろう？

課題の答えを予想させる

- 予想することで、学習の見通しをもつことができます。
- ・「予想した内容」＝「追究する内容」
- ・「予想の正しさを確かめる方法」＝「追究する方法」

『店ではたらく人』(第1～3時)

○今までの買い物の経験を振り返り、買い物に行く店について興味をもたせる。(第1時)

- ・買い物に行く店を発表し、出された店を種類ごとにグループ分けさせる。
- ・一番多く買い物をしている店を考えさせる。
- *児童の課題意識を引き出せるよう発問を工夫し、活動の必要感をもたせる。

T：いろいろな店があることがわかったけど、実際に、みんなの家では、どこの店で一番多く買い物をしているでしょう？
S：自分が行かないこともあるので、調べてみないとわからないなあ。

○買い物調べをする。(1週間)

○買い物調べの結果から、学習課題を設定する。(第2時)

- ・買い物調べの結果を棒グラフで表させる。
- ・グラフから買い物に行く回数の多い店を読み取らせる。

T：棒グラフから、買い物調べでわかることは何でしょう？

S：スーパーマーケットが飛び抜けて多いね。

T：スーパーマーケットと他のお店は売っている商品が違いますか？

S：同じようなものもあるのに、どうして違うのだろうか？

調査結果から生まれる疑問や驚きを生かして、課題を設定しましょう。



単元を貫く課題

なぜ、スーパーマーケットには、たくさんお客が集まるのだろうか？

- *買い物調べの結果から、スーパーマーケットの利用が他の店と比較して特に多いことに気付かせ、学習課題を設定できるようにする。

○課題の答えを予想し、追究の見通しをもつ。(第3時)

- ・「多くの客が集まる理由」を予想させる。
- ・出てきた予想を分類し、キーワードを考えさせる。
- *キーワードを考えさせることにより、追究する内容を明確にする。
- T：どんなキーワードが考えられるだろう？
- S：「品ぞろえ」「安さ」「新鮮さ」「サービス」「安心」などだね。
- ・児童が考えた予想が、正しいかを調べる方法を考えさせ、追究する方法の見通しをもたせる。

T：スーパーマーケットは、本当に品ぞろえがよかったり、安かったりするのかな。どうすれば、それが調べられるかな？

S：家の人に、スーパーマーケットに行く理由を聞いてみようよ。

S：実際にスーパーマーケットに行って、調べてみようよ。

S：見学の時に、キーワードについて調べればいいんだね。

(2) 「追究する過程」のポイント

追究する過程では、「課題解決のための追究内容であるか」を常に意識させましょう。

追究の見通しをもたせる

- 授業の最初に確認させる内容
 - ①学習課題
 - この単元で解決させる課題と本時の課題
 - ②予想した内容
 - 現時点で児童が考えた課題の答え
 - ③予想の正しさを確かめる方法
 - 課題を解決するために、これから具体的に調べていく方法

必要な情報を集めさせる

- 資料から情報を集める場合
 - ・予想の正しさを確かめられる資料を選ばせましょう。
 - ※教科書や資料集に載っている資料を全部使う必要はありません。
- 見学を行い情報を集める場合
 - ・予想の正しさを確かめるための、見る視点と質問を用意させましょう。
 - ※工夫や努力に直接関わる質問については、事前に見学先に伝えておきましょう。

必要な情報を読み取らせる

- 資料から情報を集める場合
 - ・予想の正しさの根拠となる内容を読み取らせましょう。
 - ※予想の正しさを確かめることと関係のない読み取り内容とは、区別しましょう。
- 見学を行い情報を集める場合
 - ・予想の正しさの根拠となる具体的なもの、取組、言葉を記録させましょう。

集めた情報をまとめさせる

- 集めた情報は、ノートやワークシート、白地図等に記入させましょう。
- 集めた情報は、KJ法等を用いて、分類・整理させましょう。
- 集めた情報と学習課題との関連を記述させましょう。

『店ではたらく人』(第4～8時)

- スーパーマーケット見学の準備をする。(第4時)
 - ・「追究する」見通しをもたせる。

「なぜ、スーパーマーケットにはたくさんのお客が集まるのだろうか?」という学習課題を再確認させましょう。また「予想したことが正しいか確かめていく」ことを確認することで「追究」の見通しをもたせましょう。



- ・教師が事前に撮影してきた店内の写真を提示し、見学に向けて、予想の正しさを確かめるための、見る視点と質問を用意させる。

T: この写真はお店の「値札の表示」と「生産者の写真が載せてある品物」の写真です。この2つの工夫は、5つの予想(キーワード)のどれに当てはまるでしょう。



S: 「値札の表示」は「安さ」かな。

S: 「生産者の写真」は「安心」かな。

- ・質問したいことを見学ノートに書かせる。

S: 「値札の表示」は「安さ」なのか「サービス」なのか、表示している理由を質問したいな。

S: なぜ、品物に生産者の顔写真を載せているのかな。質問してみよう。

- 見学する。(第5～7時)

- ・店の工夫や努力を5つの予想(キーワード)に当てはめて記録させる。

S: タイムセールがあるな。なぜタイムセールをするのかな。

S: 試食コーナーがあるな。これは、「安心」に入るのかな。それとも「サービス」かな。

- ・店の人にインタビューをさせる。

S: なぜタイムセールの時間を設けているのですか。

S: 試食コーナーは消費者の「安心」のためですか。それとも「サービス」ですか。

予想の正しさの根拠となるような店の具体物、取組を見付けましょう。



- 見学で見つけた工夫や努力を個人でまとめる。(第8時)

- ・個人で、店の工夫や努力を5つの予想(キーワード)に当てはめて、まとめさせる。

- ※まとめる際は、予想に当てはめた理由を、学習課題と関連させて記述させる。

S: タイムセールは「安さ」に当てはめよう。理由は、セールに出される品物は今までの値段より安くなっているからだよ。

S: 試食コーナーは、実際に食べて安心するし味もわかるから、「安心」と「サービス」の両方に当てはめよう。

(3)「考え・まとめる過程」のポイント

考え・まとめる過程では、「集めた情報を基に考えさせる」、「考えたことを、他者の考えと比較し、見直しをさせる」、「自分の言葉でまとめさせる」活動をさせましょう。

「まとめ」の見通しをもたせる

- 授業の最初に確認させる内容
 - ①学習課題
 - この単元で解決させる課題と本時の課題
 - ②考え、まとめる内容
 - 課題の答え
 - 課題の答えを考えた根拠

集めた情報を基に考えさせる

- 比較・関連付けて考えさせる
 - ・共通点や相違点、因果関係などを考えさせましょう。
- 図で整理し考えさせる
 - ・KJ法等でグループ分けしたものを矢印や線で結ばせ、可視化しましょう。
- 多面的・多角的に考えさせる
 - ・様々な人の場面や立場から考えさせましょう。
 - (例)「夕方の場面で考えると……」
 - (例)「閉店近くの場面で考えると……」
 - (例)「お客の立場から考えると……」
 - (例)「農家の人の立場から考えると……」

他者の考えと比較し、見直させる

- 比較させるポイント
 - ・自分の考えと違う点
 - ・自分が気付いていなかった点
- 説明させる際のポイント
 - ・言葉による説明だけでなく、記述した文書や図などを見せながら、説明させましょう。

自分の言葉でまとめさせる

- 資料を丸写しするのではなく、以下の内容について、自分の言葉で書かせましょう。
 - ・課題の答え
 - ・課題の答えの根拠
- まとめさせる方法
 - ・新聞、レポート、チラシ、ポスター、すごろく等

『店ではたらく人』(第9～12時)

○追究結果を再構成し、交流する。(第9時)

・「まとめ」の見通しをもたせる。

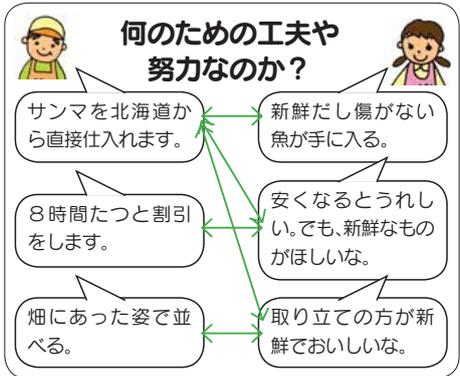
「なぜ、スーパーマーケットにはたくさんのお客が集まるのだろうか？」という学習課題を再確認させましょう。また「課題の答えとその根拠を考える」ことを確認することで「まとめ」の見通しをもたせましょう。



・集めた情報を基に、店の工夫や努力を考えさせる。
*客の意識と比較・関連付け、図などで整理させる。

T：なぜ、お店で働く人たちは、このような工夫や努力をしているのでしょうか。お客の立場と比べて考えてみましょう。

S：お店の人の工夫とお客さんの期待していることは共通しているね。お店の人は、お客さんのニーズに応じた工夫や努力をしていることが分かりました。



・他者の考えと比較し、見直させる。

T：整理したことを基にして、意見を発表し合ひましょう。

S：図にまとめてみると、サンマを北海道から直接仕入れることで新鮮なサンマが手に入るということがわかりました。

T：何か新しい気付きもありましたか？

S：新鮮だと傷がないしおいしいということも矢印を活用することでわかりました。

○単元を振り返り、学習のまとめをする。(第10～12時)

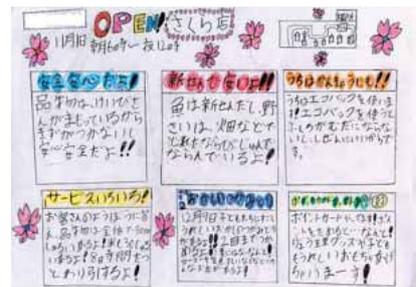
・単元を貫く課題について分かったことを言葉でまとめさせる。

T：学習してきた工夫の中で何をアピールしたいかキーワードを基にして「チラシ」にまとめましょう。

S：「安さ」「安心」「サービス」を中心にまとめてみよう。

T：みなさんが学習したことをまとめたチラシを見て、わかったことや感想を発表し合ひましょう。

S：店の人は、客のニーズを考えて、様々な工夫をしているからスーパーマーケットにたくさんのお客が集まるんだな。



算 数

Arithmetic

数学的な思考力・表現力、豊かな感覚を伸ばす指導の充実を！

算数科においては、数量や図形に関わる基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させるとともに、数学的な思考力・表現力、豊かな感覚を伸ばし、活用する力を育てていくことが重要です。そのために、伸ばしたい資質・能力を明確にして、1 単位時間の授業を問題解決的に進めていくとともに、特に、筋道を立てて考える活動や、考えたことを説明し比較・検討する活動、数量や図形の感覚を豊かにする活動等を充実させることがとても大切になってきます。

そこで、本資料では、算数科における基本的な授業構想の仕方を示すとともに、筋道を立てて考えるための図の指導や、説明し比較・検討する活動を充実させるための指導のポイント、指導例等を示しました。また、数量や図形についての感覚とそれらを伸ばすための活動や、数学的な考え方を伸ばすためのヒントも示しています。

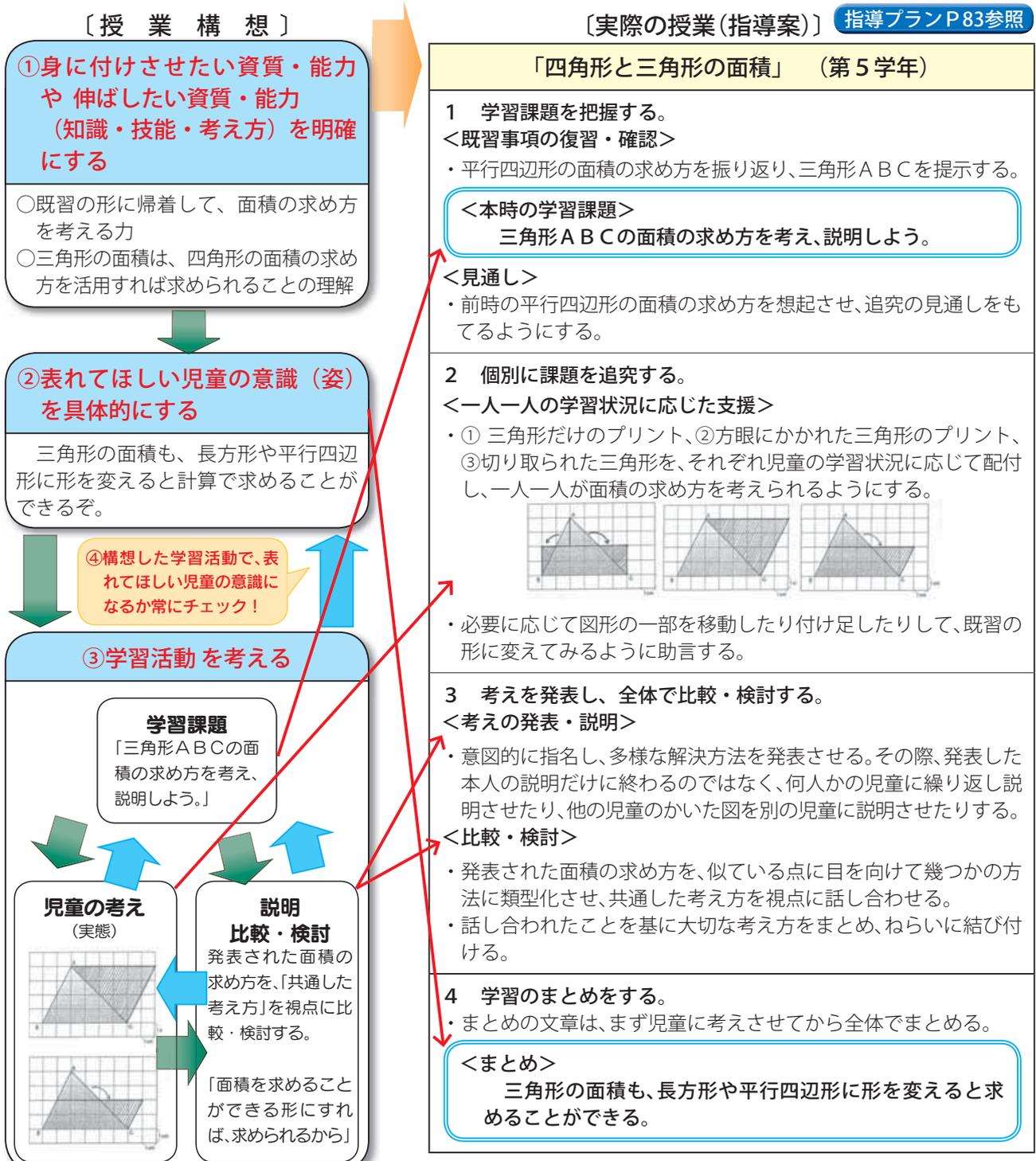
- 1 児童の資質・能力を伸ばしていく算数の授業とするために
 - (1) 授業構想の仕方 …………… P 32
 - (2) 「授業構想シート」と実際の活用例 …………… P 33
 - (3) 1 単位時間の指導例 …………… P 34
- 2 筋道を立てて考えたり、根拠を明らかにしながら説明したりするために【図の指導】
 - (1) 各学年における主な図の指導 …………… P 36
 - (2) 図の指導のポイントと指導例①(絵～数直線図) …………… P 36
 - (3) 図の指導のポイントと指導例②(ブロック図) …………… P 38
- 3 説明し、比較・検討する(深める)活動を充実させるために
 - (1) 「説明し合う活動」と「比較・検討する活動」を充実させる 4 つのポイント… P 39
 - (2) 説明し合う活動を充実させ、考えを深めさせる指導例…………… P 40
 - (3) よりよい方法を導く比較・検討(序列化型)の指導例 …………… P 42
 - (4) 共通する考え方を導く比較・検討(一般化型)の指導例 …………… P 43
- 4 数量や図形の「豊かな感覚」を伸ばすための効果的な 7 つの活動
 - (1) 「数」についての感覚を豊かにする活動 …………… P 44
 - (2) 「量」についての感覚を豊かにする活動 …………… P 45
 - (3) 「図形」についての感覚を豊かにする活動 …………… P 46
- 5 「数学的な考え方」を伸ばすためのヒント
 - (1) 数と計算 …………… P 47
 - (2) 量と測定 …………… P 48
 - (3) 数量関係 …………… P 50

1 児童の資質・能力を伸ばしていく算数の授業とするために

(1) 授業構想の仕方

算数の授業を考える際には、まず①「身に付けさせたい資質・能力」や「伸ばしたい資質・能力」を明確にし、②「表れてほしい児童の意識（姿）」を具体的にしておくことが重要です。次に、児童に何（学習課題）を考えさせるのか、児童はどう考えるのか、児童にどのように説明させ比較・検討させるとねらいに結び付けられるのか意識しながら③「学習活動」を考えるとともに、この学習活動で「表れてほしい児童の意識（姿）」にすることができるか④常にチェックするようにして授業を考えていきましょう。

基本的な授業の流れは、『はばたく群馬の指導プラン』の「1 単位時間のつくり方」(P82) を参考にしていきたいと思います。



(2) 「授業構想シート」と実際の活用例

授業構想したことを、次のシートなどに簡単にメモし、授業の流れや、表れてほしい児童の意識（姿）、板書計画をはっきりさせておくと、授業改善に役立てることが出来ます。

算数授業構想シート 月 日() 年 「 」 /							
<p>ねらい</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <p>身に付けさせたいこと</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; margin-bottom: 5px;"></div> <p>表れてほしい児童の意識(姿)</p> <p style="color: red;">* 授業の最後に表れてほしい意識を書く</p>	<p>板書</p> <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div>						
授業の流れ							
1	学習課題を把握する	2	個別に課題を追究する	3	考えを発表し、全体で比較・検討する	4	学習のまとめをする
* 児童の活動や意識を書く							
* 教師の指導を書く							

シート活用例

算数授業構想シート ○月○日(○) 5年 「四角形と三角形の面積」 4/14							
<p>ねらい</p> <p>◇ 三角形の面積の求め方を考え、説明したり比較したりすることを通して、三角形の面積は既習の長方形や平行四辺形の面積の求め方を活用して求められることがわかる。</p> <p>身に付けさせたいこと</p> <p>◇ 既習の形に帰着して、面積の求め方を考える力</p> <p>◇ 三角形の面積は、四角形の面積の求め方を活用すれば求められることの理解</p> <p>表れてほしい児童の意識(姿)</p> <p>◇ 三角形の面積も、長方形や平行四辺形に形を変えると計算で求めることができる。</p>	<p>板書</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">三角形ABCの面積の求め方を考えよう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>共通した考え 求め方が分かる図形に変える</p> <p>長方形に変える</p> <p>2 × 6 = 12</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>平行四辺形に変える</p> <p>6 × 4 = 24</p> <p>24 ÷ 2 = 12</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">まとめ</p> <p>三角形の面積は長方形や平行四辺形に形を変えると求めることができる。</p> </div>						
授業の流れ							
1	学習課題を把握する	2	個別に課題を追究する	3	考えを発表し、全体で比較・検討する	4	学習のまとめをする
<p><学習課題> 三角形ABCの面積の求め方を考え、説明しよう。</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>○既習の平行四辺形の求め方を確認。</p> <p>○見通しを全体で十分もたせたい。</p>		<p>☆図形の一部を移動したり、付け足したりして、考えている。</p> <p>○必要に応じて、図形の一部を移動する方法を例示する予定。</p>		<p>○他の児童の考えを読み取らせたい。</p> <p>○共通した考え方を視点に比較・検討させる。</p>		<p><まとめ> 三角形の面積も、長方形や平行四辺形に形を変えると求めることができる。</p> <p>○まず、一人一人の児童に考えさせてから、まとめていく。</p>	

(3) 1 単位時間の指導例

前時の学習 **<学習課題>**
 $90 \div 3$ のようなわり算の計算の仕方を考えよう。

ここでは、「(1) 授業構想の仕方」を基に、第3学年の「数と計算」領域の指導例を取り上げています。それぞれの学習過程でのポイントを示すとともに、前時までの学習と、本時で活用する資質・能力、今後の学習との結び付きを示しました。

本時のねらい
 簡単な(2位数) \div (1位数) の計算の仕方を、既習の除法の計算の仕方を基に考え、説明することができる。

本時の「学習する価値」を明らかにする
 ○前時までの学習内容と比較して、違いを明確にする。
 ↓
 この違いが「学習する価値」となる。

追究の見通しを十分もたせる
 ○既習事項と比較させながら、今までの学習と似ているところや、解決のために使えそうな既習事項をクラス全体で考えさせ、解決方法の見通しをもたせる。
 ○結果の見通しをもたせることも大切。

活動を通して追究させる
 ○問題場面を図や式に表したり、実際に操作したりしながら、課題を追究できるようにする。
 ○1つの方法で追究できたら、他の方法で追究させるようにする。
 ○一人一人の追究の状況を見取り、必要に応じて、既習事項を振り返らせたり、追究方法を例示したりする。

互いの考えを説明させる
 ○理解を深めさせたり、思考力・表現力を伸ばしたりすることを意識して、互いの考えを説明させる。
 ○考えた本人に発表させるだけでなく、他の児童に考えを読み取らせる場面を作り、クラス全体で、理解を深められるようにする。

「発表会」ではなく、説明し考えを読み取り深める学習へ!

指導例：『大きい数のわり算』(第3学年 第2時)

1 学習課題を把握する。

○問題を提示する。

<問題>
 96枚の色紙を3人で同じ数ずつ配ります。1人分は何枚になりますか。

- ・問題場面や式を確認する。
 S：図に表すとこうなります。
 S：同じ数ずつ配るので、わり算になる。
 S：式は、 $96 \div 3$



○本時の学習と前時の学習との違いを確認する。

<本時の「学習する価値」>

- T： $96 \div 3$ の式は、前の勉強 ($90 \div 3$) とどこが違う？
 S： $9 \div 3$ のようにすぐわれないところ。
 S：かけ算九九にない。

○学習課題を児童と共につくる。

<学習課題>
 $96 \div 3$ のようなわり算の計算の仕方を考えよう。

<活用する資質・能力>
 ・一位数の除法の計算
 ・ $90 \div 3$ 、 $80 \div 4$ などの除法の計算

○解決方法や結果の見通しをもたせる。

- T：どのように考えたらよいだろうか。
 S： $90 \div 3$ のときと同じに、図や式で考えるとよいと思います。
 T：おおよそ何枚になりそう？ S：30枚とちょっとかな。

2 個別に課題を追究する。

<一人一人の学習状況に応じた支援>

○机間支援しながら、児童の追究状況を把握する。

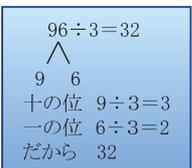
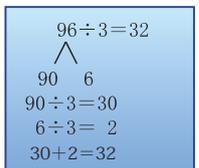
- ・必要に応じて、図や式、ものを使って考える方法を例示する。

《児童の主な考え方》

◇ものを使った考え方
 (折り紙を実際に配る)



◇式を使った考え方



3 考えを発表し、全体で比較・検討する。

<考えの発表・説明>

○隣同士で互いに考え方を説明させる。

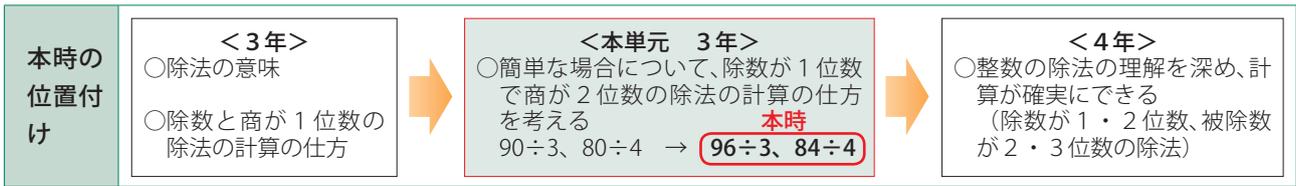
- T：まず、隣の人に自分の考え方を説明しましょう。

○4つの考え方を板書し、考えを説明させたり読み取らせたりする。

《考え方①：ものを使った方法》

- S：まず折り紙を10枚ずつ渡します。次に、バラを3人に渡します。1人分は、32枚になりました。





《考え方②：式を使った方法Ⅰ》

T：(板書した児童ではなく)同じ考えの人に説明してもらいます。

S：まず、96を90と6に分けて、それぞれ3でわる。90÷3=30、6÷3=2、合わせて32です。

$$\begin{array}{r} 96 \div 3 = 32 \\ \wedge \\ 90 \quad 6 \\ 90 \div 3 = 30 \\ 6 \div 3 = 2 \quad 32 \end{array}$$

T：96を90と6に分けると、どんなよさがあるかな？

S：位ごとに、それぞれわり算することができる。

〈考え方②〉

《考え方③：式を使った方法Ⅱ》

・式の途中までを板書し、他の児童に考え方を推測させる。

T：○○さんの考え方と式の続きを説明してもらいます。

S：96を9と6に分けて、9は10のまあまりの9、6はバラの6！

S：この続きは、9÷3と6÷3を計算して、32になったと思います。

$$\begin{array}{r} 96 \div 3 \\ \wedge \\ 9 \quad 6 \end{array}$$

T：考え方の続きがわかりましたか？

S：わかった！

途中まで板書し、
続きを説明させる！

《考え方④：式を使った方法Ⅲ》

・式から考えを推測させ、説明させる。

T：こんな考え方をした人がいました。どう考えたかわかるかな？

$$\begin{array}{r} 96 \div 3 = 32 \\ \div \\ 96 \\ \underline{\quad 3} \\ 32 \end{array}$$

発表されて
いない考え
方を意図的
に提示！

<比較・検討>

○それぞれの考えを比較・検討させる。

T：それぞれの考えで似ているところは、どんなところですか？

S：どの考え方も、十の位と一の位に分けているところが同じ！

T：どうですか？(同じ考えの児童を、もう一度指名して発表させる。)

S：分けてわり算した後に、足している。

T：十の位と一の位のそれぞれの答えを足せばいいんだね！

○同様な問題に適用して確かめさせる。

・色紙46枚を2人で分ける場合(46÷2)の問題に適用し、取り組ませる。

・46÷2の計算の仕方を全員で確認する。

T：まず最初に？ S：42を40と2に分ける！

T：次は？ S：40÷2=20、6÷2=3 合わせて23枚

S：やっぱり位ごとにわり算するとできる。

4 学習のまとめをする。

○大切なことを児童に尋ねながら「まとめ」を板書する。

<まとめ>

十の位と一の位の数に分けてわり算し、答えを合わせると計算できる。

・まとめたことを、本時で扱った式を用いて、今一度手順を確認させる。

$$\begin{array}{r} 96 \div 3 = 32 \\ \wedge \\ 90 \quad 6 \\ 90 \div 3 = 30 \\ 6 \div 3 = 2 \quad \text{合わせて} 32 \end{array}$$

考え方の手
順を、全体で
確認！

○活用問題に取り組ませる。

・複数の活用問題を準備し、取り組ませる。

説明し合う活動の工夫例

<工夫例>

- ・ペアで互いに説明させる。
- ・同じ考え方でも、複数の児童に自分の言葉で説明させる。
- ・図や式のみを板書して、考え方を推測させる。
- ・考え方を言葉で説明させて、式や図を推測させる。
- ・図や式、考え方の一部を提示して、続きを推測させる。

☆本資料P39～41参照

考え方のよさを見付けさせる

○それぞれの考え方を説明させて理解を深めさせるとともに、それぞれの考え方のよさを見付けさせることが大切。

このことが次の「比較・検討」の活動に有効に働く。

ねらいに結び付く比較・検討に！

○それぞれの考え方を説明させるだけでなく、その後に比較・検討して、ねらいに結び付くように深めていくことが大切。

○そのために、比較・検討の視点を明確にして比較・検討させる。

☆本資料P39、42、43参照

○本指導例では、「共通した考え方」で比較・検討した。

活用問題に取り組ませる

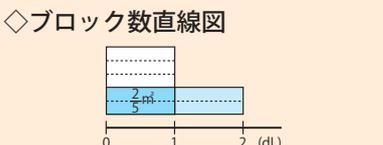
○課題を追究させた後、活用問題に取り組ませて、見出した知識や技能、考え方を確かめさせ、確実なものとする。

2 筋道を立てて考えたり、根拠を明らかにしながら説明したりするために【図の指導】

児童が個別に課題を追究する際に、課題の場面や状況を自ら絵や図などに表し、イメージできるようにしたり、図や式などを用いて筋道立てて考えたり、そうなる理由を説明したりできるようにすることがとても大切です。

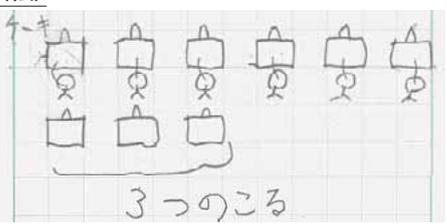
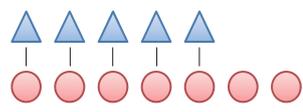
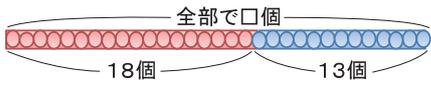
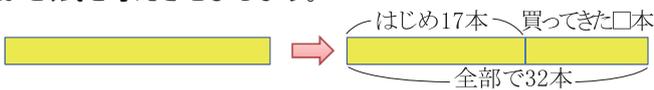
特に、「数と計算」や「数量関係」の領域では、児童自ら演算決定をしたり、計算の仕方を考えたり、その方法でよいのか説明したりする際に、図がとても効果的です。そのため、児童が自ら図を活用できるように、6年間を見通して系統的に指導を行いましょう。

(1) 各学年における主な図の指導

学年	1・2年	3・4年	5・6年
図の表現	◇絵 ◇ドット図  ◇テープ図 	◇線分図  ◇テープ数直線図  ◇ブロック図 	◇数直線図  ◇ブロック数直線図 

(2) 図の指導のポイントと指導例① (絵～数直線図)

☆5・6年時に、児童が数直線図を自分でかいたり使ったりできるように、学校全体で指導していきましょう。

学年	図の表現・関連する内容	指導のポイント・具体的な指導例
1年	〈絵〉  《減法(求残): 9-6の場面》 〈ドット図〉 *具体的事象の形を抽象化して、ドットの数で数量を表した図  《減法(求差): 7-5の場面》	☆文章等から問題場面をとらえさせる際に、1年生ではまず絵やドット図で表現させましょう。 繰り返して絵やドット図で表現させたり読み取らせたりして、問題場면을イメージできるようにすることが大切です。 ○第1学年「たしざん、ひきざん」 【問題①】 クラスの男子が1列に並んでいます。自分は前から8番目で、後ろから7番目です。全部で何人いますか。 【問題②】 自分の前には8人、後ろには7人います。全部で何人いますか。 ①の図 前 ○○○○○○○●○○○○○○ 後 式 $8+7-1$, $7+1+6$ ②の図 前 ○○○○○○○○●○○○○○○○ 後 式 $8+1+7$ ☆なぜ①と②がその式になったのか、なぜ2つの式が違うのか問い掛け、絵や図を基にその式になった理由を説明させましょう！
2年	〈ドットテープ図〉  〈テープ図〉 *数量の大きさをテープの長さで置き換えて、関係を1本のテープで表した図  《2桁の加法: 37+24の場合》	☆問題場面の数量をドットの数からテープの長さで表現させ、問題場면을簡潔に表現できるようにしましょう。 ○第2学年「たし算とひき算」 【問題】 鉛筆が17本あります。何本か買って来たので、全部で32本になりました。買って来た鉛筆は何本ですか。 ☆テープ図のみを与えて、必要な言葉や数、□(求めるもの)をかかせ、式を考えさせましょう。 

学年	図の表現・関連する内容	指導のポイント・具体的な指導例
3・4年	<p>〈線分図〉</p> <p>*テープの幅をなくし、線分の長さで数量の大きさを表す図 (テープ図より簡単にかける)</p>	<p>☆テープ図で表した問題場面を、線分の上に表現させ、簡潔に問題場面をとらえられるようにしましょう。</p>
	<p>〈テープ数直線図〉</p> <p>*数量の関係を、テープ図と数直線を用いて表す図</p> <p>《3年 整数倍: 231×3》</p> <p>《4年 小数の除法: $6.9 \div 3$》</p>	<p>☆長さや値段、体積と重さなど、2つの数量をテープ数直線図に表すことで関係をとらえさせ、演算決定の根拠を見付けさせましょう。</p> <p>○第4学年「小数のわり算」</p> <p>【問題】 6.9Lのジュースを3人で分けます。1人分は何Lですか。</p> <p>図から、 □$\times 3 = 6.9$ したがって、 □$= 6.9 \div 3$</p> <p>〈重要：基準にする大きさを求める除法〉</p> <p>☆3年の除法の学習から、基準にする大きさを求める場面を図に表す活動を丁寧に扱い、除法を導くことができるようにしましょう。</p> <p>☆最終的に、数直線図で表せることへつなぐようにしましょう。</p>
5・6年	<p>〈数直線図〉</p> <p>*数量の関係を、数直線を用いて表す図</p> <p>《5年 小数の乗法: 2.13×3.6》</p> <p>問題: 1mが2.13kgの棒、3.6mの重さは?</p> <p>《5年 小数の除法: $8.93 \div 3.8$》</p> <p>問題: 3.8mが8.93kgの棒、1mの重さは?</p>	<p>☆テープ数直線図で学んだことを基に、問題場面の数量の関係を数直線図に表現させ、演算決定の根拠や計算の仕方を数直線図を用いて説明できるようにしましょう。</p> <p>○第5学年「小数のわり算」</p> <p>【問題】 0.4mが3.8kgの棒があります。1 mの重さは何kgですか。</p> <p>図から、 1×0.4だから、 □$\times 0.4 = 3.8$ したがって、 □$= 3.8 \div 0.4$</p> <p>☆除数が1より小さな小数(純小数)の場合には、イメージできない児童が多いので、数直線図に表して除法になることを納得できるようにしましょう。</p>

〈数直線図を上手く活用させるために！ 「基準にする大きさを求める除法」〉

○第5学年「小数のわり算」

【問題】 0.6mの鉄の棒の重さを測ったら1.5kgありました。1 mの重さは何kgですか？ (除数が純小数の除法)

《数直線図のかき方》

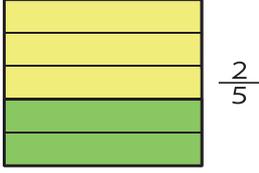
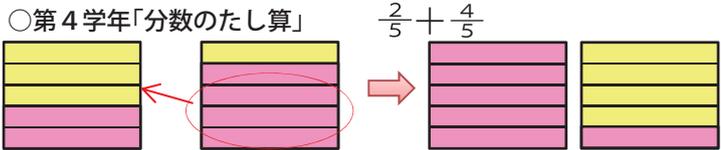
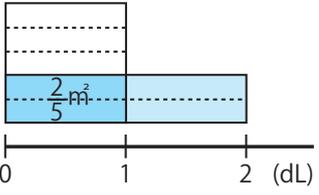
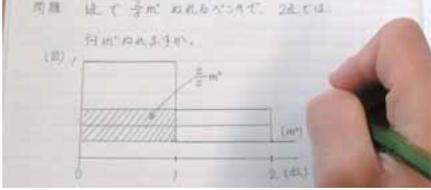
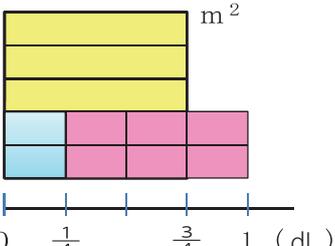
- ① 2本の直線を引き、単位を書く。
- ② 場面に合った数値を図に表す。
- ③ 求める値の部分を□にする。
- ④ 1が0.6になるには 1×0.6
- ⑤ ④より、0.6が1になるには $0.6 \div 0.6$
- ⑥ したがって、□を求めるには1.5を0.6でわる。

☆児童が自分で数直線図をかき、演算決定の根拠や計算の仕方を説明するなど、図を適切に活用できるよう習得させましょう。

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

1 \times 0.6 = 0.6
 □ \times 0.6 = 1.5
 □ = 1.5 \div 0.6

(3) 図の指導のポイントと指導例② (ブロック図)

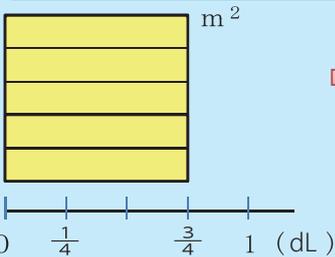
学年	図の表現・関連する内容	指導のポイント・具体的な指導例
3・4年	<p>〈ブロック図〉 *面積で数量を表す図</p>  <p>《3年 分数表現の場面》</p>	<p>☆正方形の図を縦又は横に等分して、分数を表せるようにしましょう。(＊ブロック数直線図につなぐためには、横に等分するとよい。)</p> <p>○第4学年「分数のたし算」 $\frac{2}{5} + \frac{4}{5}$</p> 
5・6年	<p>〈ブロック数直線図〉 *数量の関係を、ブロック図と数直線を用いて表す図</p>  <p>《5年 分数の乗法 $\frac{2}{5} \times 2$ の場面》</p> 	<p>☆ブロック図と数直線図を組み合わせ、数量の関係を表せるようにしましょう。 計算の仕方を考えたり説明したりする際に用います。</p> <p>○第6学年「分数のわり算」 【問題】 $\frac{3}{4}$ dLで $\frac{2}{5}$ m²ぬれるペンキで、1 dLでは何m²ぬれますか？</p>  <p>$\frac{1}{4}$ dLでぬれる面積の4倍を図示する → 図より $\frac{8}{15}$ m²</p>

〈ブロック数直線図を上手く活用させるために！ 「基準にする大きさを求める除法」〉

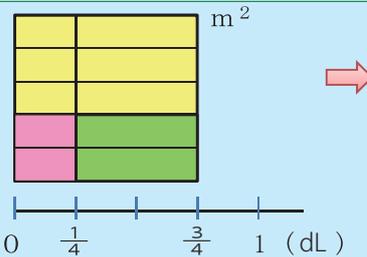
○第6学年「分数のわり算 ($\frac{2}{5} \div \frac{3}{4}$ の計算の仕方の説明)」

【問題】 $\frac{3}{4}$ dLで $\frac{2}{5}$ m²ぬれるペンキで、1 dLでは何m²ぬれますか？

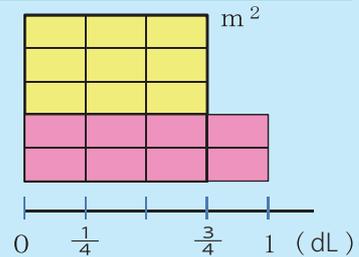
①ブロック図と数直線をかき、単位と目盛りを付ける。



②割合に当たる大きさの $\frac{2}{5}$ m²を示し、 $\frac{1}{4}$ dLでぬれる面積を図示する。



③ $\frac{1}{4}$ dLでぬれる面積を基に1 dLでぬれる大きさを図示する。



〈重要：小数、分数の除法〉

☆除法の意味としては、乗法の逆として割合を求める場合〔①〕と、基準にする大きさを求める場合〔②〕があり、多くの児童にとって〔②〕の方がとらえにくい。

☆整数の場合と違って、小数や分数の場合には、数直線図やブロック数直線図を用いて、数量の関係をわかりやすくすることが大切です。

☆実際に児童に図をかかせ、数量の関係を視覚的にとらえさせながら、計算の仕方を理解できるようにするとともに、数直線図(ブロック数直線図)を用いて、説明できるようにさせましょう。

3 説明し、比較・検討する（深める）活動を充実させるために

(1) 「説明し合う活動」と「比較・検討する活動」を充実させる4つのポイント

それぞれの児童が課題を追究した後、方法や考え方を発表させるだけの授業になっていないでしょうか。ぜひ、解決方法や考え方を説明し合ったり、それぞれの方法や考え方を比較・検討したりする活動を充実させ、それぞれの考えの理解を深めたり、よりよい考えを導いたりすることができるようにしましょう。

そのために、次のように大切な4つのポイントを示しました。ぜひこのポイントを意識して、学習活動を仕組みましょう。

指導プランP84、85

説明し合い、理解を深める

比較・検討し、よりよい考えを導く

ポイント1 意図的に方法や考え方を取り上げる

- 授業のねらいに結び付く方法や考え方を取り上げましょう。
- 素朴な考え方や多くの児童が考えている方法や考え方から取り上げると効果的です。
- 不十分な考えや、途中までの方法を意図的に取り上げることも大切です。

ポイント2 互いに説明させたり、他の児童の考えを読み取らせたりする

説明し合う活動

- ペアで説明し合わせたり、同じ考え方で繰り返して説明させたりしましょう。
- 結果だけでなく、根拠を必ず説明させましょう。

読み取らせる活動

- 発表された方法や考え方を読み取らせ、他の児童に説明させましょう。
- 図のみを発表させて、他の児童に式や考え方を読み取らせたり、式のみを示して図や考え方を読み取らせ、説明させたりしましょう。

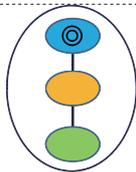
ポイント3 ねらいに応じた適切な視点で比較・検討させる

多様な考え方を比較・検討する場合

【序列化型】

☆簡潔性、明瞭性、正確性等を視点に比較・検討させましょう。

「最も簡単な方法はどれでしょうか？」

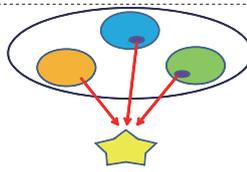


- それぞれの方法に順序性が付き、よりよい方法を気付かせたい場合に用います。
- なぜこれがよりよい方法なのか、根拠を説明させることが大切です。

【一般化型】

☆共通点や相違点を視点に比較・検討させましょう。

「それぞれの方法に共通していることは何ですか？」

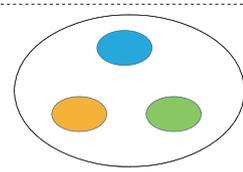


- それぞれの方法に順序性を付けず、それぞれの方法の基になる考え方に気付かせたい場合に用います。
- それぞれの方法に共通している考え方をまとめ、一般化していきます。

【独立型】

☆それぞれの方法のよさを視点に比較・検討させましょう。

「それぞれどんなよさがありますか？」



- それぞれの方法に順序性がつかず、基になる考え方も異なる場合に用います。
- どの方法にも触れさせ、それぞれの方法について理解させるようにします。

ポイント4 活用問題に取り組みせ、考え方を活用させる

- 比較・検討して新たに分かったことやよりよい考え方等を使って、活用問題に取り組みせましょう。そのことで、見出した知識や技能、考え方等を確かめさせたり、確実なものとしたりすることができます。

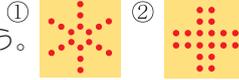
(2) 説明し合う活動を充実させ、考えを深めさせる指導例①

指導例：『かけ算』（第2学年）

1 学習課題を把握する。

<課題>

右の図のおはじきをかけ算で表しましょう。
なぜその式になるのか説明しよう。



本時のねらい

同じ数のまとまりを見つけて乗法の式に表したり、立式の根拠について説明したりして、乗法の意味の理解を深める。

2 個別に課題を追究する。

- ・まとまりを見つけてかけ算で表す学習を振り返らせ、追究の見通しをもたせる。
- ・個々の児童の考え方を把握し、意図的に取り上げたい考え方を複数選ぶ。

ポイント1

☆ねらいに結び付く児童の考え方を把握しておく。

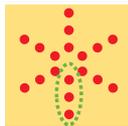
3 考えを発表し、全体で比較・検討する。

○まず隣同士で、自分の考えたかけ算の式とその理由を説明させる。

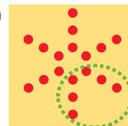
○意図的に複数の考え方を取り上げ、発表した本人に説明させるだけでなく、図や式の一部だけを示して、他の児童に考えを読み取らせ、説明させる。

・図から、どのように考えたのか読み取らせる。

<Aさん>①



<Bさん>①



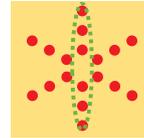
図の全てではなく、
一部だけを示して、
推測させることも有効です。

T：①の図で、AさんとBさんは、どのような考え方で求めようとしたのでしょうか？

S：Aさんは、3のまとまりが6個あると見て求めたと思います。式は、 3×6 になると思います。

S：Bさんは、6のまとまりが3個あると見て、式は、 6×3 です。

S：ぼくは、Bさんと同じ式 6×3 だけど、こんな図になりました。

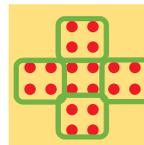


・式から図や考え方を推測させる。

<Cさん>② 式 4×5

T：②で、Cさんは、どんな図にして考えたのでしょうか？

S：4のまとまりが5個あると考えたと思うので、こんな図だと思います。



・考え方から図や式を推測させる。

<Dさん>② 5のまとまりで考えました。

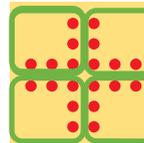
T：②で、Dさんはどのように考えたのでしょうか？

図や式はどうなるでしょう？

S：5個のまとまりが、どこにできるのかな？

S：このように考えると、5のまとまりが4つになります。

Dさんの式は、 5×4 になると思います。



ポイント2

☆ペアで互いに説明させる。

☆図(図の一部)を提示する。

☆図の考え方を、他の児童に考えさせる。

☆式だけを提示して、図や考え方を推測させる。

☆考え方の続きを推測させて、図や式を考えさせる。

*図や式、考え方のどれか一部を発表させて、他の児童に考えさせましょう。

○それぞれの考え方を比較・検討させ、まとまりの見方とかけ算の式の関係を理解させる。

S：まとまりの見方によって、同じものでも、違うかけ算の式になっている。

ポイント3

4 学習のまとめをする。

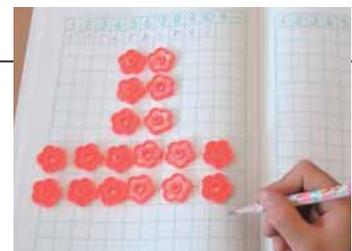
<まとめ>

まとまりの見方によって、同じものでも、違うかけ算の式になる。



○活用問題に取り組ませる。

ポイント4



説明し合う活動の充実

説明し合う活動を充実させ、考えを深めさせる指導例②

指導例：『比例と反比例』（第6学年）

本時のねらい

比例の関係をを用いて、問題を解決することができるようにする。

1 学習課題を把握する。

<課題>

ペットボトルキャップ800個全部を数えないで用意する方法を考えよう。

○既習の比例の学習と結び付けて、課題解決の見通しをもたせる。

2 個別に課題を追究する。

- ・キャップの個数と重さの関係が比例しているという考えを使えばできそうだという見通しをもたせて、個別に課題を追究させる。
- ・机間支援するとともに、意図的に出させたい考え方を、ホワイトボードに書かせる。

【児童に与えた情報】

個数(個)	20	50	800
重さ(g)	46	115	?

3 考えを発表し、全体で比較・検討する。

○複数の考えを意図的に取り上げて、発表した本人に説明させるだけでなく、表や式の一部だけを示して、他の児童に考えを読み取らせ、説明させる。

<Aさんの考え>

個数	20	50	800
重さ	46	115	

式 $800 \div 50 = 16$

<Bさんの考え>

個数	20	50	800
重さ	46	115	

式 $115 \div 50 = 2.3$

ポイント2

☆式の一部だけを提示する。

☆式の意味を、他の児童に考えさせる。

☆続きの式を推測させる。

☆それぞれの考え方を付けたして、説明させる。

***考えた本人だけではなく、他の児童に考えさせ、説明させましょう。**

・式を読み取らせる。

T: AさんとBさんの式は、何を求めようとしたのだろうか？
 S: Aさんの $800 \div 50$ の式は、800個は50個の何倍かを求めている。
 S: Bさんの $115 \div 50$ の式は、キャップ1個分の重さを求めている。

・考え方の続きを推測させる。

T: AさんとBさんは、この後どう考えただろう？
 どのような式が続くでしょうか。
 S: Aさんは、このあと、16倍を使って、
 $115 \times 16 = 1840$ の式で、800個の重さを求めている。
 S: Bさんは、1個あたりの重さが2.3gであることを使って、
 式は、 $2.3 \times 800 = 1840$ になると思う。



<Aさんの考え>

個数	20	50	800
重さ	46	115	1840

式 $800 \div 50 = 16$
 $115 \times 16 = 1840$ 1840g

<Bさんの考え>

個数	20	50	800
重さ	46	115	1840

式 $115 \div 50 = 2.3$ 1個2.3g
 800個分は↓
 $2.3 \times 800 = 1840$ 1840g

○それぞれの考え方を共通点を視点に比較・検討させる。
 S: Aさんは、個数が「何倍」という比例の考え方を使った。
 S: Bさんも、1個分の重さを出して、比例の考えを使って考えた。

ポイント3

4 学習のまとめをする。

<まとめ> キャップの個数と重さの関係に目を向けて、比例の関係をを使うと、楽に用意できる。

○活用問題に取り組ませる。

ポイント4



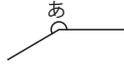
(3) よりよい方法 (より簡単な方法) を導く比較・検討 (序列化型) の指導例

指導例:『角の大きさ』(第4学年)

1 学習課題を把握する。

<学習課題>

180°よりも大きな(あ)のような角度の測り方を考えて、簡単な測り方を見付けよう。



本時のねらい

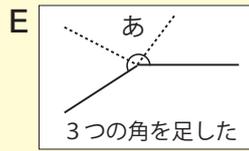
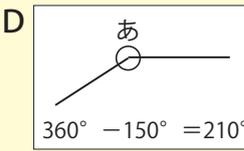
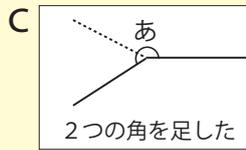
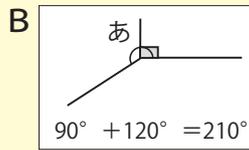
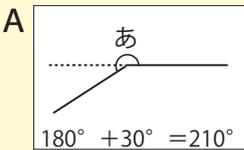
180°より大きい角度のよりよい測り方を考え、説明できる。

2 個別に課題を追究する。

○実際に補助線を引かせながら、複数の測り方を考えさせる。

3 考えを発表し、全体で比較・検討する。

<児童の追究した考え方:A~E>



○A~Eの方法を説明させ、それぞれの方法のよさを考えさせる。

○「簡潔性」を視点に、比較・検討する。

T: どの方法が簡単だろうか?
S: わたしは、Aの方法が簡単だと思います。
T: どうして簡単だと思うの?
S: 一本だけ線を引くので簡単だと思う!

なぜ簡単なのかその理由を問い掛け、児童に説明させることが大切!

S: Dは、線を1本も引かないので、一番簡単だと思うけど?
S: 計算だけで求められるね。
S: Eは、線を2本引くので、面倒だ!
T: 今、みんなは、何で比べているの?
S: 補助線を引く回数で、比べています。

比較・検討している方法を児童に意識させる問い掛け

T: Cは、好きなところに線を引くので簡単なのでは?
S: 好きなところに引くから迷うよ。また、計算するときに、ぴったりした数でないので面倒だ。

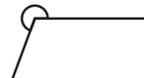
S: Aは、180°を使うので、分度器を1回使うだけだよ。
S: Dは分度器を1回使い、360°を使って計算で求めているよ。だから簡単!
T: 分度器を使う回数で比べているんだね。

方法のよさを実感させることが大切!

○よりよいと考えた方法で実際に角度を測らせ、方法のよさを実感させる。

4 学習のまとめをする。

<まとめ> 180°より大きい角度は、180°、360°を基にして、足したり引いたりして求めると簡単に角度が測れる。



まず、角度を予想させてから測らせましょう!

○様々な角度の活用問題に取り組ませる。

ポイント2

☆互いの考えを説明させたり、他の児童の考えを読み取らせたりして、それぞれの方法のよさを考えさせる。

ポイント3

☆よりよい方法に気付かせたいので「簡潔性」を視点に、それぞれの方法を比較・検討させる。

☆具体的には、補助線を引く回数と補助線の引き方、分度器の使い方と使う回数等を比較させる。

☆比較している方法(補助線や分度器を使う回数)を明確にして、よりよい方法と判断した理由を説明させる。

ポイント4

☆自分がよりよいと考えた方法を用いて、活用問題に取り組みさせる。

比較・検討する活動の充実

(4) 共通する考え方を導く比較・検討（一般化型）の指導例

指導例：『かけ算の筆算』（第3学年）

本時のねらい

(2位数) × (1位数) の計算の仕方を既習の計算のきまりを基に考え、位ごとに分けて計算すればよいことを理解する。

1 学習課題を把握する。

<問題>

1枚23円の色紙を3枚買います。代金はいくらになるでしょう。

<学習課題>

23×3 のようなかけ算の計算の仕方を考えよう。

○前時の 20×3 と比較させることで、本時の学習課題に結び付ける。

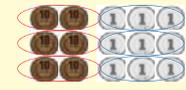
2 個別に課題を追究する。

○既習の計算のきまりやテープ図、お金のモデル等を使って、計算の仕方を考えさせる。

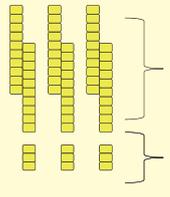
3 考えを発表し、全体で比較・検討する。

<児童の追究した考え方：A～C>

A: お金のモデルを使って求める

 10円玉が $2 \times 3 = 6$ 6枚
1円玉が $3 \times 3 = 9$ 9枚
合わせて $60 + 9 = 69$

B: タイル図を使って求める

 十のタイル $20 \times 3 = 60$
一のタイル $3 \times 3 = 9$
合わせて69

C: 23を20と3に分けて計算

$$\begin{array}{r} 23 \times 3 = 69 \\ \left. \begin{array}{l} 20 \times 3 = 60 \\ 3 \times 3 = 9 \end{array} \right\} \text{合わせる} \\ \begin{array}{r} 20 \quad 3 \end{array} \end{array}$$

○意図的に考え方を取り上げ、それぞれの考え方を説明させ、読み取らせる。

T: Aさんはどのように考えたのか説明してください。

T: BさんやCさんの考えをペアになって説明してみましょう。

ポイント1・2

○それぞれの考え方の「共通点」を視点到比較・検討させる。

T: それぞれの表し方で似ているところや違うところはどこですか？

S: Aさんはお金で、Bさんは図で、Cさんは式で考えている。

S: BさんとCさんの式には、どちらも 20×3 と 3×3 の式がある。

S: AさんとBさんの考えは、どちらも、十のまとまりとバラに分けて考えている。

T: 使っている図や式が違っていても、考え方が似ているところがありますか？

S: 3人とも20と3に分けている。

S: どの方法もかけられる数を、十の位と一の位に分けて、かけ算で考えている。

T: どうして、23を十の位と一の位に分けて考えたのでしょうか？

S: 20×3 なら 2×3 と同じようにならすぐ求められるからです。

T: では、 23×3 のような2けたのかけ算はどのように計算するとよいのですか？

S: 十の位と一の位で分けてかけ算をして、合わせればいつでもできる。

○別の2桁のかけ算で、確かめさせる。

T: 見つけた考え方を使って 32×3 を求めてみましょう。

S: 32を30と2に分けて、位ごとに3をかけて合わせて96になる。

$$\begin{array}{r} 32 \times 3 \\ \left. \begin{array}{l} 30 \times 3 = 90 \\ 2 \times 3 = 6 \end{array} \right\} \text{合わせて} 96 \end{array}$$

「一般化」したことを、他の問題に適用して確かめさせることが大切！

4 学習のまとめをする。

<まとめ> (2けた) × (1けた) の計算は、位ごとに分けて計算して合わせれば、いつでも求められる。

○活用問題に取り組ませる。

ポイント4



ポイント3

☆表現方法(図や式など)の共通点・相違点に着目させる。

☆「共通した考え方」を視点到比較・検討させる。

☆「共通した考え方」のよさ(価値)を引き出す。

☆児童の言葉で「一般化」させ、まとめる。



比較・検討する活動の充実

4 数量や図形の「豊かな感覚」を伸ばすための効果的な7つの活動

本県の算数の課題の一つに、「豊かな感覚」を伸ばすことがあります。 (※「指導プラン」P2【課題3】)
 豊かな感覚には、「数」「量」「図形」についての感覚があり、それぞれの豊かな感覚を伸ばしていくために、次の7つの活動を意識し、各学年で継続した指導を行っていきましょう。

	「数」についての感覚	「量」についての感覚	「図形」についての感覚
伸ばしたい感覚	<ul style="list-style-type: none"> 数の様子や大きさをとらえる感覚 (→活動A) 結果を見積もる感覚 (→活動B) 	<ul style="list-style-type: none"> 量の大きさを見積もる感覚 (→活動C) 共通単位の大きさをとらえる感覚 (→活動D) 目的に応じて計器や単位を判断する感覚 (→活動E) 	<ul style="list-style-type: none"> ものの形を認める感覚 (→活動F) 形の特徴や性質をとらえる感覚 (→活動G)
7つの活動	活動A	活動C	活動F
	活動B	活動D	活動G
		活動E	

(1) 「数」についての感覚を豊かにする活動

学年	学習活動例	具体的な指導例・指導のポイント
1・2年	活動A ①具体物を等分して表す ②1つの数を他の数の和や差、積で表す	【活動A -②】 第1学年「たし算」「ひき算」 第2学年「かけ算」 (24は3×8と8×3) (4×6もあるね) (12×2にもなるよ) ポイント ☆算数の様々な場面で、1つの数を他の数の和や差、積でたくさん表現させましょう。 ☆「24はたくさんのかげ算になるけど、25はならない」「でも、25は4つで100になる」など、数の感覚を伸ばせるようにしましょう。
	活動B ①具体物を見て、およその数を見当付ける ②2桁の数の加減法の結果をおよその数で表す	
3・4年	活動A ①0.1と1/10などを同じ数直線上に表す ②大きさの等しい分数を表す	【活動B -②】 第4学年「およその数」 (コンパスと折り紙は必ず買える) (ペンも買えるかな) (ペンの代わりにノートにするとだいたい500円と300円と200円で買えると思うよ) コンパス 480円 折り紙 295円 ペン 240円 定規 120円 ノート 185円 ポイント ☆四捨五入や切り上げ、切り捨てなどを用いて、目的に適した数の見当を付けさせましょう。
	活動B ①2桁の乗除の計算の結果を見当付けて表す ②目的に応じて四則計算の結果を見当付けて表す	
5・6年	活動A ①整数を偶数、奇数、約数、倍数などの観点を決めて調べる ②整数、小数、分数を関連付けて表す	【活動A -①】 第5学年「倍数と約数」 (30が一番大きい数だから、約数もたくさんあるかな) (12や30の約数は6個だけど、24は1・2・3・4・6・8・12・24で8個もあるよ) (100までの数で、どの数が一番約数があるのかな?) ポイント ☆約数がたくさんある数と、1とその数しか約数がない数(素数)とを、様々な活動を通して、とらえさせましょう。
	活動B ①乗数、除数が1より小さい(大きい)ときの積や商を見当付けて表す ②小数や分数の四則計算の結果を見当付けて表す	

(2) 「量」についての感覚を豊かにする活動

学年	学習活動例	具体的な指導例・指導のポイント
1・2年	<p>活動C</p> <p>①長さや広さ、かさを身の回りにあるものの幾つ分か予想したり測定したりする</p> <p>②教室の中にある物の長さを予想し、物差しで測定する</p> <p>③容器に入る水のかさを予想し、1 dL ますで測定する</p>	<p>【活動C -②】 第2学年「長さのたんい」</p> <p>自分の体から10cmや30cmの長さを見付けましょう。</p>  <p>(人差し指のこままでが10cmでした)</p> <p>身の回りの物の長さを、見当を付けてから測ってみましょう。</p> <p>(ノートの縦の長さは、手の2つ分と半分だから、25cm くらいかな)</p> <p>ポイント</p> <p>☆必ず、長さや体積を予想させてから実際に測定させましょう。</p> <p>☆自分の体や牛乳パックなど、長さや体積の根拠となる量を児童がたくさんもてるようにしましょう。</p>
	<p>活動D</p> <p>①身の回りから示された長さや体積の物を見付ける</p> <p>②1 mの長さや1 Lのかさを作ったり、身の回りから見付けたりする</p>	<p>【活動D -②】 第2学年「かさのたんい」</p> <p>いろいろな入れ物に水を入れて、1Lぴったりにしてみよう。</p>  <p>(牛乳パックは上まで入れると1Lだね)</p> <p>(細長い花瓶だと、どこまで入れればよいだろうか)</p> <p>ポイント</p> <p>☆同じかさでも容器の形によって入る水の高さが違うことや、容器の形と体積の関係を活動を通して実感させましょう。</p>
3・4年	<p>活動C</p> <p>①重さ、時間、角の大きさ、面積を見当を付けて測定する</p>	<p>【活動D・E -①】 第3学年「重さの単位とはかり方」</p> <p>1 kgのもの、5 kgのものを、身の回りからたくさんさがしてみよう。</p>  <p>(この厚い本は、1 kgぐらいあるかな)</p> <p>(鉄の棒は、5 kgぐらいかな)</p> <p>実際にはかりで測ってみよう</p>
	<p>活動D</p> <p>①1 kgの物を身の回りから見付ける</p> <p>②1 aの大きさを実際に描く</p>	<p>【活動D -②】 第4学年「大きな面積」</p> <p>体育館に、1 aの大きさをかいてみよう。</p> 
	<p>活動E</p> <p>①測定する物に応じて、巻き尺やはかりを選ぶ</p>	<p>ポイント</p> <p>☆実際に手で持たせて重さを予想させてから、測定させましょう。</p> <p>☆実際に大きな面積を校庭や体育館に描かせて、広さを実感させましょう。</p>
5・6年	<p>活動C</p> <p>①様々なものの体積を、見当を付けて測定する</p>	<p>【活動C・D -①】 第5学年「直方体や立方体の体積」</p> <p>1 m³の立方体を、実際に段ボールで作ってみよう。</p>  <p>1 m³の体積のものを、学校や家の中からたくさん見付けましょう。</p> <p>教室や体育館の体積はどれくらいでしょう。予想してから、測ってみましょう。</p>
	<p>活動D</p> <p>①1 m³の立方体を実際に作る</p> <p>②1 m³や10 m³の体積の物を身の回りから見付ける</p>	<p>(1 m³って、意外と大きいんだな)</p> <p>(教室は、1 m³の立方体が100個分より大きいのかな?)</p> <p>ポイント</p> <p>☆大きな単位の体積を、生活の中から見付けさせたり、予想させてから実際に測定させたりして、大きな体積を実感させましょう。</p> 

(3) 「図形」についての感覚を豊かにする活動

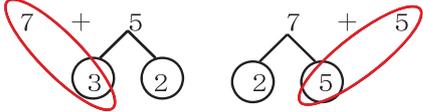
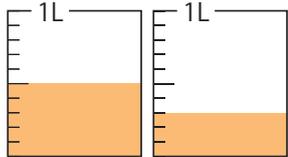
学年	学習活動例	具体的な指導例・指導のポイント
1・2年	活動F ①正方形や長方形、直角三角形を敷き詰めて模様を作る	【活動G】 第1学年「みのまわりにあるものの形」 集めた形で遊んで、形を仲間分けしよう。 (ボールや筒はよく転がるな) (ボールや筒は転がるから「ころころ仲間」だね) 同じ仲間の形を、学校の中からたくさん見付けよう。
	活動G ①箱や筒の立体を積む、転がすなどして遊ぶ ②身の回りにあるものを、箱や筒の形に分ける ③身の回りから、正方形や長方形、直角三角形になっているものを探す	
3・4年	活動F ①折った紙から二等辺三角形や正三角形を作る ②三角形や直角三角形、台形などを敷き詰めて形を作る	【活動F -②】 第4学年「四角形」 直角三角形を敷き詰めて、きれいな模様を作ろう。 作った模様の中に、どんな形が見えるかな？ (長方形や平行四辺形があるな) (斜めの辺と辺が平行に見えるから台形もあるよ) (そろばんの玉のような形も見えるよ)
	活動G ①身の回りから二等辺三角形や正三角形、平行四辺形などを探す	
5・6年	活動F ①展開図からできる立体を想像したり、実際に立体を作ったりする ②辺の長さや角の大きさをとらえて、拡大図や縮図を作図する	【活動F -①】 第5学年「角柱と円柱」 この展開図から、どんな立体ができるでしょうか。 (三角形のこの辺と長方形のこの辺がつながって、底の形が三角形の柱になると思う)
	活動G ①平行四辺形が合同な三角形から構成されていることや、多角形が三角形に分解できることを確かめる ②身の回りの模様や建物などから、線対称や点対称な形を探す	
		【活動G -②】 第6学年「線対称と点対称」 身近なものから線対称の形を見付けましょう。 使われている理由や感じたことを話し合ひましょう。 視点例 <遊び> <学習> <建物>  (形や模様がきれいだな) (バランスがよいからです)
		ポイント ☆図形を敷き詰めて、模様づくりをたくさん(多様に)させましょう。 ☆平行や垂直といった構成要素に目を向けさせて、作った模様を観察させましょう。
		ポイント ☆展開図を頭の中で組み立てさせたり、立体の展開図を多様に描かせたりして、平面の図形(展開図)と立体とを結び付けられるようにしましょう。
		ポイント ☆視点をもって身の回りから探させたあとに、どのような所で使われているか、その理由はなぜか考えさせるなど、対称性のよさを実感できるようにしましょう。

5 「数学的な考え方」を伸ばすためのヒント

数学的な考え方を伸ばしていくためには、各学年で身に付けさせたい大切な数学的な考え方（大切な考え方）を児童に繰り返し活用させて、そのよさを実感させることが大切です。具体的には、授業の中で、大切な考え方を基に追究している児童の様子をきめ細かく見取るとともに、大切な考え方やよさについての気づきを促す発問を工夫したり、タイミングよく考え方やよさを取り上げたりするなど、「数学的な考え方」についての教師の的確な見取りと意図的な支援が重要になってきます。

ここでは、「数と計算」「量と測定」「数量関係」の指導例を取り上げて、指導のポイントを具体的に示しました。これらのポイントを意識して、計画的・系統的に「数学的な考え方」を伸ばしましょう。

(1) 数と計算

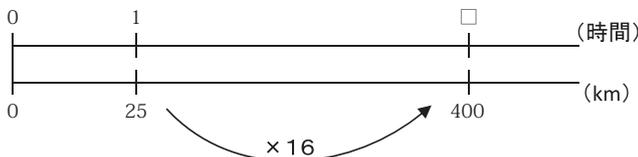
学年	大切な考え方・具体的な指導例・指導のポイント
1年	<p>〈大切な考え方〉 ◇10のまとまりをつくる考え方 ◇10とあと幾つという考え方 指導プランP18</p> <p>〈課題〉「7+5」のような計算の仕方を考えよう〔整数の加・減〕 【問題】アの箱にはあめが7個、イの箱にはあめが5個入っています。2つの箱のあめを合わせると、何個になりますか？</p> <p>〈児童Aの考え方〉 〈児童Bの考え方〉</p>  <p>ポイント ☆なぜ、「5を3と2に分けたのか」「7を2と5に分けたのか」を問い掛け、その理由を説明させましょう。 ☆「AさんとBさんの考え方の共通するところは？」と問い掛けることで、10のまとまりをつくらうとしたという考え方をより明確にしましょう。</p>
3年	<p>〈大切な考え方〉 ◇数の範囲が小数に広げられても、位をそろえれば整数と同様に計算できるという考え方 指導プランP20</p> <p>〈課題〉「0.5+0.3」の計算の仕方を考えよう〔小数〕 【問題】ジュースが2つのボトルに0.5Lと、0.3L残っています。2つのボトルのジュースを合わせると何Lになるでしょう。</p> <p>〈児童A〉 0.5は0.1が5個分、0.3は0.1が3個分なので、5+3=8で答えは0.1の8個分。だから、0.8になる。</p>  <p>ポイント ☆リットルますや数直線図等を用いて、「0.5は0.1が5個分である」など、0.1を基にした見方ができるようにしましょう。 ☆「2.4+3.7」などの筆算の計算では、0.1や1を単位とした見方と小数点の位置をそろえてかくことの意味を関連付けて理解できるようにしましょう。</p>
5年	<p>〈大切な考え方〉 ◇通分して、単位分数の幾つ分としてみる考え方 指導プランP22</p> <p>〈課題〉「$\frac{1}{5} + \frac{1}{2}$」の計算の仕方を考えよう〔分数の計算〕 【問題】牛乳が2つのパックにそれぞれ$\frac{1}{5}$Lと$\frac{1}{2}$L残っています。2つのパックの牛乳を合わせると何Lになるでしょう。</p> <p>〈児童A〉 $\frac{1}{5}$と$\frac{1}{2}$はそのままでは足せないで通分すると、$\frac{2}{10} + \frac{5}{10}$になり、分母がそろったから計算できて$\frac{7}{10}$になる。</p>  <p>〈児童B〉 $\frac{1}{5}$は小数にすると0.2になり、$\frac{1}{2}$は0.5になる。両方とも小数になったので、答えは0.7になる。</p> <p>ポイント ☆「通分したから」「分母がそろったから」などの手順や見た目だけではなく、単位量がそろったから計算できるという考え方で深まるよう、さらに問い掛けるようにしましょう。 ☆分数を小数にして計算している考え方も取り上げたときは、単位量を0.1と考えれば計算できるという、単位量の考え方をより明確にしておきましょう。</p>

(2) 量と測定

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
大切な考え方	← 1つの量に着目した比較 →					異種の2つの量の割合としてとらえられる量の比較 →		
	◇直接比較・間接比較の考え方							
	◇任意単位(消しゴムや鉛筆など)を用いて数値化する考え方		◇共通単位(cmやg、m ²)などを用いて数値化する考え方 長さ・体積(2年) 重さ(3年) 面積(4年) 体積(5年)				◇2つの数量を、単位量あたりの大きさで比べる考え方 人口密度(5年) 速さ(6年)	

学年	大切な考え方・具体的な指導例・指導のポイント	
1年	<p>〈大切な考え方〉</p> <p>◇他の長さや広さなどに置き換えて比べる間接比較の考え方</p> <p>◇身の回りにあるものの大きさを単位とし、その幾つ分として数値化して表す考え方</p> <p style="text-align: right;">指導プランP18</p>	<p>〈課題〉 どちらが長いかわらべよう〔量の大きさの比較〕</p> <p>【問題】 身近なものの長さを比べてみよう。何と何を比べようか？</p>
	<p>〈児童A〉</p> <p>先生の机の横の長さと、教室の窓の横の長さを比べる。 →机を窓のところにもっていけば長さを比べられる。</p> <p>〈児童B〉</p> <p>先生の机の横の長さと窓の高さ(たて)の長さを比べる。 →机を持ち上げるのはたいへんだから、教科書を使って幾つ分で比べればいい。</p>	<p style="text-align: center;">ポイント</p> <p>☆長さを比べる時に、間接比較する必然性のある事柄を取り上げ、比較させるようにしましょう。</p> <p>☆任意単位を用いて間接比較させる時は、動かせないものなどを取り上げ、任意単位とするものを使う必要性を、児童が実感できるようにしましょう。</p>
2年	<p>〈大切な考え方〉</p> <p>◇共通単位(cm、m、mm)を用いて数値化して表す考え方</p> <p style="text-align: right;">指導プランP19</p>	<p>〈課題〉 長さの表し方を考えよう〔量の単位と測定〕</p> <p>【問題】 アとイの棒はどちらがどれだけ長いと言えるでしょう。</p>
	<p>ア </p> <p>イ </p> <p>〈児童A〉</p> <p>クリップを使うと、アは3つ分と半分くらい。 イは3つ分とちょっとなので、アの方がちょっとだけ長い。</p> <p>〈児童B〉</p> <p>いろいろなもので比べたけれど、必ず半端なところまで…。</p>	<p style="text-align: center;">ポイント</p> <p>☆任意単位を用いて間接比較すると、およその長さは比べられるが、正確に比べたり表したりすることができないことを明らかにし、正確に表すことの必要性を実感させましょう。</p> <p>☆長さは1cmを単位量と定め、数値化することで、いつでも、どこでも同じ方法で長さを表すことができるというよさを学級全体で共有しましょう。</p>

学年	大切な考え方・具体的な指導例・指導のポイント															
3年	<p>〈大切な考え方〉 ◇共通単位(g, kg)を用いて数値化して表す考え方 指導プランP20</p>	<p>〈課題〉 重さの表し方を考えよう [いろいろな単位と測定] 【問題】 アとイのお菓子はどちらがどれだけ重いですか。</p>														
	<p>〈児童A〉 左右それぞれの皿にのせれば、どちらが重いかはすぐにわかるけど、<u>どれだけ重いかは表せない。</u></p> <p>〈児童B〉 1円玉などを使って、アやイのお菓子が1円玉何枚分と釣り合うかを求めれば、「アの方が1円玉5枚分だけ重い」と表せる。</p>	<p>ポイント ☆重さについても、長さや体積と同様に、どちらがどれだけ重いか表す必要性のある場面を通して、共通単位で数値化するよさに気付くことができるようにしましょう。</p>														
5年	<p>〈大切な考え方〉 ◇2つの数量について、単位量当たりの大きさで比べる考え方 指導プランP22</p>	<p>〈課題〉 こみ具合の比べ方を考えよう [単位量当たりの大きさ] 【問題】 下の表を見て、4つのうさぎ小屋のこみ具合を比べましょう。</p>														
	<p>〈児童A〉 AとBの小屋は面積が同じだから比べられるけど、<u>AとDは面積もうさぎの数も違うからどうすればよいだろう？</u></p> <p>〈児童B〉 Aの小屋には9ひきで6㎡だから、1ひき当たりの面積は $6 \div 9 = 0.6666 \dots$</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>面積 (m²)</th> <th>うさぎの数(ひき)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>6</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>6</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>5</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>9</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table> <p>ポイント ☆2つの数量の関係を基に比較するので、どちらか一方がそろっていれば比べられることに気付けるように、課題の数値を工夫して提示しましょう。 ☆偏りなく均一にうさぎがいるという平均化の考えや、均一にいれば面積が2倍になるとうさぎの数も2倍になるという比例の考えを基にしていることにも着目させ、その意味についても理解させるようにしましょう。</p>		面積 (m ²)	うさぎの数(ひき)	A	6	9	B	6	8	C	5	8	D	9
	面積 (m ²)	うさぎの数(ひき)														
A	6	9														
B	6	8														
C	5	8														
D	9	15														
6年	<p>〈大切な考え方〉 ◇速さは、単位時間当たりの移動する長さであるという考え方 指導プランP23</p>	<p>〈課題〉 速さの考え方を活用して考えよう [速さ] 【問題】 東京から400km離れた海上に、時速25kmで進む台風があります。この台風が東京に上陸するまで、どれだけ時間がかかるでしょう。</p>														
	<p>〈児童A〉 時速25kmということは、1時間あたりに25km進むということだから数直線に表すと</p>	<p>ポイント ☆単位量あたりの大きさの考え方をもとに、数直線に表したり、表に表したりして、比例の考え方を活用して考えられるようにしましょう。</p>														



(3) 数量関係

学年	大切な考え方・具体的な指導例・指導のポイント													
2年	<p>〈大切な考え方〉 ◇加法と減法は、$A+B=C$、$A=C-B$、$B=C-A$のように相互に関係付けられているという考え方 指導プランP19</p> <p>〈児童A〉 はじめの数と17個で、合わせて32個。図を使って32個から17個返すとはじめの数になる。 式 $32-17=15$ 答え 15個 はじめの15個と、もらった17個を合わせると $15+17=32$ 32個になって正しいな。</p>	<p>〈課題〉 何算になるか求め方を考えよう〔式による表現〕 【問題】 はじめにミカンがいくつかあって、17個もらったなら32個になった。はじめにミカンは幾つあったでしょうか。</p> <p>ポイント ☆具体物を並べたり、図に表させたりして、式($A+B=C$など)にする前に、言葉で3つの数量の関係を説明させましょう。 ☆式の部分と図の部分とを関連付けて加法・減法の相互関係をとらえさせましょう。</p>												
3年	<p>〈大切な考え方〉 ◇未知の数量を、□を使って式に表す考え方 指導プランP20</p> <p>〈児童A〉 1人分×人数=全部の数 □×7=35 □を求めるには、 □=35÷7 □=5 答え 5羽</p> <p>〈児童B〉 図に表して、□を求める式は $35\div 7$ 答え 5羽 □羽 全部で35羽</p>	<p>〈課題〉 わからない数を□として求めよう〔式による表現〕 【問題】 同じ数ずつ7人でツルを折ったら、ツルは全部で35羽になりました。1人何羽ずつ折ったのでしょうか。</p> <p>ポイント ☆□を使うと、問題文のとおり数量の関係を立式できるというよさを感じ取らせましょう。 ☆言葉の式の未知の数を囲むなどして、□を使った式の表し方に慣れさせましょう。</p>												
4年	<p>〈大切な考え方〉 指導プランP21 ◇一方の数量が変化すると他方も変化するという関数の考え方 ◇変化の様子を表に表して規則性を見付ける考え方</p> <p>〈児童A〉 三角形の数が増えると、周りの長さも増えると思うけれど、規則性はあるのかな。</p> <p>〈児童B〉 表にしてみると、規則性が見えてきた。 周りの長さは、1cmずつ増えている。</p> <table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 20px;"> <tr><td>三角形の数(個)</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>...</td></tr> <tr><td>周りの長さ(cm)</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>...</td></tr> </table> <p>〈児童C〉 表から、周りの長さは、(三角形の数)+2で表せる。</p>	三角形の数(個)	1	2	3	4	...	周りの長さ(cm)	3	4	5	6	...	<p>〈課題〉 2つの数の関係を調べよう 〔伴って変わる2つの数量の関係〕 【問題】 1辺が1cmの正三角形を次のように1列に並べたとき、三角形の数が増えると、周りの長さはどのように変わのでしょうか。 ...</p> <p>ポイント ☆伴って変わる2つの数量を幾つか求めて値の組などで表させ、変わっていく数を関連付けて見させるようにしましょう。 ☆2量の関係を表に表すと規則性が見えてくるよさを実感させましょう。</p>
三角形の数(個)	1	2	3	4	...									
周りの長さ(cm)	3	4	5	6	...									
6年	<p>〈大切な考え方〉 ◇一方の数量が$\frac{1}{2}$倍、$\frac{1}{3}$倍...になると、それに伴って他方も$\frac{1}{2}$倍、$\frac{1}{3}$倍...になるという考え方 ◇対応している2つの数量の商は、どれも一定になっているという見方 指導プランP23</p> <p>ポイント ☆まず、何と何が比例しているのかを見付けさせましょう。気付かないときは、「長さが変われば〇〇が変わる」の〇〇を考えさせましょう。 ☆表を横の関係だけではなく、縦の関係でも見させるようにしましょう。(対応している2つの数量の商)</p>	<p>〈課題〉 束になった針金の長さを、全部の長さを測らずに求める方法を考えよう〔比例と反比例〕 【問題】 針金全体の重さは240gで、同じ針金3mの重さは48gでした。束になった針金全体の長さを求めよう。</p> <p>〈児童A〉 長さとの関係を表にして、 $240\div 48=5$ 針金の長さとの重さは比例しているから 5倍 重さが5倍なら、長さも5倍になる $3\times 5=15$ 答え 15m</p> <p>〈児童B〉 対応している数量の商は $48\div 3=16$ 比例は商がいつも決まっているから、$y=16\times x$ $240=16\times \square$ 答え 15m</p>												

理科

Science

実感を伴った理解が図られる授業にするために

理科の授業は、「はばたく群馬の指導プラン」の「指導の基本」に示したように、問題解決の過程に沿って行います。今の授業を本資料を参考にしながら少し見直すだけで、より実感を伴った理解が図られる授業になります。

このような授業をつくるために、どのようにこの問題解決の過程をつくりあげていくのか、7つのステップを示すとともに、各ステップを考える時のポイントを示しました。また、「3 各学年で育てたい問題解決能力を伸ばす指導例」では、「2 各ステップを考える時のポイント」で示したことを解説するとともに、「はばたく群馬の指導プラン」で示した「伸ばしたい資質・能力(問題解決の能力)」を育成するポイントを示しました。

1 問題解決の過程に沿った理科の授業

- (1)「問題解決の過程」とは …………… P 52
- (2)「問題解決の過程」をつくる7つのステップ …………… P 52

2 各ステップを考える時のポイント

- (1) Step 1「結論で児童に書かせたいことを児童の言葉で考える。」 …… P 53
- (2) Step 2「結論で児童に書かせたいことが答えの文になるように、
問題解決の問題を疑問文の形で考える。」…………… P 53
- (3) Step 3「Step 2 で考えた問題解決の問題を児童が見いだせるような
体験活動を考える。」…………… P 54
- (4) Step 4「児童が、何を手掛かりに、
どのような予想を立てるかを考える。」…………… P 55
- (5) Step 5「児童の予想と観察・実験をどのようにつなぐかを考える。」 P 56
- (6) Step 6「児童一人一人が、考察をして結論を導けるような
観察・実験と結果の整理のさせ方を考える。」…………… P 57
- (7) Step 7「児童が、予想と結果を照らし合わせて、
どのような思考の流れで考察するのかを考える。」…………… P 58

3 各学年で育てたい問題解決能力を伸ばす指導例

- (1)小学校3年生で育てたい「比較する力」(物と重さ) …………… P 59
- (2)小学校4年生で育てたい「関係付ける力」(電気の働き)…………… P 61
- (3)小学校5年生で育てたい「条件制御する力」(植物の発芽・成長・結実) …… P 63
- (4)小学校6年生で育てたい「推論する力」(てこの規則性)…………… P 65

1 問題解決の過程に沿った理科の授業

(1) 「問題解決の過程」とは

理科の授業は、下の表のような問題解決の過程に沿って行うことが基本です。

「小学校理科の観察、実験の手引き」(平成23年3月 文部科学省)の中で、問題解決の過程は、8つの過程で示されました。「はばたく群馬の指導プラン」では、理科が専門でない小学校の先生でも全体の流れが理解しやすいように、8つの過程を5つの過程に再編して示しました。1つの問題解決にかかる時間は、学習内容によって異なりますが、およそ3～6時間です。



「はばたく群馬の指導プラン」の5つの過程 (群馬県教育委員会)
1 自然事象へ働きかけ「問題」意識をもつ
2 問題に対する予想をする
3 観察・実験の計画を立てる
4 観察・実験を行い結果を整理する
5 結果をもとに考察を行い、結論を導く

「小学校理科の観察、実験の手引き」の8つの過程 (文部科学省)
1 自然事象への働きかけ
2 問題の把握・設定
3 予想・仮説の設定
4 検証計画の立案
5 観察・実験
6 結果の整理
7 考察
8 結論の導出

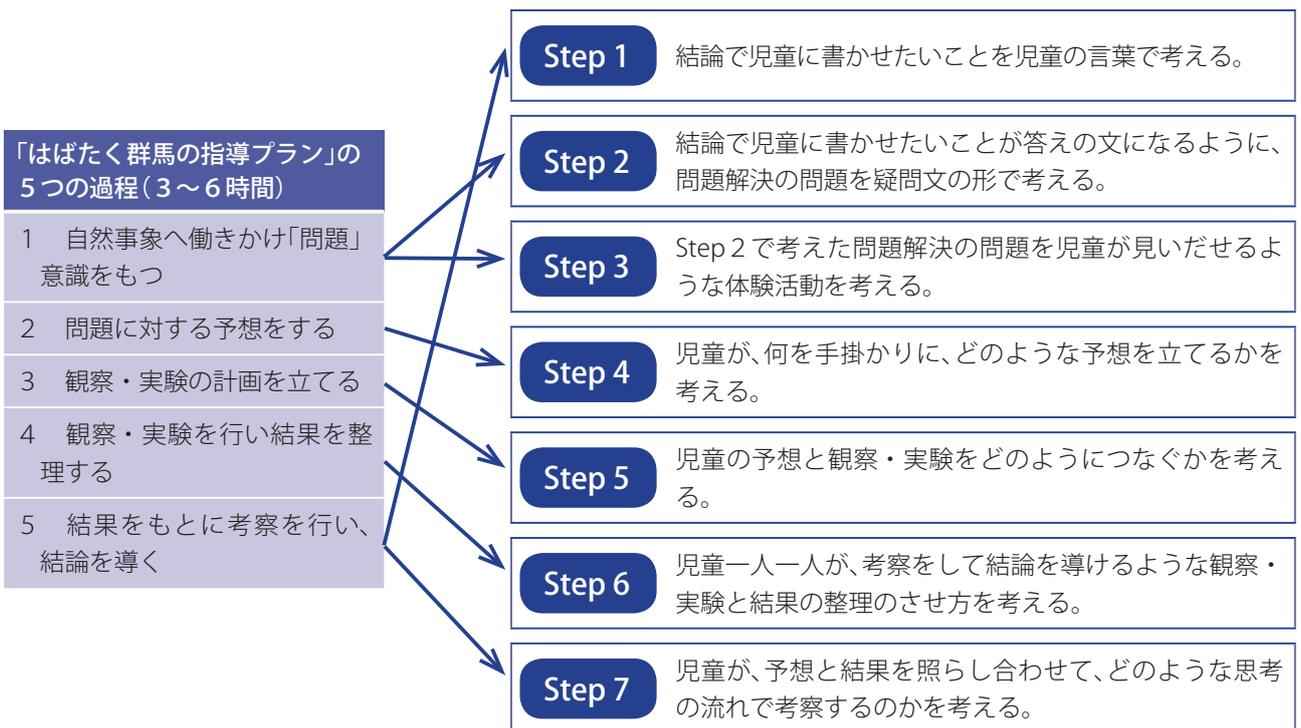


(2) 「問題解決の過程」をつくる7つのステップ

実感を持った理解が図られる授業には、右のイラストの男の子のような目の輝きとつばやきがあります。このような授業は、『はばたく群馬の指導プラン』で示した問題解決の5つの過程を本資料の「授業づくりの7つのステップ」の順番で考えていくことで、簡単に作ることができます。



<授業づくりの7つのステップ>



2 各ステップを考える時のポイント

(1) Step 1 のポイント

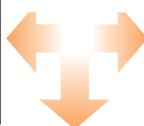
結論で児童に書かせたいことを児童の言葉で考える。

問題解決の過程に沿った授業を考える時には、まずはじめに、結論で児童に書かせたいことを教科書のまとめや学習指導要領を基にして考えましょう。

<3年「物と重さ」>

<教科書のまとめ>の例

物の形を変えても物の重さは変わらない。



<学習指導要領>

粘土などを使い、物の重さや体積を調べ、物の性質についての考えをもつことができるようにする。
ア 物は、形が変わっても重さは変わらないこと。

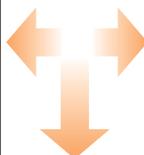
<児童に言わせたいこと、書かせたいこと>の例

物の重さは、形が変わっても変わらない。

<5年「植物の発芽、成長、結実」>

<教科書のまとめ>の例

種子が発芽するためには、水、空気、適当な温度が必要である。



<学習指導要領>

植物を育て、植物の発芽、成長及び結実の様子を調べ、植物の発芽、成長及び結実とその条件についての考えをもつことができるようにする。
イ 植物の発芽には、水、空気及び温度が関係していること。

<児童に言わせたいこと、書かせたいこと>の例

植物の発芽には、水、空気、適当な温度が必要。

(2) Step 2 のポイント

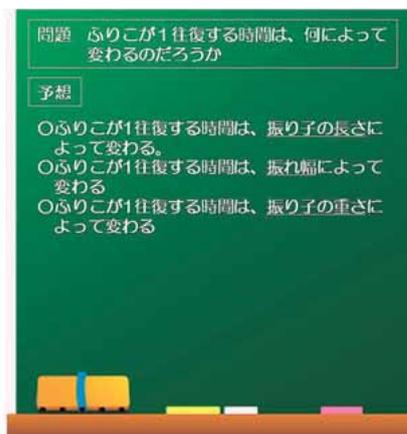
結論で児童に書かせたいことが答えの文になるように、問題解決の問題を疑問文の形で考える。

児童が「なるほど!」「わかった!」と実感を持った理解が図られる授業にするには、結論で書かせたいことが答えの文になるように問題解決の問題を疑問文の形で考えることが大切です。

例えば結論で児童に書かせたいことが、「物の重さは、形が変わっても変わらない」であるとすると、問題解決の問題は、「物の重さは、形を変えるとどうなるか」(例1)になります。このような問題を疑問文の形にすると、児童は予想や考察、結論を表現しやすくなります。

教科書を見てみると、章の項立てには「物の重さを調べよう」と、観察や実験の表題には「物の重さを形を変えて調べよう」(例2)と書いてあります。これらは、行動目標的に書かれており、疑問文になっていないため、予想や考察、結論を表現しにくく問題解決の問題としては適しません。

また、「物の重さの秘密を調べよう」(例3)は、小学校の授業でよく見かけますが、例2と同様に、問題解決の問題としては適しません。例1で示したように、結論で書かせたいことが答えの文になるように問題解決の問題を疑問文の形で考えることが大切です。



5年 振り子の運動の問題の例

(例1) 結論と正対したよい問題の例

問題

物の重さは、形を変えるとどうなるか

結論

物の重さは、形が変わっても変わらない

(例2) 取り組みにくい問題の例

問題

物の重さを形を変えて調べよう

結論

物の重さを形を変えて調べた

(例3) 取り組みにくい問題の例

問題

物の重さの秘密を調べよう

結論

???? (秘密って何??)

(3) Step 3 のポイント

Step 2 で考えた問題解決の問題を児童が見いだせるような体験活動を考える。

問題解決の問題が決まったら、その問題が見いだせるような体験活動（事象提示・演示実験・自由試行等）を考えます。問題を見いださせるための体験活動は大きく2つ考えられます。

① 児童の気づきや疑問を引き出す体験活動

児童の気づきや疑問から問題を見いだすためには、違いが明確な複数の事象（実物、現象、過去の経験、既習内容、写真）に触れさせ比較させることで、これまでの知識や経験では説明できない、つまり認知的葛藤を喚起させることが大切です。そして、児童が見いだした複数の事象の共通点や差異点を教師が整理し、共通点から自然のきまりを見いだす問題や差異点から現象の原因を考える問題をつくりましょう。

	磁石の性質(3年)	物の溶け方(5年)	燃焼の仕組み(6年)
見いださせたい問題	どうすると鉄は磁石になるのだろうか？	食塩を水に溶かすと全体の重さはどうなるのだろうか？	びんの中で火を燃やし続けるには、どうしたらよいか？
提示する事象			
比較するもの	磁化した釘と磁化していない釘を用意し、クリップに近づけた時の現象	物が溶けたときの現象と過去の経験や既習内容	びんの中に火のついたろうそくを2度入れたときの1度目の消え方と2度目の消え方
教師の発問	磁石になった釘と磁化していない釘の違いは、何だろうか？	溶けた食塩は、どのようになっているのか？	何が原因で火は、消えてしまったか？なぜ2回目の火は入れてもすぐに消えないか？

② 思いや願いをもたせる体験活動

学習内容につながっていく思いや願いがもてるような体験活動（観察、実験、栽培、飼育、ものづくり）を設定することが大切です。そして児童の思いや願いをかなえるために解決すべきことを児童の言葉をつなぎながら、教師が整理して問題をつくりましょう。

単元(学年)	昆虫と植物(3年)	電気の働き(4年)	電流の働き(5年)
見いださせたい問題	幼虫は卵から出た後、どのように育ってモンシロチョウになるのだろうか	モーターの回る向きは何によって変わるのだろうか	電磁石を強くするにはどうしたらよいだろうか
提示する現象 触れさせる自然	 モンシロチョウの卵や幼虫に触れる	 自由に作ったモーターカーで遊ぶ	 電磁石で魚釣りゲームをする
児童の思いや願い	卵や幼虫をモンシロチョウになるまで育てたい	前進するモーターカーを作りたい	大きな魚が釣れるような釣り竿をつくりたい
教師の発問	卵からモンシロチョウまで、どのように変化するのか？	なぜ前進したり後進したりする車があるのか？	釣り竿のどの部分を工夫したらよいか？

(4) Step 4 のポイント

児童が、何を手掛かりに、どのような予想を立てるかを考える。

① 何のために予想を立てさせるのか

予想や仮説を立てさせるのは、次の4つの意義があるからです。

- ・観察・実験への取組が意欲的になる。
- ・予想と結果が一致した、一致しなかったということが明確になる。
- ・根拠のある予想を交流することで、筋道を立てて考える力（論理的な思考）が鍛えられる。
- ・考察の場面で、自分の考え（予想）を振り返り、自分の考えを検討する態度が身に付けられる。



児童の予想の手掛かり

② 根拠のある予想を立てさせるには・・・

児童は、既習内容や過去の経験、テレビや本からの情報等を手掛かりにしながら予想を立てます。

既習の内容は、「小学校学習指導要領解説 理科編」や「小学校理科の観察、実験の手引き」に示された系統表（右の表）で確認ができます。

児童の過去の経験やテレビ、本からの情報は、アンケートや児童への直接の聞き取りが有効です。

ただし中には、直面している現象と既習の知識や経験が結び付けられない児童もいます。こうした児童には、既習内容や過去の経験を想起できる実物や写真などを用意し、直面している現象と類似している知識や経験を関係付けてとらえられる事ができるようにしましょう。

校種	学年	エネルギー	
		エネルギーの変換と保存	
小学校	第3学年	磁石の性質 ・磁石に引きつけられる物 ・異極と同極	電気の通り道 ・電気を通すつなぎ方 ・電気を通す物
	第4学年	電気の働き ・乾電池の数とつなぎ方 ・光電池の働き	
	第5学年	電流の働き ・鉄心の磁化、極の変化 ・電磁石の強さ	
	第6学年	電気の利用 ・発電・蓄電 ・電気の変換（光、音、熱などへの変換） ・電気による発熱 ・電気の利用（身の回りにおける電気を利用した道具）	

「小学校理科の観察、実験の手引き（平成23年3月）」より抜粋

③ 予想の場面で思考力・表現力を育てる4つのポイント

<ポイント1>

問題解決の問題の答えとなるように、予想を立てさせましょう

観察・実験をする前の問題解決の問題の仮の答えが予想です。仮の答え（予想）と観察・実験の結果（事実）を照らし合わせて、自分の仮の答え（予想）を検討し、考察することで筋道を立てた考え方ができるようになります。問題解決の問題無しに、観察・実験の結果だけを単独で予想させても筋道を立てて考える力は育ちません。

<ポイント2>

予想が立てられた児童には、そう考えた訳（根拠）を問い掛けましょう

根拠の無い予想では、観察・実験の後に、予想が当たった、外れたということに注意が向いてしまいます。筋道を立てて考えられるようにするために、予想の根拠を問い掛けましょう。

<ポイント3>

予想に多様性が見られるときには、異なる予想を交流させましょう

予想に多様性が見られるときには、お互いの考えを交流させましょう。お互いの考えを交流することにより、観察・実験の目的が明確になったり、視点が明確になったりします。さらに、自分の考えを見直し、検討しようとする態度を身に付けることができます。

<ポイント4>

予想に多様性が見られないときには、予想の根拠とともに、自分の予想の自信の度合いを問い掛けましょう

予想に多様性が見られないときには、予想を交流する必要性を見いだすのが難しい場合があります。このような時には、自分の予想の自信の度合いを問い掛けましょう。自信の度合いを問い掛けることで、自己との対話が生まれます。

また、結果を導いた後にもう一度、自信度を問い掛けることで自分の考えの変容がより明確に意識できるようになります。



(5) Step 5 のポイント

児童の予想と観察・実験をどのようにつなぐかを考える。

① 観察・実験の目的を児童に意識させるために

観察・実験は、教科書に使用する道具や手順が細かく示されていますから、あまり観察・実験の計画を児童に立てさせるという意識はないかもしれません。理科の授業にとって観察・実験は、自分の予想を確かめるために行うものですから、観察・実験を行うことが単体の目的として存在することはありません。

観察・実験が、児童が自分の考えを証明するための意図的な活動になるよう、児童が予想を立てられたら、どんな観察・実験でどのような結果が得られれば、自分の予想が確かめられることになるのか問い掛けましょう。このようにして、児童の予想と教科書の観察・実験をつなげ、観察・実験を自分事にするのが大切です。

観察・実験を自分事にする指示・発問の例	観察・実験を他人事にする指示・発問の例
<p>～目的がはっきりしていないときの発問～ T：みんなの予想を確かめるには、何がどのようになることを調べればいいのか？</p> <p>～条件制御が不十分な計画だったときの発問～ T：何と何を比べればいいですか？ T：何をどのように変えて(同じにして)調べますか？</p> <p>～実験の計画を立てさせる指示～ T：自分の予想を確かめる実験方法を絵や図を使ってかきましょう。 T：実験をしていく順番をかいてごらん。 T：そろえる条件は何？ 変える条件は何？</p> <p>～観察・実験に見通しをもたせる発問～ T：あなたの予想だとどのような結果になると思うの？ S：私の予想は、「糸の長さが長いと1往復の時間は長くなる」なので、糸の長さを短くして10往復する時間を測ると、時間は短くなると思います。</p>	<p>～実験をやるのが目的化している例①～ T：教科書にある実験を明日行うから、間違えないようによく読んでみましょう。 S：はい。よく読んで実験を成功させたいと思います。(目的が確認されていない。)</p> <p>～実験をやるのが目的化している例②～ T：教科書にある実験1を行います。道具は、かごに用意してあります。道具が組み立てられたら、Aさんは、時間を計ってください。Bさんは、フラスコの中を観察して様子を記録しましょう。(仕事分担により全員が現象の確認ができない。)</p> <p>～実験の結果のみを予想させている例～ T：教科書の実験を行うと、どのような結果になると思う。 S：たぶん、膨らむと思います。 S：膨らまないと思います。</p>

② より主体的に観察・実験に取り組ませるための工夫

観察・実験は、児童にとって大好きな活動の1つなので、教科書通りの観察・実験でも、児童は熱心に取り組めます。しかし、教科書通りの観察・実験に、児童のアイデアを取り入れたり、観察・実験の中で選択できる部分をつくり、児童の判断で選択させることで、観察・実験により意欲的に取り組ませることができます。下の例を参考に観察・実験の計画に児童のアイデアを取り入れたり、実験方法を選ばせたりしましょう。

児童のアイデアを取り入れる例	実験方法を選ばせる例
<p>3年：光の性質 ○光は集めるほど温度が上がることを確かめる実験 T：温度が上がったことはどうしたら確かめられる？ S：温度計がよいと思います。 S：温かいとチョコレートが溶けるから、チョコレートで確かめられるかな。 S：それなら、バターでもできるかも。 T：いろいろな方法で確かめてみましょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	<p>4年：金属・水・空気と温度 ○温められた空気は体積が増えることを確かめる実験 T：つぶれたピンポン球、ケチャップの容器、シャボン玉液の膜をつけた試験管があります。自分たちの考えを確かめるために、どの実験を行うか、班で相談しましょう。 S：つぶれたピンポン球をお湯で戻したことがあるからピンポン球でやりたいと思います。 T：シャボン玉液を付けた試験管でやってみよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

(6) Step 6 のポイント

児童一人一人が、考察をして結論を導けるような観察・実験と結果の整理のさせ方を考える。

① 観察と観察結果の整理のポイント

観察は、実際の自然を対象に、その存在や変化をとらえさせることによって成立する学びです。観察をさせる際の指導のポイントは3つあります。

<ポイント1>

観察の前に、観察の視点を与えましょう

児童が触れる実際の自然は、色、におい、肌触りなど膨大な情報を含んでいます。そのため、観察の視点を与えずに観察をさせると「見れども見えず」といった状態に陥りがちです。膨大な情報の中から必要な情報を得られるようにするには、観察の視点を与えることが大切です。視点をもった観察により自然が変わって見え、新しい自然観が構築されます。

<ポイント2>

諸感覚を働かせながらスケッチや文で記録させましょう

理科では生き物の観察をさせるときに、小学校でも中学校でもスケッチをさせますが、発達段階によってその目的は異なります。

小学校のスケッチは、細部までよく観察させるための手立てとしての意味合いを強くもっています。スケッチをするためには、対象をよく観察しなければ描けないからです。スケッチをさせずに観察させるだけでは気付けないことにも、スケッチをさせることで気付かせることができます。スケッチだけでは、表現できない正確な大きさや色などは、文字や数字で記録させるようにしましょう。

中学校のスケッチは、小学校のスケッチの目的にさらに、正確な観察の記録としての意味合いが付加されます。そのため、中学校のスケッチでは、各部分の大きさの割合などにも注意を払わせます。線は重ねない、影は付けないなど具体的なスケッチの技法については、中学校1年生で学習します。

<ポイント3>

観察対象の周辺の状況にも目を向けさせましょう

周囲とのつながりや関係性を意識して、全体を大まかに見ることも大切です。学習内容に応じて、部分と全体を意識して観察させるようにしましょう。



② 実験と実験結果の整理のポイント

実験は、実際の自然から幾つかの要素を切り取って、それを組み合わせて調べることによって成立する学びです。実験させる際の指導のポイントは、4つあります。

<ポイント1>

できるだけ少人数で実験が行えるようにしましょう

一班の人数が多くなると実験を見ているだけの児童が生まれてしまいます。必要な役割分担などから、一班に必要な人数を考え、できるだけ少ない人数で班をつくり、実験をさせましょう。また、一班の人数を少なくすることで、観察・実験の技能も確実に身に付けさせることができます。

<ポイント2>

定量的な実験では、条件をそろえて複数回の実験を行い、平均を求めるとして、正確なデータが得られるようにしましょう

社会科は、結論を導くためのデータは、教科書などから資料として与えられますが、理科は、結論を導くためのデータを児童がつくります。したがって、児童がつくるデータが正確でないと、結論を導き出すことができません。正確なデータにするための技法である、複数回実験を行う、平均を求め、グラフ化する、などを発達段階に応じて指導するようにしましょう。

<ポイント3>

予備実験を行い、どこに危険が含まれているか確認しましょう

加熱、燃焼、気体の発生等の実験をさせる際には、どのような事故が起こる可能性があるか教師が事前に把握し、事故防止に努めましょう。特に酸やアルカリ等を扱うときには、必ず保護メガネを着用させましょう。

<ポイント4>

各班の実験の結果を一覧表などにまとめ、比べさせましょう

実験の結果を一覧表などにまとめ比べることで、誤差に気付かせたり変化の傾向を大まかにとらえさせたりすることができます。また、各班の結果を並べることによって、実証性、再現性が確保されます。そして、クラス全員で結果を共有し、判断することで客観性が付加され、科学的な見方や考え方になります。



実験結果を表に示した例

おもりの重さを変えて調べよう			糸の長さを変えて調べよう		
	軽い	重い	短い	長い	
A	1.4	1.4	1.5		
B	0.8	0.9	0.9		
C	1.0	1.1	1.1		
D	2.0	2.0	2.0		
E	1.0	1.0	1.1		
F	1.3	1.4	1.5		
A	1.0	1.4	1.7		
B	0.9	1.3	1.6		
C	1.1	1.5	1.9		
D	1.2	1.6	1.8		
E	0.9	1.2	1.6		
F	0.9	1.2	1.6		

(7) Step 7 のポイント

児童が、予想と結果を照らし合わせて、どのような思考の流れで考察するのかを考える。

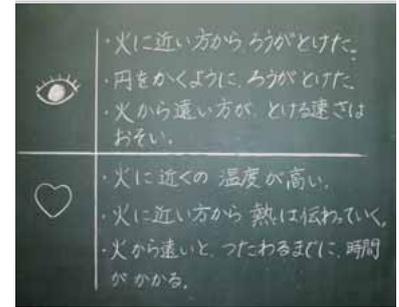
① 結果と考察の違い

予想と結果を照らし合わせながら考察させることで、科学的な思考力の要素の1つである筋道を立てて考える力を育てることができます。そのためにも結果と考察は区別して書かせる必要があります。

結果とは、観察・実験によって得られた事実であり、考察とは、得られた事実に対する自分の考え（解釈）になります。しかし、このことを児童に区別させるのは難しいものです。そこで表のような言葉やイラスト等をつかって、その違いを意識させましょう。

	結果	考察	結論
例1	観察・実験で、目で見え確かめられたこと(事実)を言葉や数字で記録したもの	観察・実験の結果と自分の予想を照らし合わせながら考えたこと	問題解決の問題の答え
例2			自然のきまりやきそくなど

例2の活用例



② なぜ、予想と結果を照らし合わせて考察させるのか

平成20年改訂の学習指導要領が求めているのは、言語活動を充実して思考力、表現力を育成することです。理科でこの思考力や表現力を育成するためには、考察の場面で、予想と結果を照らしあわせて、どのようなことが言えるのかを筋道立てて考えさせることが大切です。

例えば、5年の「振り子の運動」では、「振り子が1往復する時間は、何によって変わるのだろうか」という問題に対して、多くの児童は、経験などから「おもりの重さが重くなると、振り子が1往復する時間は、短くなる」と予想を立てます。しかし、実験からは、「振り子が1往復する時間を変化させる要因は、糸の長さだけである」という結果(事実)を得ます。このとき、考察で「私は、振り子が1往復する時間は、おもりの重さによって変わると考えたけれど、実験の結果からは、おもりの重さでは変わらず、糸の長さで1往復する時間は変化することが分かりました。自分の予想は、間違っていたことが分かりました。」と予想と結果を比較することで、筋道を立てて考える力を付けることができます。また、自分の考え(予想)を事実を基に見直す態度を身に付けることができます。

③ 結果から考察を考える時の児童の思考の流れ

右のフローチャートは、個人が結果から考察するときの流れを図に示したものです。

考察の場面で、思考力・表現力を育成するポイントは、問題解決の問題の仮の答えである予想と観察・実験の結果を比較させながら考察をさせることです。

予想と結果が同じであれば、自分の予想が正しいことが、観察・実験によって証明されたこととなります。この時の考察は、このことを筋道を立てて説明させます。

もし、予想と結果が異なった時には、予想が間違っていたのか、それとも実験の方法に問題があったのか検討させます。

実験方法に問題がないと判断したときには、予想が正しくなかったと判断し、そのことを筋道を立てて説明させます。

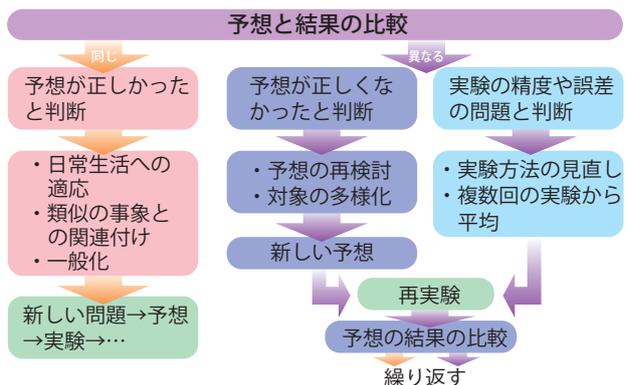
実験方法に問題があったと判断したときには、実験方法を見直し、再実験の計画を立てます。

このようにして、個人が考察をもてたら、個人の考察を班やクラスで交流し検討します。班やクラスで、考察を検討し、みんなが納得できる考察に修正できれば、客観性が得られたことになるため、より科学的な考察になったと考えることができます。

個人の考察が異なるときには、交流して原因を検討します。考察が異なる原因が、実験結果のデータの違いである時には、演示実験や再実験を行い結果を確認します。

考察を交流させる際には、事前に教師が児童の考察を予想して、結論を導けるよう意図的指名により考察を交流させることで、児童は「なるほど!」「わかった!」と実感を伴った理解が図られる授業になります。

<結果→考察のフローチャート>



3 各学年で育てたい問題解決能力を伸ばす指導例

(1) 小学校3年生で育てたい「比較する力」

「物と重さ」の単元のねらい

物と重さについて興味・関心をもって追究する活動を通して、物の形や体積、重さなどの性質の違いを比較する能力を育てるとともに、それらの関係の理解を図り、物の性質についての見方や考え方をもつことができるようにする。

児童が気付きや疑問をもてるような活動を設定する

- 児童に問題を見いださせるために、複数の事象を提示し、共通点や差異点を整理する。

児童の感想やつぶやきをつなげながら問題をつくる

- 児童の感想やつぶやきをつなげながら、結論で言わせたいことと正対する問題解決の問題を作成していく。

根拠のある予想を交流して筋道立てて考える力を鍛える

- 予想に多様性が見られるときには、根拠とともに交流する。
- お互いの予想が正しいか、経験や既習の知識を活用して検討するようにする。

実験方法を児童に選ばせる

- 実験に主体的に取り組ませるために、実験方法を児童に考えさせたり選ばせたりする。

指導例（5時間）

1 自然事象へ働きかけ「問題」意識をもつ

○異なる2つの物を提示する。

T：この2つの物は、どちらが重いでしょうか？

S1：大きい方が重いよ。

S2：意外に同じ重さかもね。

○様々な物を提示し、「重さの順位」を予想する。

①木の球 ②粘土（球） ③発泡スチロール ④鉄の球

⑤②の形を変えた粘土（板状）

T：①～⑤において一番重いのはどれかな？

S1：④鉄が一番重いんじゃないかな。

S2：②と⑤は、形は違うけど、もとは同じだから重さは同じかな。

S3：⑤は、②よりつぶれていて大きく見えるから重いと思います。

S1：④鉄は重いはずだから、①木より重いと思うな。

○てんびんを用いると2つの重さを比べることができることや台ばかりの使い方を知る。

○台ばかりを使って実際に重さをはかってみる。

T：結果はどうになりましたか。

S1：粘土（球）と粘土（板状）は、形が違うけれど同じ重さだった。

S2：私の班では、粘土（板状）より粘土（球）のほうが少しだけ重かったです。

T：結果が割れてしまいましたね。どちらが正しいのが実験で調べましょう。そして自分たちの意見が正しいと言える証拠を見つけましょう。

問題

物の重さは、形を変えるとどうなるか？

2 「問題」に対する予想をする

○予想に多様性が見られるときには、根拠とともに交流する。

S1：粘土は伸ばすと、軽くなると思う。理由は、薄くなると軽くなると思うからです。

S2：粘土は形を変えても変わらないと思う。理由は、もとの量は変わっていないからです。

S3：紙も折ると重くなると思う。理由は、折り紙をしたとき折る前の紙の重さと折った後の紙の重さでは、折った後の方が重く感じたからです。

3 観察・実験の計画を立てる

○導入で使った簡易上皿てんびんで重さ比べをすることを確認する。

T：重さ比べは、どのような道具で調べたらよいですか。

S1：算数で使った台ばかりで調べられると思います。

S2：てんびんで調べられると思います。

T：どちらの道具がよいですか。

S2：台ばかりよりてんびんの方が良いと思います。理由は、てんびんを使うと2つの重さを直接比べることができるからです。



4 観察・実験を行い、結果を整理する

○実験の目的や何と何を比較するのかを確認してから実験を行う。

T：この実験で何を調べますか。

S：粘土や折り紙の形を変えた時の重さを調べます。

T：何と何を比べますか。

S：形を変える前の紙や粘土の重さと形を変えた後の紙や粘土の重さを比べます。

T：実験をして自分の予想が正しいことを説明するための証拠をたくさん集めましょう。

～ 実験 ～

T：実験の結果を表に整理しましょう。

2月5日 晴れ		
佐藤 大樹		
実験 ねん土のおもさを調べよう		
はじめの重さ 300g		
<形をかえたとき>		
形	予想	結果
まるめた	重くなる	300g
平らにした	軽くなる	300g
細かく切った	軽くなる	300g

比較する力を育成するために、比較の対象を明らかにする

○比較する対象を明らかにする発問をする。

(例)「～と～を比べますか」

考察しやすくするために結果を表にまとめる

○形を変えた2つの物の重さを比較しやすいように表にまとめる。

○予想と結果を比較しやすいような表にする。

5 結果をもとに考察を行い、結論を導く

○結果をもとに、自分の予想が正しいと言えるかについて、意見を交流するようにする。

T：予想が正しいことを説明するための証拠は見つかりましたか？

S 1：粘土を伸ばしてもとの粘土と比べても上皿てんびんは傾かなかった。だから形を変えても重さは変わらないと思う。

S 2：粘土を細かくちぎってみたけれど上皿てんびんは傾かなかった。だから粘土は、形を変えても重さは変わらない。

S 3：折り紙を丸めたら少しだけ丸めた方が下がったよ。

S 4：私も折り紙を調べたけど、つり合っていたよ。

T：ではもう一度折り紙を丸めてやってみよう。

～ 再実験 ～

S 2：折り紙は、形を変えてもつり合うんだね。

S 3：ということは、折り紙も形を変えても重さは変わらないということになるね。

S 4：粘土も折り紙を同じ結果だから、物は、形を変えても重さは変わらないということになるね。



予想と結果を比較しながら考察をさせる

○実験の結果から自分の予想が正しいことを説明するための証拠が得られたか問うようにする。

再実験を行い、結果を全体で確認する

○結果が異なり考察がまとまらないときには、再実験を行い全体でデータを共有し、事実を基に再度考察させる。

【結論】物の重さは、形が変わっても変わらない

6 自然や生活にあてはめる

○学習したことを日常生活に当てはめて、実感を伴った理解にする。

T：体重計で体重をはかるとき、姿勢を変えると体重は変わるかな。

S 1：今回の学習をあてはめて考えれば変わらないはずだよ。

T：アルミ箔のような金属も形を変えても重さは変わらないのかな。

S 2：今回の学習をあてはめて考えると変わらないはずだけど、見た目は、丸めると重くなるように感じるなあ。確かめてみよう。



身に付けた知識を自然や日常生活に適応させる場面を設定する

○見出した結論を自然や日常生活にあてはめて、身に付けた知識が活用できる状態になっているか確認する。

○日常生活へ活用させる場面をつくることで、学びの有用感を高める。

3年生の指導のポイント

- ①自然事象を比較して共通点、差異点から問題を見出すことができるようにする。
- ②観察・実験の結果から、自分の考え（予想）を見直すことができるようにする。
- ③自分の考え（予想、考察）を根拠をもって説明できるようにする。

(2) 小学校4年生で育てたい「関係付ける力」

「電気の働き」の単元のねらい

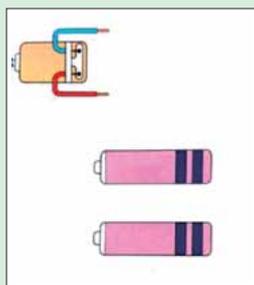
電気の働きについて興味・関心をもって追究する活動を通して、乾電池のつなぎ方や光電池に当てる光の強さと回路を流れる電流の強さとを関係付ける能力を育てるとともに、それらについての理解を図り、電気の働きについての見方や考え方もつことができるようにする。

児童の思いや願いから問題を設定する

- 児童に思いや願いをもたせるために、導入でものづくりを行い、それらを使った活動を設定する。
- 児童の思いや願いを教師が、整理しながら問題を児童とともにつくる。

多様な考えを引き出すためにワークシートの電池の並べ方を工夫する

- 多様な考えを引き出すために下記のように電池を並べたワークシートで回路を考えさせる。
- 共通のワークシートを使うことで回路の違いが見だしやすく、分類しやすくなる。



視点を明らかにして回路を分類する

- 3年生で身に付けた比較する力を発揮して、絵でかかれたつなぎ方（回路）について、視点を明らかにして分類する。

指導例（5時間）

1 自然事象へ働きかけ「問題」意識をもつ

○前時に作った電気自動車を「もっと速くしたい」と意識付けられるようにする。

T：前回より速く走る車にするために、先生の車にちょっと工夫をしてみました。先生の車と勝負したい人いますか？

S1：先生の車、速い。僕の車も速くしたいな。

S2：もっと速い車にするには、どうしたら良いのかな。

S3：電池が新しいのかな。電池の数が多いのかな。

T：みんなでどうすると速くなるか考えていきましょう。

問題

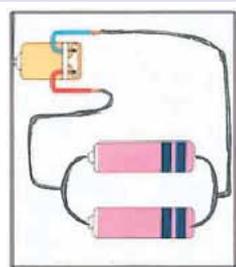
乾電池の数やつなぎ方を変えると、電気の働きはどのように変わるのだろうか？

2 「問題」に対する予想をする

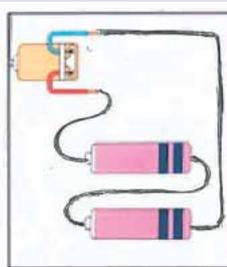
○電池2個のつなぎ方を共通のワークシートにかかせる。

T：実際に回路を組み立てる前に考えてほしいことがあります。電池2個をどのようにつなぐかワークシートにかいてみましょう。1つのつなぎ方だけでなく、いろいろなつなぎ方を考えましょう。導線の数は、増やしてもよいです。

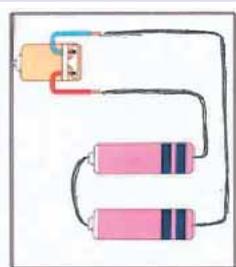
予想1



予想2



予想3



3 観察・実験の計画を立てる

T：考えたつなぎ方を発表しましょう。友達の発表と自分で考えたつなぎ方を比べ、似ているところや違うところを見付けましょう。

S1：電池の向きが違うだけなので、このつなぎ方とこのつなぎ方は、同じつなぎ方だと思います。電池をこのように動かすと同じ形になるからです。

S2：あのつなぎ方で電気自動車は動くのかな？

S1：電池とモーターの導線で輪ができていないからモーターは回らないと思います。

S3：あれとこれは、似ているけれど、違うつなぎ方だと思います。理由は、導線の数が違うからです。

○回路をA3のコピー用紙等に拡大してかいて発表し、動かしながら回路のグルーピングを行う。

○ショート回路については、発熱して危険なので、個別に対応する。

4 観察・実験を行い、結果を整理する

T：自分の考えたつなぎ方や、友達の考えたつなぎ方で実際に走らせてみましよう。走らせた後に回路に流れる電流の大きさもはかりましよう。

変えたもの		変化したもの	
乾電池数とつなぎ方		車の速さ (電流のほたらきの大きさ)	目まりの数 (電流の強さ)
1こ		ふつう	2
2こ		はやい	3
2こ		ふつう	2

- 「何を変えたら (要因)」と「何が変化したか (変化)」の2つの情報を落とさずに、記録させる。
- 変化とその要因を関係付けて考えられるように問い掛ける。
T：AさんやBさんの考えた回路を組み立てるとモーターが回る速さと電流の大きさは、どのように変化しましたか？
S1：電池を2個にしたら、前より速く走りましました。電流はたくさん流れましました。
S2：電池を2個にしても、前と速さは変わりまませんでした。電流は電池1個のとときと変わりまませんでした。

変化と要因を関係付けて結果を記録させる

- 変化しているものと、その要因と考えられるものの2つの情報を関係付けて考えられるようにする。
・「～したら、～になった。」
・「～しても、～にならなかつた。」

5 結果をもとに考察を行い、結論を導く

【予想1】
電池を2つにしたら速くなるだろ。

比較
←→
不一致

【結果】
電池を2つにすると速くなる場合とならないう場合があつた。

- 指名されなかつた児童も、ハンドサインやネームプレートなどにより自分の考えを表現させる。

【個人や班の考察】電池を増やすと速くなると予想したけれど、電池の数を増やしても、速くなる場合とならないう場合があつた。

- クラスで交流し、客観性を高める。

他の班の結果も同じ。実験は正しかつたと判断

【クラスの考察】電池を増やすとモーターの回る速さは速くなると予想したけれど、電池の数を増やしても速くなる場合とならないう場合があつた。速くなるとときとならないうときがあるのは、電池のつなぎ方に関係がありそうだ。速くなるときは、電流がたくさん流れている。同じ極同士をつなぐ回路だと速さは変わらない。

- 電池のつなぎ方には、直列回路と並列回路があることを教える。
- 児童の考えた考察を科学的な言葉でまとめ直させる。

【結論】乾電池を2個つなぐ回路には、直列つなぎと並列つなぎがある。直列につなぐと回路に流れる電流は多くなり、電気の働きは大きくなる。並列につないだ時は、電流の流れる量や電気の働きは、乾電池1個のとときと変わらない。

予想と結果を比較して考察させる

- 予想と結果を比較して、自分の考えを事実 (実験結果) を基に見直す。

個人や班の考察をクラスで交流させる

- クラスで交流することで、実証性、再現性が確保され、客観性が付加される。

科学的な言葉を使って結論をまとめさせる

- 「直列つなぎ」や「並列つなぎ」を教えて「直列つなぎ」や「並列つなぎ」などの科学的な言葉で結論をまとめ直させる。

4年生の指導のポイント

- ① 3年生で身に付けた「比較する力」を活用させる。
- ② 自然事象の変化とその要因を関係付けて考え、変化の要因を抽出できるようにする。
- ③ 学習したことを生活の中で発見したり、実際の自然に当てはめて考えたりできるようにする。

(3) 小学校5年生で育てたい「条件制御する力」

「植物の発芽、成長、結実」の単元のねらい

植物の発芽、成長及び結実の様子について興味・関心をもって追究する活動を通して、植物の発芽や成長、受粉と結実が関係していることについて条件を制御して調べる能力を育てるとともに、それらについての理解を図り、生命を尊重する態度を育て、植物の発芽、成長及び結実とその条件についての見方や考え方をもちつことができるようにする。

既習事項と目の前の現象を比較して問題意識をもたせる

- 過去の経験と目の前の現象を比較させて問題意識をもてるようにする。
- 児童の思いや願いを教師が、整理しながら問題を児童とともにつくる。

根拠を問い掛けることで既習内容や過去の経験を想起できるようにする

- 根拠をもって予想させることで、筋道を立てた考え方ができるようにする。

「条件制御」の意味を考える

- 調べる条件だけを変えて、他はそろえることで、調べる条件が要因になっているか調べられることについて考える場面を設定する。

指導例 (5時間)

1 自然事象へ働きかけ「問題」意識をもつ
 ○植物の種子を見て、気付いたことについて話し合う。
 T：この種子をこのまま机の上に置いておいたら芽は出るでしょうか。
 S1：出ません。土に埋めないと芽は出ません。
 S2：水もあげないとだめだと思います。
 T：そうですね。このままでは芽が出ませんね。種子から芽が出ることを「発芽」といいます。では、この種子が発芽するにはどんな条件が必要になるのか、これからみんなで調べていきましょう。

問題
 種子が発芽するには、どんな条件が必要だろうか？

2 「問題」に対する予想をする
 ○「種子が発芽するには、どんな条件が必要か」について話し合う。
 T：このまま置いておいたのでは発芽しないのはどうしてですか。
 S1：水がないからだと思います。
 T：水が必要だと考えたのは、なぜですか。
 S2：へちまの種まきの前には、種を水につけておきました。
 S3：アサガオの種をまいた後にじょうろで水をあげました。
 ○他の条件についても過去の経験などから考える。
 T：水の他には、どんな条件が必要でしょうか。
 S2：土もいると思います。土がないと根が伸ばせません。
 S3：温度も必要だと思います。ほとんどの種は、春暖かくなってから種まきをするからそう考えました。
 S4：肥料もいると思います。僕のおじいちゃんは、いつも肥料を土に混ぜてから種をまいていました。
 T：空気は、必要ですか。
 S1：空気はいらなと思います。土の中に埋めた種子が発芽するのだから空気はいらなと思います。

3 観察・実験の計画を立てる
 ○発芽に必要な条件を調べるための実験計画を立てる。
 T：グループごとに、芽が出るために必要なものが何か予想しましたね？それを確かめるための実験をすることにしましょう。例えば、A（水をやらない・空気がない・肥料をやる）というインゲンが発芽しなかったとします。B（水をやる・空気がある・肥料をやる）というインゲンが発芽したとします。この場合、発芽するには水と空気と適当な肥料が必要といえるでしょうか？
 S1：言えると思います。
 S2：言えないと思います。
 T：なぜ、言えないのですか？
 S2：条件を2つ変えたら、どちらが必要な条件なのか分からなくなってしまうからです。
 T：そうですね。発芽に必要な条件を調べるためには、条件を1つだけ変えて、後は同じにして調べる必要がありますね。それでは水が必要か調べるためには、どの条件を変えて、どの条件をそろえる必要がありますか。

○発芽に水が必要かどうかを調べる実験を考える。

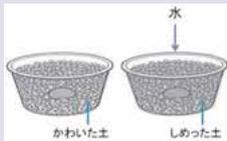
T：水が必要かを調べる時、変える条件は何ですか。

S 1：水です。水を与えるものと与えないものと2つ用意して比べればよいと思います。

T：このとき、そろえる条件は何ですか。

S 2：空気や温度、土は同じ条件にする必要があります。

T：変える条件と変えない条件は、実験ごとに表に整理して記録しておきましょう。



カップ	ア	イ
空気は	ある	ある
水は	ない	ある
予想	発芽しない	発芽する
考えたわけ		

4 観察・実験を行い、結果を整理する

○毎日観察できるように、教室で栽培できるように工夫する。

○班の実験の結果を、班ごとに表に整理する。

○班でまとめた表をそれぞれ黒板に貼り、クラス全体の傾向がつかめるようにする。

5 結果をもとに考察を行い、結論を導く

T：空気あり、水なしの条件の種子は、どうなりましたか。

S 1：芽は、出ませんでした。

T：つまり、発芽しなかったということですね。では、空気も水もありの条件の方は、どうなりましたか。

S 2：発芽しています。

T：この実験から、何が発芽に必要なかわかりましたか。なぜ、そう言えますか。

S 2：予想通り、種子の発芽には水が必要だということがわかりました。アとイの条件で異なるのは、水だけで、水をあげたカップは発芽したからです。

【結論】 種子が発芽するには、水が必要である。

T：他の条件についても、水が必要かを調べたときと同じように、そろえる条件、変える条件を整理しながら実験方法を考えて調べていきましょう。

○他の条件についても、同様に調べる。

6 自然や生活にあてはめる

○ここまでの学習を振り返り、この単元の学習で習得した知識が、農業に生かされていることを見いだし、説明させる。

マルチングが使われる理由



畑にミミズがいると良い理由



「条件制御」の考え方に基づいて実験の計画を立てさせる

○「変える条件」「そろえる条件」を確認しながら、実験の計画を立てる。

制御した条件と予想と結果は、表にまとめる

○制御した条件や予想と結果は、表にまとめさせることで、比較が容易になり、考察しやすくなる。

継続的な観察がしやすいように教室で観察させる

○種をまいた鉢を教室に持ち帰らせ、休み時間等に観察できるようにする。

条件制御の能力を高める発問をする

○変えた条件、そろえた条件を意識させながら、「なぜそういえるのか」根拠を問いつけ、条件制御について理解を深める。

身に付けた知識を自然や生活に適用させる場面を設定する

○見出した結論を自然や日常生活にあてはめる場面を設定し、身に付けた知識が活用できる状態になっているか確認する。

5年生の指導のポイント

①4年生で身に付けた「関係付ける力」を活用させる。

②条件を1つだけ変えて、残りの条件はそろえて実験を行う意味について繰り返し考えさせるようにする。

③予想と制御した条件と実験結果を比較して、どのようなことが言えるのか考えられるようにする。

(4) 小学校6年生で育てたい「推論する力」

「てこの規則性」の単元のねらい

生活に見られるてこについて興味・関心をもって追究する活動を通して、てこの規則性について推論する能力を育てるとともに、それらについての理解を図り、てこの規則性についての見方や考え方をもちつことのできるようになる。

2つの事象を提示し、共通点と差異点から問題を見いださせる

○認知的葛藤を生むような事象を提示して、児童に問題を見いださせるようにする。

体験や事実に基づいて推論させ、予想や仮説を立てさせる

○推論の根拠となる既習の知識や経験、体験を想起できるような指示や発問をする。
○筋道立てて考える手立てとして「…(根拠)なので、…だと思う。」「～だろう。なぜなら、…。」などの定型文を使って予想や仮説を立てさせる。

問題解決の見通しのある観察・実験を計画させる

○「自分の予想が正しければ、～こんな(観察・実験)をすれば、(結果)になるだろう。」などの定型文を使い、予想と観察・実験の方法と結果をセットで考えさせる。

指導例 (6時間)

1 自然事象へ働きかけ「問題」意識をもつ

○「実験用てこ」と「長い棒を用いたてこ」も支点、力点、作用点があることから、実験用てこも長い棒を用いたてこと同じであることに気付かせる。

T: 2つの実験用てこを見て、共通点と差異点を整理しよう。



S1: 共通点は、両方ともつり合っていることです。おもりは同じ物(1個10g)を使っていることと左右のうでにおもりがつるされていることです。

S2: 差異点は、おもりの数とおもりの位置が左右で違うことです。

S3: 左右のおもりの数が違うのに、何でつり合っているのかな。

T: おもりの代わりに、手で押したときの手応えを調べてみよう。

S1: 2番に3個の時も3番に2個の時も、6番の手応えは同じような気がします。

問題

てこが水平につり合うときには、どのような決まりがあるのだろうか？

2 「問題」に対する予想をする

○既習内容や過去の体験を想起できるよう指示や発問をする。

T: どんなきまりがありそうか、今まで学習したことから考えましょう。

S1: 支点の近くを指で押すと手応えが大きくなったから、支点からの距離とおもりの個数が関係しているのかな。

S2: 重い荷物をてこで持ち上げるときも小さい力ですんだので、支点から遠くなるほどおもりは少なくともいいと思う。

S3: 体重が同じ人の場合のシーソーと同じはずだから、支点からの距離を左右同じにして実験したらおもりの数も同じになるだろう。

<仮説> 支点から遠くなるほど、小さい力で重いものを持ち上げられたので、支点から遠くなれば、おもりは少なくともいいのではないだろうか。

3 観察・実験の計画を立てる

○条件制御の能力を身に付けるために、制御すべき条件を確認する。

T: きまりを見付けるために必要な条件を話し合しましょう。何をどのように変えて比べればいいですか？

S1: 片方のうで(左側)につけるおもりの重さと支点からの距離は変えないようにしよう。

S2: 反対(右側)につけるおもりの重さや支点からの距離を変えてつり合う場合を調べればいい。

T: そのように実験すると、どのような結果になるはずですか？

S3: 左側のうでにつるすおもりの位置と個数を変えなければ、右側につるすおもりの数は支点から遠ざかるほど少なくともすむはずです。

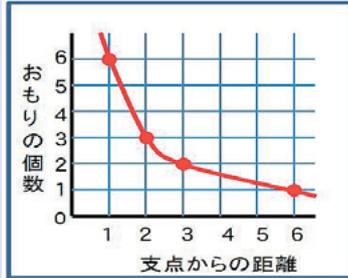
S4: 支点に近づくとおもりは多くなるはずで。

<計画>実験用てこの左のうでは支点から一番離れた6の位置に10gのおもりを1個つるし、右側のうでは、10gのおもりをてこが水平になるまで追加していく。てこが水平になったときの、おもりの位置と数を記録する。

4 観察・実験を行い、結果を整理する

- T：実験結果をわかりやすく記録しましょう。
 S1：表にまとめるとわかりやすいと思う。
 S2：算数でグラフを習ったから、私は表からグラフを作ってみます。

左側は変えない	右側は変える	
	支点からの距離	おもりの数
支点からの距離 6 おもりの数 1	1	6
	2	3
	3	2
	4	—
	5	—
	6	1



- T：記録したデータと実験中に考えたこと、気付いたことを分けて記録しましょう。
 S1：やっぱり、左側と同じ支点からの距離に同じ重さのおもりを下げるとつり合った。
 S2：実験結果の表を見ると、おもりを下げた距離とおもりの重さをかけ算した答えになっているときつり合うぞ。
 S3：どうしてもつりあわない場所があるな。(4と5の位置)

5 結果をもとに考察を行い、結論を導く

- T：実験の結果と予想や仮説と照らし合わせて、自分の考えをまとめましょう。
 S1：予想通り、おもりの位置が支点から遠いほど、重さは軽くなった。
 S2：他の班も、おもりの位置とおもりの重さをかけ算した答えが同じとき、水平につり合うようだ。

【結論】

予想した通り、支点から離れるとおもりは少なくてすんだ。また、てこが水平につり合うとき、おもりがうでを傾けようとする働きは、「おもりの重さ×支点からの距離」の式で表すことができる。

- T：この結論が正しいか、他の条件も調べてみたいと思います。また、実験中に気付いたことや、やってみたいと思ったことについても調べてみましょう
 S1：左側のおもりの数と支点からの距離を変えて実験してみます。
 S2：まず、計算して釣りあう条件を探し、本当に釣りあうか確かめてみようと思います。
 S3：左側のうでにつるすおもりを支点からの距離やおもりの数を変えて、試してみたいと思います。
 S4：左側のうでに2カ所以上おもりをつるしても、この規則性は同じなのか調べてみたいと思います。

観察・実験の結果を表やグラフに整理して他の班と比べる

- 観察・実験の結果を表やグラフに整理することで、決まりや規則性に気付きやすくなる。
- 他の班の実験の結果と比べさせることで、誤差に気付かせたり、全体の傾向をつかませたりする。

予想と観察・実験の結果などをもとに、きまりを推論させ考察させる

- 考察では、観察・実験の結果などの実際に目で見て確認できた事実をもとに、目に見えないこの決まりを推論しながら考察させる。

見いだした決まりを一般化できるか検討する

- 結論を導いた後、自由試行の時間を設定し、見いだした決まりが本当に正しいか検討させたり、他の条件でも成り立っているか調べさせたりする。

6年生の指導のポイント

- ①5年生で身に付けた「条件制御する力」を活用させる。
- ②既習事項や経験などの事実をもとに推論し、予想や仮説を立てられるようにする。
- ③目に見えないもの(力やきまり等)を、モデル等を使って視覚化して説明できるようにする。

生活

Living Environment Studies

気づきの質を高めるために

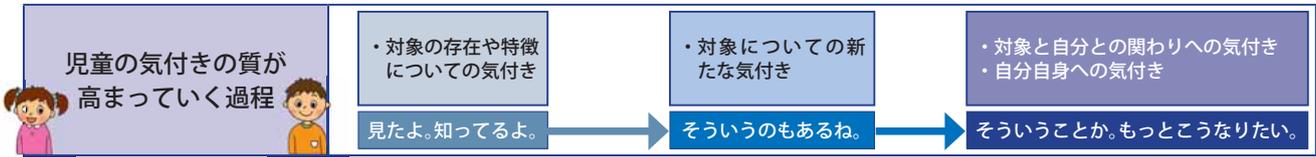
生活科の授業では、体験や活動を通して、児童一人一人の気づきの質を高めていくことが求められています。気づきの質を高めていくことは、児童が学習の対象となっている人・もの・ことについて理解したり、それらと自分との関わりを考えたりすることを促し、児童の理解や思考を深めます。また、それに伴って生活上必要な習慣や技能を身に付けることにつながります。さらに、自分のよさや可能性など自分自身についての理解を深めていくことにもつながっていきます。これらのことが基になり、体験や活動に対する新たな疑問や挑戦などが生まれ、児童の自発的な取組が一層促進されることとなります。

そこで、本資料では、気づきの質を高める授業を実現するため、児童の姿の見取りと指導についてのポイントを示しました。

- 1 「気づきの質が高まっている」ととらえられる児童の姿の例 P 68
- 2 気づきの質を高める指導のポイント P 69
 - 1 単元の指導の実際(指導例:「町のすてき、はっけんたい」第2学年) P 70
 - 1 単位時間の指導の実際(指導例:「アサガオさん、大きなあれ」第1学年) ... P 71
- 3 気づきの質を高めていくための見取りと支援のつながり
 - (1) 1 単元の中でのつながり P 72
例:「みんなであそぼう —あきとあそぼう—」(第1学年)
 - (2) 1 単位時間の中でのつながり P 73
例:「みんなであそぼう —あきとあそぼう—」(第1学年)
- 4 適切な見取りをするために P 74

1 「気付きの質が高まっている」ととらえられる児童の姿の例

生活科では、活動や体験を繰り返したり、友達など他者とともに交流したりし、対象との関わりを深める中で、児童の気付きの質が高まるように指導していくことが大切です。児童の気付きの質を高めるためには、まず、児童の気付きが今、どのような段階にあるのかを適切にとらえることが必要です。



学習内容	気付きの質が高まっているとらえられる児童の姿の例		
【学校と生活】 学校の施設、学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子、自分との関わり	学校には、図書室や音楽室、放送室などいろいろある。	図書室には本がたくさんあり、決まった日に貸してくれる。ボランティアの人もいる。	いつでも、ぼくの読みたい本が探しやすかったのは、ボランティアの人が本を直したり、並べたりしてくれていたからなんだ。
【家庭と生活】 家庭生活を支えている家族、自分にできること	おばあちゃんは、昼間、家を守ってくれている。私は、毎朝、新聞を取りに行く手伝いをしている。	朝、新聞を取りに行く途中で金魚にえさをやったら、家族が喜んでくれた。新聞以外にも私にできることがありそう。	もう少し早起きして、新聞を取ってきたら、玄関も掃くことにしよう。家の人にもっと喜んでもらいたいから。
【地域と生活】 地域で働いている人々や様々な場所と自分たちの生活との関わり、地域のよさ (P 70参照)	そういえば、朝早くからいいにおいのするパン屋さんがあったな。	パン屋さんには、おいしいパンにするひみつがある。	図書館にも使いやすくなるひみつがあるんだ。ぼくの町って、よいひみつがたくさんあってすてきだな。
【公共物や公共施設の利用】 みんなで使うものがあること、それを支えている人々の存在、自分との関わり	公園は、子どもだけでなく、お年寄りなどいろいろな人が使っているんだね。	今まで知らなかったけど、公園のトイレやゴミをきれいにしてくれる人がいるんだ。ありがとう。	たくさんの人が使う場所だから、みんなが気持ちよく使えるように、私も気を付けて使うようにしよう。
【季節の変化と生活】 春の公園は花がいっぱい。四季の変化、季節による生活の変化、自分との関わり	春の公園は花がいっぱい。小さい子や赤ちゃん、おじいさん、おばあさんもいるね。	夏の公園の木陰は涼しいな。暑い日は、グラウンドゴルフをするおじいさんたちがいないね。	秋の公園は、木の葉の色が赤や黄色に変わって不思議だな。私の服も季節ごとに変わってきたわ。
【自然や物を使った遊び】 身近な自然や物の利用、遊びの工夫や創造の面白さ、自然の規則や不思議さなど (P 72参照)	校舎の裏側に、ドングリがたくさん落ちていたよ。	校庭のドングリは細長いけれど、公園のドングリはまん丸だね。小さいのもあったよ。いろいろな形があるんだね。	ドングリゴマを作ったよ。Aさんのパチンコもいいな。自然のものって、いろいろな使い方が工夫できておもしろいな。
【動植物の飼育・栽培】 最初に出てきた双子の生き物は命をもつことや成長していること、生き物と自分との関わり (P 71参照)	最初に出てきた双子の葉っぱの間から、新しい葉っぱが出てきたよ。	Bさんは、土が乾くと水をあげると、のどが渇いているときは、水が体に染み込む気がするよ。	大きい花が咲いたのは、アサガオの様子を見ながら、ぼくががんばって世話を続けたからだね。
【生活や出来事の交流】 身近な人々と関わる楽しさ、交流することのよさ	幼稚園の友達に、ルールを説明したけれど、違うようにされちゃった。説明が難しかったのかな。	幼稚園の友達に、学校のいろいろな教室を案内したら、「何に使うの?」と、いろいろ質問されたよ。	幼稚園で遊んだとき、さらさらの白砂のある場所を幼稚園の友達から教わったよ。教えてあげるだけでなく、教えてもらうこともあるね。
【自分の成長】 多くの人の支えによって大きくなったこと、できるようになったこと、支えてくれた人への感謝など	赤ちゃんの時はこんなに小さかったんだ。	家の人が世話をしてくれたから大きくなり、できることも増えたんだ。感謝だな。	周りの人にしてもらっただけでなく、人のために頑張れる自分になってきた。もっと、できることを増やしたいな。

2 気付きの質を高める指導のポイント

気付きの質を高めしていくことは、児童の理解や思考、技能、意欲などの資質・能力を確かに培っていく学習を成立させるとともに、生活科における伸ばしたい資質・能力（「はばたく群馬の指導プラン」P34）を培っていくこととなります。児童の気付きの質を高めるために、児童の発達の段階や学習活動を見通しながら、以下の点に留意した指導をしていきましょう。

指導のポイントは、複数の培われる資質・能力と関連があります。

気付きの質を高める指導のポイント	培われる資質・能力
<ul style="list-style-type: none"> ・五感や感情を働かせた関わりとなるような言葉を掛ける。 ・対象と関わる際に考えをもつ視点を与える。 ・その児童なりの発見や考え、その芽生えなどを共感的に受け止める。 ・問い掛けたり、尋ね返したり、絵や動作などで表現させたりする。 ・児童の気付きに関連する、教師や友達の発見や考えを伝えたり、児童に新たな疑問や関心が生まれるような言葉を掛けたりする。 ・対象と関わりながら友達などと発見や考えを伝え合い、気付きを共有し合う場面を活動の中に組み込んでおく。 <p>イメージマップも使えますね。</p> 	<p>繰り返し対象と関わり、発見したり、考えをもったりすることができる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって充実感のある学習活動や体験を用意し、〇〇さんにあのことを伝えたい、気付いたことをわかってもらいたいなど、児童の表現したいという気持ちを膨らませる。 ・活動・体験の時間と表現の時間とを明確に区別するのではなく一体化を図り、活動や体験の中に表現する機会を取り入れる。 ・表現への期待が高まったところで、思ったことや考えたことをどのような方法で表すのがよいかを選択させたり、表現方法の選択のための手掛かりを示したりする。 ・書き表したもののなどの保管の仕方を工夫し、時系列に比較できるようにする。 <p>どのような表現方法があるのか、他教科ではどのような表現を扱っているのかを確認しておく、ふさわしい表現方法を助言しやすくなります。</p> 	<p>考えたことや感じたことなどを表現方法を選んで表すことができる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・考えたことや感じたことを誰と交流することが児童の体験を深めることになるのかを考慮して交流対象を決定する。 ・どのタイミングで、どのくらいの時間、どのような関わりをもてるようにするかについて計画を立て、交流相手と事前に学習のねらいなどについて打合せしておく。 ・幼児や友達と交流させる場合は、双方にとってよい影響が得られる交流となるように、必要に応じて、仲介したり、様子を見守ったりする。 <p>交流する人の紹介ビデオ映像を撮ってきておき、予め児童に見せておくと、「ちょっと知っている人」として関わりやすくなるようです。</p> 	<p>考えたことや感じたことなどを身近な人と交流することができる。</p>

【生活科を核としたスタートカリキュラムにおける留意事項】

- 児童の体験や興味・関心について、幼児教育機関や家庭などから情報を収集しておく。
- 生活科及び他教科等の年間の学習予定を見通し、他教科等と関連が図れるものをそれぞれの年間指導計画に位置付けておく。
- 学習対象は、身近なものから取り上げる。また、対象と関わる時間は短めに設定するが、関わる機会は多くし、対象への関心や活動への意欲が高まるようにする。
- 児童の表現への負担を考慮し、文字を使用した表現は控え、話すことや動作化などを中心とする。
- 学校や学級、学習に対する児童の安心感の度合いをとらえ、交流の対象や時間、方法を選択する。また、学習の流れや活動を工夫することで、児童が交流相手に安心感をもてるようにしていく。

1単元の指導の実際 (児童の吹き出しの背景色は、P68の「児童の気付きの質が高まっていく過程」の段階と対応しています。) 関連ページP68・69
 単元名「町のすてき、はっけんたい」(第2学年) 内容(3)地域と生活(8)生活や出来事の交流

指導例：『町のすてき、はっけんたい』 (全30時間)

「わたしの町のすてきなところ」(4時間)
 ○対象をとらえ、学習課題をつかむ。
 ・通学路の途中で見つけたすてきだと思うものや場所、人などを紹介カードに書き、興味・関心をもつ。
 ・行ってみたい場所や会ってみたい人などを友達と交流し、見たいことや知りたいことを決め、町探検の計画を立てる。

 朝早くから、いいにおいがするパン屋さんがあったよ。どんなパンを作っているのか、見てみたいな。

○○君は、図書館によく行って言っていたけど、絵本もたくさんあるのかな。探検してみたいな。



「町のすてきを見つけよう」(10時間)
 ○具体的な活動や体験をする。
 ・町に出掛け、いろいろなものを見てくる。
 ・一人一人の気付きを発見カードにまとめ、交流する。

あのパン屋さんは、いつでもお客さんがたくさんいるわね。言葉では言えないくらいおいしいしね。どうしてあんなに美味しいパンが作れるのかしらねえ？



そんなに人気があるんだ。どうやっておいしいパンを作っているんだろうか？ 聞いてみたいな。



「町のすてきをもっと知りたい」(10時間)
 ○活動や体験を振り返り、対象をとらえ直す。
 ・交流してわかったことを基に新しく知りたいことを見付け、町探検に出掛ける。
 ・新しく発見したことを、発見カードにまとめ、交流する。



 パン屋さんのおじさんに、おいしいパンの秘密を聞いたよ。今度は、買いに行きたいな。

図書館には、整理整とんの秘密があったよ。読み聞かせは、町のお母さんたちがしているんだって。聞いてみたいな。



「町のすてきをつたえよう『町のすてき発表会』(6時間)
 ○活動や気付きを見つめ直す。
 ・自分でかいた発見カードやインタビューカードを見返したり、友達の発見カードやインタビューカードと比べたりして学習を振り返り、思いが伝わるように表現方法を工夫してまとめる。

 ぼくたちの町は秘密がたくさんあって、楽しい町だね。

**五感や感情を働かせた
関わりができる学習対象の選択**

- 学習対象は、児童にとって身近な存在、継続的・発展的に興味・関心のもてるもの、直接的に繰り返し関わりることが可能であるものを選択しましょう。
- 教師の期待する活動や体験が生起するような学習環境を構成しましょう。

**五感や感情を働かせた
体験の積み重ね①**

- 五感や感情を働かせた関わりとなるような言葉を掛けましょう。
- 対象と関わる際の視点を与えましょう。

気付きを高める具体的支援①

- 児童の発見や考えを共感的に受け止めましょう。
- 児童の気付きに関連させ、新たな疑問や関心が生まれるような言葉を掛けましょう。

**五感や感情を働かせた
体験の積み重ね②**

- 児童の思いや願いに対し、どのような交流をしてほしいかを児童の交流相手となる人と打ち合わせておきましょう。

気付きを高める具体的支援②

- 友達と発見や考えなどを伝え合う機会を設定し、複数の要素を関連付けた気付きが生まれるようにしましょう。
- 必要に応じて、共通点や相違点などを視覚化するなどの支援をしましょう。

1 単位時間の指導の実際 (児童の吹き出しの背景色は、P68の「児童の気付きの質が高まっていく過程」の段階と対応しています) **関連ページP68・69**

単元名 「アサガオさん、大きくなあれ」(第1学年)

内容 (7)「動植物の飼育・栽培」

指導例：『アサガオさん、大きくなあれ』(本時 5/10)

○学習のめあてを知る。(5分)

〈めあて〉
アサガオのひみつをみつけて、もっとなかよしになろう

・世話をしながら繰り返し関わってきた中で、気付いたことを交流し、アサガオの成長を振り返る。

○諸感覚を働かせて対象と関わり、アサガオの成長や変化について気付いたことを伝え合う。(25分)

目で見たり、鼻でかいだり、耳で聞いたり、手で触ったりして仲良くしましょう。前のアサガオと変わったところを見付けられるかな。

双葉の間から、葉っぱが出てきたよ。触ったら、ざらざらしたよ。

同じ日に種をまいたのに背の高さが違うね。

アサガオさんが、「しっかり、世話をしてほしい」って言うていたよ。どんな世話をすると、大きくなるのかな。

○アサガオの成長や変化と自分たちの関わりを振り返り、今後の世話の仕方について気付いたことを伝え合う。(15分)

後から出てきた葉っぱは、形がハートみたいだね。もっと、たくさん出てくるように、日なたに置いたよ。

おじいちゃんの花は水をやりすぎて枯れちゃったんだって。だからぼくは、土が乾いてから水をやるんだ。

お母さんが、肥料をあげているところを見たことがあるよ。ご飯みたいだね。私もあげたいな。

後から出てきた葉っぱかあ……

〇〇さんは、土が乾いてきたら、水をあげるんだって。なるほどね。

○世話の仕方について、気付いたことをまとめる。(10分)

・これまで世話をする中で発見したことや、これからの世話の仕方で行ってみたいことをアサガオ日記に書く。

ぼくも水をやりすぎないように、土が乾いたらにしよう。

後から出てきた葉っぱを薄い緑色でぬったのは、どうしてなのかな？

児童の体験や気付きの把握

- 振り返りカードや行動観察などから、思いや願い、気付きを把握しておき、一人一人の児童に気付いてほしいことを明確にしておきましょう。
- 上記を基に、個別の手立てを考えておきましょう。

五感を働かせた対象との関わり

- 「見る」「聞く」「かぐ」「触る」など対象との関わり方を明確にして、五感や感情を働かせるような言葉を掛けたり、考えをもつ視点を与えたりしましょう。

個の気付きを共有する場面の設定

- 一人一人の気付きを共有できるように、友達と自由に交流する時間をつくったり、交流させたい相手を紹介したり、内容を仲介したりしましょう。

学級全体で気付きを共有する場面の設定

- 自分の気付きと友達の気付きを比べたり、他のものやことにたとえたりしている発言を取り上げ、学級全体で共有できるようにしましょう。

気付きを自覚化させる表現活動の設定

- 気付きが高まったことを賞賛しましょう。
- 十分に自覚されていない気付きは言語化させるなどして、確かな気付きにしていきましょう。

生活

3 気付きの質を高めていくための見取りと支援のつながり

(1) 1 単元の中でのつながり

気付きの質を高めていくために、児童の学習に対する興味・関心・意欲・思いや願い・気付きなどを適切に見取り、それらを踏まえて計画を作成し、ふさわしい支援を行い、児童の成長や変容をとらえることが大切です。

単元名「みんなであそぼう —あきとあそぼう—」(第1学年) 内容(6) 自然や物を使った遊び

- 目標：秋探して見付けた落ち葉や木の実などの色や形を生かし、遊ぶものを作ったり遊び方を工夫したりしてみんなで楽しく遊ぶ。
- 評価規準：(1) 落ち葉や木の実などを使って、自分なりに作ったり遊んだりしようとしている。
(2) 落ち葉や木の実などの色や形を生かして遊ぶものを作ったり、遊びを工夫したりできる。
(3) 秋の自然の特徴やそれらを使った遊びの楽しさに気付いている。

診断的見取りを生かした 指導計画の作成

- 単元に入る前に、児童が学習対象に対してどのような状態にあるか情報を集めましょう。
 - 情報を生かし、体験させたいことや気付かせたいことを明確にしておきましょう。
- 【見取りの方法】**
- ・幼稚園・保育所、家庭から、体験に関する情報を収集する。
 - ・類似対象などとの関わり方や興味・関心等を観察する。
 - ・児童に聞き取りを行う。等

形成的見取りと支援

- 学習活動の中で、児童が学習対象に対してどのような状態にあるかを見取りましょう。それを基に、具体的な手立てを考え、支援を行きましょう。
- 【見取りの方法】**
- ・児童のつぶやきや発言、活動の様子、作品等を分析する。
 - ・児童による自己評価や相互評価を分析する。
 - ・ゲストティーチャーや学習支援者、家庭や地域の人々から情報を収集する。

総括的見取りから今後の指導へ

- 単元や活動を振り返って、児童がどのような成長や変容をしたかを見取りましょう。
- 【見取りの方法】**
- ・自己評価、相互評価、教師による行動観察 等
 - ※学習活動や対象の選定、時間配当等の単元計画の評価も行いましょう！

例：『あきとあそぼう』(全11時間)

事前	<p>〈教師の思いの構想〉</p> <p>形成的見取り 支援</p> <p>校庭や公園で、春、夏の自然を使って遊んできたから、同じ校庭や公園で秋探しの活動を行って、秋の自然の様子に気付かせていこう。</p> <p>子どもたちは、幼稚園や保育所でドングリゴマや落ち葉を使った遊びをしてきているので、モデルとして準備しよう。</p>
2	<p>○校庭や近くの公園で秋探しをし、見付けた木の実や枝、落ち葉などを集めたり、見付けた秋を紹介したりする。</p> <p>○木の実や枝、落ち葉で楽しめそうなことを考えたり、試したりして、自分の作りたいおもちゃの計画を立てる。</p> <p>〈学習課題〉 落ち葉や木の実を使って、みんなで秋の遊びを楽しもう</p> <p>総括的見取り</p> <p>校庭にドングリがたくさん落ちてたな。あれでおもちゃを作りたいな。</p> <p>ドングリの存在に気付き、生かさそうとしているな。</p> <p>支援</p> <p>校舎の裏に違う種類のドングリがあることにも気付けるように児童同士の情報交換の場を設けよう。</p>
常時	<p>○校庭や自分の家の近くで木の実や枝、落ち葉を集める。</p>
4	<p>○作りたいものや遊びが似ている児童同士で活動し、計画を基におもちゃを作ったり遊びを試したりする。</p> <p>丸いの、細長いの、大きいなどいろいろなドングリゴマが作れたよ。</p> <p>形成的見取り</p> <p>形に着目した木の実の特徴に気付いているな。</p> <p>支援</p> <p>気付きに共感しよう。次は、みんなで遊ぶ方法について考えてみるように促し、秋の自然物を使った遊びの楽しさに気付かせていこう。</p>
1	<p>○秋の遊び場の準備をする。</p>
2	<p>○秋の遊び場で楽しく遊ぶ。</p> <p>葉っぱのおもちゃもいいな。秋はいろいろな色の葉っぱがあるから。ドングリでパチンコも作りたいな。</p> <p>総括的見取り</p> <p>秋の特徴や自然物を使う楽しさに気付くことができたな。</p> <p>今後の指導の方向</p> <p>冬の活動でも、冬の特徴を生かした遊びを考えられるように活動を計画していこう。</p>

(2) 1 単位時間の中でのつながり

単元名「みんなであそぼう —あきとあそぼう—」(第1学年) 内容(6) 自然や物を使った遊び

○ねらい：自分のしてみたい秋の自然を利用した遊びで、木の実や枝、落ち葉の形や色を生かして楽しく遊ぶ。

※本時のめあて(ねらい)と照らし合わせながら、個々の児童の学習対象への興味・関心の方向、思いや願い、気付き、技能などを見取っていきましょう。

導入場面

○本時のめあてに対する児童の見通しを見取りましょう。

【見取りの方法】

・つぶやき、表情、準備物 等

【支援】

・見取りを基に、気付かせたいことを明確にし、活動場所の学習環境を(再)構成する※など、活動の充実に必要な具体的支援を明らかにしておきましょう。

※「指導プラン」P90参照

活動場面

○気付きのある学習活動になっているか、どのような気付きをしているかを見取っていきましょう。

【見取りの方法】

・行動、作品、つぶやき 等

【支援】

・思いや願いを実現しようとする活動になっている場合には、工夫などの取組のよさや対象の特徴などに気付かせる問い掛けをしたり、友達の活動などに目を向けさせたりして、気付きを自覚させましょう。

・めあてに向かう活動になるよう、必要に応じて、めあての確認を促しましょう。

振り返りの場面

○気付きを自覚しているか、次の活動への意欲を高めているかを見取りましょう。

【見取りの方法】

・つぶやき、作品、振り返りカード 等

【支援】

・共感や賞賛などにより、気付きを自覚させ、体験への充実感をもたせましょう。

例：『あきとあそぼう』(5/11)

5分

○自分の立てた計画を発表し合い、本時のめあてをつかむ。

〈めあて〉

計画を基に、材料を工夫しながら楽しく遊ぼう



サツマイモの蔓を使って輪を作り、輪投げをして遊ぶんだ。

見取り

輪投げの輪を作るために、サツマイモの蔓を使おうとしているようだから、今日のめあて「材料の工夫」という点では大丈夫そうだな。

支援

輪投げの的については、まだ何も考えていないようだから、必要に応じて的の工夫にも目を向けさせてみよう。木の枝などが使えるよう、校庭の隅に準備をしておこう。



35分

○計画を基に遊ぶ。

・サツマイモの蔓を使って、輪を作り、輪投げをして遊ぶ。



校庭の隅に落ちていた木の枝を的にしたら、楽しかったよ。



見取り

的の工夫にも目を向けることができたようだな。今日のめあて「材料の工夫」という点では十分満足だな。

支援

なぜ、サツマイモの蔓や木の枝を使ったのかを問い掛け、材料の特徴や自分の工夫のよさに気付かせよう。



5分

○工夫したことを紹介したり、振り返りカードを基に自己評価を行ったりして次時への見通しをもつ。



蔓や木の枝を使っておもしろい遊びを考えたから、みんなに遊んでもらいたいな。

見取り

単元の目標である「みんなで遊ぶ」に目を向けることができてきているな。

支援

次の時間は、みんなで遊べる約束やルールを考えられるよう促していこう。



4 適切な見取りをするために

例：内容（7）動植物の飼育・栽培

○振り返りカードなど、児童の学習プリントからの見取り

見取りのポイント

- どんなことに興味をもったのか
- どんな気持ちをもったのか
- 次にどういう方向に行きたいのか

表現には個人差があります。
そこで、文面や出来映えではなく、活動中の表情やつぶやき、学習プリントに描かれた絵などから、児童の伝えたいことや表現したかったことをとらえましょう。

例：「楽しかった」の一言で終わってしまっている場合。

たのしかったです



サワガニと関わる活動が楽しかったのか？
どのような関わりをしたのか？
感じたのは、「楽しい」がぴったりする思いだったのか？
色や形状など面白さや不思議さを感じたところがあるか？

適切な見取りをするために

- 学習プリントを書いている最中に、「何が楽しかったの？ 教えて」など個別に声を掛け、児童が感じていたり気付いていたりしても表現できなかった部分を引き出しましょう。

○活動中の見取り

見取りのポイント

- めあてに向かった活動となっているか
- どんな気持ちをもったのか
- 次にどういう方向に行きたいのか

活動の様子だけでは、読み取れない児童の思いや願い、考えなどもたくさんあります。
そこで、つぶやきに耳を傾けたり、児童に問い掛けたり、発表などの表現する機会を設けたりしていきましょう。また、グストティーチャーや学習支援者、家庭や地域の人々などからの情報も活用しましょう。





「かわいいな」と思っているのか？
「仲良しになりたいな」と思っているのか？
「ふわふわしていて温かいな」と感じているのか？

適切な見取りをするために

- 児童のつぶやきや行動、表情などに対して、「何でそうしたの？」「どうしてそう考えたの？」などを問い掛け、自覚化させたり、新たな気付きにつなげたりしましょう。

音楽

Music

音楽的な感受を基に、思考・判断し表現する授業づくりのために

はばたく群馬の指導プランに示した『「音楽的な感受」の学習を充実させるために』にあるように、音楽科では、音楽的な感受により、児童が感性を高め、思考・判断し、表現する一連の過程を重視した学習を充実することが求められています。

そこで、「音楽的な感受を生かす題材の作り方」では、音楽的な感受で感じとったことを、表現領域では自らの表現の追求に生かし、鑑賞領域では曲全体のよさを味わうことに生かす題材の作り方について記述しました。また、「音楽的な感受を基に、思考・判断し表現する授業の作り方」では、「音楽的な感受を生かす題材の作り方」と関連させながら、具体的な授業づくりのポイントを記述しました。

そして、それらを実際の授業で生かせるよう、〈A表現：歌唱〉〈A表現：音楽づくり〉〈B鑑賞〉の指導例を示しました。

1 音楽的な感受を生かす題材の作り方

- (1)「A表現」のみの題材の場合 P 76
- (2)「B鑑賞」のみの題材の場合 P 76
- (3)音楽的な感受とは P 77
- (4)思いや意図をもつこと P 77

2 音楽的な感受を基に、思考・判断し表現する授業の作り方

- (1)音楽的な感受を基に、思考・判断し表現すること P 78
- (2)授業のポイント P 78
- (3)授業のポイントにおける手立ての例 P 79

3 指導例

- (1)「A表現」(歌唱)の授業 P 80
- (2)「A表現」(音楽づくり)の授業 P 81
- (3)「B鑑賞」の授業 P 82

1 音楽的な感受を生かす題材の作り方

題材をつくる際には、題材の導入で音楽的な感受を中心とした時間を設け、そこで感じ取ったことを、表現領域では自らの表現の追求に生かしたり、鑑賞領域では曲全体の特徴や演奏のよさを味わうことに生かしたりさせましょう。また、その過程の中で、個々に思いや意図をもたせたり、集団で思いや意図を共有させたりしましょう。

このような題材の作り方を具体的に紹介するため、「音楽的な感受が中心となる時間（各領域）」、「表現の追求が中心となる時間（表現領域）」、「曲全体のよさを味わって聴く時間（鑑賞領域）」の指導例をP80から次のように紹介しています。

(1) 「A表現」のみの題材の場合

題材の基本的な流れ 「はばたく群馬の指導プラン」より	指導例 「和音の美しさを味わおう」 (小学校第5学年 全5時間)	指導例 「箏で旋律をつくってみよう」 (小学校第5学年 全3時間)
<ol style="list-style-type: none"> 1 本題材の学習への興味・関心を高める。 2 楽曲全体の雰囲気を感じ取る。 3 2のような雰囲気を醸し出す理由を、音楽の要素に着目して探る。 4 自分の表現したい思いや意図に合う演奏になるよう、表現を工夫する。 5 どのように表現を工夫したか、意見交流する。 6 工夫した表現で演奏できるよう、音楽表現の技能を高める。 7 学習したことを生かして、演奏する。 	<p>○「静かにねむれ」を歌詞唱したり鍵盤ハーモニカやリコーダーで演奏したりして、和音の響きのよさを感じ取る。 ※音楽的な感受が中心となる時間としてP80に指導例を紹介</p> <p>○和音伴奏を基に、I・IV・V・V₇の和音の仕組みを理解して表現する。</p> <p>○「静かにねむれ」の主旋律に合う伴奏を付けて楽しむ。</p> <p>○I・IV・V・V₇のもつ響きのよさを生かしながら、「それは地球」を三部合唱する。 ※表現の追求が中心となる時間としてP80に5時間目の部分の指導例を紹介</p>	<p>○「さくらさくら」に使われている音階の雰囲気や、反復、問いと答えといった音楽の仕組みのよさを感じ取る。 ※音楽的な感受が中心となる時間としてP81に指導例を紹介</p> <p>○箏を用いながら、「さくらさくら」で使われている音階の響きや、反復、問いと答えといった音楽の仕組みを生かして音楽づくりをする。 ※表現の追求が中心となる時間としてP81に指導例を紹介</p> <p>○音楽づくりをした成果を発表し合う。</p>

(2) 「B鑑賞」のみの題材の場合

題材の基本的な流れ 「はばたく群馬の指導プラン」より	指導例：「金かんがっきの音色を感じ取ろう」 (小学校第3学年 全2時間)
<ol style="list-style-type: none"> 1 本題材の学習への興味・関心を高める。 2 楽曲全体の雰囲気を感じ取る。 3 2のような雰囲気を醸し出す理由を、音楽の要素に着目して探る。 4 3の学習を生かして、全体を味わって聴く。 	<p>○「トランペットふきの休日」を、音色や速度などと、よさや面白さなどとの関わりに気を付けて聴く。 ※音楽的な感受が中心となる時間としてP82に指導例を紹介</p> <p>○「トランペットふきの休日」の紹介文を書いたり、紹介文をペアやグループで発表し合ったりして、曲全体の特徴や演奏のよさを味わって聴く。 ※曲全体の特徴や演奏のよさを味わう時間としてP82に指導例を紹介</p>



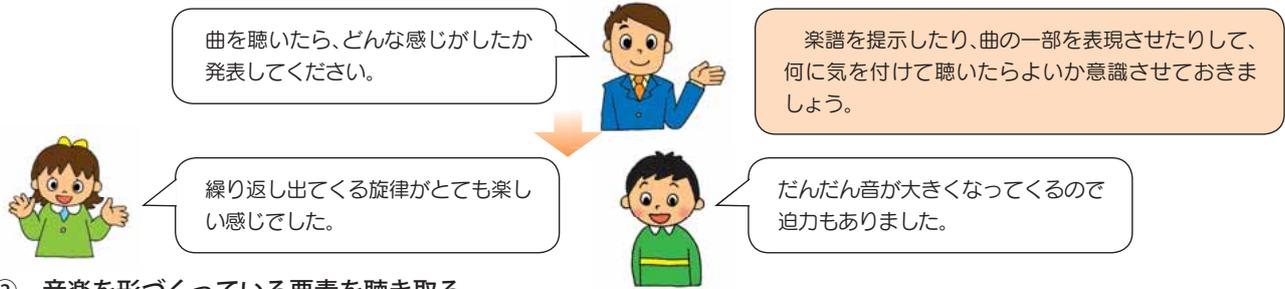
児童は、曲を聴いたり、表現したりすると、「この曲は楽しい感じがするな。」とか「春の暖かな感じが感じられる曲だな。」といったよさや面白さなどを感じ取ります。そのようなよさや面白さなどは、音色や強弱、問いと答えなどといった音楽を形づくっている要素のどのような働きによって表されているのか考えさせましょう。そして、よさや面白さなどと音楽を形づくっている要素との関わりに気を付けながら、思いや意図をもって、表現を追求したり、鑑賞を深めたりできるようにしましょう。

(3) 音楽的な感受とは

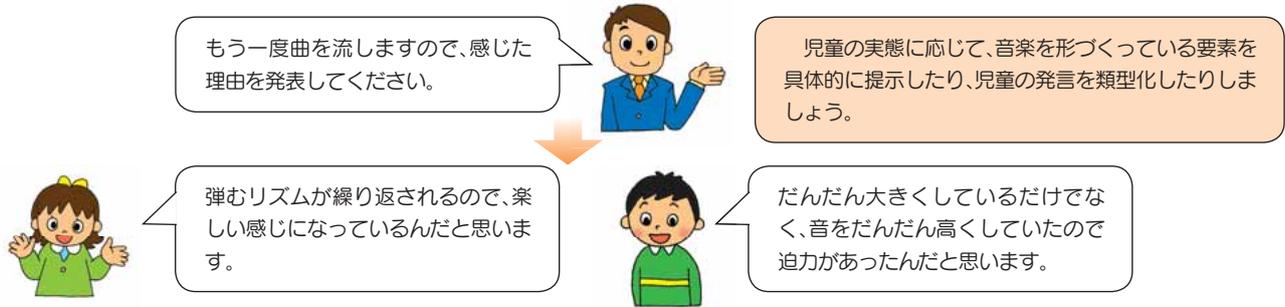
音楽的な感受とは、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取ることです。

音楽を形づくっている要素 [共通事項]	
音楽を特徴付けている要素	音色、速度、旋律、強弱、拍の流れ、リズム、フレーズ など
音楽の仕組み	反復、問いと答え など

① 曲のよさや面白さなどを感じ取る



② 音楽を形づくっている要素を聴き取る

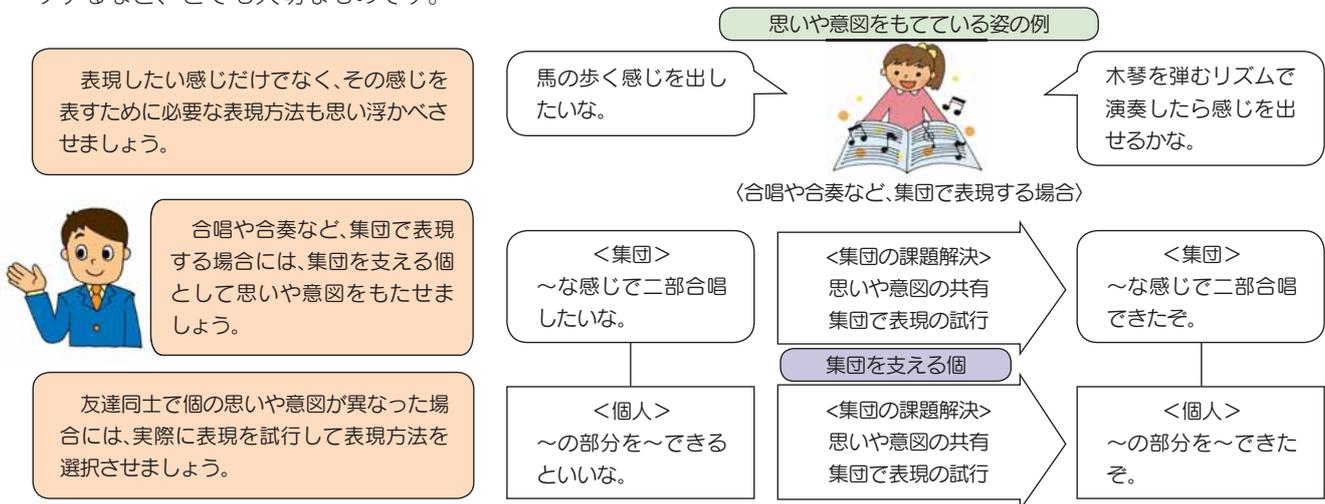


③ 感じ取ったことを基に曲を聴いたり、表現したりする



(4) 思いや意図をもつこと

思いや意図は、表現を追求したり、曲を聴いたりしていく上で動機となったり、方向性になったり、根拠になったりするなど、とても大切なものです。



2 音楽的な感受を基に、思考・判断し表現する授業の作り方

授業の導入で児童が本時のねらいをつかめるようにすると、学習の見通しをもって授業に取り組めるようになります。また、中心となる音楽活動では、活動を通して何を学ばせるかという視点で構想すると、児童の資質・能力を伸ばすことができます。そして、終末でねらいに沿って本時の学習をまとめる時間を設けると、音楽活動を通して何を学んだのか確認することができます。

音楽科の学習は集団で行う音楽活動が多く、個の学習がおろそかになりがちな面があります。自力解決的な場と集団解決的な場を意図的に設定し、それぞれの児童の資質・能力を十分に伸ばせるようにしましょう。

(1) 音楽的な感受を基に、思考・判断し表現すること

児童は、音楽的な感受が中心となる時間で、曲の音楽的な特徴を感じ取ります。そして、表現の追求が中心となる時間では、曲の音楽的な特徴に気を付けながら、自分の表現したい思いや意図に合わせて表現を工夫します。そこで、表現の追求が中心となる時間では、音楽的な感受が中心となる時間で感じ取ったことを振り返るような助言や問い掛けなどをして、音楽的な感受と表現の追求を関連させましょう。そして、音楽的な感受を基に、思考・判断し表現できるようにしましょう。

音楽的な感受を基に、思考・判断し表現している姿の例

曲を聴いたときに、高い音が明るい感じを出していたな。



鉄琴の高い音で、星がキラキラしている感じを出そう。

音楽的な感受が中心となる時間で感じ取ったことを、音楽室に掲示したり、学習プリントにまとめておいたりしてもわかりやすいですね。



(2) 授業のポイント

これまでに紹介してきたことを実際の授業に反映させる際にポイントとなることを次のように5つ示しました。しかし、これらのポイントは必ず各時間にあるものではありませんのでP80からの各指導例では、内容に合わせて選択して記述しています。

基本的な流れと児童の意識 (例)

1 音楽学習に臨む楽しい雰囲気をつくる。



～の曲を上手に演奏できるようになってきたぞ。

2 本時のねらいをつかむ。



今日は、～に気を付けて～をすればいいんだな。

3 本時の中心となる音楽活動を行う。



自力解決的な場

僕は、～の部分を～したらいいと思うな。

集団解決的な場



みんなと表現を試したら、～という感じを出せたぞ。

4 本時の学習のまとめをする。



～を～すると、～の感じを出せることが分かったよ。

各時間で伸ばしたい資質・能力を明らかにしておきましょう。

「本時の中心となる音楽活動を行う」における3つのポイントは、自力解決的な場、集団解決的な場のどちらにもあります。



○ 本時のねらいをつかむ場面でのポイント

○ 曲の音楽的な特徴を感じ取る場面でのポイント

○ 思いや意図をもつ場面でのポイント

○ 思いや意図を共有する場面でのポイント

○ 本時の学習のまとめをする場面でのポイント

(3) 授業のポイントにおける手立ての例

授業のポイントにおける各領域や分野ごとの手立てを例示しました。具体的な事例については、P80からの指導例において、抜粋したものを紹介しています。

本時のねらいをつかむ場面でのポイント		
 <p>授業の導入では、本時は何に気を付けて学習するのかなど、教師と児童で共通理解を図り、児童が見通しをもって中心となる音楽活動に取り組めるようにしましょう。その際、学習内容への興味や必要感をもてるような手立てを取り入れましょう。</p>		
A 表現 (歌唱・器楽)	A 表現 (音楽づくり)	B 鑑賞
<ul style="list-style-type: none"> 既習曲と新出曲との比較 思いや意図の確認 など 	<ul style="list-style-type: none"> 即興的な音遊びの設定 作成過程の紹介 など 	<ul style="list-style-type: none"> 曲の特徴的な部分の提示 既習内容の想起 など

曲の音楽的な特徴を感じ取る場面でのポイント		
 <p>曲を提示する際には、児童が、本時で重点化したい学習内容に気を付けながら、曲を聴いたり、演奏したりできるようにしましょう。その際、音楽的な感受によって、曲の音楽的な特徴を感じ取れるような手立てを取り入れましょう。</p>		
A 表現 (歌唱・器楽)	A 表現 (音楽づくり)	B 鑑賞
<ul style="list-style-type: none"> 聴く観点の提示 範奏と楽譜との比較 など 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽づくりの部分的な試行 参考教材の提示 など 	<ul style="list-style-type: none"> 視聴覚教材の活用 異なる曲想部分の比較 など

思いや意図をもつ場面でのポイント		
 <p>児童が、表現や鑑賞の音楽活動に取り組む際には、音楽的な感受を基にして、思いや意図をもてるような場面を設けましょう。その際、表現教材の表現方法や鑑賞教材の聴き方などを具体的に思い浮かべられるような手立てを取り入れましょう。</p>		
A 表現 (歌唱・器楽)	A 表現 (音楽づくり)	B 鑑賞
<ul style="list-style-type: none"> 曲の音楽的な特徴の想起 ポイントを絞った表現の試行 など 	<ul style="list-style-type: none"> 試行を基にした問い掛け 主題の設定 など 	<ul style="list-style-type: none"> 感じ取ったことの類型化 参考資料の提示 など

思いや意図を共有する場面でのポイント		
 <p>児童が、表現や鑑賞の音楽活動に取り組む中でもった個々の思いや意図を共有させる場面を設けましょう。その際、友達の感じ方のよさに気付いたり、自分の感じ方を広げたりできるような手立てを取り入れましょう。</p>		
A 表現 (歌唱・器楽)	A 表現 (音楽づくり)	B 鑑賞
<ul style="list-style-type: none"> 異なる表現の比較や試行 思いや意図の類型化 など 	<ul style="list-style-type: none"> 類似点や相違点の確認 個の作品の全体試行 など 	<ul style="list-style-type: none"> 紹介文を見直す場の設定 紹介文の相互評価 など

本時の学習のまとめをする場面でのポイント		
 <p>授業の終末では、本時のねらいに沿って、感じ取ったことやできるようになったことを振り返らせ、学んだことを確認できるようにしましょう。その際、どのような資質・能力が伸びたのか、児童が実感できるような手立てを取り入れましょう。</p>		
A 表現 (歌唱・器楽)	A 表現 (音楽づくり)	B 鑑賞
<ul style="list-style-type: none"> 意図的な表現の振り返り 振り返る観点の確認 など 	<ul style="list-style-type: none"> 意図的な指名による発表 具体的な賞賛 など 	<ul style="list-style-type: none"> 紹介文と演奏との比較 板書による振り返り など

3 指導例

(1)「A表現」(歌唱)の授業

指導例：『和音の美しさを味わおう』(第5学年)(曲：静かにねむれ、それは地球)

音楽的な感受が中心となる時間の場合

伸ばしたい資質・能力	主な学習活動(抜粋)
和音の響きのよさを感じ取る力。	<p>2 本時のねらいをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「静かにねむれ」の伴奏の和音を、<u>楽譜どおりに弾いた場合と音が濁るように弾いた場合を比較して提示する。</u> <p><本時のねらい> 和音の響きに気を付けながら、曲を聴いたり歌ったりして、題材で学習することの見通しをもとう。</p>
<p>本時のねらいをつかむ場面でのポイント</p>	<p>3 本時の中心となる音楽活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「静かにねむれ」の音楽的な特徴を感じ取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・<u>範唱CDを提示する際には、本時のねらいにある和音の響きに気を付けて曲を聴くよう促す。</u> ・曲を聴いて気付いたことや感じたことを発表させる際には、和音の響きに気を付けながら鑑賞できたことを賞賛したり、<u>具体的には楽譜のどの部分が確認したりする。</u> ○「静かにねむれ」を表現して思いや意図をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・各旋律を歌ったり、鍵盤ハーモニカやリコーダーで演奏したりする際には、助唱や助奏をしたり、<u>運指を確認したりする。</u> ・歌と楽器を合わせる際には、<u>階名唱をさせたり、和音の構成音に触れさせたりする。</u> ・<u>曲を聴いたり、実際に表現したりしてどのように感じたか問い掛けるとともに、どのように表現していきたいか学習プリントに記入するよう促す。</u>
<p>曲の音楽的な特徴を感じ取る場面でのポイント</p>	<p>和音の伴奏が入ると響きがとてもよくなるから、歌の旋律ときれいに合わせて演奏したいです。</p>
<p>思いや意図をもつ場面でのポイント</p>	

表現の追求が中心となる時間の場合

伸ばしたい資質・能力	主な学習活動(抜粋)
三部の響きに気を付けて正しい音程で歌う技能。	<p>3 本時の中心となる音楽活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「それは地球」を、<u>3つの旋律が重なり合う響きに気を付けながら三部合唱する。</u> ・<u>気を付けたいことを出し合っていく際には、なぜそのことに気を付けるとよいと思ったのか、理由も交えて発表するよう促す。</u> ・<u>意見が分かれた場合には、表現を試行して選択させる。</u> ・<u>階名で歌わせたり、音の高さに合わせて手を上下させたりして、正しい音程で三部合唱できるようにする。</u>
<p>思いや意図を共有する場面でのポイント</p>	<p>4 本時の学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○<u>本時の学習を振り返って気付いたことや感じたことを発表する。</u> ・<u>三部の響きを合わせて歌うための技能を観点に、気付いたことや感じたことを振り返らせる。</u>
<p>3つの旋律が重なり合って音を伸ばす部分では、特に他の旋律の声をよく聴いて合わせたいです。</p>	<p><表れてほしい子どもの意識> 手を上下させたら音の高さが分かったし、きれいな響きにするためには、他の旋律をよく聴いて、正しい音で歌うことが大切だということが分かりました。</p>
<p>本時のねらいをつかむ場面でのポイント</p>	

(2)「A表現」(音楽づくり)の授業

指導例：『箏で旋律をつくってみよう』(第5学年)(曲：「さくらさくら」)

音楽的な感受が中心となる時間の場合

伸ばしたい資質・能力

音階の雰囲気を感じ取り、自分なりの思いや意図をもつ力。

曲の音楽的な特徴を感じ取る場面でのポイント

〈反復の例〉

七 七 八 ○ | 七 七 八 ○ |
七六五四五 ○ | 七六五四五 ○ |

主な学習活動(抜粋)

3 本時の中心となる音楽活動を行う。

- 「さくらさくら」に使われている音階の雰囲気や、反復、問いと答えといった音楽の仕組みのよさを感じ取る。
 - ・平調子の音階を箏で弾かせて、平調子の音階の雰囲気を感じ取らせる。
 - ・箏を使って、反復、問いと答えのある旋律を例示し、まとまりのある旋律のよさを感じ取らせる。

〈問いと答えの例〉

七 六 五 六 | 七 七 六 五 ○ |
五 ○ 五 六 七 | 七 七 六 七 ○ |



思いや意図をもつ場面でのポイント

○「さくらさくら」の音階の特徴を意識して即興的に演奏する。

- ・教師の即興(4拍)を模倣させたり、グループごとに一人ずつリレーでつなげて弾かせたりする。
- ・二人組で、反復、問いと答えの即興的な音楽をつくらせる。

4 本時の学習のまとめをする。

- 本時の学習で気付いたことや感じ取ったことを基に、音楽づくりに向けて思いや意図をもつ。
 - ・箏で、反復、問いと答えの即興的な音楽をつくったことを基に、次時でどのような音楽づくりをしたいか問い掛ける。

〈表れてほしい子どもの意識〉

箏を使って曲をつくると日本の感じが出せることや、問いと答えなどに気を付けると、まとまりのある旋律をつくれることがわかったので、それを生かして旋律をつくってみたいです。



終末でどのような意識をもたせるのか想定しておきましょう。

表現の追求が中心となる時間の場合

伸ばしたい資質・能力

音階の雰囲気を感じ取り、反復、問いと答えといった音楽の仕組みを生かした旋律を考える力。

思いや意図を共有する場面でのポイント

A君は、同じリズムだけど音の高さが違う旋律を組み合わせていたわ。参考にしよう。



主な学習活動(抜粋)

3 本時の中心となる音楽活動を行う。

- 自分の思いや意図を生かしながら旋律をつくる。
 - ・音楽づくりの条件やつくり方(七の弦から始め、五の弦で終わる、手順等)を説明したり、参考例を弾いたりする。
 - ・個別指導をする際には、必要に応じて、思いや意図が実際の表現のどの部分に生かされているか問い掛ける。

○つくった旋律をグループ内で発表し合う。

- ・作品を発表する際には、思いや意図と工夫したポイントを発表するよう促し、鑑賞者の聴く観点にさせる。
- ・思いや意図が伝わりやすい旋律を全員で演奏する時間を設け、それぞれの旋律のよさや面白さなどを実感できるようにする。
- ・友達作品を聴いて、自分の作品の参考にできる場合には自分の作品を見直すよう促す。

(3)「B鑑賞」の授業

指導例：『金かंगाっきの音色を感じ取ろう』（第3学年）（曲：トランペットふきの休日）

音楽的な感受が中心となる時間の場合

伸ばしたい資質・能力

音色や速度などの要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取る力。

本時のねらいをつかむ場面でのポイント



曲の音楽的な特徴を感じ取る場面でのポイント

〈板書例〉

- ・明るく元気なかんじ
- ・きょうそうしているかんじ

音色 ・明るい音 そくど ・はやい
 ・はなやかな音
 ・元気が出る音

主な学習活動（抜粋）

2 本時のねらいをつかむ。

- ・音色や速さの特徴的な部分を提示し、感想を発表させる。



明るく元気な感じのトランペットの音がしました。また、速度が速くて競争している感じがします。

〈本時のねらい〉

「トランペットふきの休日」をトランペットの音色や速度などに気を付けながら聴いて、気付いたことや感じたことをまとめよう。

3 本時の中心となる音楽活動を行う。

- 音楽を形づくっている要素に気を付けて聴き、気付いたことや感じたことを個でまとめる。
 - ・「トランペットふきの休日」を鑑賞させる際には、本時のねらいにある音色や速度などに気を付けて曲を聴くよう促す。
 - ・気付いたことや感じたことを学習プリントに記述させる際には、なぜそのように感じたのか理由も記述させる。
- 気付いたことや感じたことを発表し、音楽を形づくっている要素と、よさや面白さなどとの関わりについてまとめながら、曲の音楽的な特徴を共有する。
 - ・感じた理由も交えて発表させる。
 - ・必要に応じて、意見が出された部分をあらためて聴かせる。

曲の音楽的な特徴を感じ取る場面でのポイント

曲全体の特徴や演奏のよさを味わって聴く時間の場合

伸ばしたい資質・能力

音色や速度などの要素の働きや演奏形態などから、曲全体の特徴や演奏のよさを味わって聴く力。

思いや意図をもつ場面でのポイント



明るい音と速さが競争している感じを出していることを書きたいな。

思いや意図を共有する場面でのポイント

主な学習活動（抜粋）

3 本時の中心となる音楽活動を行う。

- 「トランペットふきの休日」を聴き、曲の音楽的な特徴を基に紹介文を書く。
 - ・曲の中で自分の好きなところを理由を交えて記述させる。
 - ・前時で、曲の音楽的な特徴についてまとめたことを参考にさせる。

〈紹介文の例〉

「トランペットふきの休日」で僕が好きなのは、トランペットの明るい音です。理由は、音を聴くと元気が出るからです。また、速度が速いので、競争している感じになるところも好きです。…（略）

- 曲の紹介文をペアやグループで発表し合う。

- ・友達が発表した曲のよさを紹介する文を参考にしながら、必要に応じて自分の紹介文を見直す。
- ・友達の紹介文で示された部分に気を付けながら、あらためて曲を聴く時間を設ける。

図画工作

Art and Handicraft

児童が主体的に造形的な創造活動を進めていくために

県が平成24年度に行った「ぐんまの子どもの基礎・基本習得状況調査」の結果から、図画工作科における児童の実態として、「材料などの特徴を基に豊かに発想すること」「材料や用具の特徴を生かして表すこと」「色の感じから、作品のよさやおもしろさを見付けること」に課題が見られました。

中でも、「材料の特徴を生かして発想すること」と「作品のよさやおもしろさを見付けること」については、指導者が重要性を十分に認識していなかったり、指導の仕方に対する苦手意識をもっていたりするということが分かりました。

そこで、本資料では、主体的に造形的な創造活動を進めていくために、児童が材料の特徴を生かして発想を広げていくためのポイントと、児童が積極的に対象に働きかけて、よさや美しさなどを感じ取ることができるようにしていくためのポイントについて示しました。

1 材料の特性を生かして発想を広げていくために

- (1) 指導者が材料の可能性を探りましょう …………… P84
- (2) 材料に応じた用具を用意して材料体験をさせましょう …………… P84
- (3) 試しの活動を充実させた題材づくりをしましょう …………… P86
 - ① 材料を基に造形遊びをする活動の題材づくり …………… P86
 - ② 表したいことを絵や立体、工作に表す活動の題材づくり …………… P88

2 積極的に対象に働きかけて、よさや美しさなどを感じ取っていくために

- (1) 様々な鑑賞対象と出会えるようにしましょう …………… P90
- (2) 表現とかわらせて鑑賞しましょう …………… P91
- (3) 互いの見方や感じ方を交流する鑑賞の題材づくりをしましょう … P92

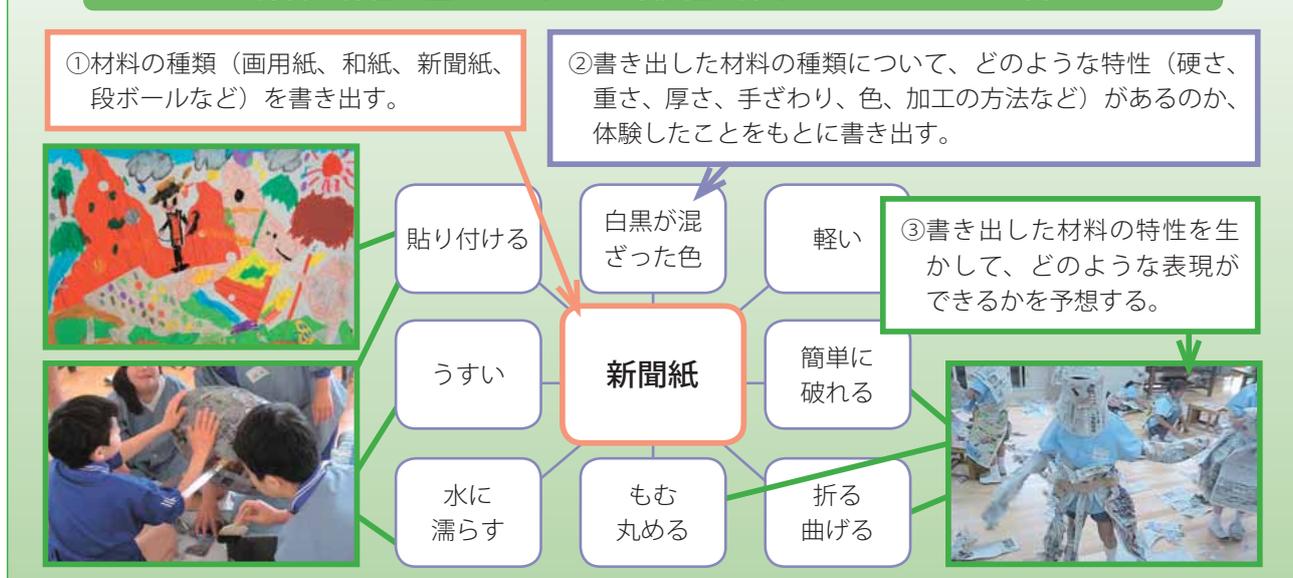
図画工作

1 材料の特性を生かして発想を広げていくために

(1) 指導者が材料の可能性を探りましょう

児童の発想を広げていくには、教師が題材で扱う材料の可能性を理解し、表れて欲しい児童の姿（発想）を想定して支援をしていく必要があります。そのためには、教師が実際に材料にふれて、どのようなことができるのか試しながら扱う材料の特性（硬さ、重さ、厚さ、手ざわり、色、加工の方法など）を体感することが大切です。破ったり、ひっかいたり、穴を開けたり、柔軟な発想でいろいろ試し、分かったことをウェビング図などに示してみましょう。

材料の特性を生かした表現の可能性を探るためのウェビング例



(2) 材料に応じた用具を用意して材料体験をさせましょう

教師が想定した児童の姿（発想）を基に、実際にふれる、試す、遊ぶなどの材料体験を重視した試しの活動を設定しましょう。試しの活動では、発達段階に応じて加工する用具を用意することで、発想に広がりをもたせることができます。扱える用具の種類は、学年ごとに計画的に増やしていきましょう。

小学校1・2年生で扱う材料や用具を生かした発想例・指導例

材料

紙

特徴

- ・切る、ちぎる、貼る、折る、曲げるなど、加工しやすい。
- ・画用紙や新聞紙など、種類が豊富で着色できる。

発想例



ちぎって穴を開けてお面に見立てる



ハサミで切って目をつけて動物に見立てる



色や模様を描いて魚に見立てる

試しの活動を取り入れた発想を広げる指導例

- 1 模造紙など大きい紙に、スポンジやローラー、手などを用いて彩色を楽しませる。
- 2 彩色した紙をもんだりちぎったりするなど、体全体を働かせて硬さや質感を楽しませながら、様々な大きさや形の異なった紙切れをつくらせる。
- 3 ちぎった紙を基に「これなあに？」ゲームをしながら、紙を回したり組み合わせたりして、形や色を基に発想させる。

小学校3・4年生で扱う材料や用具を生かした発想例・指導例

材料

木切れ

特徴

- ・切る、削る、釘を打つなど、用具を用いて加工できる。
- ・着色できる。

発想例



積み上げて、塔のようにしている



貼り付けて、階段のようにしている



釘でつなぎ、蛇のように動くようにしている

試しの活動を取り入れた発想を広げる指導例

- 1 太さの異なる角棒材、丸棒材、半丸棒材を用意し、のこぎりで様々な大きさや形に切る活動を楽しませる。
- 2 金づちの基本的な使い方を教え、大きさや太さの異なる木切れを組み合わせたしながら、いろいろな形を発想させる。
- 3 校庭や公園に落ちている枝や木切れなどを自然にできた木の形を取り入れながら発想させる。



小学校5・6年生で扱う材料や用具を生かした発想例・指導例

材料

土粘土

特徴

- ・触り心地がよく、様々な形をつくることができる。
- ・乾燥すると固くなり、焼成することができる。

発想例



ヒモ状にした形を髪の毛のようにしている



のし棒で板状にした形の両端を接合している



ヒモを動かしながら切り、複雑な形にしている

試しの活動を取り入れた発想を広げる指導例

- 1 板状に伸ばした粘土に粘土ベラでいろいろな形の切れ込みを入れさせ、切った部分を立ち上げたり折り曲げたりして、できる形を楽しませる。
- 2 ヒモ状に伸ばした粘土を貼り付けたり、様々な形のヘラで傷を付けたりしながら、発想を広げさせる。



指導のポイント

個別に支援を行う際は、教師が発想の方向性を安易に示すことなく、一緒に材料と関わりながら、特性を児童に感じ取らせるよう声掛けを行い、発想を引き出すように心掛けましょう。



このガタガタした形をよく見てみると何に見えてくるかな？

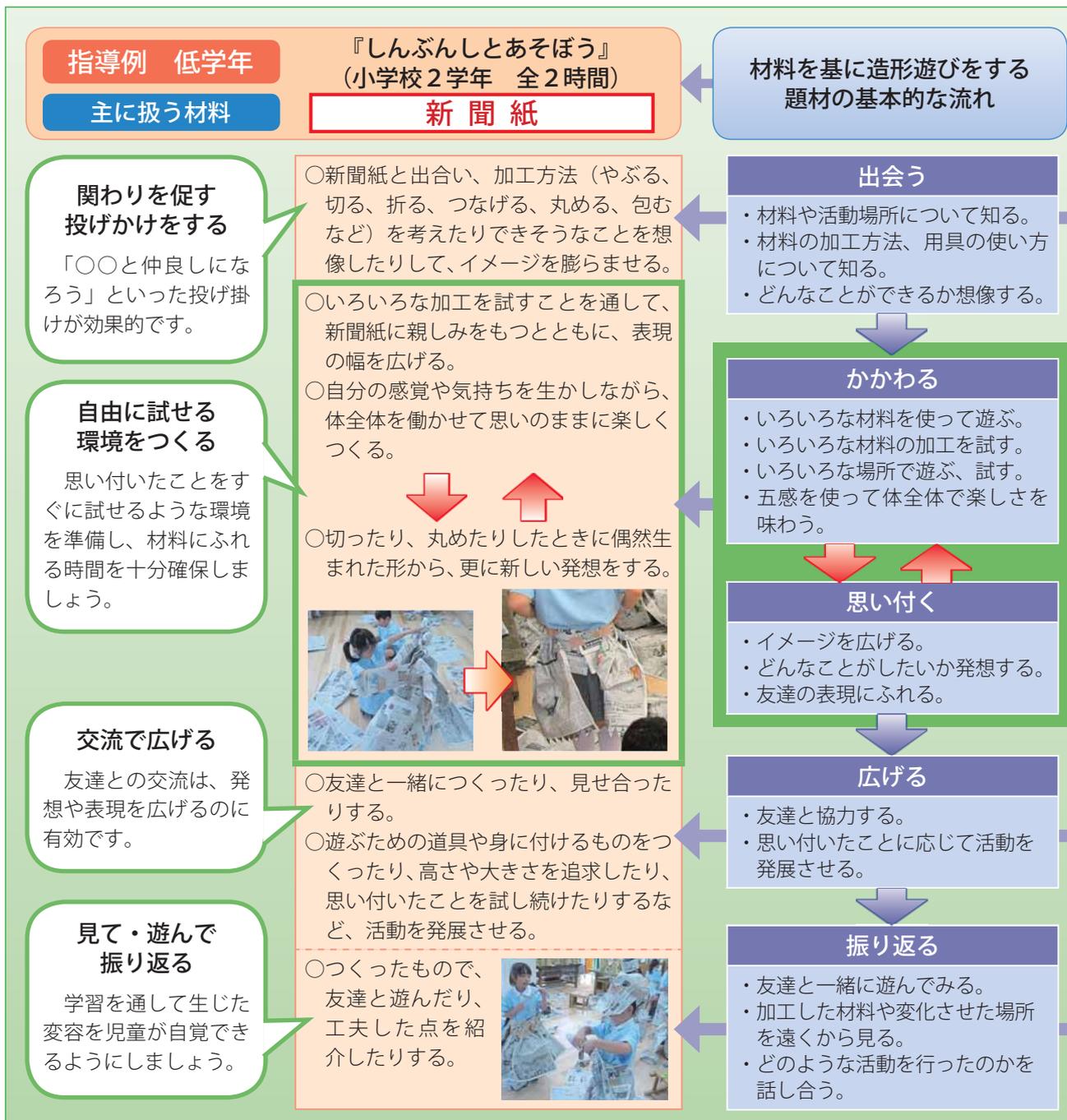
どうしようかな？



(3) 試しの活動を充実させた題材づくりをしましょう

① 材料を基に造形遊びをする活動の題材づくり

「材料を基に造形遊びをする」は、思い付くままに試みる「遊び」の教育的な効果を生かして、造形的な資質や能力を培おうとする活動であり、材料と関わることそのものが目的となります。題材自体が試しの活動と考えることもできます。低学年では、扱う材料の大きさや活動の場の広さを考慮し、体全体を働かせて楽しくつくることができるようにしましょう。



関わりを促す 投げかけをする

「〇〇と仲良しになろう」といった投げ掛けが効果的です。

自由に試せる 環境をつくる

思い付いたことをすぐに試せるような環境を準備し、材料にふれる時間を十分確保しましょう。

交流で広げる

友達との交流は、発想や表現を広げるのに有効です。

見て・遊んで 振り返る

学習を通して生じた変容を児童が自覚できるようにしましょう。

○新聞紙と出会い、加工方法（やぶる、切る、折る、つなげる、丸める、包むなど）を考えたりできそうなことを想像したりして、イメージを膨らませる。

○いろいろな加工を試すことを通して、新聞紙に親しみをもつとともに、表現の幅を広げる。

○自分の感覚や気持ちを生かしながら、体全体を働かせて思いのままに楽しくつくる。

○切ったり、丸めたりしたときに偶然生まれた形から、更に新しい発想をする。




○友達と一緒につくったり、見せ合ったりする。

○遊ぶための道具や身に付けるものをつくったり、高さや大きさを追求したり、思い付いたことを試し続けたりするなど、活動を発展させる。

○つくったもので、友達と遊んだり、工夫した点を紹介したりする。



発想に生かしたい新聞紙の特性

- ・ざらついた質感
- ・縦方向に破れやすい
- ・丸めると弾力が出る
- ・しわくちゃにすると柔らかくなる
- など

指導のポイント

日頃から多様な材料を集めておく

「造形遊び」では、材料集めがとても大切な活動となります。日頃から「材料コーナー」などを設け、使えそうな材料を持ち寄らせるようにしましょう。その活動が児童の関心を高め、発想を広げることにつながります。



具体的な言葉で賞賛する

賞賛の言葉は、児童の造形活動への意欲を高めます。具体的な賞賛の言葉をたくさん用意しておき、タイミングよく賞賛していきましょう。

具体的な賞賛の例

- ・「おもしろい形ができたね」
- ・「ここの色の組み合わせがきれいだね」
- ・「あなただけの工夫が見つけられたね」

評価に映像記録を活用する

児童の目の高さで、表現や表情を見たり、つぶやきを拾ったりして、思いや工夫を発見することが何より大切です。カメラやビデオを用いて記録を残すことで、発想の変化や広がりや評価をしていきましょう。

学年が上がるごとに、児童の意識が身の回りから周囲の環境へと広がります。高学年では、場所の広さや形などの特徴も視野に入れ、周囲の様子を考えて構成したり、経験や技能などを総合的に生かしたりしてつくることができるようにしましょう。

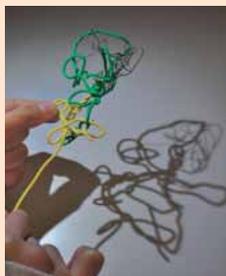
指導例 高学年

『広がれ！不思議な針金ワールド』
(小学校5学年 全2時間)

主に扱う材料

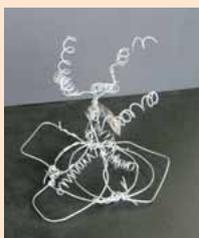
針金

- 針金にふれながら、どのような加工ができるかを交流する。(切る、曲げる、つぶす、つなげる、巻くなど)
- 教室や廊下の一角(黒板、ロッカー、窓際、出入り口など)を不思議な雰囲気(怖い感じ、楽しい感じ等)につくりかえるにはどうしたらよいか話し合い、活動のイメージを膨らませる。
- 不思議な雰囲気を出したい場所に働きかけるとともに、針金の様々な加工を試しながら、思い思いに表現する。(窓際で、針金でつくったものの影が生き物に見えるようにする、出入り口の戸にいろいろなバネの飾りをつけ、開け閉めの際に揺れるようにするなど)



- 場所ごとに集まった友達と交流しながら、つくったものを見せ合ったり、つなげたり、協力して大きなものをつくったりする。

- 教室内につくられた様々な形や場の雰囲気を味わい、よさを見付ける。



多様な材料・用具をそろえておく

多様な太さ、堅さの材料、加工に必要な用具を十分用意しておきましょう。

安全指導を徹底する

用具の正しい使い方を教師が実際にやって見せて、配慮する点を意識させましょう。

中・高学年は場所も生かす

中・高学年は、自然物や人工物で構成された空間、光や風、人が出入りする場所、時間によって変化する様子などに目を向けられるようにしましょう。

グループ活動で発想を刺激する

あらかじめグループを決めるのではなく、材料や場所と関わる中で自然に交流できるような展開で環境づくりをしていきましょう。

発想に生かしたい針金の特性

- ・手やペンチで自由に曲げられる
- ・光沢がある
- ・曲げた形がそのまま保たれる
- ・曲げた形をもとにもどせる
- ・ねじって巻き付けられる
- など

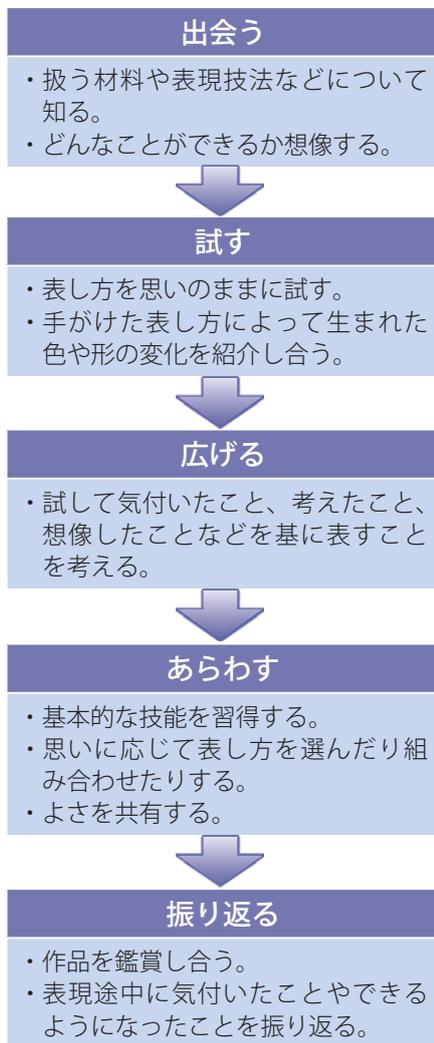
② 表したいことを絵や立体、工作に表す活動の題材づくり

「絵や立体、工作に表す」は、造形遊びと異なり、イメージを基に「自分が表したいこと」を見つけて表す活動です。「自分が表したいこと」を見つけていくには、材料に実際にふれたり遊んだりする試しの活動や言葉で整理する活動などで思いを膨らませていくことが大切です。

また、題材をつくる際、扱う材料や用具について児童がどのような経験を積んでいるのかを教師が予め把握しておき、経験の有無によって題材の流れを変えていく必要があります。

主に扱う材料や用具に初めて出会う場合の題材

新しい材料や用具を扱う 題材の基本的な流れ



発想に生かしたい 紙皿・紙コップの特性

- 円形をしている
- いろいろな大きさがある
- 貼り合わせると立体になる
- ハサミやカッターで切れる
など

指導例 低学年

『あつまれ たのしい なかまたち』
(小学校2学年 全6時間)

主に扱う材料

紙皿・紙コップ

- 色画用紙を台紙とし、紙皿や紙コップ、色紙などを使って、学校を楽しく飾るものをつくることを知る。
- 紙皿や紙コップなどを自由に切ったり組み合わせたりして、表せそうなものを考える。
(切る、組み合わせる、貼り付ける、色を塗るなど)
- 試して考えた表せそうなものを紹介し合う。
- 試しの活動を経て膨らませた思いや願いを基に、表すものを考える。
- 丈夫につくるための基本的な技術を知る。
(断面を平らに切る、のりしろを生かして貼る、のりやボンド、ホチキス、テープなどで貼る)
- 思いや願いに応じて、色紙を貼り付けたりカラーペンやクレヨンで彩色したりして仕上げる。
- 飾り付けた作品を見合い、よさを確かめたり、友達に工夫した表し方を紹介したりする。



くまのピエロが玉に乗っているよ。いろいろな色で楽しい感じにしたよ。



紙皿の端っこのガタガタを使って、ロボットの手と足をつくったよ。

参考作品は あまり見せない

参考作品は影響が大きいため、児童の発想を限定しないよう、必要最低限なものにとどめましょう。

試す時間を確保して 気づきを交流させる

材料や用具にじっくりふれる時間を設定し、ふれる中で気付いた特徴・特性を交流するなどして全体で共有していくようにしましょう。

問い掛けて 意識させる

児童の感じ方を共感的に受け止め、どのような表し方を試したのかを問い掛けて、生まれたよさ、気付いた特徴を児童が意識できるようにしましょう。

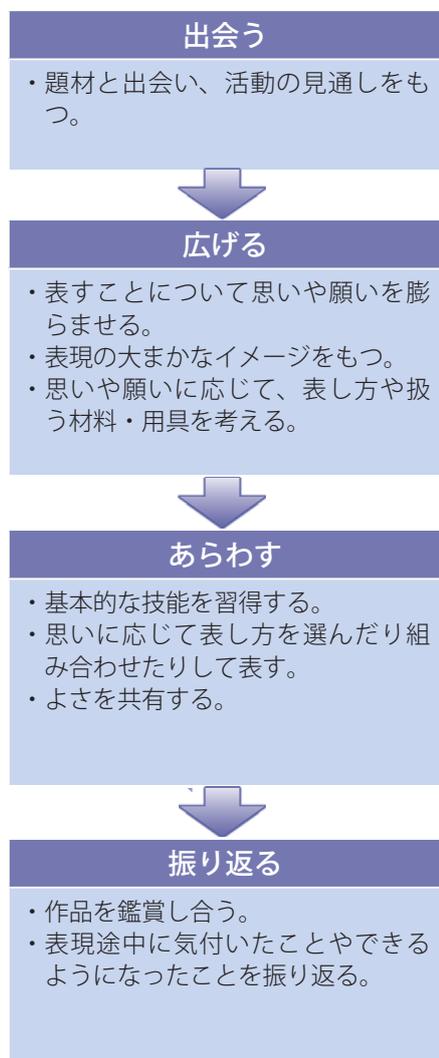
基本的な扱いは 演示する

思いや願いを具現化するために必要となる材料や用具の基本的な扱い方は、図を用いたりやって見せたりして教えましょう。

題材で主に扱う材料や用具にふれる経験を過去の題材の中で積んできている場合には、材料や用具について気付いたことや身に付けたことを積極的に発揮したり、さらに発展させたりできるようにすることが大切です。そのために、経験を通して気付いたことや身に付けたことを想起し、材料や用具をどのように扱えば思いや願いを具現化することにつながるかを考える活動を位置付けていくようにしましょう。

主に扱う材料や用具に対する経験がある場合の題材

経験を生かして取り組む題材の基本的な流れ



発想に生かしたい水彩絵の具・クレヨンの技法

- ・薄く塗って重ねる
 - ・水を含ませてぼかす
 - ・2つの色をにじませる
 - ・バチック（はじき絵）
- など

指導例 中学年

『 お話 大好き 』
(小学校3学年 全8時間)

主に扱う材料

水彩絵の具・クレヨン

- 「海の楽隊」の話聞き、印象に残った場面について話し合う。
- 印象に残った場面を絵に表すことを知る。
- 印象に残った場面の中で中心に表したいことを考え、簡単なスケッチに表す。
- これまで経験した表現技法の資料を見て、その特徴や効果的な使い方を発表し合い、表し方を考える。



バチック（はじき絵）



クレヨンのぼかし



タッチを生かす



にじみ

- 水彩絵の具やクレヨンなどを使って表す。
- 思いや願いを紹介し合い、表現途中の作品を見合う。

いろいろな色合いの青を、筆の跡が残るように塗り重ねたら、嵐の海の激しい波の感じが表せたよ。



- 友達の表現のよさや工夫を見付け、紹介し合う。



経験した技法を振り返る

これまで経験した表現技法を資料として提示し、感じや特徴について話し合わせましょう。ここでとらえた技法の特徴などを基に、思いや願いに応じた表し方を考えさせましょう。

よさを褒めて広げる

表現の途中によさが表れた児童の表現を賞賛したり、紹介したりして、児童同士が関わり合いながら、自ら表し方を見付けたり、コツをつかんだりできるようにしましょう。

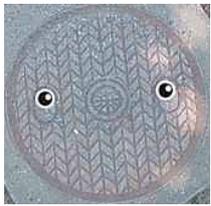
試しの活動の記録を残すことで次の表現に生かす

活動を通して気付いたこと、学んだことを記録してファイルに綴じておき、別の表現に取り組む際に振り返る場を設けると、経験が生かされています。試しの活動や作品の写真などを綴じておくとより効果的です。

2 積極的に対象に働きかけて、よさや美しさをなどを感じ取っていくために

(1) 様々な鑑賞対象と出会えるようにしましょう

鑑賞は、児童が積極的に対象に働きかけ、よさや美しさ、表現の特徴や表し方の変化などを感じ取る活動です。鑑賞対象は、児童が興味・関心をもてるよう、身近にあるものから美術作品まで、発達段階に応じて対象を変化させるとともに、偏ることなく幅広く扱っていきましょう。

	鑑賞対象の例	活動例
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの作品 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品 ・友だちの作品 ・先輩の作品 	<ul style="list-style-type: none"> ○友だちの作品を対象とした鑑賞活動 <ul style="list-style-type: none"> ・好きなところを指さす ・きれいだと思った色を例えて言う
	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な材料 <ul style="list-style-type: none"> ・植物 ・動物 ・影 ・土 ・水 ・石 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な材料全般を対象とした鑑賞活動 <ul style="list-style-type: none"> 「てざわりコレクション」 ・ものにふれる ・ものを集める ・フロッタージュ (こすり出し) する 
	<ul style="list-style-type: none"> ○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・絵本 	<ul style="list-style-type: none"> ○絵本を対象とした鑑賞活動 <ul style="list-style-type: none"> 「えほんとなかよし」 ・描かれた登場人物などと同じ姿勢をとる ・表情をまねる
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ※低学年までの対象に加え 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○身近なもの <ul style="list-style-type: none"> ・風景 ・校舎 ・遊具 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な風景を対象とした鑑賞活動 <ul style="list-style-type: none"> 「アートな景色を発見し隊」 ・見る向きや方向、高さを変えてみる ・デジタルカメラで撮影したものを紹介し合う 
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な美術作品 <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な玩具 ・日用品 ・地域の美術館の作品 ・アートカード 	<ul style="list-style-type: none"> ○アートカードを対象とした鑑賞活動 <ul style="list-style-type: none"> 「アート・レポーターになろう」 ・絵の中でおきていることを想像してメモする ・仲間に絵をレポートし、質問に答える
	<ul style="list-style-type: none"> ※中学年までの対象に加え 	
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ○暮らしの中の作品 <ul style="list-style-type: none"> ・標識 ・文房具 	<ul style="list-style-type: none"> ○文房具を対象とした鑑賞活動 <ul style="list-style-type: none"> 「使いやすいのはどれ」 ・五感を使って感じた違いを話し合う ・使いやすい自分なりの理由を見付ける 
	<ul style="list-style-type: none"> ○日本や外国の親しみある美術作品 <ul style="list-style-type: none"> ・浮世絵 ・だまし絵 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の伝統的な作品を対象とした鑑賞活動 <ul style="list-style-type: none"> 「屏風の楽しみ方」 ・昔の人や生活を想像しながら使ってみる ・飾る場所や方法を考える 

(2) 表現とかかわらせて鑑賞しましょう

表現における鑑賞には次の①と②があります。鑑賞する対象や目的を教師が十分理解して、表現の活動が充実するように効果的に設定しましょう。

さらに、鑑賞活動を充実させるためには、感じたり考えたりしたことを他の人と伝え合うことで、見方や感じ方を深めていくことが大切です。そのためには、[共通事項] (形・色・材料・イメージなど) を生かした言語活動を効果的に取り入れましょう。

① 題材で用いる材料や参考作品を対象とした鑑賞

「造形遊び」「絵や立体、工作に表す」の題材の「出会う」「かかわる」「広げる」等それぞれの場面において行う鑑賞活動です。表現題材の前半に位置付けて、身近な材料 (参考作品) のよさや美しさ、面白さ、特徴などを感じ取り、表現活動に生かしていきます。

絵や立体、工作に表す題材の基本的な流れ



指導例 高学年

『物語の世界へ』
(小学校 第5学年 物語絵の製作)

鑑賞対象

先輩の作品

1 同じ物語の絵で主題や構図が異なる複数の参考作品を比べ、感じたことや気付いたことを話し合う。

- ・「どのような感じがするのか」「どうしてそのような感じがするのか」感じ方と表されたものとの関連を、形や色を視点に問いかけ、様々な気づきを引き出すようにする。



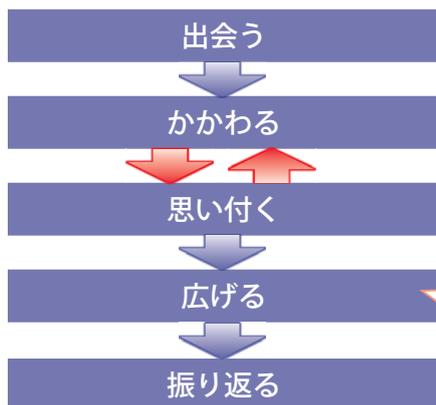
2 鑑賞した参考作品の解説文を書いてみる。

- ・いつ、どこで、何が、どうしたなど焦点化しやすい文で書き、互いに紹介し合うようにする。

② 自他の製作している作品を対象とした鑑賞

「造形遊び」「絵や立体、工作に表す」等の題材の中盤から後半に位置付けて、自他の表現 (作品) のよさや美しさ、面白さ、特徴や表し方の変化などを感じ取り、自分の表現を振り返って表し方を工夫していくことに生かしていきます。

材料を基に造形遊びをする題材の基本的な流れ



指導例 中学年

『すてきな場所にカラフルクモの巣』
(小学校 第3学年)

鑑賞対象

友だちの作品

◎自分たちの身近にある、素敵な場所にふさわしいクモの巣をイメージして、スズランテープ、毛糸、アルミホイルなどでつくる。

1 少し離れた高い場所から、それぞれがつくったクモの巣を互いに見合い、感じたことを交流する。

- ・「広い空間の中で、形や色のバランスについて着目させる」「動きに着目させながら風が吹いて揺れる様子を鑑賞させる」「昆虫になった目線で鑑賞させる」など

2 新たな見方や感じ方をもとに、自分のクモの巣を広げたり、互いの巣をつなげたりしていく。

(3) 互いの見方や感じ方を交流する鑑賞の題材づくりをしましょう

鑑賞する活動を独立して題材とする場合には、児童一人一人が主体的に鑑賞できるように次の点に留意して指導していきましょう。

- 自分の目でじっくりと見る時間をつくる
- 作品にふれたり追体験したりするなどの実感を伴った活動を取り入れる
- 絵や図、言語に自分の考えを表出させていく活動を取り入れる
- 自然に交流が生まれる伝えあう場を設定する
- 必要に応じて鑑賞対象に関する知識を与えて鑑賞の深化を図る

鑑賞する活動を独立させた題材の基本的な流れ

出会う

- ・鑑賞対象と出会う。
- ・対象の基本的な情報を得る。
- ・全体の感じをとらえる。
- ・印象、疑問、気付きなどを発表し合う。



確かめる

- ・細かいところ、気になるところに着目してじっくり見る。
- ・聞いたり調べたりして新たな情報を得る。
- ・五感と関わらせて感じる。
- ・実際に自分で体験してみる。
- ・形や色から伝わるイメージや感情などを想像する。



深める

- ・互いの見方や感じ方、想像したことなどを交流する。
- ・新たな見方や、感じ方を基に再び対象を味わう。
- ・他の対象に鑑賞を広げていく。



振り返る

- ・活動を通して、変化した自分の考え方や価値観について考える。
- ・作品づくりや日常生活との関わりを見いだす。

指導例 高学年

『アートレポーターになろう』
(小学校5学年 全2時間)

鑑賞対象

アートカード

- アートレポーターの役割を知り、美術作品の紹介に関心をもつ。
- 美術作品の図版やアートカード等を使って、想像を働かせるゲームを行う。
- 参考図版を使って美術作品の紹介に盛り込む内容を全員で話し合い、鑑賞の視点をつかむ。



- 個々に美術作品の図版をアートレポーターになって紹介する内容や方法について考える。



- アートレポーターになって、美術作品を互いに紹介し合う。



- 活動を通して感じたこと、考えたことをまとめる。

距離感を縮める

対象との出会いでは、遊びの要素を取り入れたり、身近な対象を取り上げたりして、対象との距離感を縮め、関心や意欲を高めるようにしましょう。

視点を絞る

始めから情報を与えるのではなく「この世界では何が起きているのかな」など、想像を広げる発問をしていきましょう。

形、色、イメージを基に対象を見る際の視点を共通理解させ、互いの見方や感じ方を交流させましょう。

話しやすくする

学習形態を工夫し、互いの考えを伝えやすい学習環境づくりに留意しましょう。付箋などを活用し、意見を可視化していくことも効果的です。

自分の言葉で書かせる

ワークシートなどに自分の振り返りを言葉で書かせましょう。

家庭

Home Economics

生活の中で生きて働く力を身に付けさせるために

家庭科では、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、それを生かして生活をよりよくしようと工夫する力を育てることが大切です。

本資料で扱う基礎的・基本的な知識・技能においては、特に群馬の子どもの課題ととらえた調理や製作の技能に着目し、包丁や針、ミシンなどの用具の使い方について、効果的な習得につなげる指導の在り方を記述しました。

また、生活をよりよくしようと工夫する力においては、「工夫」が指導事項として取り上げられている内容について、授業づくりを具体的に解説し、いくつかの指導例を示しました。

さらに、技能習得につなげる評価のポイントと、家庭科としてのねらいを明確にした授業づくりについて記述しました。

- 1 調理や製作の技能を効果的に習得させる授業づくり …… P 94
 - (1)初めて包丁を扱う授業 …… P 94
 - (2)調理における伸ばしたい資質・能力と材料の選び方 …… P 95
 - (3)針と糸に慣れる授業(初めてのなみ縫い) …… P 96
 - (4)初めてミシンを扱う授業 …… P 97
- 2 生活の工夫について考えさせる授業づくり …… P 98
 - (1)授業づくりのポイント …… P 98
 - (2)指導例(6例) …… P 99
- 3 技能習得につなげる評価のポイント …… P 100
- 4 家庭科としてのねらいを明確にした授業づくり …… P 101
 - (1)専門家を招いた授業 …… P 101
 - (2)ねらいを達成するための言語活動の充実 …… P 102
 - (3)中学校との系統性や他教科等との関連 …… P 102

1 調理や製作の技能を効果的に習得させる授業づくり

(1) 初めて包丁を扱う授業

調理に関わる児童の経験は様々です。中には、一度も包丁を使った経験のない児童も見られます。第5学年で初めて調理実習を行う前に、包丁を中心とした調理用具の扱い方を指導する時間を設けるようにしましょう。

《伸ばしたい資質・能力》包丁の安全な取扱いができる **指導プランP54**

包丁を使って実際に食品を切ることを体験しながら、包丁の扱い方を身に付けさせるとともに、あわせて調理室での約束事を確認していきましょう。

**指導例：『やってみよう 家庭の仕事
—調理に挑戦しよう—』
(第5学年 第2時/全10時間)**

1 本時の課題をつかむ。<3分>

- 本時は、きゅうりを切ることを通して、包丁などの調理用具の扱い方を身に付けながら、調理室のルールについても学習することを伝える。

きゅうりを切ることを通して、包丁の使い方や調理室でのルールを覚えよう。

2 包丁の使い方を確認しながら、きゅうりの輪切りの実習を行う。<40分>

- 包丁の適切な扱い方について示範を行い、ポイントを確認する。
- 一人1本ずつきゅうりの輪切り(厚さ2mm程度)に挑戦させる。
- 厚さがわかるように各班にきゅうりの見本を配布する。
- ペアになって交替で行い、互いの様子を観察させる。



3 包丁を使ってみて、気付いたことをまとめる。

ぼくは、人差し指をみねにそわせて持った方が切りやすかったよ。



押さえる手は、包丁にそわせると、安定して切りやすいわ。



4 全体で包丁の使い方について確認する。

- ・まな板の正面に立ち、利き手側の足を一步引く。
- ・包丁は、押すように動かすと使いやすい。
- ・押さえる手は、指先を丸めて包丁にそわせる。

○言葉で確認するだけでなく、もう一度示範を行ったり、実際にやらせてみたりする。

○調理室でのルールを確認しながら、後片付けをさせる。

5 本時のまとめと次時の予告を聞く。<2分>

- 学習カード「包丁名人を目指そう」を提示し、家庭での実践を促す。 **指導プランP111**

扱う材料と切り方

- きゅうりのように、やわらかく、切りやすい食品を選びましょう。また、生でも食べられるものを使い試食をすることで、児童の達成感につなげることができます。
- 薄く切らせることで、押さえる手を包丁にそわせる必要性を実感できます。



示範の有効性

- 技能を身に付けさせるためには、教師の示範が有効です。経験のない児童にとっては、まずやってみせることで、自分ができるイメージをもつこととなります。
- 確認の際に示範を行うことも技能の定着につながります。

調理室でのルール

- 1 身じたく(エプロン・三角きん・マスク等)をきちんとする
- 2 走らない
- 3 調理台の上はいつも整理整頓しておく
- 4 実習中はいすを片付ける
- 5 床がぬれたら、すぐにふく
- 6 使った用具はふいて(乾かして)から元の場所に戻す
- 7 包丁の扱い方の約束を守る
- 8 火のそばには物を置かない 等

- 調理室を使用するときの約束を掲示するなどして、いつでも守れるように指導していきましょう。

*塩の計量を取り入れ、計量スプーンの扱い方の学習とあわせて行うと、きゅうりを浅漬けにして食べることもできます。

(2) 調理における伸ばしたい資質・能力と材料の選び方

児童の興味・関心に任せて調理実習の材料を決めていませんか？ 調理実習を通して「何を教えたいか」によって、扱う材料は異なるはずですが、包丁を使う技能も含め、指導する内容に応じて材料を決めるようにしましょう。

《伸ばしたい資質・能力》 ゆでる調理ができる 指導プランP54

<ゆでる調理の特性（野菜の場合）>

・かさが減る ・柔らかくなる ・色が鮮やかになる ・甘くなる

ブロッコリー

- ①沸騰してからゆでる
- ②柔らかくなる、色が鮮やかになる
- ③小房に分ける

キャベツ

- ①沸騰してからゆでる
- ②かさが減る、柔らかくなる、甘くなる
- ③たんざく切り（せん切り）



トマト

- ③くし形切り

卵

- ①水からゆでる
- ②固まる
- ③半分に切る

その材料で指導できること

- ①ゆで方
 - ②ゆでる調理の特性
 - ③切り方
- を示しています。



*ほうれんそうのように絞れるものは、水にさらして冷まします。

<その他の材料>

- ・にんじん：①水から ②柔らかくなる、色が鮮やかになる、甘くなる ③いちょう切り、半月切りなど
- ・ほうれんそう：①沸騰してから ②かさが減る、柔らかくなる、色が鮮やかになる ③長さをそろえて切る

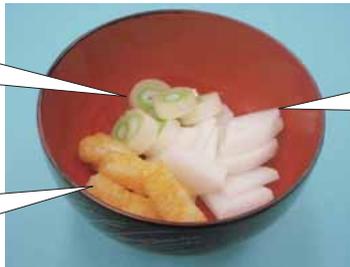
《伸ばしたい資質・能力》 みそ汁の調理ができる 指導プランP54

<材料の違いによって指導できるみそ汁づくりのポイント>

・煮えにくい実から入れる ・代表的な切り方ができる

ねぎ

- ①だいこんの次に入れる場合→②ななめ切り、小口切り
- ①火を止める直前に入れる場合→②うす切り



だいこん

- ①先に入れて柔らかくなるまで煮る
- ②皮むき、いちょう切り、せん切り

油あげ

- ①だいこんが柔らかくなってから入れる
- ②たんざく切り

その材料で指導できること

- ①実を入れるタイミング
 - ②切り方など
- を示しています。



*火の通りやすさが異なる材料を2、3種類扱うことで、実を入れる順序を確認することができます。しかし、「豆腐となめこのみそ汁」などの調理では、実を入れる順や切り方がほとんど指導できません。実を入れるタイミングとともに、包丁を使って代表的な切り方を指導できるように、材料を選びましょう。

包丁を使った皮むきを一度は体験させましょう。最初は、柔らかいキウイフルーツや凸凹のないりんごが指導に適しています。また、巻き尺やリボンに皮を見立て、紙で作った包丁で皮むきの練習をすることで、親指の使い方の上達につながります。



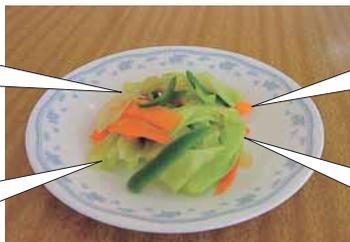
《伸ばしたい資質・能力》 いためる調理ができる 指導プランP55

<材料の違いによって指導できるいためる調理のポイント>

・熱の通りが均一になるような切り方ができる ・火が通りにくいものからいためる

②ピーマン

- ・種を取って、せん切り
- ・にんじんがしんなりしたら入れる



①にんじん

- ・たんざく切り
- ・火が通りにくいので、最初にいためる

④キャベツ

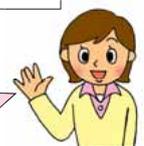
- ・しんを取って、たんざく切り
- ・最後にいためる

③たまねぎ

- ・皮をむいて、うす切り
- ・にんじんがしんなりしたら入れる

*火の通りやすさが異なる材料を扱い、熱の通りが均一になるような手順や切り方を工夫させましょう。また、にんじんを扱う際には、繊維の方向を説明しながら、たんざく切りの手順を示すようにしましょう。

①～④は、いためる順を示しています。



(3) 針と糸に慣れる授業 (初めてのなみ縫い)

調理の経験よりもさらに不足しているのが、裁縫の経験です。まず最初に、十分に針と糸に慣れさせることが、手縫いの基礎を身に付けることにつながります。

《伸ばしたい資質・能力》手縫いの基礎を身に付ける **指導プランP56**

適度な柔らかさや薄さの扱いやすい布地を選び、楽しみながら繰り返し取り組める教材や課題を工夫して、手縫いの基礎の習得を図りましょう。

指導例：『やってみよう 家庭の仕事 —針と糸を使ってみよう—』 (第5学年 第3時/全8時間)

1 本時の課題をつかむ。<8分>

- 前時の復習として、針に糸を通したり、玉結び、玉どめをしたりして、ウォーミングアップさせる。
- 本時は、さらしを用いたふきん作りを通して、なみ縫いを身に付けていくことを伝える。

ふきん作りを通して、なみ縫いのコツを見付けよう。

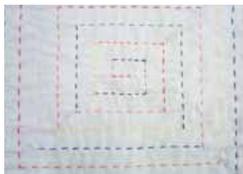
2 なみ縫いによるふきん作りに取り組む。<35分>

- 次のような、なみ縫いのポイントに気付けるように、適切な見本とそうでないものを提示し、比較させる。

【なみ縫いのポイント】

- ・ 5mmくらいの間隔の縫い目で縫う。
- ・ 表裏の縫い目を同じにする。
- ・ まっすぐに縫う。
- ・ 縫い目を平らにする。(つれていない)

- 見本を観察し縫い方を考えさせてから、示範を行う。示範の際には、布をすくって縫うことや縫い目を指先でさくことにも触れるようにする。
- 作業を通じて、針やはさみの扱いには、十分に注意させる。



3 なみ縫いをして気付いたことをまとめる。



2、3回続けてすくうと、速く縫えるよ。



布を持つと縫いやすいわ。

4 全体でコツを紹介し合う。



- ①左手で針の近く
 - ②布を上下させる
 - ③縫い目をしごいの布をつかむ
- 感じて動かす
て平らにする

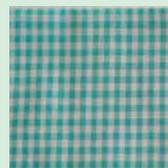
- 確認したコツを各自が試すことで共有させる。

5 本時のまとめと次時の予告を聞く。<2分>

- 次時は、今日つかんだコツを生かして、ふきんづくりを進めていくことを知らせる。

扱う製作題材や布の種類

- まずは直線の練習ができるものを扱います。
- さらしやフェルトを用いると、柔らかく扱いやすいだけでなく布端の始末が不要です。
- チェック柄の布を用いると、柄の間隔に合わせて運針練習をすることもできます。



見通しのもたせ方とコツの共有

- 見本や示範から縫い方を確認し、作業の見通しをもたせましょう。
- 見本には失敗したものなども提示すると、縫い方のポイントに気付かせやすくなります。
- 縫い方のポイントを確認してから各自に取り組ませ、正しい縫い目を意識しながら練習させましょう。まとめで、ポイントに沿って自己評価を行う場面を設定することもできます。
- コツを共有しそれを最後に試すことで、技能の定着につながります。

安全面への配慮 (針やはさみ)

- 針の本数の確認や、縫う際の針の引き方など、最初に徹底して指導しましょう。



(4) 初めてミシンを扱う授業

ミシンの操作に苦手意識をもつ児童は少なくありません。中学生になっても、上糸や下糸の準備が一人でできない生徒も見られます。児童2人にミシン1台を確保するなど、一人一人が十分にミシンを使う機会を保障するのはもちろん、ボランティアを依頼してきめ細かに指導するなど、指導体制も工夫しましょう。

《伸ばしたい資質・能力》ミシン縫いの基礎を身に付け、直線縫いができる **指導プランP56**

縫い始め、縫い終わりの処理や角の縫い方を考えさせられるような教材や課題を取り入れて、一人一人に丈夫できれいに縫う方法を体験させる場面を設定しましょう。

指導例：『ミシンを使って、ランチョンマットを作ろう』
(第5学年 第2, 3時/全11時間)

1 本時の課題をつかむ。<10分>

- 本時はミシンの基本的な操作を学習することを伝える。

ミシンの使い方を覚えて、丈夫できれいに縫う方法を見つけよう。

- ミシンを運ぶ際の注意や、ミシン各部の名称を確認する。

2 一人一人がミシンを用いて直線縫いを体験する。<75分>

- ミシンに慣れるため、針を付けて空縫いを行わせる。
- 「下糸を巻く」「下糸を入れる」「上糸をかける」をスモールステップで示範する。その都度ペアで交替して、全員に体験させる。



スタート



練習布

- 示範の際は、手元が見えるよう工夫したり、動画を利用したりして説明する。ボランティアを依頼できる場合には、グループごとに示範してもらおうとよい。
- 右図を提示し、縫い始めと縫い終わりを丈夫にしたり、角をきれいに縫ったりする方法を考えさせる。
- 縫い始めと縫い終わりは返し縫い、角は直角にすることを確認し、一人一人に試し縫いを行わせる。

3 縫い始めと縫い終わり、角の縫い方で気付いたことをまとめる。

縫い始めるときに先に針を刺すとずれないで縫えたわ。



ゆっくり縫いたいときには、はずみ車を手で回すといいよ。



4 全体で、丈夫できれいに縫う方法を確認する。

- ・ミシンの正面に座り、印をよく見て縫う。
- ・縫い始めの位置に針を刺してから押さえを下ろす。
- ・縫い始めと縫い終わりは、必ず返し縫いをする。
- ・角は針を刺したまま押さえをあげて向きを変える。

- 丈夫できれいに縫う方法を各自が試す。

5 本時のまとめと次時の予告を聞く。<5分>

- 安全に気を付けて、後片付けを行わせる。

扱いたい製作題材

- ミシン縫いの基礎では、ランチョンマット、エプロンなど平面的なものを扱きましょう。
- ここで、三つ折り、しつけ縫い、まち針やアイロンの扱い方等も指導できます。



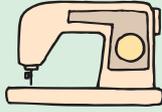
見通しのもたせ方とコツの共有

- やり方を丁寧に示すだけでなく、まず、方法を考えさせてから、やり方を確認することで、製作の場面で活用できる技能としての定着を図りましょう。
- 手縫いやミシンの操作など細かな作業では、実物投影機などのICTを活用すると効果的です。
- コツを共有し、それを最後に各自が試す場面を設定しましょう。

安全面への配慮 (ミシン)

- 縫うとき以外は、ミシンの電源を切っておく。
- 作業は一人で行う。
- 他の人がミシンを使っているときには、その人やミシンを触らない。
- 縫っているときには、よそ見をしない。

- 製作では、ミシンと平行してアイロンを使用する場面もあります。安全な使用について、特に徹底させましょう。




*調理と同様に、製作題材や材料の選定によって指導できること（製作手順や見積もり、しるし付け、裁ちばさみやまち針の使い方等）が異なってきます。

2 生活の工夫について考えさせる授業づくり

(1) 授業づくりのポイント

「工夫すること」自体が指導事項になっている授業を展開する際に、児童からいろいろな工夫を出させ、「たくさんの工夫が見つかったね。」など、見付けるだけで終わりにしていませんか？ しかし、それだけでは実際の生活の場面での活用にはつながりません。見付けた工夫に共通することを見出し、「〇〇のポイント」などと一般化しておくことで、児童がそれぞれの家庭に合わせ、工夫して実践することにつながります。

**本時の課題は、
「〇〇のポイントを見付けよう」**

○工夫の際のポイントとなることを見付ける授業であることを伝えておきます。



実践的・体験的な活動

○頭の中で考えるだけでなく、実際にやってみながらよりよい方法に気付けるようにします。

- ・試しの活動
- ・観察・実験
- ・ロールプレイング
- ・疑似体験（ゲーム） など



「〇〇のポイント」を共有する

○引き出しがロッカーに、学校が自分の部屋にというように、場面（対象や場所など）が変わっても対応できるように、一般化してまとめましょう。

指導例：『身の回りをかたづけよう』 (第5学年 第2時/全4時間)

1 本時の課題をつかむ。<3分>

引き出しの中を使いやすくする方法を話し合い、整理整頓のポイントを見付けよう。

- 散らかっている引き出しを提示し、使いやすくする方法を見付けることを伝える。



2 散らかった引き出しを整理整頓しながら、使いやすくする方法を考える。<40分>

- 実際に整理整頓しながら考えられるように、班ごとに同じように散らかった引き出しを準備する。
- どうすれば使いやすくなるかを予想して、見通しをもたせてから活動させる。



まず、ごみを捨てよう。

仕切りを作って、自分で置く場所を決めるとどうかな。



3 一人一人が整理整頓を通して気付いたことをまとめる。

最初に、いらぬ物を捨てたよ。



鉛筆は鉛筆でまとめたよ。同じ種類でまとめるとどこにあるのかわかりやすいよ。



鉛筆はよく使うから取り出しやすい場所に入れたよ。



4 全体で整理整頓のポイントをまとめる。

【整理整頓のポイント】

- ・使う物と使わない物に分ける
- ・置く場所を決める
 - 「何がどこにあるか」→仕切りを作るなど
 - 「必要な物がすぐに取り出せるか」
 - よく使う物は手前に置くなど取り出しやすく
 - 「空間を有効に使っているか」
 - 大きさや形を考える

5 本時のまとめと次時の予告を聞く。<2分>

- 次時は、【整理整頓のポイント】を基に、自分の引き出しを使いやすくすることを伝える。

(2) 指導例 (6例)

* 「涼しく過ごす工夫」と「暖かく過ごす工夫」は比較してポイントをおさえましょう。

清掃の工夫	涼しく過ごす工夫	暖かく明るく過ごす工夫
<p>場所や汚れに合った掃除の方法を試し、掃除のポイントを見付けよう。</p> <p>【実践的・体験的な活動】 ○家の中できれいにしたい場所を決め、見付けた方法を試す。</p>  <p>どんな手順がいいのかな。</p>  <p>風呂掃除には、どの洗剤?</p>  <p>ほこりをたてないように、ぬれた新聞紙をまいてからはくといいたいだよ。</p> <p>【掃除のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・汚れたらすぐに落とす ・「上から下」「奥から手前」の順に換気をしながら行う ・洗剤は注意を守って使う ・古布などを活用する (環境) 	<p>涼しく過ごすための方法を試し、涼しい住まい方のポイントを見付けよう。</p> <p>【実践的・体験的な活動】 ○各自が考えた涼しく過ごす方法を試す。(観察、実験)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カーテンの開閉による気温の違い ・窓の開け方による気温の違い ・エアコンや扇風機の使い方 ・衣服の種類と着方 など <p>【涼しい住まい方のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日光を遮る (カーテン、すだれ) ・風通しをよくする (窓の開け方) ・省エネを考える (エアコンと扇風機の併用、設定温度、設置場所など) ・風通しよく着る (袖や襟の形、布地の厚さ、寒色など) 	<p>暖かく明るく過ごすための方法を試し、暖かい住まい方のポイントを見付けよう。</p> <p>【実践的・体験的な活動】 ○涼しい住まい方から、暖かく明るく過ごす方法を予想し、試す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓の掃除、カーテンを開ける ・厚手のカーテン、ドアを閉める ・暖房器具の使い方 ・衣服の種類と着方 など <p>【暖かく明るい住まい方のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日光を取り入れる (効果的な採光と明るさの調節) ・暖かい空気を逃がさない (カーテン、カーペット) ・省エネを考える (足下を暖めるなど) ・体を覆い熱を逃がさず着る (重ね着、袖や襟の形、布地の厚さ、暖色など) ・暖房器具を安全に使う ・換気をする

生活時間の使い方の工夫	楽しく食事をする工夫	物の使い方の工夫
<p>家庭での朝の様子をロールプレイングで振り返り、時間の使い方のポイントを見付けよう。</p> <p>【実践的・体験的な活動】 ○班ごとに役割を決め、朝の様子のロールプレイングを行い、気付いたことを基に話し合う。</p>  <p>朝ご飯を食べる時間も少ないし、家族にやってもらっていることばかりだわ。</p> <p>どうして朝はこんなに忙しいのかな。…やっぱり、前の日に学校の用意をしておくようにしよう。</p> <p>ぼくは朝起きられなくて…ゲームをやっているのが原因かな。</p> <p>【生活時間の使い方のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間に区切りを付ける ・計画的に時間を使う <p>⇒食事など家族と過ごす時間や、家庭の仕事など家族と協力する時間をもつことができる</p>	<p>ごはんのみそ汁の試食を通して、楽しい食事をするポイントを見付けよう。</p> <p>【実践的・体験的な活動】 ○ご飯のみそ汁の試食をしながら、楽しく食事をするために必要なことについて話し合う。</p>  <p>給食のときのマナーや普段から家で言われていることを思い出してみましょう。</p> <p>やっぱり、「いただきます」は一緒にしよう。</p> <p>家では、口に物を入れたまま話すと注意されるわ。</p> <p>【楽しい食事のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はしや食器の扱い方、食べ方や食べる速さ、話題に気を付ける ・食事に対する感謝の気持ちを表す (あいさつをする、残さず食べる) 	<p>持ち物調べの結果から気付いたことを話し合い、物の使い方のポイントを見付けよう。</p> <p>【実践的・体験的な活動】 ○何をどのくらい持っているか調べてきたことを基に、物の使い方について話し合う。(例) 文房具、衣服など</p>  <p>自分の持っている文房具を調べてみて、どんなことを感じましたか。</p> <p>とにかく使っていない物がたくさんあったわ。</p> <p>使わないクレヨンなどはどうしたらいいのかな…そうだ! 親戚の幼稚園の子にあげよう。</p> <p>【物の使い方のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長く大切に使う ・無駄なく最後まで使う ・不用品を再利用する方法を考える

3 技能習得につながる評価のポイント

技能の評価については、児童全員が評価に関わる同じ実習等を行うとともに、実習班の人数を少なくしたり、実技テストを行ったりして、一人一人を見取る場面を設定する必要があります。調理では作品が残らないので、まず教師による行動観察で評価しますが、児童の相互評価の記述内容や作品の写真等により、児童の実現状況をより詳細に把握し、それを評価に生かすようにしましょう。

評価の観点をあらかじめ示す

○評価項目（ねらいを達成した児童の姿）を具体的にするとともに、相互評価に使用するワークシート等に示しておきます。

「おいしい野菜のために挑戦！」(調理実習) 6年 組 名前

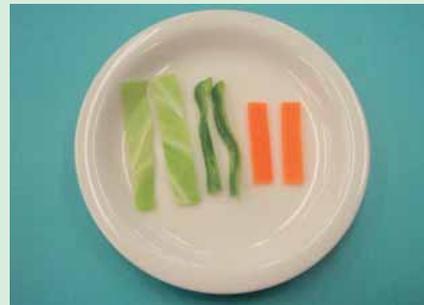
めあて

観察すること	観察のポイント	()さんより		ふり分け ◎○△
		◎○△	気付いたこと (よさも見つけよう)	
包丁の持ち方	しっかり持っている			
左手のおさえ方	包丁にそって、ねこの手になっている			
切る	包丁の動かし方			
にんじん	幅1cm、厚さ2~3mmに大きさがそろっている			
ピーマン	幅5mmに大きさがそろっている			
キャベツ	幅1cmくらいに大きさがそろっている			
フライパンの使い方	油を入れる前に熱している			
いたため	順序			
	固いものから入れる にんじん→ピーマン→キャベツ 野菜の色が変わってやわらかくなったら、次の野菜を入れる			
	混ぜ方			
	上下によく混ぜる			
	火加減			
	中火から強火、調節する			
味付け	全体的にしんなしたら、味をつける			
試食	あまりこくなく、ちょうどよい野菜がシャキシャキしている見た目もきれいでおいしそう			
調理時間	作り方を見ないで、切り始めてから、15分以内ができる			

(一人で調理をして気付いたことを書こう) チェックしよう

○評価の基準となるモデルを実物や写真で事前に示しておきます。その基準に基づいて、相互評価を行います。

〈切り方のモデル〉



ペアで相互評価を行う

仕上がりのモデルと比較しながら、相互評価用ワークシートへの記入を行います。

自己評価を行う

相互評価結果や自分の作品などを踏まえて、自己評価を行います。

教師の観察による評価

○評価項目に基づいた評価が行えるよう、チェックシート（座席表に合わせて）を作成しておき、観察による見取りを記入します。

作品（の写真等）による評価

○チェックシートによる見取りが不十分だったところや、全体的なできばえについて、作品写真を基に評価をします。

チェックシート例

観点	氏名	Wさん	Xさん	Yさん	Zさん
前時	左手の押さえ方	B	C	A	B
時	切り方（動かし方）	B	C	A	A
本時	押さえ方・動かし方	A	C ねこの手	A	A
	野菜の切り方	A 幅1cm	C 幅5mm	A	B 幅1cm
	フライパンの扱い方	A	B	A	A
	いため方	B	C 強火	A	B 強火
総合評価					

4 家庭科としてのねらいを明確にした授業づくり

(1) 専門家を招いた授業

例えば、栄養教諭等の専門家とのTTを行う際には、専門的な知識に深入りし過ぎたり、学級活動のように「好き嫌いをなく食べる」とまとめたりしてしまいがちです。そうならないよう、家庭科の指導事項を踏まえ、ねらいを明確にして打ち合わせを行いましょう。2年間の学習のまとめとして、「ゆでる調理」「いためる調理」「米飯とみそ汁の調理」の学習を生かして、「家族のために作る朝食の献立」を立てる場面の展開例を紹介します。

事前の打ち合わせは、電話やメールだけでなく、実際に顔を合わせて行う

- これまでの学習内容がわかるよう教科書を見ておいてもらったり、ねらいを明確に伝え、児童がどんな献立を立てられればいいのかを確認したりしておきましょう。
- 略案等を基に、「この場面で（対象の児童に）このような言葉掛けを」というように、栄養教諭等と一緒に具体的に授業をイメージして1時間の流れを確認しておきましょう。

指導例：『家族が喜ぶ食事を作ろう』（第6学年 第7時／全8時間）

1 本時の課題をつかむ。＜3分＞

我が家の朝食メニューを考えることを通して、栄養のバランスのよい献立の立て方をマスターしよう。

- 休日の献立を考え、家庭で実際に調理することを伝える。

2 家族の好みを生かした献立を考える。＜40分＞

- 栄養教諭から、身近な材料とその材料を用いたゆでる料理やいためる料理を紹介する。



教師

これまでの学習を生かして、主食はごはん、汁物はみそ汁、おかずはゆでたりいためたりして作りましょう。

じゃがいもは、ゆでると粉ふきいもやポテトサラダに、いためるとジャーマンポテトになります。卵は…



栄養教諭

- 主食→汁物→おかずの順で決めていく。

みそ汁にはおじいちゃんがつっているだいこんを使おう。



卵を使っていためて、いり卵にしよう。

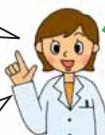


- 材料を3つのグループに分ける。

緑のグループが少ない！ どうしたらいいかな？



いつも家ではどんな野菜を食べているかな？



ピーマンとか、にんじん…

いり卵にピーマンやにんじんを入れてもいいですよ。

- 少ない（足りない）グループの食品を使ったおかずやデザートを加えるなど、いずれかのグループに偏らないよう見直す。

3 一人一人が気付いたことをワークシートに記述する。

4 献立を立てるポイントについて全体でまとめる。



「献立の立て方」を守ると、一人でもバランスのよい献立が立てられますね。

「献立の立て方」

- ・主食→汁物→おかずの順に
- ・栄養のバランスをチェックして足りないものを補う

5 本時のまとめと次時の予告を聞く。＜2分＞

- 各自が立てた献立をそれぞれが家庭で実践し、その結果を報告し合うことを伝える。

役割分担は明確に

- 栄養教諭は、T2として専門性を生かして、児童の支援を行う。



T2の専門性を生かす

- 栄養のバランスに絞って献立を考えるというねらいを踏まえて、活動のヒントになるような例を紹介する。

個に応じた支援を行う

- 各自の活動に対して適切にアドバイスし、T2としてきめ細かな支援を行う。

*小学校段階において、献立作成の場で栄養のバランスを確認する際には、3つの食品のグループを用いてチェックをしましょう。

(2) ねらいを達成するための言語活動の充実

実践的・体験的な活動の質を高めるために、言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりする言語活動を設定しましょう。また、それが教科のねらいを達成する手立てとなるように、目指す児童の姿や使わせたい生活のキーワードを明確にしておきましょう。

家庭科で用いるキーワードの例

家庭生活・家族…団らん、健康、触れ合い、お茶のこさ、湯を注ぐ、生活環境、つながり など
 食生活…健康、身支度、栄養素、食品、火の通り、かさ、沸騰、ゆでる、いためる、塩加減 など
 衣生活・住生活…手入れ、布を裁つ、もみ洗い、すすぐ、一針すくう、ほころび、はたく、採光、快適さ など
 消費生活・環境…品質表示、賞味期限、消費期限、リサイクル、リフォーム、リユース、分別 など

「ゆでる」「かさ」など、用いたいキーワードを明確にした上で、ねらいを達成した児童の姿を具体的にしておきます。その上で、手立てとなる実践的・体験的な活動や話し合い活動を位置付けることが大切です。

指導プランP108

指導例：『野菜をゆでておいしく食べよう』 (第5学年 第1時/全8時間)

【ねらい】野菜を食べ比べて気付いたことを基に、ゆでることのよさを話し合うことを通して、ゆでる調理の特性を理解することができる。

実践的・体験的な活動

生野菜とゆで野菜の
①見た目
②歯ごたえ
③味
を比べてみましょう。



本時のねらいに到達するよう、ゆでる調理の特性に気付かせ視点を①～③を示します。

気付いたことをまとめる

キャベツ

- ①かさが減る
透き通る
- ②柔らかくなる
- ③甘くなる



にんじん

- ①色が濃くなる
- ②柔らかくなる
- ③甘くなる



全体で共有する

ねらいを達成した児童の姿



ゆでると、柔らかくなったり、甘くなったりして食べやすくなると思います。柔らかくなって、かさが減るので、より多くの量を食べられると思います。

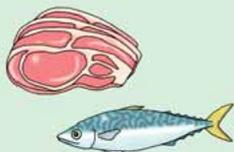
*児童の発言や記述の中にある「家庭科で用いるキーワード」を取り上げ、本時のまとめなどに生かせるようにしましょう。また、児童から出ない場合には、教師が示した上で、しっかりとおさえましょう。

(3) 中学校との系統性や他教科等との関連

中学校との系統性や他教科等との関連を図る上で、次に示した留意すべき例を参考にして、小学校家庭科としてのねらいや指導内容に沿って指導しましょう。

生の肉や魚は扱わない

○生の肉や魚は中学校の学習において扱うことになっています。例えば、肉類を使用したい場合には、ベーコンやハムを用いるなど、加工品を代用しましょう。



中学校と同じものを製作しない

○例えば、小・中学校で同じエコバッグを製作するなどの状況にならないように、中学校との連携を図りながら製作題材を決めましょう。

調理する活動≠家庭科 (調理をするからといって家庭科ではありません)

○総合的な学習の時間等で育てた野菜を使った「サラダづくり」などを行う際には、教育課程上の位置付けを適切に行いましょう。家庭科として調理実習を行う場合は、扱う材料が指導事項に適しているか判断するとともに、調理の技能を身に付けさせるよう留意しましょう。



体 育

Physical Education

運動の特性に触れる授業づくりのために

体育の学習で運動ができるようにするためには、運動の特性に触れながら楽しく運動をすることができる授業を行うことが必要です。そのため、2学年のまとまりを意識した系統性を踏まえた単元計画を作成する必要があります。

そこで、はばたく群馬の指導プランに示した器械運動(マット運動)について、評価規準を含めた単元計画例を示すとともに、1単位時間の指導例を示しました。また、ボール運動の学習における「ドリルゲーム」、「タスクゲーム」、「メインゲーム」について、ネット型(ゲーム)、ベースボール型(ゲーム)、ゴール型(ゲーム)におけるそれぞれの例を示しました。

さらに、本県の児童の課題である投力や持久力を高めるための低・中・高学年における指導例を示しました。

1 運動の行い方がわかり、運動ができるようにするために

— 1 単元、1 単位時間の授業のつくり方 —

- (1) 1 単元のつくり方 P 104
- (2) 1 単位時間の授業のつくり方 P 106

2 運動の行い方がわかり、運動ができるようにするために

— 学習活動の工夫 —

- (1) ネット型(ゲーム)のドリルゲーム、タスクゲーム、メインゲームの例 P 107
- (2) ベースボール型(ゲーム)のドリルゲーム、タスクゲーム、メインゲームの例 P 108
- (3) ゴール型(ゲーム)のドリルゲーム、タスクゲーム、メインゲームの例 P 109

3 投力や持久力を高めるために

- (1) 低学年 P 110
- (2) 中学年 P 111
- (3) 高学年 P 112

1 運動の行い方がわかり、運動ができるようになるために

—1 単元、1 単位時間の授業のつくり方—

(1) 1 単元のつくり方

体育の授業では様々な運動領域を学習します。それぞれの運動ができるようになるためには、その運動の特性を理解し、運動の行い方を知るとともに、計画的に繰り返し練習を行うことが必要です。そのため、指導に当たっては、それぞれの動きのポイントを明確に示すとともに、課題に合わせて練習が行えるよう、2年間のまとまりを意識して系統性を踏まえた指導を行うようにします。

ここでは、はばたく群馬の指導プラン (P.51) 5、6年生の器械運動 (マット運動) の2年間のまとまりを意識した単元計画例 (学習活動に即した評価規準、指導と評価の計画) を提示します。

■ 学習活動に即した評価規準

本単元における学習指導要領の内容をもとに、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校体育】(平成23年11月 国立教育政策研究所 教育課程研究センター)」を参考に、評価規準を設定します。

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
①自分の技を高めたり組み合わせたりする楽しさや喜びに触れることができるよう、マット運動に進んで取り組んでいる。 ②約束を守り、友達と助け合って技の練習をしようとしている。 ③器械・器具の準備や片付けで分担された役割を果たそうとしている。 ④運動する場の危険物を取り除いたり、器械・器具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。	①技の動き方や技のポイントを確認するとともに、自分の課題の解決の仕方を見つけている。 ②自分 (グループ) の課題に合った練習の場や方法を選んでいる。 ③技をつなぐ方法を知るとともに、自分の力に合った技を組み合わせている。(第6学年時) ④グループ演技の方法を知るとともに、グループに合った演技を工夫している。(第6学年時)	①基本的な回転技や倒立技に取り組み、自分の力に合った安定した技ができる。 ②自分の力に合った安定した技を繰り返したり組み合わせたりして演技ができる。 ③ペアやグループで動きを合わせたり技を組み合わせたりして演技ができる。(第6学年時)

■ 指導と評価の計画 (第5学年・7時間計画)

※ゴシック…はばたく群馬の指導プランとの関連

5、6年生の2年間でどのように技を学習し、どこで評価するかということを示した計画を作成し、指導と評価の一体化を図ります。なお、ここでは、単元の前半に技の習得を図り、単元の後半に習得した技を活用する例を示してあります。(評価の観点の丸数字は、上記の「学習活動に即した評価規準」の丸数字と関連しています。)

時間	1	2	3	4	5	6	7	
								習得の段階
第5学年 学習の流れ	0	オリエンテーション						
	10	1 学習課題の確認	課題の解決の仕方を知り、自分の課題に応じた練習の場を選ぶ。(指導プランP.51)			技をつなぐ方法を知り、自分の力に合った技を組み合わせる。(指導プランP.51)		◎発表会をしよう
	20	2 学習の進め方や決まりを知る	◎基本的な回転技や倒立技、発展技をできるようにしよう			◎できるようになった技を繰り返して行う		◎発表会をしよう
	30	3 今まで学習してきた回転技や倒立技に取り組み ・基本的な技やポイント を思い出し、自分にできる技を確認する	1 学習課題の確認 ・取り組む技、練習の場、練習方法	2 自分の課題に従って挑戦する (○…基本的な技、●…発展技)	【前転系】 ○安定した前転 ○連続した前転 ○大きな前転 ○開脚前転 ●跳び前転	【後転系】 ○安定した後転 ○開脚後転 ●伸膝後転	【倒立系】 ○安定した壁倒立 ○補助倒立 ○側方倒立回転 ●倒立 ●ロンダード	1 学習課題の確認 ・取り組む技、練習の場、構成
45	学習のまとめ・振り返り (学習カード等に記入)・次時への見通し・片付け							
評価の観点	関・意・態	④(観察)		①(観察)		③(観察)		②(観察)
	思考・判断		①(観察・学習カード)	②(観察・学習カード)				
	技能				①(観察・学習カード)		②(観察・学習カード)	②(観察・学習カード)

■指導と評価の計画（第6学年・8時間計画）

※ゴシック…はばたく群馬の指導プランとの関連

時間		1	2	3	4	5	6	7	8
第6学年 学習の流れ	0	習得の段階 → 活用の段階 →							
	オリエンテーション	集合・整列・あいさつ・準備運動(ゆりかご・かえるの足打ち・うさぎ跳び・くま歩き・手押し車…)・安全な場の準備							
	1 学習課題の確認	課題の解決の仕方を知り、自分の課題に応じた練習の場を選ぶ。(指導プランP.51)				技をつなぐ方法を知り、自分に合った技を組み合わせる。(指導プランP.51)			
	10	2 学習の進め方やシンクロマットについて知る	◎できるようになった技をより美しくしよう 1 学習課題の確認 ・取り組む技、練習の場、練習方法	◎できるようになった技にペアで挑戦しよう 1 学習課題の確認 ・取り組む技、構成	◎シンクロマットに挑戦しよう 1 学習課題の確認 ・構成				◎シンクロマットの発表会をしよう 1 学習課題の確認 ・構成
	20	3 今まで学習してきた回転技や倒立技に取り組む ・基本的な技やポイントを思い出し、自分のできる技を確認する	2 自分の課題に従って挑戦する。 【回転系】 ●跳び前転 ●倒立前転 ●伸膝後転 ※5年生で学習した技も含まれる ・技のポイントや見付けたコツを教え合う ・全体の場でよい動きを共有する ・技のポイントを示した資料やICT機器を用意しておく	【倒立系】 ●倒立 ●ロンダード等 2 ペアの課題に従って挑戦する ・動きを合わせることを意識させる ・グループで動きを合わせてもよい	2 グループで考えた構成に従って練習する ・工夫するポイントを知らせる(タイミングを合わせる、ずらす、隊形や方向を変える) ・動きのある技ばかりではなく、バランスをとって静止する技を紹介する ・部分練習と通し練習の場を設定し、交互に練習する ・技の始めと終わりを意識させる	3 ペアグループでできばえを確かめ合う ・ペアグループのよいところや気付いたところを伝え合う			2 シンクロマットの発表会を行う ・開始前に見所を伝えさせる ・よいところを認め合えるようにする
45	学習のまとめ・振り返り(学習カード等に記入)・次時への見通し・片付け								
評価の観点	関・意・態	④(観察)	①(観察)			③(観察)			②(観察)
	思考・判断			②(観察・学習カード)	④(観察・学習カード)		③(観察・学習カード)	④(観察・学習カード)	
	技能			①(観察・学習カード)				③(観察・学習カード)	③(観察・学習カード)

◆2年間に振り分ける上でのポイント

5学年（1年次）

基本的な技の習得を中心に展開する
◎課題解決的な学習方法の学びが中心



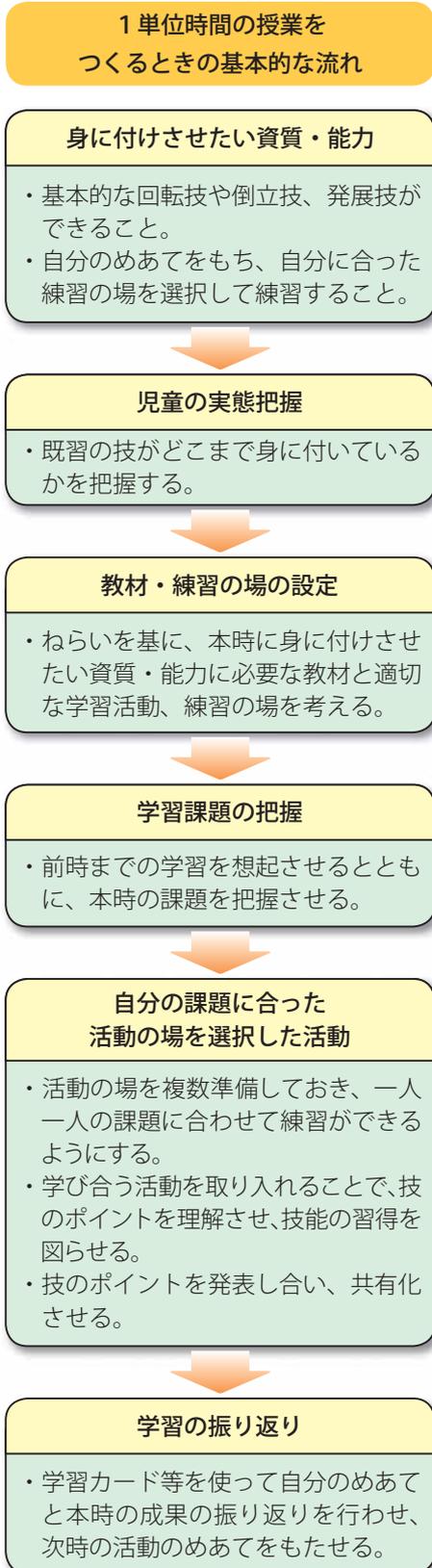
6学年（2年次）

できるようになった技の活用(ペアやグループ)を中心に展開する
◎主体的な課題解決学習が中心

(2) 1 単位時間の授業のつくり方

ここでは、前述の第5学年の器械運動（マット運動）の1単元のつくり方における2時間目の指導例を示します。

この時間では、基本的な回転技を習得させるために、一人一人の課題に応じた複数の場を準備するとともに、技に応じて易しい練習から徐々に難易度を高めていくようなスモールステップの練習を取り入れることで、それぞれの技の動きのポイントを理解させ、安定して技ができるようにさせます。



指導例：『マット運動』（第5学年 第2時）

- 活動の場の準備をする。**
 - 全員で協力して安全に運動ができるよう練習する場を準備させる。
- 準備運動をする。**
 - 体操、ストレッチで十分に体をほぐさせる。
 - 補助運動に取り組みせる。
 - 【ゆりかご（小→大）、かえるの足打ち、手押し車など】
 - 既習の技に取り組みせる。【前転、後転、開脚前転、開脚後転】
- 学習課題を把握する。**

<課題> 技ができるようになるためのポイントを見つけて、基本的な回転技ができるようにしよう。

 - 既習の技のできばえを確認させる。
 - 取り組む技、練習の場、練習方法を確認させる。
- 自分の課題に合った活動の場を選択して個人やグループで練習する。**

【前転系】 ○…基本的な技、●…発展技
○安定した前転○連続した前転○大きな前転○開脚前転●跳び前転

【開脚前転の練習の場（スモールステップ）の例】

ア ゆりかごからの開脚（脚を開く練習）
 イ 重ねたマットでの開脚前転（脚を開く練習）
 ウ 首倒立から腰を浮かす（手を着くタイミングをつかむ練習）
 エ 坂を利用した開脚前転（回転をつける練習）

(1) 個人練習：全員がア～エの場を一通り経験した後、自分の課題に合った練習の場を選び、繰り返し練習に取り組む。
 (2) グループ練習：4～5人のグループになり、安定してできる開脚前転の動きのポイント（手の着き方や脚を開くタイミングなど）を見つけたり教え合ったりしながら練習をする。



(3) 学びの共有化：グループで見つけた開脚前転の動きのポイントを発表し合う。
 ※発展：開脚前転を取り入れて、できる技やできるようになった技を組み合わせ、個人やグループで連続技に挑戦する。
 【連続技の例：前転ー開脚前転ー前転】
- 本時の学習の振り返りをする。**
 - 自分の学習を振り返り、次時の課題の見通しをもたせる。

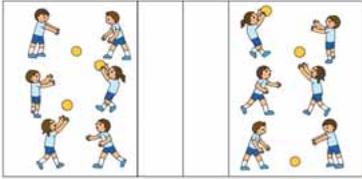
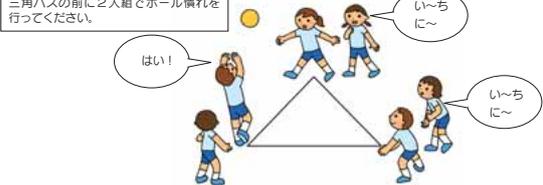
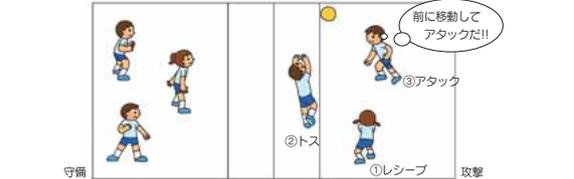
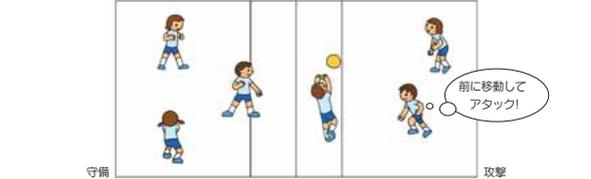
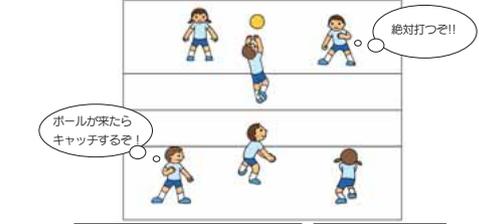
<まとめ>
 それぞれの技のポイントを理解することで、回転技ができるようになる。

 - 整理運動をさせる。
 - 全員で協力して活動の場を片付けさせる。

2 運動の行い方がわかり、運動ができるようになるためにー学習活動の工夫ー

体育の授業で学習する運動領域のうち、集団で行うゲーム領域やボール運動領域の学習では、スポーツのルールをそのまま適用したゲームを中心とした学習を行うのではなく、運動の特性や魅力に応じてゲームのルールや様式を工夫したゲームを行うことで、個人的技能や集団的技能の習得を図るようにします。そこで、はばたく群馬の指導プランで示したようにねらいに合った「ドリルゲーム」や「タスクゲーム」、「メインゲーム」を行うなど、運動の特性を味わいつつ学習内容を身に付けることができるよう学習活動を工夫することが大切です。

(1) ネット型（ゲーム）のドリルゲーム、タスクゲーム、メインゲームの例

	3・4年	5・6年
	ソフトバレーボールを基にした易しいゲーム	ソフトバレーボール
ドリルゲーム	<p>○対面パス（個人技能を高めるゲーム）</p>  <ul style="list-style-type: none"> チームでペアを作り、向かい合ってパスをする。 ①ワンバウンド→キャッチ5往復 ②下から投げ上げ→額の前でキャッチ5往復 ③真上に投げ上げ→下がる→前に出てキャッチを交互に5回ずつ 	<p>○三角パスゲーム（個人技能を高めるゲーム）</p> <p>三角パスの前に2人組でボール慣れを行ってください</p>  <ul style="list-style-type: none"> チームで三角形を作り、片手、両手どちらかでボールをはじき、ボールを落とさないように1分間パスをする。 キャッチをしてしまった場合は、その場から次の人に投げ上げる。 右回り、左回りの両方行う。
タスクゲーム	<p>○パスゲーム（戦術やチームの課題を高めるゲーム）</p> <p>バドミントンコートを使用します。 ※3人对3人</p>  <ul style="list-style-type: none"> 攻撃は上図の①レシーブが投げ上げたボールを②トス、③アタックで相手コートに返球する。 守備はレシーブのキャッチまでとする。 ワンプレーごとにローテーションをして役割を交代する。 ワンバウンド、キャッチのルールはメインゲームと同じ。 	<p>○セットプレーゲーム（戦術やチームの課題を高めるゲーム）</p> <p>※3人对3人</p>  <ul style="list-style-type: none"> ワンプレーごとにローテーションする。 攻撃はレシーブが投げ上げたボールをトス、アタックで相手コートに返球する。 守備はレシーブ、トスのキャッチまでとする。 キャッチは、メインゲームのルールと同じ。
メインゲーム	<p>○ツーキャッチバレーボール ※3人对3人</p>  <p>バドミントンコートを使用します。 前半4分、後半4分</p> <ul style="list-style-type: none"> サーブは手前のラインから相手コートに投げ入れる。 レシーブ、トスはキャッチして投げ上げてよい。ただし、キャッチした後はその場から動かないで投げ上げる。 相手コートへの返球はアタックをする。 レシーブは、ワンバウンドさせてからキャッチしてもよい。 ボールに触れる回数は1人1回とする。 得点は返球できなかつたら相手に1点入る。 プレーが切れるごとにローテーションする。 	<p>○ジャンプアタックゲーム ※3人对3人</p>  <p>バドミントンコートを使用します。 前半4分、後半4分</p> <ul style="list-style-type: none"> サーブは得点したチームが手前のラインから相手コートに投げ入れる。 相手コートからきたボールをレシーブ（アンダーハンドパス）、トス（キャッチ可）、アタック（片手・ジャンプあり）で返球する。 ボールに触れる回数は1人1回とする。 得点は返球できなかつたら相手に1点入る。 プレーが切れるごとにローテーションする。

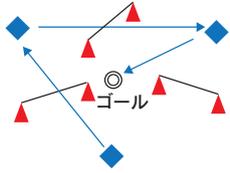
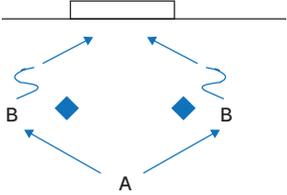
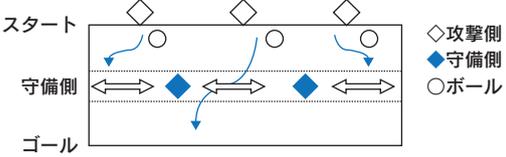
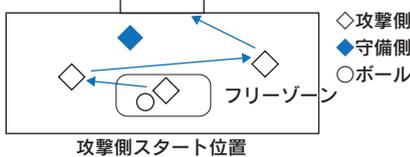
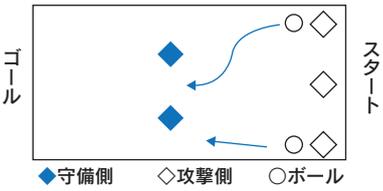
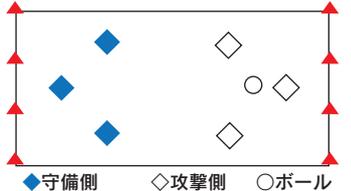
※詳細は体育授業プログラム参照（平成25年3月 県教委健康体育課・群馬大学・県小学校体育研究会作成）

(2) ベースボール型（ゲーム）のドリルゲーム、タスクゲーム、メインゲームの例

	3・4年	5・6年
	ハンドベースボール	ソフトボール
ドリルゲーム	<p>○ローテーションゲーム（個人技能を高めるゲーム）</p> <p>・打者（A）、内野手（B）、外野手（C）、次打者（D）にわかれる。 ・打者はティーに乗せたボールを打つ。 ・捕球したボールは次打者に送球する。 ・打者が3球打ち終わったら、A→B→C→Dの順にローテーションをする。</p>	<p>○ローテーションゲーム（個人技能を高めるゲーム）</p> <p>・次打者は、打者が打ちやすいようにボールをトスする。 ・打者（A）→内野手（B）→外野手（C）→次打者兼ボールキーパー（D）の順でローテーションをする。 ・1人続けて3球打ったらローテーションを行う。 ・個人の得点を競い合う。 （内野手に捕られたら1点、外野手に捕られたら2点、それ以上飛んだら（転がる）3点</p>
タスクゲーム	<p>○4対4連係ゲーム（手投げ/1塁、手投げ/1・3塁） （戦術やチームの課題を高めるゲーム）</p> <p>【場面1：①が捕球→1塁へ送球の場合】 【場面2：①以外が捕球→1塁へ送球の場合】</p> <p>・兄弟チームで協力して練習する。 ・打者は守備位置を見て手でボールを投げる。 ・投げた後は走らない。</p>	<p>○4対4内野連係ゲーム（手投げ） （戦術やチームの課題を高めるゲーム）</p> <p>・打者はボールが飛ぶ可能性がある方向を考えて意図した場所に手でボールを投げる。 ・1人1回ずつ投げ終わったら、攻守交代する。 ・走者は1塁、2塁、3塁の順で走る。 （3塁まで/打者走者分離/残塁なし） ・守備者は捕球後、走者より先のアウトゾーンに送球し、進塁を阻止する。</p>
メインゲーム	<p>○4対4ゲーム（ラケット打ち/1・3塁）</p> <p>・打者はティーに乗せたボールをラケットで打つ。 ・打球が3mラインより内側に落ちた場合は打ち直す。 ・走者は打者が打ったら走る。 ・守備はボールを捕球したら走者よりも先のアウトゾーンを判断して送球する。 ・捕球者以外は、ボールとアウトゾーンの間で中継したり、アウトゾーンに入ったりして協力してアウトをとる。 ・得点は、ボールがアウトゾーンに送球されるまでに走者が進んだ塁の数が入る。 ・攻守交代はチーム全員が打ち終わったら行う。</p>	<p>○6対6内野・外野連係ゲーム（バット打ち）</p> <p>・打者が待機者のボールを打ったら、走者が走る。 （3塁まで/打者走者分離/残塁なし） ・打球が3mライン（扇形）を越えなかったら打ち直す。 ・守備者は捕球後、走者より先のアウトゾーンに送球し、進塁を阻止する。 ・進んだ塁までを得点とする。 ・攻守交代はチーム全員が打ち終わったら行う。 ・2イニング終了後の得点を競う。</p>

※詳細は体育授業プログラム参照（平成25年3月 県教委健康体育課・群馬大学・県小学校体育研究会作成）

(3) ゴール型（ゲーム）のドリルゲーム、タスクゲーム、メインゲームの例

	3・4年	5・6年
	ミニサッカーを基にした易しいゲーム	サッカー
ドリルゲーム	<p>○つないでゴールゲーム（個人技能を高めるゲーム）</p>  <ul style="list-style-type: none"> 3人一組でボールを1個持つ。 順番にコーン等でつくった門を通しながらパスをつなぎ、3人目がゴール（的）をねらう。 <p>※人数、パスの方向、得点、時間、ローテーションの仕方など工夫する。</p>	<p>○ねらってゴールゲーム（個人技能を高めるゲーム）</p>  <ul style="list-style-type: none"> AからBへパスを出す。 Bはボールをトラップ（ボールコントロール）をしてゴールに向かってドリブルシュートをする。 <p>※ゴールをした場所によって得点を変えるなど工夫する。</p>
タスクゲーム	<p>○めざせゴールへ（戦術やチームの課題を高めるゲーム）</p>  <ul style="list-style-type: none"> 攻撃側は1人1個ボールを持つ。 攻撃側はスタート位置から守備側にボールを捕られないようにドリブルでゴールへ向う。 守備側は決められた範囲の中でボールを奪う。（出られない） <p>※人数やコートの大さを工夫する。 ※守備側が守れる場所を2箇所にする。</p>	<p>○フリーゾーン3対1（戦術やチームの課題を高めるゲーム）</p>  <ul style="list-style-type: none"> 攻撃側3人（1人フリーゾーンへ入ることができる）、守備側1人はフリーゾーンには入れない。（通ることはよい） 攻撃側3人は、守備側にボールを捕られないように、ドリブルやパスを使ってゴールをねらう。 <p>※フリーゾーンの位置、人数、ルール（ドリブルなし等）を工夫する。</p>
メインゲーム	<p>○ミニゲーム（3対2）</p>  <ul style="list-style-type: none"> 攻撃側は2個ボールを持ち、守備側にボールを捕られないようにドリブルやパスをつないでゴールをめざす。 ドリブルで相手のゴールを突破すると得点となる。 守備側にボールを捕られたり、得点したりした場合には、スタート位置に戻り再び始める。 	<p>○ミニゲーム（3対3）</p>  <ul style="list-style-type: none"> 攻撃側と守備側の人数を同数にしてゲームを行う。 ※ボールを2つに増やす。 ※得点が入りやすくするため、ゴールの数を2つに増やす。（ゴールの位置を変えたり、ゴールの幅を変えたりする） ※ボーナスタイム（得点2倍）などを取り入れる。
<p>◆コートの工夫（グリッド：縦・横・トライアングル・広さ・ゴールの数や広さなど）</p> <p>◆ボールの工夫（数・大きさ・重さ・形など）</p> <p>◆ルールの工夫（時間・人数・男女差・個人差など）</p>		



○ボールコンタクト（ボール慣れ）○ドリブル（タイヤ、コーン等、トラック）○的当て
※一人で練習できる練習も取り入れ、ボールに触れる機会を多くしましょう。

ドリルゲーム、タスクゲーム、メインゲームを学習活動として行う際は、児童の実態を十分に把握し、「何のためにこのゲーム（活動）を行うのか」、「このゲーム（活動）で身に付けた技能をどのように活用できるか」など、各ゲーム（活動）のねらいを明確にするとともに、指導内容の系統性を踏まえたドリルゲーム、タスクゲーム、メインゲームを取り入れた単元計画を作成して学習を進めることが必要です。従って、単に「ゲームを行えばよい」ということだけでゲーム的な要素を取り入れた活動を行うことのないようにしましょう。

3 投力や持久力を高めるために

本県の児童は投力や持久力が全国と比較して低い傾向にあることから、はばたく群馬の指導プランにおいて投力と持久力を高めることを課題として挙げています。これらが高めるためには、体育の授業や日常生活の中で、活動内容を工夫し、児童の実態に合わせて無理なく自然と投力や持久力が身に付くような取組を行うことが大切です。ここでは、低・中・高学年の指導例を示します。

(1) 低学年

投力を高めるために―片手でねらったところに緩やかに投げることができる―

児童が安全に楽しくボール遊びやボール投げゲームなどができるように、教材を工夫し、遊びながらいろいろな動きに取り組みさせることで投力を高めるようにします。

《教材》

- 大きさ
ピンポン球、カラーボール、ドッジボール、ビーチボールなど
- 素材
スポンジ、ゴム、新聞紙、軍手など

《活動》

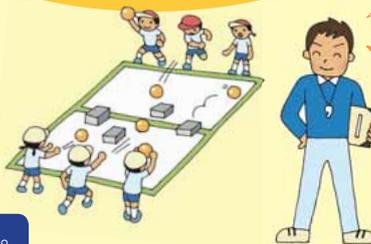
- 投げる（右手、左手、上から、下から、横からなど）
- つく（右手、左手、両手、左右交互など）
- 転がす（右手、左手、両手、後ろ向きなど）

【指導のポイント】

よい動きを紹介し、動きのポイントを押さえることで、よい動きを身に付けさせましょう。

【ボールゲームのボール遊びの例】

- どンドンおしだしゲーム
 - ・ボールを転がしたり、投げたりしての（箱など）を相手の陣地に押し出す。
 - ・押し出した分を得点とする。



ボールが上手に投げられない児童へのアドバイス

足を投げる方向にしっかり踏み出すことを意識させましょう。

👉 いろいろな投げ方、転がし方で的をねらわせる。

【日常生活での工夫】

- 学校や授業以外でボールを使った運動遊びを行う機会を設定しましょう。
- ※いろいろな運動遊びの中から体を動かす習慣を身に付けさせる。

持久力を高めるために―無理のない速さでのかけ足を2～3分程度続けることができる―

遊びながら夢中になって体を動かしているうちに、自然と動きや持久力を高めるようにします。

《教材》

- いろいろな走り方
ケンステップ、ハードル、とび箱、マット、など
- いろいろななわとび
短なわ、長なわなど

《活動》

- いろいろな走り方
ジグザグ、ケンケンなど
- いろいろななわとびの跳び方
人数、回数、時間など

【指導のポイント】

児童が「もっとやってみよう」と思うような活動の場を設定しましょう。

【体づくり運動（多様な動きをつくる運動遊び）の例】

- 体を移動する運動遊び：ジグザグ走
 - ・いろいろな方向に走ったり、前向き、後ろ向き、横向きなどで走ったりする。
- 用具を操作する運動遊び：8の字跳び
 - ・一定時間内に何回跳べるか、連続して何回跳べるかなど楽しみながらなわとびを跳ぶ。



続けて走ることが苦手な児童への手立て
遊びの要素を多く取り入れて、自然に走り続けられるような場を設定しましょう。

👉 リズミカルな音楽などを有効に活用し、楽しい雰囲気の中で行う。

【休み時間や放課後などの活用】

- 休み時間や放課後に積極的に運動遊びができるよう、自由に用具を使えるように準備したり、校庭に授業で活用するラインを引いたりしておくなど環境を整えましょう。

(2) 中学年

投力を高めるために—投げる手と反対の足を一步前に踏み出して遠くへ投げることができる—

低学年での多様な動きをつくる運動遊びの経験を生かし、教材や場を工夫し、いろいろな運動を行うことで、ボールを投げる基本的な動きを身に付け、投力を高めるようにします。

《教材の工夫》

新聞紙玉、紙飛行機、
軍手ボール（軍手を丸める）、
スポンジボール、
カラーボールなど

《場の工夫》

個人的技能を活用したゲーム、
チーム対抗戦など、

【指導のポイント】

簡単に得点を入れることができるようにルールや運動の場の工夫をするなど、易しいゲームを設定しましょう。

【ゲームの運動例】

○ベースボール型ゲーム：みんなでベースボール

～タスクゲームにおいて投げる技能を活用する場面～

- ・これまでの学習により習得した投げるための基本的な個人の技能を活用できるように、タスクゲームの中で遠投したボールをキャッチするゲームを行う。

～メインゲームにおいて投げる技能を活用する場面～

- ・全員がセカンドベースからホームベースへ投げる役（アウトにするための役）を交代して行う。



ただ投げるだけでなく、児童に投げる上で意識する視点を与えるようにする。

例：「強く」「遠くに」「正確に」など

時間や目標物、ボール、目標物までの距離は、児童の実態に応じて工夫する。



投げるフォームはできているが、
投力が高まらない
児童へのアドバイス
腕の振りを速くして、ボールを放す時に手首のスナップをきかせるようにしましょう。

【体づくり運動領域（用具を操作する運動）での活用】

○投げる動きの基礎感覚を養うために、準備運動や補助運動の場面でいろいろなものを投げたり、いろいろな投げ方を体験させたりしましょう。（片手・両手・上・下・横・後ろ、転がす、バウンドさせるなど）

持久力を高めるために—無理のない速さでのかけ足を3～4分程度続けることができる—

ねらいをもとに教材や場を工夫することで、いろいろな運動を続けて行うことができる持久力を高めるようにします。

《教材の工夫》

短なわ、長なわ、
ミニ駅伝など

《場の工夫》

時間、回数、
周回コース、
固定遊具のサーキットなど

【指導のポイント】

児童の実態に合わせて運動の強度を設定し、楽しみながら動きや持久力が身に付くように、活動の場を工夫しましょう。

【体づくり運動（多様な動きをつくる運動）の運動例】

～体を移動する、用具を操作する、基本的な動きを組み合わせる場面などに～

○短なわ跳び、長なわ跳び

- ・時間や回数、人数を変えて、いろいろな跳び方で行う。



リズムカルな音楽などを有効に活用し、楽しい雰囲気の中で行う。

○時間走、周回走、固定遊具のサーキット、ミニ駅伝

- ・授業の始めなどに時間や周回数、コースを決めて走る機会を設定し、全身持久力を高めるとともに効果的に主運動につなげる。



走ることが苦手な
児童へのアドバイス
しりとりやなぞなぞなどをしながら楽しく走るようにしましょう。



ねらいに応じて個人やチームで行い、目標を達成できるよう支援する。

【業前・業間運動などの活用】

○学校全体、学年ごとなどで児童の実態に応じて、運動集会などを活用して積極的に全身運動に取り組む機会を設定し、継続的に取り組ませましょう。

(3) 高学年

投力を高めるためにーオーバーハンドで遠くへ投げることができるー

低・中学年での多様な動きをつくる運動（遊び）の経験を生かし、教材や場を工夫し、自分の課題に合わせて運動を行うことで、ボールを投げる動きを身に付けさせ、投力を高めるようにします。

《教材の工夫》

新聞紙玉、
軍手ボール、
スポンジボール、
ソフトボールなど

《場の工夫》

個人的技能を
活用したゲーム、
チーム対抗戦
など

《課題解決》

課題に合わせた活動、
スモールステップなど

【指導のポイント】

簡単に得点を入れることができるようにルールや運動の場の工夫をするなど、易しいゲームを設定しましょう。

【ボール運動の運動例】

○ベースボール型：ロングスローゲーム

～ドリルゲームにおいて投げる技能を活用する場面～

- ・等間隔にコーン等を置いて目標（的）にする。
- ・所定の位置（ライン等で印）から、前の足（右利きの場合は左足）をラインなどの前に1歩踏み出し、ボールを目標（的）に向かって投げる。
- ・だんだんと遠くの目標（的）に向かってボールを投げる。



目標の高さを変える。
投げた距離を得点化したゲーム形式にする。



動きがぎこちなく遠くに投げられない児童へのアドバイス
正しいフォーム、助走、ボールを投げる角度、スムーズな動きなどを確認しましょう。

【運動の習慣化のための工夫】

- 補助運動として、投げる活動を毎時間継続して取り入れるような単元計画を作成しましょう。
- 授業や休み時間にいろいろな大きさや重さのボールを使った活動ができるように環境を整えましょう。

持久力を高めるためにー無理のない速さで5～6分程度の持久走をすることができるー

ねらいをもとに教材や場を工夫し、自分の課題に合わせて運動を行うことで、いろいろな運動を続けて行うことができる持久力を高めるようにします。

《教材の工夫》

短なわ、長なわ、
ミニ駅伝 など

《場の工夫》

時間、回数、
周回コース、
固定遊具の
サーキットなど

《課題解決》

課題に合わせた活動、
スモールステップなど

【指導のポイント】

自分の能力や体調に合わせて目標を設定し取り組ませましょう。

【体づくり運動（動きを持続させる能力を高めるための運動）の運動例】

～動きを持続する能力を高めるための運動の場面などに～

○目指せ□□m（5分間走）

- ・5分間で目標の距離を走れるか挑戦させる。
- ・トラック1周のタイムと走り方の関係を知り、自分に合ったペースを見付ける。
- ・自分のめあて（目標の距離と自分のペース）を設定する。
- ・5分間走にチャレンジする。（めあての達成に向けて）
- ・自分の取組を振り返り、めあて（目標の距離やペース）の見直しをする。
- ・次回のめあて（目標の距離やペース）を設定する。



距離を決めて目標タイムや走るペースを設定させる。
自分のペースをつかませるために様々な走り方を体験させる。（ペア、グループ）



続けて走ることが苦手な児童へのアドバイス
ゆっくり走ることから始め、自分のペースで走り続けられるようなめあてを設定しましょう。

【運動の習慣化のための工夫】

- 授業の始めに、補助運動として校庭の遊具や固定器具などを活用したサーキットコースを作成し、継続して取り組ませましょう。 ※運動の特性や単元のねらいに合わせて、種目や活動を工夫する。

道 徳

Morality

豊かな心を育成するために

はばたく群馬の指導プランに示した「豊かな心」(向上する心、やりぬく心、大切にすること)を育むために、身に付けさせたい資質・能力と道徳教育の内容との関連を示しました。

道徳の時間の指導について、「指導の基本」にあるように、児童が道徳的価値の自覚及び自己の生き方について考えを深めることができるようにするためには、中心発問の設定及び発問構成が重要となります。そこで、「シロクマのクウ」(文部科学省 小学校読み物資料集)を使って基本的な発問構成の例を示しました。また、授業充実のためのコツやアイデアとして、考えを書く活動を充実させるために、ロールレタリングなどの書く活動の具体例、児童相互が考えを伝え合い、学び合い、深め合うための話し合い活動の具体例を示しました。

1 豊かな心を育成するために

向上する心、やりぬく心、大切にすることと道徳教育の内容と関連 …… P 114

2 基本的な発問構成について …… P 116

3 授業充実のためのコツやアイデア

(1) 考えを書く活動を充実させるために …… P 118

(2) 話し合い活動を充実させるために …… P 120

1 豊かな心を育成するために

○向上する心、やりぬく心、大切にすることと道徳教育の内容との関連

向上する心、やりぬく心、大切にすることの3つの心は、豊かな心の中で特に重点的に育成したい心です。

下の表は、3つの心と道徳の内容項目との主な関連を示したものです。生命を尊重する心の育成を基盤として、指導内容の重点化を図るとともに、道徳の時間を中心として、全ての教育活動を通して3つの心を育成しましょう。

		小学校	
		1・2年生	3・4年生
向上する心	内容	自分のやりたいことを決めることができる	目標を決め、自分を伸ばそうとすることができる
	資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ◆学習課題を基に、書きたいことや調べたいことなどを決めることができる。 ◆休み時間では、自分のやりたい遊びをみつけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆学習や運動などの面から、学期の目標を立てることができる。 ◆これまでできなかったことに、積極的に挑戦することができる。
	内容項目	<input type="checkbox"/> 自分がやらなければならない 1-(2) 勤勉・努力 いことをしっかりと行う。 <input type="checkbox"/> よいと思うことを進んで行 1-(3) 勇気 う。	<input type="checkbox"/> やろうと決めたことは、粘 1-(2) 勤勉・努力 り強くやり遂げる。 <input type="checkbox"/> 正しいと判断したことは勇 1-(3) 勇気 気をもって行う。 <input type="checkbox"/> 自分のよい所を伸ばす。 1-(5) 個性の伸長
やりぬく心	内容	自分のやるべきことに、しっかりと取り組むことができる	自分のやるべきことに、粘り強く取り組むことができる
	資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ◆学習課題や宿題などを、最後まで行うことができる。 ◆机の中を整理したり靴をそろえたりするなど、身の回りの整理整頓ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆漢字書き取りや計算練習などに、繰り返し取り組むことができる。 ◆当番活動など、与えられた仕事をやり遂げることができる。
	内容項目	<input type="checkbox"/> 自分がやらなければならない 1-(2) 勤勉・努力 いことをしっかりと行う。 <input type="checkbox"/> 身の回りを整え、規則正し 1-(1) 節度・節制 い生活をする。	<input type="checkbox"/> やろうと決めたことは、粘 1-(2) 勤勉・努力 り強くやり遂げる。 <input type="checkbox"/> 進んでみんなのために働 4-(2) 勤労・奉仕 く。
大切にすること	内容	友達と、仲良くすることができる	学級の生活をよりよくするために、友達と協力し合うことができる
	資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ◆友達と一緒に、遊んだり、製作したり、調べたりすることができる。 ◆「おはよう」「ありがとう」など、挨拶や感謝の言葉を言うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆係活動など、学級をよりよくする活動に取り組むことができる。 ◆友達の気持ちを考え、協力し合いながら行動することができる。
	内容項目	<input type="checkbox"/> 気持ちのよい挨拶、言葉遣 2-(1) 礼儀 いで明るく接する。 <input type="checkbox"/> 身近にいる人に温かい心 2-(2) 親切 で接し、親切にする。 <input type="checkbox"/> 友達と仲よくし、助け合う。 2-(3) 信頼・友情 <input type="checkbox"/> 日ごろ世話になっている 2-(4) 尊敬・感謝 人に感謝する。 <input type="checkbox"/> 約束やきまりを守る。 4-(1) 公德心 <input type="checkbox"/> 家族の役に立つ喜びを知 4-(3) 家族愛 る。 <input type="checkbox"/> 学級や学校の生活を楽しく 4-(4) 愛級心・ 愛校心 <input type="checkbox"/> 郷土の文化や生活に親し 4-(5) 郷土愛 み、愛着をもつ。	<input type="checkbox"/> 相手のことを思いやり、進 2-(2) 思いやり・ んで親切にする。 親切 <input type="checkbox"/> 互いに理解し、信頼し、助け 2-(3) 信頼・友情 合う。 <input type="checkbox"/> 進んでみんなのために働 4-(2) 勤労・奉仕 く。 <input type="checkbox"/> 協力し合って楽しい家庭を 4-(3) 家族愛 つくる。 <input type="checkbox"/> 協力し合って楽しい学級を 4-(4) 愛級心・ 愛校心 <input type="checkbox"/> 郷土を愛する心をもつ。 4-(5) 郷土愛

3つの心は、道徳の時間を中心として、全ての教育活動を通して育成しましょう。
特に、次のことに留意しながら指導しましょう。

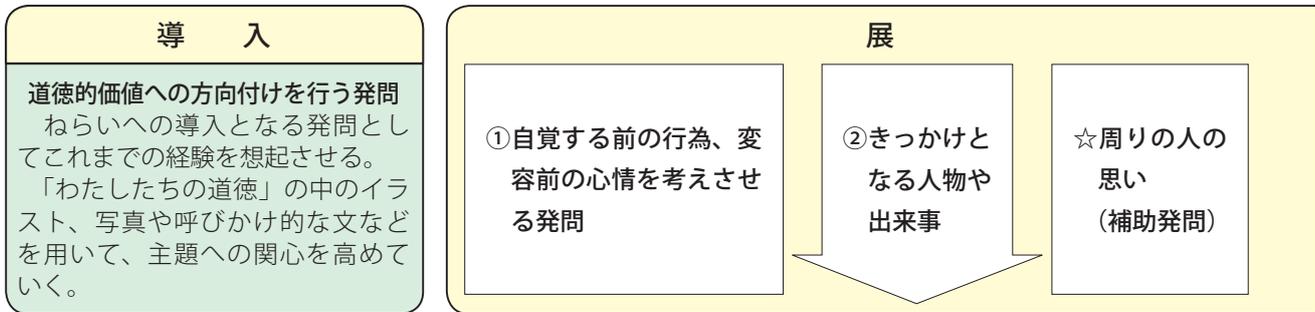
- ・校長の方針の下、道徳教育推進教師を中心に全校体制で進めましょう。
- ・時には厳しく、そして、できた時にはおおいにほめましょう。
- ・一定期間ごとに、振り返る時間を設けましょう。
- ・必要に応じて具体的なモデルを示しましょう。
- ・道徳の時間などで「わたしたちの道徳」を活用しましょう。



		小学校 5・6年生	中学校 1～3年生
向上の心	内容	自分のよさに気付き、伸ばそうとすることができる	自分のよさや特徴を生かして、進路や将来の目標をもつことができる
	資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ◆自分のよさに気付き、それを伸ばすために、年間の目標を立てることができる。 ◆定期的に目標を振り返り、新たな気持ちで取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆卒業後の進路を意識して、授業や職場体験活動などに取り組むことができる。 ◆自分の特性を生かした将来に向けて、資料などを収集することができる。
	内容項目	<input type="checkbox"/> より高い目標を立てる。 1-(2) 勤勉・努力 <input type="checkbox"/> 進んで新しいものを求め、1-(5) 創意・工夫工夫して生活をよりよくする。 <input type="checkbox"/> 自分の特徴を知って、よい 1-(6) 個性の伸長所を積極的に伸ばす。	<input type="checkbox"/> より高い目標を目指す。 1-(2) 勤勉・努力 <input type="checkbox"/> 自己の人生を切り拓いてい 1-(4) 真理・理想く。 <input type="checkbox"/> 個性を伸ばして充実した生 1-(5) 個性の伸長き方を追求する。
やりぬく心	内容	自分がやろうと決めたことに、最後まで取り組むことができる	自分がやろうと決めたことに、計画的に最後まで取り組むことができる
	資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ◆学習の中で自ら見付けた課題を最後まで追究し、解決することができる。 ◆児童会やクラブ活動などに、責任をもって取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆将来の進路を見据え、計画的に学習などに取り組むことができる。 ◆生徒会活動や部活動など、計画を立て、最後まで取り組むことができる。
	内容項目	<input type="checkbox"/> より高い目標を立て、くじ 1-(2) 勤勉・努力けないで努力する。 <input type="checkbox"/> 公共のために役に立つこと 4-(4) 勤労・奉仕をする。	<input type="checkbox"/> 着実にやり抜く強い意志を 1-(2) 勤勉・努力もつ。 <input type="checkbox"/> 公共の福祉と社会の発展に 4-(5) 勤労・奉仕努める。
大切にしている心	内容	学校の生活をよりよくするために、諸活動に取り組むことができる	身近な地域をよりよくするために、創意工夫して活動することができる
	資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校行事や児童会活動など、学校全体の活動に積極的に取り組むことができる。 ◆学校の施設や設備、教材・教具などを大切に使うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆育成会や地域の行事に参加するなど、積極的に地域と関わることができる。 ◆身近な地域の自然や文化、歴史などを自ら学ぶことができる。
	内容項目	<input type="checkbox"/> 相手の立場に立って親切に 2-(2) 思いやり・親切 <input type="checkbox"/> 男女仲よく協力し助け合う。 2-(3) 信頼・友情 <input type="checkbox"/> 自分の役割を自覚し、主体 4-(3) 役割・責任的に責任を果たす。 <input type="checkbox"/> 公共のために役に立つこと 4-(4) 勤労・奉仕をする。 <input type="checkbox"/> 家族の幸せを求めて、進ん 4-(5) 家族愛で役に立つことをする。 <input type="checkbox"/> 協力し合いよりよい校風を 4-(6) 愛校心つくる。 <input type="checkbox"/> 郷土を愛する心をもつ。 4-(7) 郷土愛	<input type="checkbox"/> 他の人々に対し思いやりの 2-(2) 人間愛・思いやり心をもつ。 <input type="checkbox"/> 互いに励まし合い高め合う。 2-(3) 信頼・友情 <input type="checkbox"/> 役割と責任を自覚し、集団 4-(4) 役割・責任生活の向上に努める。 <input type="checkbox"/> 公共の福祉と社会の発展に 4-(5) 勤労・奉仕努める。 <input type="checkbox"/> 充実した家庭生活を築く。 4-(6) 家族愛 <input type="checkbox"/> よりよい校風を樹立する。 4-(7) 愛校心 <input type="checkbox"/> 郷土を愛し、郷土の発展に 4-(8) 郷土愛努める。

2 基本的な発問構成について

発問を構成する場合には、最も考えさせたい場面やそれに関わる中心発問をまず考え、次にそれを生かすためにその前後の発問を考えるという手順が有効です。中心発問では、児童が自分の感じ方や考え方を多様に引き出せるような発問にすることが大切です。



指導例『シロクマのクウ』(低学年)(文部科学省小学校道徳読み物資料集)

○自分がやらなければならないことを考えさせる。(「わたしたちの道徳」P22~25を活用)

○学校やお家で、自分がやらなければならないことがありますか。

①自覚する前の心の中を考えさせる。

①ちっともうまいかないクウはどんな気持ちだったでしょうか。
・上手になりたいなあ。
・つかれたなあ。
・お母さんがいるから平気だ。
・みんな一人で取っているのか。



②頑張り続けるか、あきらめるかなどの葛藤をさせる。

②すわりこんでしまったときのクウは、どんなことを考えていたでしょうか。
・がんばろう。・つかれた。
・ちょっと手伝ってほしい。
・本当にできるようになるのかなあ。



☆その時の母の思いを考えさせる。

☆クウを見ているときのお母さんはどんな気持ちだったでしょうか。
・お母さんに頼らないで、がんばれ。
・手伝ってあげたいけど、クウのためだ。

発問の問いかけコーナー ～多様な発言を引き出すために！～

主な発問の数は資料の長さ、ねらいなど、様々なことを考慮して決める。その際、一番話し合わせたい発問(中心的な発問)、場面にはたっぷり時間をかけられるように、軽重をつけるとよい。3~4つの発問を設定したら、「ここは簡単に意見が出るはずだから、短く、テンポよく」「ここはじっくり時間をかけたい。役割演技や書く活動を取り入れて…」などと事前に授業の場面を想定し、児童の反応などをじっくり考えるようにする。

「こころ」が直接書かれていない箇所を問い、多様な意見を引き出すようにする。

「どうしたでしょう?」「どうすればよかった?」と行動の仕方を問うのではなく、「こころ」を考える発問をする。

ねらい…がんばって魚をとることができたクウの心の変化を話し合うことを通して、自分がやらなければならないことは、しっかり行おうとする心情を育てる。

開			終末
◎生き方や考え方について深く考え自覚しているところ（中心場面）、価値理解を深めさせる発問	③自覚した後の行為、変容後の心情を考えさせる発問	○価値の一般化自己理解	道徳的価値について、自分と関わらせて考えられるように、具体的な場面を挙げて考えさせる。説話やことわざ等、本時のねらいとする道徳的価値に沿った内容にする必要がある。

◎中心発問 主人公の心情や態度が変化した場面。	③自覚する前の心情と対比し、達成感や喜んでいるときの気持ちを感じ取らせる。	○自分を見つめ直したり、よりよい生き方を内面から自覚させる。	○本時を振り返らせる。
◎クウはどんな気持ちで「よし！」と立ち上がったのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・このままじゃだめだ。 ・お母さんが応援してくれている。がんばらなくちゃ。 ・ここであきらめたら、一人で生きていけない。 ・ぼくが、がんばらないと。 ・みんなもがんばっている。 	③「やった、やった。」と言ったときのクウは、どんな気持ちだったでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・あきらめなくてよかった。 ・見ていてくれたかな。 ・がんばってよかった。 ・ぼくにもできたよ。 	○自分がやるべきことを、自分の力でやり遂げたことがありますか。そのときはどんな気持ちでしたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・宿題を自分の力でやり遂げた。すっきりした。 ・家の手伝いをがんばってやった。ほめられてうれしかった。 ・そうじのときに水が冷たかったけどぞうきんがけを一生懸命やった。きれいになって気持ちよかった。 	○がんばって魚をとることのできたクウに手紙を書こう。



中心発問について考える時間を十分にとり、じっくりと児童とともに考え合い、語り合えるようにする。	形容詞を深める問いを大切に。授業のねらいに直結する形容詞については、「悲しさの意味」「嬉しさの意味」等に丁寧に触れていく。	副詞に注目する。心情のあり方のより詳細な理解につながる。例えば、「ひどく悲しい」「少しうれしい」「しょんぼりと歩く」「ふと止まる」など。
「このあと主人公はどうしたの？」等資料に正解のある問いを中心発問にしない。	発問が多くなりすぎないように気をつける。	単語だけの発言には、「もう少し詳しく聞かせて。」「○○ってどういうことかな。」など問いかけ、さらに詳しく聞き出す。
		資料によっては、心情ばかりでなく、判断理由や意欲を問う発問も考えられる。

道徳

3 授業充実のためのコツやアイデア

(1) 考えを書く活動を充実させるために

～自分との関わりで考えるための工夫～

書く活動は、道徳的価値を理解すること、道徳的価値を自分との関わりでとらえること、道徳的価値を自分なりに発展させていく上での思いや課題を培うことを意図して行います。考えを書く活動を工夫して、道徳的価値の自覚を深めましょう。

ねらい…主人公の「心のものさし」の変化を話し合うことを通して、相手の立場を考えて、だれに対しても親切にしようとする判断力を培う。2-(2)思いやり・親切

考えを書く活動を通して

書く活動は、自分自身の考えを深めたり整理したりする機会として重要な役割をもちます。児童の実態に応じて「わたしたちの道徳」を活用したり、ワークシートの形式を工夫したりすることも大切です。

- ・吹き出しを付けた形式
- ・場面絵を載せた形式
- ・手紙の形式
- ・ロールレタリング形式 など

ロールレタリング

自分との対話を

道徳的価値を自分との関わりで考えられるよう自分と対話させましょう。自分と向き合うための方法の1つとしてロールレタリングがあります。

ロールレタリングとは

ロールレタリング（役割交換書簡法）は、相手に架空の手紙を書き、次に手紙を受け取った相手の立場で自分宛に手紙を書く方法のことです。相手は、場面や状況によって友達や家族だけでなく、自分のこともあります。

最も考えさせたい場面

授業のねらいに関わる中心発問と関連のある場面で、ロールレタリングを取り入れると、相手の立場で考えやすくなります。また、今までの自分はどうかであったか振り返るきっかけにもなります。

指導例「心のものさし」(高学年)

自作資料

- 1 思いやりのある行為について考える。
- 2 資料を読んで、みなみの行為の判断理由を考える。
 - みなみが優太に「いい加減にして」と言ったのは、なぜだと思いますか。
 - ・勝手なことをしないでほしいから。
 - みなみの「心のものさし」が大きく変化した出来事は、どんなことですか。
 - ・通学途中、犬に吠えられた優太が手を握ってきたこと
 - ◎思わず手を握り返したみなみの「心のものさし」は、どんな考えに変わったと思いますか。
 - ・もっと相手のことを考えなくてはいけない。
 - ・今までは自分の都合ばかり考えていた。
 - あなたがみなみだったら、優太にどんな手紙を書きますか。また、優太の立場になって自分の手紙に対する返事を書きましょう。(ロールレタリング)
- 3 本時を振り返って、感想を書いたり発表したりする。
 - 思いやりについて、大切にしていきたい思いや考えをまとめてみましょう。



＜ ロールレタリングを活用した例 ＞

場面絵を載せた形式

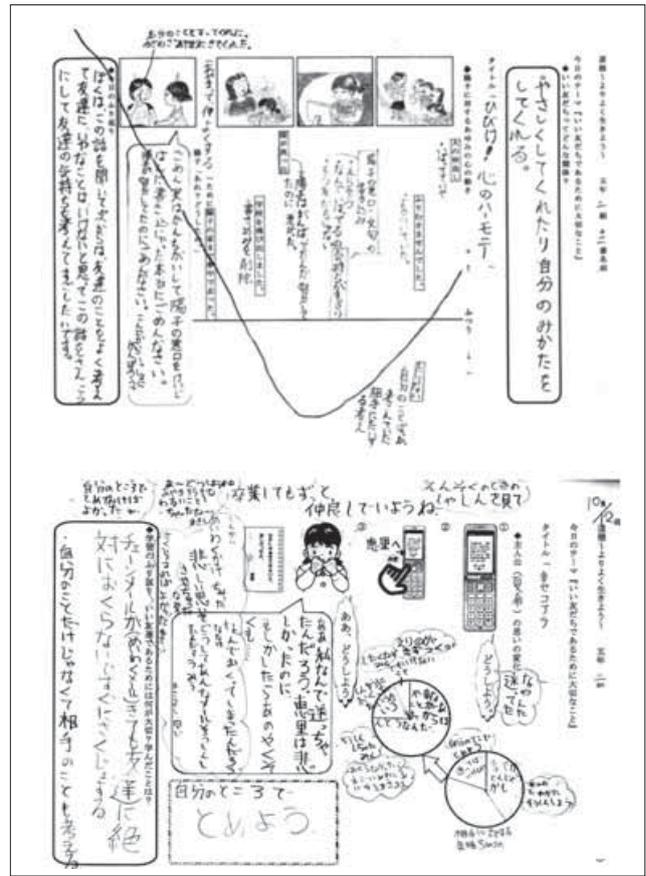
主人公の心の動きをとらえやすくするために場面絵を活用します。中心的な場面では、吹き出しを活用するなどして主人公の心の動きを共感的にとらえさせます。また、心の動きを心情曲線にして表すなどの方法も考えられます。

心情図を載せた形式

主人公の心の動き（迷いや葛藤）をとらえやすくするために心情図（心のバロメーター）を活用します。相反する2つの思いを表現させることにより、主人公の心の動きを共感的にとらえ、ねらいとする道徳的価値の理解を深めることができます。

学習の振り返りを載せた形式

ねらいとする道徳的価値を自分なりに発展させていく上での思いや課題を培うために、自分自身を振り返る学習を取り入れます。書く活動を通して、自分と向き合い、自分との関わりで道徳的価値をとらえさせるようにします。



< 心情図を活用した例 >

心の成長の記録として

児童が書いたものをファイルなどにして蓄えておきましょう。また、道徳的価値を自分との関わりで書いてある部分には、線を引いておきましょう。自分自身の感じ方や考え方の変化を確かめたり、心の成長を実感したりすることができます。

振り返りを読むときのコツ

低・中学年では、本時の振り返りのとき、主人公に手紙を書くことがよくあります。自分のこととして考えることはまだ難しいかもしれませんが、手紙の中に自分の気持ちが表現されていることがあります。その部分を見逃さないようにしましょう。

授業での学びを生活へ

- 学級通信
 - ・道徳の学習で児童が考えたことや気付いたことを学級通信で紹介すると、個人の感じ方や考え方が友達や家庭へと広がります。
- 道徳コーナー
 - ・教室に道徳コーナーを特設し、道徳の学習で使った場面絵や中心発問、児童の振り返り、関連する「わたしたちの道徳」のページなどを掲示すると、授業での学びが生活へとつながっていきます。

教室の後ろの黒板に特設された道徳コーナー
(場面絵は、教師による自作作品)



(2) 話し合い活動を充実させるために

「自分の考え」を基にして、「意見を出す」「よさに気付く」「比較する」「考えをまとめる」など、目的に応じた話し合いや聞き合う活動を取り入れて、ねらいに迫るよう心掛けましょう。

ねらい…よい所を伸ばそうとする主人公の心情について話し合うことを通して、自分の特徴に気づき、自分のよい所を伸ばそうとする態度を育てる。 1－(5) 個性の伸長

考えを明確にさせる

- アンケート等の効果的な提示を行い、道徳的価値への方向付けを行う。

自分の考えをもたせる

- 考える内容を明確に指示する。
- 中心発問について考える時間を十分に確保する。
- ワークシートを活用し、「ぼく」になったつもりで、自分の考えを書かせる。

小グループでの話し合いをさせる

- 小グループで考えを共有させる。
 - 自他の感じ方・考え方のよさに気付かせる。
 - 考えを聞かせる→まとめさせる。
- ※全体で発表が苦手な児童も児童同士で安心感をもてる。

一斉での話し合いをさせる

- 教師も児童も共に考える。
 - 全体で考えを共有させる。
 - 必要に応じ、発言の意図を確認する。
 - 考えを引き出したい児童へ教師が意図的な指名を行う。
 - 共感、賞賛、問い返しの支援を行う。
- ※机の並べ方は児童相互の様子が確認できるコの字型がよい。

自分との関わりで考えさせる

- 日頃の自分と向き合う時間を確保する。
- 教師は共感的に受け止める。
- 道徳的実践意欲を高める賞賛や励ましの支援を行う。

指導例「うれしく思えた日から」(中学年) (文部科学省小学校道徳読み物資料集)

- 1 「自分のよい所は」自分の特徴について振り返る。
・事前アンケートの結果等があれば示す

- 2 資料「うれしく思えた日から」を読んで話し合う。
○以前の「ぼく」は自分のことをどう思っていたか。
・目立たない ・いいところなんてない
○ボールが30メートルを超えてみんなが声を掛けてくれたとき、どんな気持ちだったろうか。
・認めてくれてうれしい ・自分にもいいところがある
・野球をやってみようかな

◎野球の練習を続けた1年の間に、友達や家族の言葉を思い出したのはどんなときでしたか。また、そのときどんなことを思いましたか。自分の考えをワークシートに書きましょう。

友達の考えを聞いてみましょう。◆小グループ

- C 1：僕が司会をします。まずC 2さんはどう思いますか。
C 2：私は、練習していても上手いかなかったときじゃないかな。
C 1：どうしてそう思いますか。
C 2：そういうときに思い出すと、力が湧いてくるから。
C 1：C 3君はどう思いますか。
C 3：ミスしたときだよ。次はミスしないと思うな。
C 1：僕は、もっとよくなりたいと思ったときかな。
自分のいいところを伸ばしたいんだと思ったから。

◆一斉 (教師の関わりで話し合いが点から面に広がる)

- C 4：自分が思うように身体が動かないときだと思います。
T 1：なるほど。C 4君はそう考えたんだね。C 5さんはどうかな。
C 5さんの考えを聞かせてください。
C 5：私は、ボールを遠くに投げられたときかと思います。
T 1：どんなことを思ったのかな。
C 5：自分にはいい肩があるんだ。
T 1：「いい肩してるね」は、友達がかけてくれた言葉だったね。

- 3 今までの自分はどうかであったか振り返る。

C 6：今日の授業を聞いて、できなくても、すぐに上手にいかなくても続けていけばよくなり、いつか自分の長所になっていくと思えた。

- 4 教師の説話を聞く。

外国語活動

Foreign Language Activities

A L TとのT Tを効果的に行うために

児童が自分の思いや考えを伝え合う活動を行い、コミュニケーション能力の素地を養っていくためには、単元の前半で十分に聞かせる活動を行うとともに、活動のモデルの提示をいかに効果的に行うかがポイントになります。その際、A L TとのT Tが大きな役割を果たします。

また、単元や本時、活動のねらい、T Tをする際の互いの留意点について、A L Tと共有することで、より円滑に指導を進めることができます。

さらに、単元の中心になるコミュニケーション活動には、聞く活動の充実が欠かせません。そこで、小学校で行われる「聞く活動」における各活動のねらいを明確にし、単元計画の中に意図的に聞く活動を取り上げた例を提示しています。

A L Tと一緒にこの手引きを活用しながら、より効果的なT Tをしていきましょう。

- 1 活動のねらいや支援・留意点をA L Tと共有しましょう … P 122
- 2 T TでのJ T E (担任などの日本人教師)とA L Tの役割や指導上の留意点を確認しましょう … P 124
- 3 活動の目的を明確にし、児童が英語を聞く機会を十分に設定しましょう … P 126

<英語表記の部分について>

※ポイント1と2については、A L Tとの打合せや確認の時に活用できるよう、一部英語で書かれています。

- ・1⇒日本語で書かれている部分と同じ内容が、A L T向けに書かれています。
- ・2⇒A L Tが指導をする際の留意点が日本語で説明されており、その日本語を英語に訳したものがその横に書かれています。

1 活動のねらいや支援・留意点をALTと共有しましょう

○TTを成功させる秘訣は、JTE（担任などの日本人教師）とALT（外国語指導助手）がねらいや指導法、児童への支援方法を共有しておくことです。本ページをALTに見せ、基本的な指導方法等を共通理解し、効果的なTTを行いましょう。

※英語で書かれている部分は、日本語と同じ内容をALT側の視点から説明したものです。

単元及び本時のねらいの共通理解

Mutual understanding of the aim of the unit and lesson



○活動のアイデアをALTに求める際には、該当単元で扱う「言語材料」や「言語活動」の意図などを明確に伝えましょう。

- ・表現の習得が目標ではありませんが、十分に聞かせたり、表現に慣れさせたりする工夫が必要です。
- ・ALTから出されたアイデアが単元や本時のねらい達成に合ったものかどうかを確認するのはJTEの役割です。

To achieve learning goals effectively, it is necessary to clarify specific purposes for all activities and materials. Discuss and confirm the target goals for each lesson and unit with JTEs.

Reviewing proposed ideas for lesson content with JTEs will ensure that each activity and all materials used are relevant and suitable for the goals of the lesson or unit. Ask for feedback from JTEs.



モデル文やスキット等を準備するときの留意点

Points for preparing model dialogues and skits

- 児童にわかりやすかつ興味をひくものになるようにALTにアイデアを伝えましょう。
(例) モデル文に児童の間で流行っているキャラクターや校内の先生、地域性等を入れる 等。
- 内容が単元のねらいに合っているか、適切な量であるか等を確認しましょう。
- 用意するジェスチャーや小道具、提示するタイミングについてアドバイスをしましょう。
- 文化やことばの不思議さに気付かせるための支援を検討し、ALTに伝えましょう。

It is important to include content that is interesting and related to the students' daily lives and can be easily expressed through pictures or actions. (Ex: characters, famous people, teachers at school, etc.) Talk to JTEs about what students are interested in and things about Japan and their community.

Confirm with JTEs that the content is also appropriate to achieve the goals and relevant to the aim.

Discuss gestures and props to use in skits as well as the length of skits with JTEs.

In addition to spoken and written language, ALTs should teach students gestures and show ways of thinking from their home countries. Students should know differences between Japan and other countries. Find ways to incorporate these things into lessons when possible. Talk to JTEs about it.





授業中の支援のポイント Points for supporting students during class

- 日本語を使わずに児童の理解を促すための支援を工夫する。
 - ・ALTの発話に合わせてタイミングよくイラストなどに注目させたり、ALTのジェスチャーをJTEがやってみたりするなど、児童の視覚に訴えるようにしましょう。
- 難しくてわからない単語は、ALTに具体例を挙げてもらう。
 - JTE: Instrument? ALT: Yes, instrument. For example, piano, guitar, violin,...
- 対話の中でキーワードをゆっくり、何度も繰り返す。
 - What food do you like?** — **Food?** I like sushi. - Oh, **you like** sushi.-Yes, **I like** *kappamaki*.
- 児童の積極的な発話を取り上げて言い換え(recast)をする。
 - 文法や発音等が間違っても児童に言い直させず、修正しながら話を展開しましょう。
 - S:I want a singer. → T: Oh, you want **to be** a singer. (ゆっくり、児童にわかるように。)

- Try to teach and allow students to understand English without the use of Japanese explanations: Explain in easier English when students seem to have trouble understanding. Let the JTE support you in explaining by also using English. Discuss the process with the JTE before class.
- Use solid examples to help students understand difficult words. Use easy words if you can.
 - JTE: Instrument? ALT: Yes, instrument. For example, piano, guitar, violin,...
- In conversations, put emphasis on keywords by saying them very clearly and using them often.
 - "What food do you like? - Food? I like** sushi. - Oh, **you like** sushi. - Yes, **I like** *kappamaki*."
- Encourage students to actively speak English by creating an environment where they feel comfortable speaking without fear of making mistakes. If a student makes a mistake, repeat what they said correctly and clearly to show them the right way.
 - S:I want a singer. → T: Oh, you want **to be** a singer.



小中連携：TTの授業で充実させていきたいこと



1. 英語を「ことば」としてとらえる感覚を磨いていきましょう。

- ①話されている個々の単語や細かな文法規則から意味や話し手の意図を捉えさせるのではなく、文脈や場面、話し手の表情やジェスチャーなどから「意味を推測する力」を育てることが大切です。
 - ・Who am I? ゲームや Three hint quiz など、推測させて気付かせる活動は大変有効です。
- ②身の回りの外来語や英単語を挙げて英語の発音との違いに気付かせるなど、英語と日本語の響きや文字の違いを取り上げた活動も効果的です。

2. 自己紹介や Show&Tell、簡単なスキットを演じる活動は、小中共通で行うことのできる活動です。

- 異学年や他校との交流の機会を設けることで、「自己紹介」が生き生きとした活動になります。「必要感」のある場面設定をしましょう。
 - ・交流の機会以外にも、なりきり自己紹介（その人物になって紹介し合う）などの工夫が考えられます。
- Show&Tellを計画的に行い、実物や写真を示しながら児童の伝えたいものや思いをわかりやすく表現する体験をさせましょう。
- スキットや簡単な物語を演じる単元を計画的に設定し、表現力（音声・身体表現）を育てましょう。
 - ・例) 桃太郎の単元（※文科省映像資料DVD参照）を設定し、グループ毎に演じさせる など

2 TTでのJTE(担任などの日本人教師)とALTの役割や指導上の留意点を確認しましょう

- 1 単元名 「できることを紹介しよう」
- 2 ねらい ・自分の「できること」や「できないこと」を表現し、積極的に友達とコミュニケーションを図ろうとする。
・「できる」「できない」という英語表現に慣れ親しむ。

【JTEの指導の留意点】

◆TTのよさを生かしてALTと担任が対話をする場面を積極的に取り入れ、単に「ALT対児童」「JTE対児童」にならないようにしましょう。

◆ALTにモデル文の内容を考えてもらうときは、授業のねらいや意図をしっかりと伝えましょう。

○本時では、「できる」「できない」という英語表現に慣れ親しませることがねらいなので、モデル文は内容の面白さだけでなく、「できる」「できない」という表現をたくさん聞かせることに重点を置く必要があります。



◆ALTの英語を児童が理解できないときには、ALTの英語を日本語に訳すのではなく、ALTに対して“Can you ~?”と質問したり、“Oh, you can~!”などとALTの表現を繰り返したりして、児童が意味を類推できるような支援をしましょう。

◆単元末に行う活動（自己紹介活動）を視野に入れて、児童が自分のできることを再発見し、自己有用感の育成につながるような配慮も大切です。

学習活動例（※留意点）

1 あいさつ

○教師のあいさつに対して、児童がその時の気持ちを個々に表現する。その後に児童同士であいさつを行うなどの工夫をする。



【会話例】

ALT: How are you, Ms. Sato?

JTE: I'm sleepy. How are you, Mr. White?

ALT: I'm hungry. How are you, everyone?

児童: I'm fine. / I'm excited. / I'm happy. 等
(※あいさつの答え方にも工夫を)

2 モデル文の提示

○ALTが自分自身の「できること」「できないこと」を英語で表現し、「can」や「can't」を使った表現に慣れ親しませる。

【モデル文】

I can speak English, but I can't speak Japanese. I can play soccer, but I can't play baseball. I can play the piano but I can't play the guitar. I can sing Yagibushi, but I can't dance Heso-odori.

3 友達のできること、できないことを予想してインタビューする。

○友達ができることとできないことを事前に予想して、インタビューをして確かめる。

※インタビューの様子を見て回り、児童にとって多少苦手なことであっても自信をもって“Yes, I can ~.”と答えられるように励ましたり、“Yes, you can ~!”などと声掛けをしたりする。

ALTと効果的なチームティーチングを行うために……

TTを成功させる最大の秘訣は、教師同士のコミュニケーションです。ALTとの意思疎通をしっかりと行うために、打合せでは次のような工夫をしてみましょう。

- 短時間で打合せを行えるように、伝えたいことは事前によくまとめておきましょう。
- 打合せを単元の単位で行い、授業ごとの細かな打合せはできるだけ省略するなどの工夫をしましょう。
- 授業記録や過去に使用した教材などを有効に活用し、効率的に授業が行えるようにしましょう。

【ALTの指導の留意点】

- ◆授業の主たる指導者はJTEであるという意識をもち、授業中にJTEとの対話の場を積極的に取り入れましょう。また、対話の内容は、事前によく打合せをしておきましょう。
- ◆時間があれば、児童一人一人と個別に対話をする機会ももちたいものです。

- ◆児童がたくさん英語を聞かなかで、「できる」「できない」の表現の違いに気付くように、次のような工夫をしましょう。
- ジェスチャーを付けたり、表情豊かに表現したりする。
- “can”や“can't”を強調して発音するなどして、違いに気付きやすくする。
- 八木節やへそ踊りなど、言葉だけでイメージしづらいものは、写真やイラストを用いる。

- ◆モデル文は地域や学校の実態を踏まえたものとするなど、学校によって内容を変えるような工夫も大切です。

- ◆学校の授業では、単に英語に親しませるだけでなく、英語を通して児童の自己有用感を育てることも大切です。“Oh, you can ~!”や“Great!”など、肯定的な言葉掛けを積極的に行い、児童に自信をもたせるようにしたいものです。
- インタビューの内容をメモしたワークシートを用いて次時にALTやJTEが「なりきり Who am I? クイズ」を行うなどの工夫も考えられる。

- ◆ALTs and JTEs should always be aware of when it is their turn to lead the class and be mindful of class time management. ALTs should make sure to have conversations with JTEs as much as possible.
- ◆Since JTEs may feel nervous when being spoken to in English abruptly during the class, talk with your JTEs before the class about the conversations you are to have in the classroom.
- ◆Talk to each of your students as much as you can in class. For most of the students, your English lesson is their only chance to speak with a “real foreigner”.

- ◆Provide opportunities for every student to notice expressions using “can” and “can't” by incorporating them in your English model dialogue. Here are some tips:
- Speak with exaggerated gestures.
- Emphasize “can” and “can't” so that students can easily understand the difference between them.
- Use photos or pictures when you talk about something that students might have trouble understanding.

- ◆In your model dialogue, it is important to supplement the content in the textbook with additional material such as local topics that are interesting and relevant to students. Doing so will make daily English conversation practice seem more natural and easier for them.

- ◆The purpose of English lessons in school is not only to have students use English but also to give students a sense of self-efficacy. You should always be attentive to each student and make them feel confident with praise and words of encouragement such as “Oh, you can ~!” or “That’s great!”



3 活動の目的を明確にし、児童が英語を聞く機会を十分に設定しましょう

児童が円滑なコミュニケーション活動を行えるようにするためには、まずは聞く活動の充実が不可欠です。「Let's Listen」「Let's Play」「Let's Chant」などの活動の目的を踏まえて、活動のタイミングや継続性を単元の中で工夫し、単元を通して、児童が十分に英語を聞き、口慣らしをすることができるようにしましょう。十分な準備（レディネスづくり）を行い、自信をもって児童が英語を話せるようにしましょう。



指導例：『Turn right.』
(道案内をしよう・第6学年)

<第1時：単元の内容や活動に興味をもつ>

○町に存在する様々な建物などの言い方を知り、日本語との違いに気付いたり、道案内の言い方を知る。

【Let's Play】

【Let's Listen】

<第2・3時：新出言語材料に慣れ親しむ>

○建物などの言い方や、目的地への行き方を尋ねたり伝えたりする表現に慣れ親しむ。

【Let's Chant】

【Let's Listen】



<第4時：コミュニケーション活動を行う>

○相手意識をもち、これまでの活動を生かしたコミュニケーション活動（例：ALTに私たちの町を案内しよう）

【Let's Chant】

【Let's Play】

目的：単元で使われる語彙や表現を繰り返し聞いたり言ったりして児童の興味・意欲を高め、語彙や表現に慣れ親しむ。

- 単に繰り返すことがないよう、スピードを変化させたり、ALTと交互に発音したりして、活動をアレンジさせましょう。
- 活動が単調にならないよう、内容に応じて活動の順序やルールを変えるなど、活動を工夫しましょう。

【Let's Listen】

目的：会話表現などの英文を繰り返し聞いて、音声表現に慣れさせ文脈や内容を聞き取る。

◎「目的をもった聞き方」の指導の留意点

- 聞くことへのレディネスをもたせましょう。
(例) 聞き取り活動に入る前に、活動の事前や事後にALTとJTEのモデルを聞かせる。
- つながりのある活動を設定しましょう。
(例)・1問ずつ聞かせてその都度児童に質問を投げ返す。
・指示に従ったり、動作を取り入れるなどの活動を組み込む。
・必要に応じてメモをとらせる。
- 内容を確認する時には、聞いた語彙や表現を繰り返し言う練習を行うだけでなく、だれが、いつ、どこで、何について話されている会話だったかをペアやグループで考えさせるなど、実際の使用場面や状況も把握させましょう。
- 聞く・発話する量と質を増やし、まとめのコミュニケーション活動につなげましょう。

【Let's Chant】

目的：外国語の音声やリズムを口頭表現によって慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさ気付く。

- それぞれの時間で扱いを変えましょう。
(例) 第2・3時では音声やリズムへの慣れ、第4時ではコミュニケーション活動のためのウォームアップとしての扱い。
- リズムやスピード、更には語彙や表現を変えたり、動作を付けたりするなど、バリエーションを広げましょう。
- リズムの特徴に気付いたり、自然な速度やイントネーションへの慣れが見られたりする場面があれば、積極的に取り上げ賞賛するなどして児童の意欲を喚起させましょう。
- 継続して取り組み、外国語特有のリズムやイントネーションを身に付けさせましょう。

総合的な学習の時間

the Period for Integrated Studies

児童の実態等に応じた探究的な学習を展開するために

「はばたく群馬の指導プラン」に示した「指導の基本」にあるように、児童の実態等に応じた探究的な学習を展開するためには、既に作成されている単元計画を見直し、より探究的な学習としていく必要があります。そこで、単元計画を見直す上で大切なポイントについて示しました。

また、単なる調べ学習ではない探究的な学習を進めていくため、児童の思考を深めていくのに役立つシンキングツールの種類や使い方、実践例を示しました。

1 単元計画を見直すために

- (1) 全体計画に示された中心となる3要素を踏まえているか …… P 128
- (2) 「育てようとする資質や能力及び態度」を育成することができるか … P 128
- (3) 探究的な学習になっているか …… P 129
- (4) 探究的な学習におけるそれぞれの過程の学習活動は充実しているか … P 129
- (5) 【課題の設定】【整理・分析】の過程で思考を深められているか … P 129
- (6) 学習活動における児童の意識の流れが予測されているか …… P 130

2 児童の思考を促すために

- (1) シンキングツールの種類と活用のポイント …… P 131
- (2) シンキングツール活用の実践例 …… P 132
- (3) その他のシンキングツール …… P 136

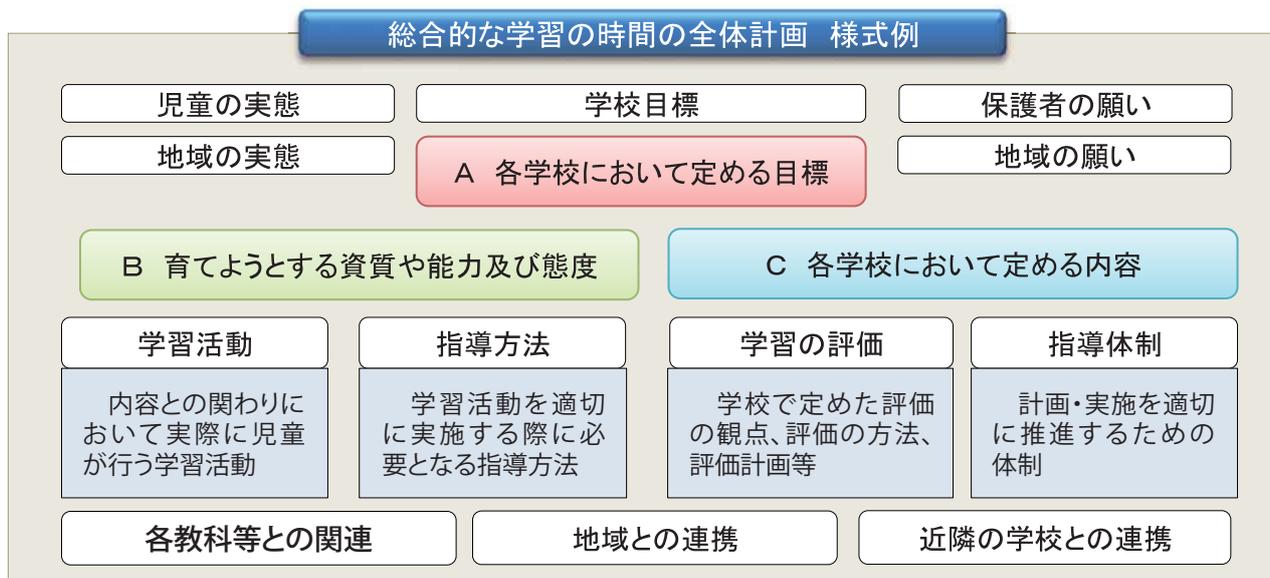
総合的な学習の時間

1 単元計画を見直すために

各学校独自の学習活動を展開するには、次年度までの単元計画をそのまま実践するのではなく、改めて目の前の児童の実態、地域や学校の特色を反映し、実態に即した単元計画になるよう改善していくことが大切です。そのためには、次の(1)～(6)のポイントに基づいて、単元計画を見直していきましょう。

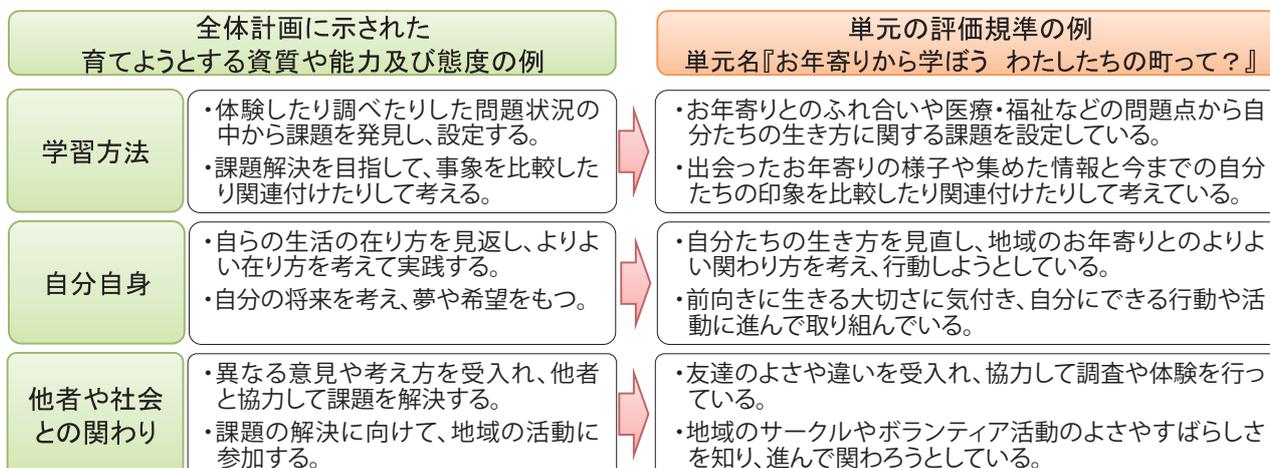
(1) 全体計画に示された中心となる3要素を踏まえているか

各学校では、下図のような内容の総合的な学習の時間の全体計画が作成されています。A～Cは「必須の条件として記すもの」であり、学校として総合的な学習の時間の柱になる3要素です。単元計画の見直しをするにはここが起点となります。



(2) 「育てようとする資質や能力及び態度」を育成することができるか

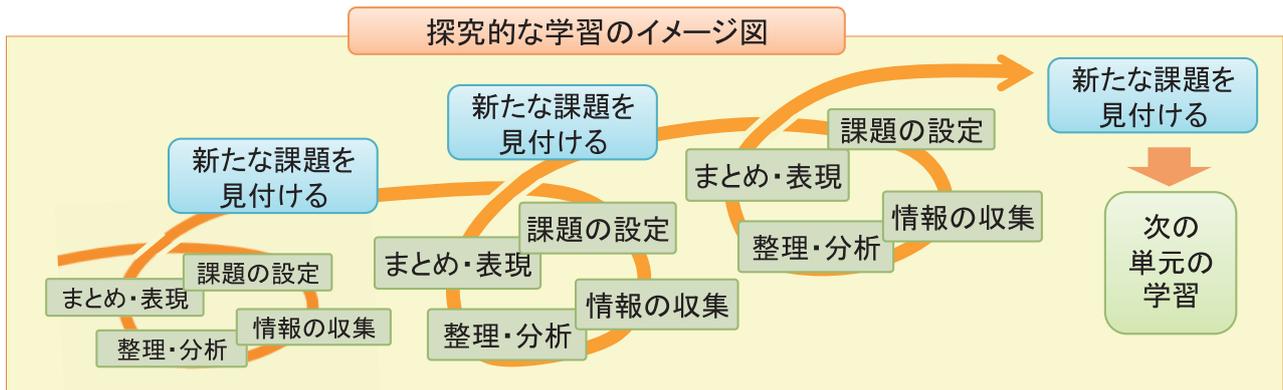
全体計画に示された「育てようとする資質や能力及び態度」は、各学校において定める目標を実際の学習活動へと実践化するために、一般的に「学習方法に関すること」「自分自身に関すること」「他者や社会との関わりに関すること」の3つの視点を踏まえて具体的に・分析的に「どのような児童を育てたいか」が示されています。ここに明示された内容を基に、教師は単元の終わりにたどり着いてほしい児童の具体的な姿をイメージしながら、「単元で育てようとする資質や能力及び態度」と「単元の評価規準」を明確にしておきましょう。



(3) 探究的な学習になっているか

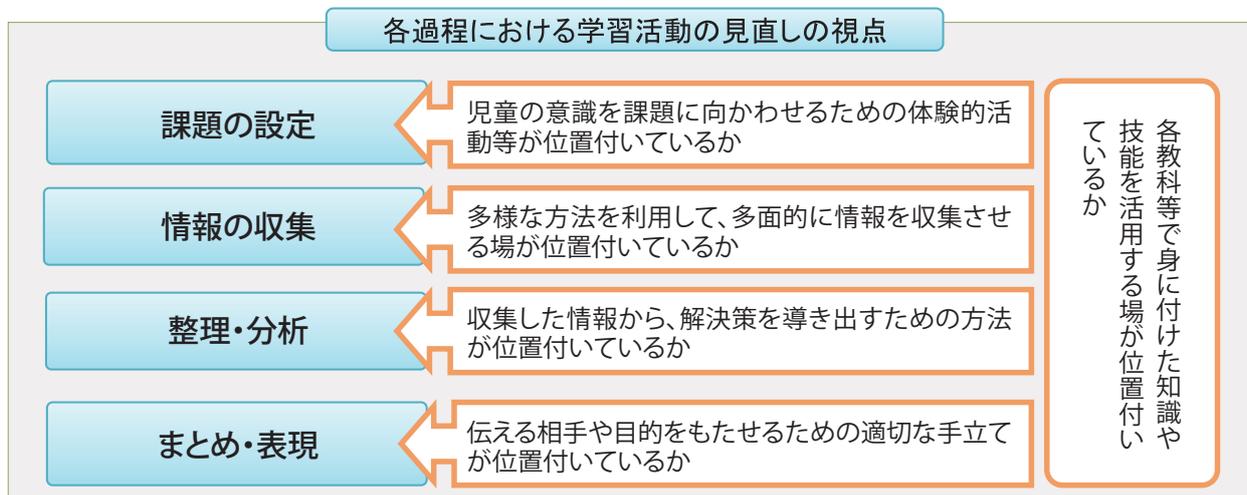
探究的な学習とは、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく一連の学習活動です。答えがすぐに見付かるような学習にならないように、単元計画の中に【課題の設定】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】という探究のプロセスである4つの学習過程を位置付け、単元の流れの中に、疑問や気付きから新たな課題が生じるような学習活動を設定しましょう。

また、前の学年や単元でどのような学習を行ってきたのかを教師が十分把握し、前単元の【まとめ・表現】の過程で生じた課題意識を本単元の学習に生かしていくことが大切です。さらに、本単元の【まとめ・表現】の過程では、次の単元に向けて、新たな課題が生じるようにしていきましょう。



(4) 探究的な学習におけるそれぞれの過程の学習活動は充実しているか

【課題の設定】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】という探究のプロセスである4つの学習過程を充実させるためには、単元や各過程の終末における児童の望ましい変容の姿を教師が明確にもって、それぞれの過程の学習活動を見直すことが重要です。



(5) 【課題の設定】【整理・分析】の過程で思考を深められているか

【課題の設定】の過程では、児童が自ら課題意識をもつために、気付きや疑問を類型化したり多面的にとらえたりしていくことが大切です。また、【整理・分析】の過程では、収集した情報を比較・分類・序列化・関連付けなどしていくことが大切です。そのためには、小グループでの話し合い活動で個々の情報や考え方を共有しながら思考していく必要があります。その際には「シンキングツール」を用いて情報や考え方を可視化していくようにしましょう。



P131「2 児童の思考を促すために」を参照

2 児童の思考を促すために

(1) シンキングツールの種類と活用のポイント

- シンキングツールを使い、児童の思考を可視化していくことで、自他の考えを明確にしなが互いの思考を広げたり、深めたりしていく話し合いなどができます。
- シンキングツールには、考えや気づきを広げていく場面で有効なもの（拡散型）と、考えや気づき、情報をまとめていく場面で有効なもの（収束型）があります。
- 活用するときには、児童の意識の流れから、広がりや深まりを予想しておくことが大切です。
- 発達段階や他教科等との関連を考えながら、児童が様々なシンキングツールの使用方法とよさを理解し、自ら選択して活用していくことができるよう、教師が学年や各教科等の系統性を踏まえて計画的に指導していきましょう。

過程	単元の基本的な流れ ※はばたく群馬の指導プランP124参照	次の活動につなげていきたい 児童の意識	有効なシンキングツールの例 拡散型 収束型 実践例
つかむ (課題の設定)	<p>1 学習対象(教材)と出会う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験をしたり、専門家話を聞いたり、資料を読み取ったりして、気づきや疑問、あこがれをもつ。 <p>2 課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 気づきや疑問を整理し、共有する。 追究の可能性を検討する。 中心課題(共通課題)を設定する。 個人の課題を設定する。 <p>3 追究の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 予想や仮説を立てる。 調査内容と調査方法を定める。 	<p>・いろいろな疑問が出てきたぞ。</p> <p>・たしかに○○は不思議だな。</p> <p>・△△について詳しく知りたいな。</p> <p>・□□なら自分たちで調べられそうだね。</p> <p>・●●のことを調べるのは難しそうだよ。</p> 	<p>ブレインストーミング</p> <p>ブレインライティング P132</p> <p>ウェビング</p> <p>付箋紙(KJ法) P133</p> <p>ランキング</p>
追究する (情報の収集・整理・分析)	<p>4 課題解決に必要な情報を集める。</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートやインタビューなどを行い、情報を収集する。 収集した情報を文や表などにまとめ、蓄積する。 <p>5 収集した情報を整理・分析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 収集した情報を共有する。 情報を整理・分析して、課題の解決策について考える。 必要に応じて、追加調査を行う。 	<p>・インタビューをして原因を聞いてみよう。</p> <p>・録音したことを文章に残しておこう。</p>  <p>・いくつかの解決策が見つかったぞ。</p> <p>・これなら解決できそう。</p> <p>・○○はもっと調べたほうがよさそうだね。</p> 	<p>付箋紙(KJ法)</p> <p>情報カード</p> <p>ベン図</p> <p>座標軸シート P134</p> <p>ランキング</p> <p>メリット・デメリット</p> <p>ビフォー・アフター P135</p>
まとめる (まとめ・表現)	<p>6 わかったことをまとめ、自分たちにできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べたことやわかったことをまとめる。 課題解決のために自分たちにできそうなことや他者に伝えたいことを考える。 <p>7 自分の生き方を見つめ直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元全体の学習を振り返り、自分の変化についてまとめる。 	<p>・もっと活動を広めるために、全校児童に知らせたいな。</p> <p>・成果を劇にして伝えよう。</p> 	<p>ビフォー・アフター</p> <p>ブレインストーミング</p> <p>ブレインライティング</p>

総合的な学習の時間

(2) シンキングツール活用の実践例

ブレインライティング

発想や気づきを広げていくシンキングツール

短時間に発想や気づきを数多く見出すことができる方法です。4～6人の班で、シートに書き出した発想や気づきなどを隣の人に渡し、隣の人は渡されたシートに書かれている内容を基に新たな発想や気づきなどを書き加えていきます。これにより、自分では気付かなかったことや発想など多面的にとらえることができます。発言や発想が苦手な児童も考えを表現しやすく、参加意識が高まります。

実践例 単元名「地域の環境を考えよう」

課題設定の場面

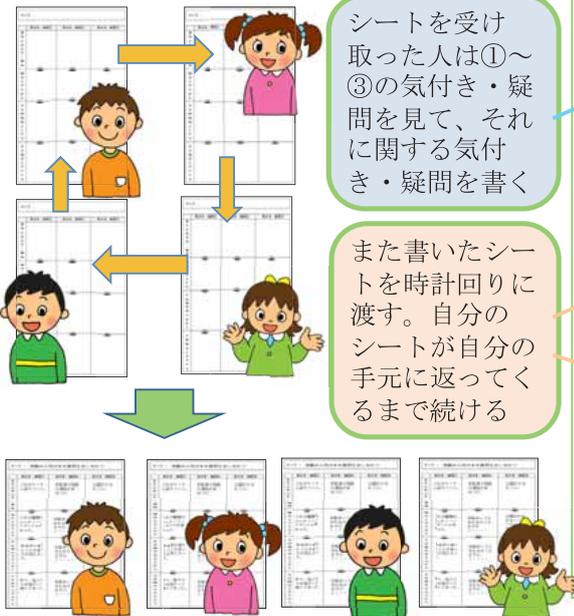
「地域巡り」での観察を通して得た気づきや疑問を多面的にとらえたり具体的にとらえたりしながら課題を見いだしていく。

4人の班で一人に1枚ずつシートを配る

テーマ：体験から気づきや疑問を出し合おう

自分の気づき・疑問を①～③に1つずつ書く

時計回りにシートを隣の人に渡す



テーマ：体験から気づきや疑問を出し合おう

	気づき・疑問①	気づき・疑問②	気づき・疑問③
自分の気づき・疑問	ごみがたくさん落ちていた。	自転車の危険な運転が多かった。	公園が少なかった。
隣のAさんから	ごみの種類は、とにかくペットボトルが多かった。	自転・・・	公園・・・
その隣のBさんから	飲食店の通りにゴミが多いのが気になった。	自転・・・	公園・・・
その隣のCさんから	所々、粗大ゴミが混ざって捨ててあった。	自転・・・	公園・・・

ゴミの分別についてなど、自分では気付かないことがたくさん書かれていたので、とても参考になります。

たくさん広がった気づきや疑問を基にして、追究していきたい課題を設定していきましょう。

活用のポイント

全員が平等に思考する機会が与えられるように、一人がシートに書き込む時間を5分程度に設定しておきます。時間を区切ることで集中して考えることができるようになります。

例とは別に【まとめ・表現】の過程で、今後の実践のアイデアを出す場面でも活用できます。他人のアイデアが自分の発想のヒントになったり、自分のアイデアが他人を刺激したりすることになり、多種多様なアイデアを出すことができます。

付箋紙（K J法）

気付きや疑問、情報を類型化していくシンキングツール

付箋には、貼ったり剥がしたりが容易にできるという特長があります。この特長を生かして、体験活動などを通して生じた気付きや疑問、収集した情報を整理したり仲間分けしたりすることができる方法です。複数名で互いの付箋を見せ合いながら類型化を行うことで、個々の意見を大切に、新たな視点を発見したり気付きや疑問を深めたりすることができます。また、付箋紙へ端的に書くことで、自ら考えたことや感じたことを振り返り、まとめていく力を高めていくことができます。

実践例 単元名「自然がいっぱい船岡山 春・夏・秋」

課題設定の場面

春の船岡山探検を通して得た気付きや疑問を類型化しながら、班で追究していききたい共通課題を見いだしていく。

1 個々の気付きや疑問を付箋に書く

2 付箋に書かれた内容を互いに紹介し合いながら模造紙に貼り付けていく

3 書かれている内容が似ている付箋紙を近くにまとめるように貼り替えていく

4 付箋紙のまとまりをマーカーペンで囲い、それぞれに見出しを付けていく

5 見出しをもとにして、班で追究していききたい共通課題を決めていく

木には若葉が少し出てきている。(付箋①)

花だんにはチョウチョがたくさんとんでいた。(付箋②)

バッタやトンボが見られると思ったらいなかった。(付箋③)

ホテルの里に行ったけどホテルはぜんぜんいなかった。(付箋④)

木のまわりには昆虫がほとんどいなかった。(付箋⑤)

花だんにはチューリップが多くさいていた。(付箋⑥)

付箋① 付箋②

付箋⑤ 付箋⑥

付箋③

付箋④

<班の共通課題>

- 船岡山の生き物は季節によって種類や数が増えるのだろうか。
- 昆虫と植物の種類や数には何か関係があるのだろうか。



木のまわりのおすすめ

付箋①

付箋⑤

花だんには生き物がたくさん

付箋②

付箋⑥

夏にはいたのにいなかった虫

付箋③

付箋④

活用のポイント



班で話し合いながら、自分たちで視点を見だし、付箋を類型化して、まとまりごとに見出しをつけていくことができるよう、教師が支援することが大切です。しかし、K J法的な手法を初めて用いる場合や低学年で行う際は、視点を教師側が示してから類型化をさせていくなど、実態に応じた段階的な支援を心掛けましょう。

総合的な学習の時間

座標軸シート

視点によって情報を整理していくシンキングツール

集めた情報を座標軸を使い、可視化しながら整理・分析していく方法です。自分の考えを振り返らせたり、他者の考えと比較させたりすることで、課題解決に向けて意志決定する力を高めていくことができます。

実践例 単元名「お年寄りから学ぼう」

課題の解決策を考える場面

児童が考えた複数のお年寄りとの交流行事を選択する場面において、地域の高齢者問題等を踏まえながらお年寄りも自分たちも楽しめる交流行事を決めていく。

前時の活動

学習課題

地域のお年寄りの願いや悩みを聞き取ろう



一人暮らしなので、若い人たちと交流する場がほしいね。

車の運転ができないので、買い物が大変なんです。

地域の高齢者



この地域は、一人暮らしの高齢者が多いです。

一人暮らしのお年寄りは収入が少ない人もいます。

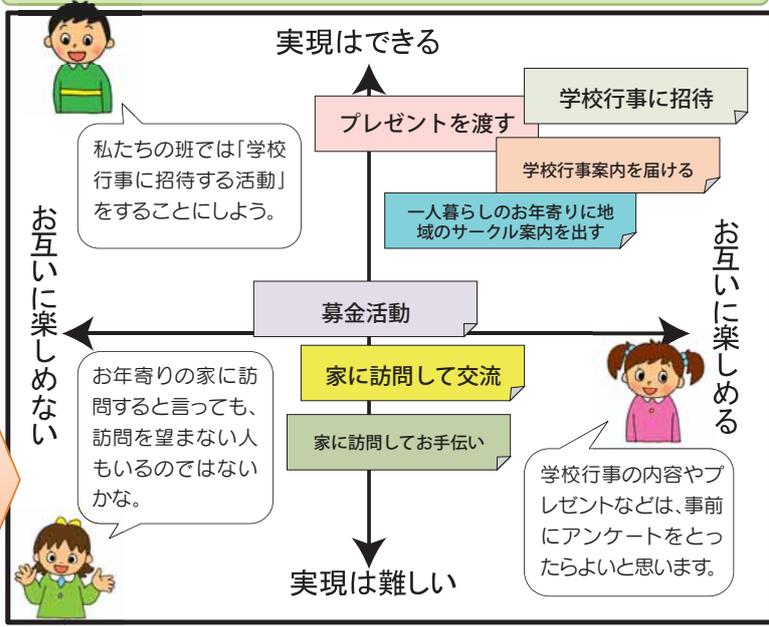
民生委員



地域のお年寄りの願いや悩みを踏まえ、自分たちができることを付箋紙に書いてみましょう。

書いた付箋紙を「実現できる度合い」「お互いに楽しめる度合い」の2つの座標軸が書かれたシートに貼り付けましょう。どこに貼り付けられればいいかな？

班別協議：付箋を貼り付けたシートをもとに お年寄りとの交流の仕方を話し合ってみよう



全体発表：お年寄りとの交流の仕方を発表してみよう



意見交流をした後の、お年寄りとの交流の仕方とそれを選んだ理由を発表してみましょう。

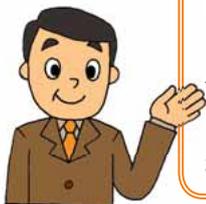
私たちの班では「お年寄りを学校に招待する活動」を考えました。一人暮らしのお年寄りを招待し、一緒に楽しむことにより、元気になってほしいと考えたからです。



活用のポイント

教師は、事前にどのような情報がどの程度集まっているのか把握しておきましょう。

また、付箋紙で情報を可視化し、座標軸シートに貼り付けるとき、貼付後のシートを見て気付いたことを出し合うときなどに意見交流させることにより、協同的な学びのよさを味わわせましょう。



本時のねらいの達成に向けて、整理・分析する視点を明確に示しましょう。

また、班別協議の際、視点に基づいた話し合いが行われているか確認させましょう。



ビフォー・アフター

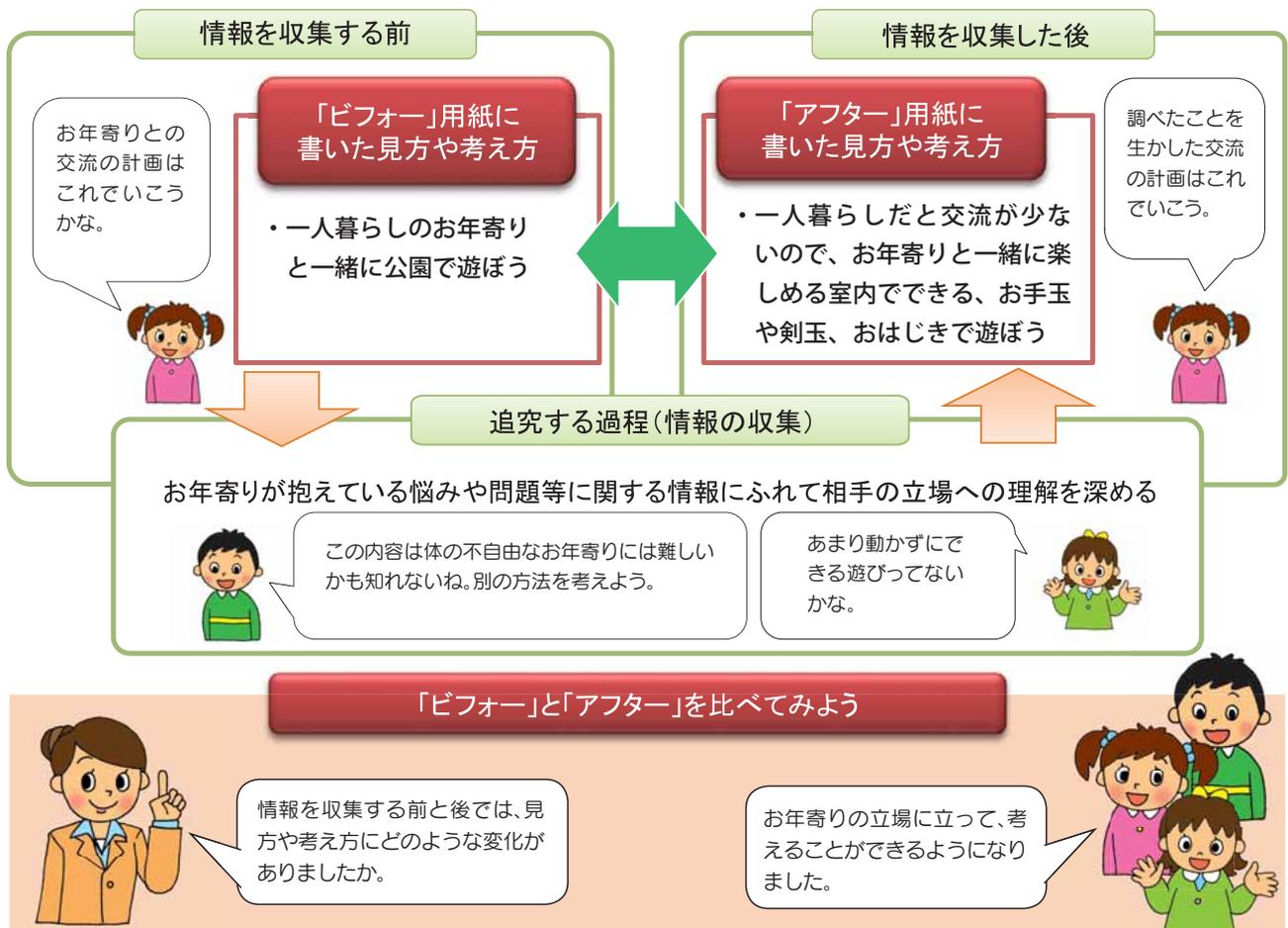
情報を収集する前後の視点で分析していくシンキングツール

「ビフォー」「アフター」として、それぞれ同じ大きさの用紙を用意して、体験や情報収集などの前後に見方や考え方をまとめておきます。その2枚の用紙について視点を絞って振り返り、比較していくことで、自分たちの成長に気付かせていく方法です。困難を克服したとき、周囲に認めてもらったときなど、児童の心が動いたときに、変化した見方や考え方をこの方法で自覚させることで、客観的に自己評価する力が高まります。

実践例 単元名「お年寄りから学ぼう」

課題の解決策を考える場面

児童が考えた交流行事について、情報収集する前後での気付きの変化を基に、お年寄りも自分たちも楽しめる交流活動を決めていく。



活用のポイント

線や印を付けるなど変化した部分を視覚的にとらえやすくして、振り返りの視点を明確化しておきましょう。

視点を明確化することで何を比べるのかが分かりやすくなり、自分たちの変化や成長をとらえることができます。

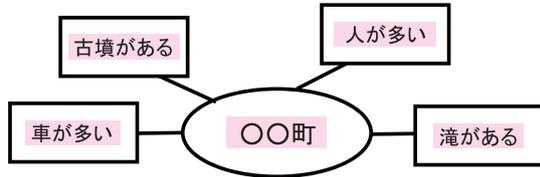
自己の成長や変容を自覚できるよう、振り返りはポートフォリオとして蓄積しておきましょう。活動履歴を教室や廊下に掲示することで、他の児童の活動についても、共有できるようにしましょう。

総合的な学習の時間

(3) その他のシンキングツール

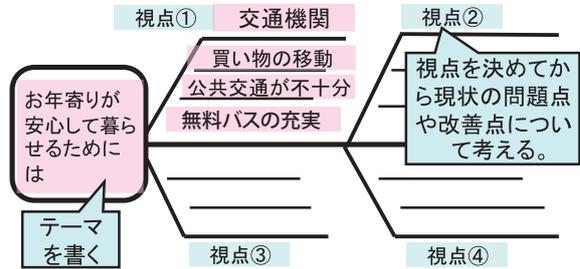
関連付ける: ウェビング

自分の町の特徴を見付けよう



1つのテーマを基にして、イメージを広げていくことで、テーマを多面的にとらえていくことができます。

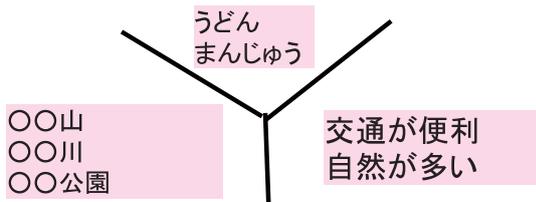
多面的に見る: ボーン図



1つのテーマに対して、複数の視点から要因を明らかにしてとらえていくことができます。

分類する: Yチャート

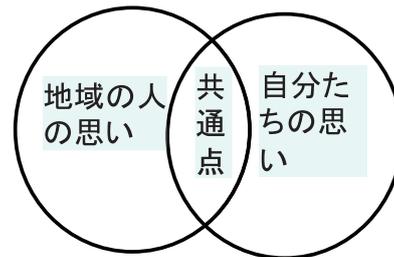
○○市の様子



多くの考えや情報を明確な視点で分類していくことができます。

比較する: ベン図

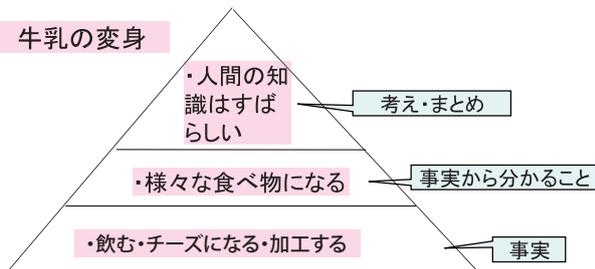
○○町の○○通りについて



異なる立場からの意見や情報を整理して、共通点や相違点を見付けることができます。

構造化する: ピラミッドチャート

牛乳の変身



事実を基にして、段階的に自分の考え方をまとめていくことで、主張をかためていくことができます。

評価する: PSシート

発表会を終えて

P(どんな問題があるか)	S(どのように解決するか)
まとめが分かりにくいと言われた。	補足資料を付け足し、まとめ直す。
新しい課題が生まれた。	

発表会の場面などで、相手の意見とそれに対する自分の考えを書いていくことで、改善点を明らかにしていくことができます。

学級活動

Class Activity

全員が楽しく豊かな学級生活を送るために

小学校の学級活動には、児童自らが楽しく充実した学級や学校の生活をつくっていく「(1)学級や学校の生活づくり」と、教師が意図的、計画的に指導する「(2)日常の生活や学習への適応及び健康安全」の二つの活動内容があります。

(1)は学級の全員が協力して取り組む内容で、子どもたちが決めた内容をみんなで話し合い、集団決定したことを基にみんなで協力してよりよい生活を築く活動です。(2)は個々が努力して解決すべき内容で、教師が取り上げた内容をみんなで話し合い、自己決定したことを基に一人一人がよりよい自分へと成長しようとする活動です。

本手引きでは、(1)と(2)の活動内容や授業の作り方の違いを比較できるように、二つの活動内容を見開きで示してあります。また、切実感、必要感のある話し合い活動にするためのアイデアやコツも示してあります。

本手引きの最終ページにあるチェックシートで各学級の話合い活動の状況を確認し、少しずつ児童の自発的、自治的な活動を進めていきましょう。

1 学級活動の内容

- (1)児童の発意、発想による授業【集団決定】…………… P 138
- (2)教師の意図的・計画的な授業【自己決定】…………… P 139

2 1単位時間の授業の作り方

- (1)活動内容(1)の授業の作り方…………… P 140
- (2)活動内容(2)の授業の作り方…………… P 141

3 自発的、自治的な活動の進め方

- (1)系統性と継続性のある指導のために…………… P 142
 - (2)「切実感・必要感のある話し合い」にするために…………… P 143
 - (3)児童を鍛える教師の関わり…………… P 144
- ※学級活動における自発的、自治的な活動を進めていくために、P 144にチェックシートを作成しました。

学級活動

学級活動の内容

(1) 学級や学校の生活づくり

児童の発意、発想による授業

集団決定

学級活動(1)は、児童が自発的、自治的に自らの手で楽しく充実した学級や学校の生活をつくっていく学級会の内容です。子どもの自主性や社会性が育まれるとともに、学級においてよりよい人間関係が育成されていく大切な活動であるため、年間35時間のうち、低学年で22時間程度、中学年で25時間程度、高学年で28時間程度を確保するようにしましょう。

「話し合い活動」

取り扱う内容(共通事項)	主な内容	予想される議題例
ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決	<ul style="list-style-type: none"> 集会活動の計画 <p style="text-align: center;">【やる活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽しい学級にするための創意工夫 <p style="text-align: center;">【つくる活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級のルールづくり <p style="text-align: center;">【解決する活動】</p>	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ集会をしよう 関連ページP 140 〇〇さんのお別れ会をしよう クラスの歌をつくろう 七夕の飾りをつけよう ボールの使い方を決めよう 雨の日の過ごし方を考えよう
イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理	<ul style="list-style-type: none"> 計画委員会の運営 係活動の組織づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 計画委員の仕事について決めよう みんなの役に立つ係を決めよう 係活動発表会をしよう 係の新聞を紹介しよう
ウ 学校における多様な集団の生活の向上	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級との交流 兄弟学級との交流 学年同士の交流 地域との交流 集団登下校について 	<ul style="list-style-type: none"> 交流学級ともっと仲良くなろう 縦割り班での役割を考えよう 学年ギネス大会をしよう 奉仕作業を実行しよう 通学班の問題を解決しよう

学級活動(1)は、児童の自発的、自治的な活動の特質としており、その活動形態として「話し合い活動」以外に、「係活動」と「集会活動」の2つがあります。

「係活動」

- ①当番活動と係活動の違いを指導します。
※当番活動「児童がしなければならない活動(責任感)」(例)清掃、給食等
係活動「児童がやりたい活動(創意工夫)」(例)誕生日係、生き物係等
- ②児童がアイデアを出し合って、学級に必要な係を見つけます。
※視点：学級が楽しくなるか、みんなが仲良くなれるか、便利になるか、困った人が助かるか 等
- ③係の所属を決めます(自分の得意なものを生かす)。



「集会活動」

- ①互いのアイデアを生かしつつ、一人一人がそれぞれの役割を果たせるように活動を分担します。
- ②活動のゴールを教師が演出し、児童の意欲を高めます。
- ③レクだけでなく、スポーツ、音楽、係活動など、分野が偏らないようにします。
- ④みんなで力を合わせることで、成就感や自己有用感を味わせます。



学級活動の内容

(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全

教師の意図的、計画的な授業

自己決定

学級活動(2)は、教師の意図的、計画的な学級指導により解決される内容です。規範意識や生活習慣の確立、言語活動の充実、食育の充実、キャリア教育にかかわる勤労感・職業観の育成など現代の社会的課題にかかわる指導内容を多く含みます。年間35時間のうち、低学年で12時間程度、中学年で10時間程度、高学年で7時間程度を目安に割り当てましょう。

取り扱う内容(共通事項)	主な内容	題材例	
ア 希望や目標をもって生きる態度の形成	<ul style="list-style-type: none"> 希望ある学校生活 生活目標の設定 不安や悩み解消 	<ul style="list-style-type: none"> 4年生になって 夏休みを有意義に もうすぐ中学生 	
イ 基本的な生活習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> 整理整頓 挨拶、言葉遣い 	<ul style="list-style-type: none"> トイレやロッカーを正しく使おう 場に応じた言葉遣い 	
ウ 望ましい人間関係の形成	<ul style="list-style-type: none"> 男女の協力 互いのよさの発見 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちを考えた行動をしよう 友だちのいいところを見つけ 	(1)アやウの統合
エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解	<ul style="list-style-type: none"> 清掃などの当番 ボランティア活動 	<ul style="list-style-type: none"> そうじパワーアップ大作戦 働かって気持ちいいね 	
オ 学校図書館の利用	<ul style="list-style-type: none"> 日常の読書指導 図書館利用の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> 読書の範囲を広げよう 読みたい本の探し方 	司書教諭とのTT
カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成	<ul style="list-style-type: none"> 病気の予防 交通安全 防犯 	<ul style="list-style-type: none"> よい歯をつくろう 関連ページP141 自転車の正しい乗り方 いかのおすし 	養護教諭とのTT
キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> 楽しい食事 健康によい食事 給食時の清潔 	<ul style="list-style-type: none"> 食べ物の好き嫌いをなくそう かぜに負けない元気な体 清潔で時間内にできる給食配膳 	栄養士とのTT

学級活動(2)は、必要に応じて**内容間の関連や統合**を図ったり、他の内容を加えたりすることができます。また、**学級活動以外の学習**とも関連を図ることが大切です。

【内容間の関連事例】

- (2) イ、カ、キなどを統合して、「生活のリズム」や「運動と睡眠」などの題材を考えます。
- (2) ウを指導したことを生かして、(1) ア、ウにおいて人間関係を築く活動を展開します。

【学級活動以外の学習との関連事例】

- 「道徳」では、「協力とは何か」を考え、学活では、「協力するにはどうしたらいいか」について話し合い、決めたことを実行した上で、「協力とは何か」について振り返ります。
- 「体育」の保健領域で、健康によい生活について理解し、学活で実践につなげます。

活動内容（1）の授業のつくり方

児童の発意、発想による授業

活動内容（1）学級や学校の生活づくりは、集団での話し合いを通して、集団の目標を決定し、集団で実践する児童の自発的、自治的な活動を特質としています。 **【集団討議による集団目標の集団決定】**

基本的な流れ	指導例：『スポーツ集会をしよう！』（第3学年）
<p>1 導入</p> <p>計画委員</p> <p>めあてに合った話し合いにするぞ。</p>  <p>学級全体</p> <p>こんなめあてで話し合うんだな。</p> 	<p>1 導入（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 議題、提案理由の確認 もっと仲が良く、協力し合える学級にするために、みんなで楽しくスポーツをしたいと思い提案します。 めあての確認 みんなが楽しく、協力できるようなスポーツを決めよう。 決まっていることの確認 △月△日の△校時にします。 ・場所は校庭です。 <p>計画委員は、年間を通して全員が一度は司会、黒板記録、ノート記録の役割が経験できるようにすることが大切です。(輪番制)</p>
<p>2 展開</p> <p>多くの人に発表してもらおうぞ。</p>  <p>どんどん出せばいいんだな。</p>  <p>意見を分類できそうだな。</p>  <p>そういう考えもあるのか。</p> 	<p>2 展開（35分） 【集団討議】</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合うこと1(25分) どんなスポーツにするか決めよう S：ドッジボールがいいです。 S：わたしはリレーをやりたいな。 S：ぼくは鉄棒をしたいな。 司：鉄棒はみんなで協力するのは難しいですね。めあてに合ったスポーツを考えてください。 S：ドッジボールは当たると痛いからイヤだな。 S：リレーは走るのが苦手な子もいるし、協力もあまりできない。 司：めあてと合っているか比べて考えてみましょう。 S：では当たっても痛くないドッチビーはどうですか。めあてにも合うよ。 S：リレーも楽しいけどまた今度やろう。 提案理由をキーワード化して、比べやすくする。(可視化) 話し合うこと2(10分) みんなが楽しめるルールを決めよう S：投げてる人はいいけど、何もしない人も結構いるよ。 S：では、ディスクを2枚にすればみんなたくさん動けるよ。 S：1ゲーム4分と決めれば当たった人もまた楽しめるよ。 司：めあてにある「協力」についてはどうですか。 S：「王様ドッチビー」にしたら協力できると思うよ。 <p>○自分も友達も納得できるように折り合いをつけるような話し合いが大切です。「AもBも生かす」解決策はないか常に考えさせる指導が必要です。 ○話し合いの方法・形態を工夫してみる。 ・KJ法 ・バズセッション ・ワールドカフェ ・ブレインライティング</p>
<p>3 まとめ</p> <p>みんなの力でまとめたぞ。</p>  <p>よし、仲間と協力してやろう。</p> 	<p>3 まとめ（5分） 【集団決定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 意見の統合、総意としての意志決定 みんなが楽しめるように協力したり、ルールを守ったりしてドッチビーをする。 決定したことの確認 振り返り

活動内容（2）の授業のつくり方

教師の意図的、計画的な授業

活動内容（2） 日常生活や学習への適応及び健康安全は、集団での話し合いを通して個人の目標を決定し、児童が個人で実践する自主的、実践的な活動を特質としています。 【集団思考を生かした個人目標の自己決定】

基本的な流れ	指導例：『よい歯をつくらう』（第4学年）																						
<p>1 導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ビデオ映像や写真画像などの活用も可能。 <p>歯を失う原因</p> <table border="1"> <tr> <td>歯周病</td> <td>42%</td> </tr> <tr> <td>むし歯</td> <td>32%</td> </tr> <tr> <td>その他（事故等）</td> <td>26%</td> </tr> </table> <p>こんな問題があるのか。</p> <p>2 展開</p> <p>①原因を追求</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートの調査結果、グラフ等から原因を整理する。 <p>ここに原因があるんだ。</p> <p>虫歯はどのようにしてできるの</p>  <p>②解決方法の話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> 小グループでの話し合い、情報交換を行う。 <p>そんな解決方法もあるのか。</p> <p>3 まとめ</p> <p>実践目標の自己決定と意欲化</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人が、自分に適した実践可能で、具体的な目標を立てる。 <p>☆「何を」「いつまでに」「どれくらい」「どのように」</p> <p>自己決定の時間を確保。意識化を図るために、みんなに紹介します。</p> <p>よし、わたしはこの方法で、やってみよう。</p>	歯周病	42%	むし歯	32%	その他（事故等）	26%	<p>1 導入（8分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題の把握（意識化、共通化） <p>T：先日、歯科検診がありましたね。歯医者さんは、どんなところを見ていたのかな。</p> <p>S：虫歯の数を数えていました。</p> <p>S：乳歯が残っているか見てました。</p> <p>T：それだけかな。この表を見てください。</p> <p>これは自分自身にも関わる問題であるととらえる。</p> <p>T：今日は保健室の先生から話を聞いてみようと思います。</p> <p>2 展開（25分） 【集団思考】</p> <ul style="list-style-type: none"> 養護教諭から歯科検診で調べていること、よい歯の健康アンケート結果について説明を受ける。 <p>実態調査の集計結果をわかりやすくまとめ（発達段階に応じて計画委員会を活用）、意識化を図れる資料を提示します。</p> <p>S：虫歯の他にも気を付けることがあるんだな。</p> <p>S：歯周病って、子どもにもあるんだな。</p> <p>S：だから歯科検診の後にお手紙が来るんだな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健委員会が作成した資料「よい歯をつくるために」を紹介。 <p>T：よい歯をつくるために、どんなことに気を付けなければならないか考えてみましょう。</p> <p>S：歯磨きの他に何かあるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小グループで歯の磨き方、好きな食べ物、おやつを選び方、よく噛んで食べることなど意見を出し合う。 <p>S：歯を磨く他にも、気を付けることがあるんだな。</p> <p>S：よく噛むって、何回ぐらいかな。</p> <p>3 活動のまとめ（12分） 【自己決定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「よい歯をつくるしゅうかんカード」に、自分が取り組む具体的な目標を立て、友達に紹介する。 <p>S：何回噛んだか、数えてみることにするよ。</p> <p>S：歯磨きの後に、鏡でチェックすることにするよ。</p> <p>S：おやつ記録をつけてみる。</p> <p>これから、よい歯をつくるために、あなたは何をしますか。</p> <p>私は、（ ）をします。</p> <p>何をするのか具体的に書きましょう。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>月</th> <th>火</th> <th>水</th> <th>木</th> <th>金</th> <th>土</th> <th>日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>T：1週間後に、結果を報告する時間を持ちましょう。</p>		月	火	水	木	金	土	日	①							
歯周病	42%																						
むし歯	32%																						
その他（事故等）	26%																						
	月	火	水	木	金	土	日																
①																							

学級活動

1 系統性と継続性のある指導のために

事前の活動で、計画委員は提案カードで議題を集め、自分たちで活動計画表をつくり、本時で司会進行表に沿った話し合い活動を展開します。また、学級全員が授業前に学級活動ノートに自分の考えをまとめておきます。各学年ごとに統一したものを使い、6年間系統的に使えるようにしましょう。

		活用上の主な留意点		
		低学年	中学年	高学年
計画委員会	提案カード	○はじめは担任が学級の実態に応じて議題の提案を行うようにし、少しずつ児童と一緒に考えるようにしましょう。	○本格的な計画委員会のスタートになります。一人一人の思いや願いを叶える場であることをふまえ、担任の指導の下、提案カードを使い始めましょう。	○担任の指導の下、提案カードから適切な議題を選ぶことができるようにします。提案理由が具体的に書けるようにすることが大切です。
	活動計画表	○「気をつけること」では計画委員の役割分担を意識させましょう。はじめは担任が活動計画表を示すことが大切です。	○活動計画表は担任と計画委員で一緒に作成しましょう。また、「気をつけること」では、意見のまとめ方について具体的に確認することが大切です。	○活動計画表は担任と計画委員で一緒に作成しましょう。また、「気をつけること」では意見を統合したり、折り合いをつけたりすることを具体的に確認することが大切です。
	司会進行表	○活動計画表の話し合いの順序をもとに作成しましょう。はじめは担任が進行役を行い、進行のしかたの見本を見せることが大切です。	○活動計画表の話し合いの順序をもとに作成しましょう。特に、意見を出させる場面と意見をまとめる場面については指導をしておくことが大切です。	○活動計画表の話し合いの順序をもとに作成しましょう。特に、集団決定に向けての意見の折り合いのつけ方については指導をしておくことが大切です。
全員	学級活動ノート	○自分の考えのよいところを書かせておくことで、自信をもって発表することができます。簡単な評価もできるようにしておきましょう。	○自分の考えの他に「話し合いのめあて」をしっかりと書かせておきます。自分の考えとめあての整合性を意識させることが大切です。また、評価欄を設け、自分や友達の意見のよさや話し合い全体について振り返りができるようにし、次の活動のステップになるようにしましょう。	

書式例

【提案カード（中・高学年用）】

提案カード 月 日		
名前 _____		
やりたいこと	つくりたいこと	かいつつしたいこと
提案したいこと		
提案理由		
この提案については、 1 今年度の学級会で話し合います 2 () 係にお願いします 3 朝の会・帰りの会で話し合います 4 先生にお願いします 5 次の学級会で話し合います		

【活動計画表（低学年用）】

みんなニコニコ学きゅう会の計画 11月11日（木）		
ぎだい	なかよしあそび大会をしよう。	
ていあんしたりゆう	さいきん、あそぶ人がきまつているので、クラスのぜんいんとたのしくあそびたいから	ていあんした人 ○○ ○○
やくわりぶんたん	しかい()こくほん()ノート()	
めあて	クラスみんながあそべて、なかよくなるあそびをかんがえる。	
話し合いのじゆんじよ	気をつけること	
1 はじめのことば	(しかし)	
2 けいかいいいんしょうがい	大きな声ではきはき話す。	
3 ぎだいのたしかめ	・どのいけんも大切にす。	
4 ていあんしたわけ	(こくほん)	
5 話し合い	・こくほん みんなに見やすく書く。	
○話し合うこと①(10分)	(ノート)	
あそぶしょはどこがいいか	・きまつたことを大きな声ではっぴょうする。	
○話し合うこと②(15分)	○あそぶしょがあいているか	
みんなでのしめるあそびは	主にかくにんする。	
なにか話し合う	○みんながたのしめることがたい	
○話し合うこと③(10分)	せつなのできょうりよくしてき	
ルールをきめる	める。	
6 きまつたこと	③ みんながたのしめるルールをかん	
○話し合うこと	がえる。	
7 気がついたこと		
8 先生のお話		
9 おわりのことば		

【学級活動ノート（低学年用）】

だい 四 がっきゅうかつどうノート 月 日 ()
なまえ ()

みんなで ()
を かんがえよう

1 はなしあいの めあて

2 じぶんのかんがえ

3 じぶんの かんがえの よいところ

友だちのかんがえをききましたか	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
じぶんのいけんをはっぴょうできましたか	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

2 「切実感・必要感のある話し合い」にするために

計画委員会を上手に組織し、クラス全員に「自主的・実践的」な力を付けさせましょう。

計画委員の人選

○計画委員は「輪番制」を取り入れることが大切です。計画委員を経験することにより、学級への所属感が高まり、話し合い活動における参加意識を高めることにつながります。

議題の発見

○提案カード・議題ポストの用意をしましょう。
○議題の選定と決定は「児童の生活の中から生まれた議題」、「児童が本気で取り組む価値のある議題」、「児童が必要感を感じる議題」などの視点で選ぶようにします。

学級会でできないこと

- ①個人情報やプライバシー
例) 学級のHPをつくろう
- ②相手を傷つける
例) ○○ちゃんのがままをやめさせよう
- ③教育課程の変更
例) 算数の時間に遊ぼう
- ④校内のきまりや施設利用
例) 体育館の横に畑を作ろう
- ⑤金銭の徴収
例) 学級のユニフォームをつくろう
- ⑥健康・安全
例) 学校外での鬼ごっこ大会

発達段階に応じた方法

輪番制は中学年から取り入れ、実態に応じた工夫（生活班、出席番号、席順等）をしましょう。役割は、司会（2人）、ノート（1人）、黒板（2人）などが考えられます。

※輪番制の例

- ・1回ごとに計画委員を新しく組んでいく。
- ・同じメンバーで2回続けて計画委員を組んでいく。
- ・やったことのある人とない人がいっしょに計画委員を組んでいく。

3つの充実すべき活動

以下の3つの活動の中から議題を決定し、話し合いができるようにすることが大切です。

①つくる活動（例：学級旗をつくろう）

*活動としてかたちに残り、達成感がある活動です。

②やる活動（例：お楽しみ会をしよう）

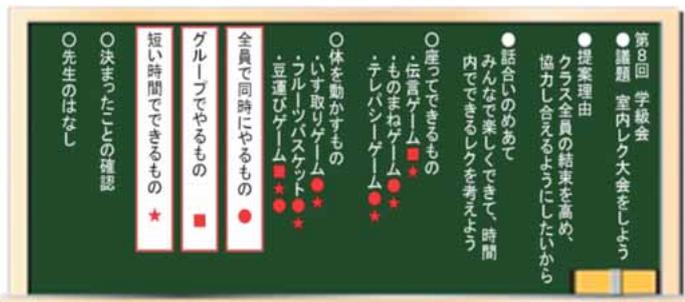
*提案から実践までに時間があまりかからない、児童が大好きな活動です。

③解決する活動（例：ボールの使い方を決めよう）

*学級のルールをつくったり、問題を解決したりする活動です。

意見の可視化の方法

【例：仲間分けの場合】



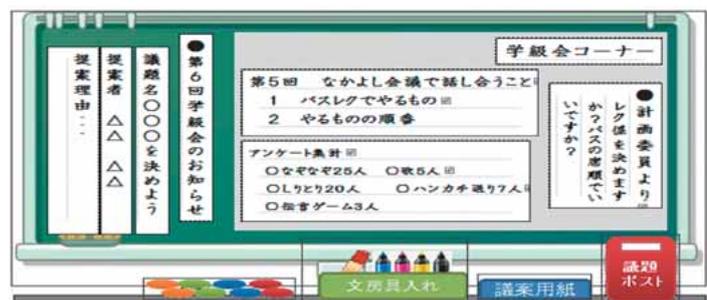
板書計画

○板書計画は「キーワードで」「理由をはっきりさせて」「仲間分けがわかるように」等、児童に比ぶる視点を与えましょう。そうすることで、意見の違いを越え、折り合いをつけて集団決定しやすくなります。

環境整備

○児童の意識を喚起するようなコーナーにしましょう。掲示用の用紙やマーカー等を用意して、自由に使えるようにしておき、児童が活動しやすい環境をつくりましょう。

学級活動コーナーによる自主的・自発的活動の活性化



3 児童を鍛える教師の関わり ～自発的、自主的な活動へ向けてのチェックシート～

このチェックシートを活用し、自分の授業について振り返り、児童の**自治的能力**を育てる学級活動を目指しましょう。



事前指導で、計画委員との打合せを綿密に行い、話合いの流れを予想しておきましょう。教師がどこで関わるか(教師の出番)も予想しておきましょう。

情報教育

Information Education

情報教育は、児童生徒の情報活用能力の育成を図るものです。そして、情報活用能力には、「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」の3つの要素があります。これまで小学校では、情報手段に「慣れ親しむ」ことに重点が置かれていましたが、現学習指導要領では、「コンピュータで文字を入力するなどの基本的な操作や情報モラルを身に付け、適切に活用できるようにする」ことが明記されています。学校により情報教育にばらつきがあります。「情報」という教科はありませんが、小学校段階では、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトウェアの使い方など、コンピュータの基本的な操作・適切な活用と、情報モラルをしっかりと身に付けさせましょう。

そこで、本書では、各学年で身に付けさせたい情報活用能力について、教科等における学習内容例を明記しました。「基本的な操作」を確実に習得させ、教科等のねらいを達成する手段の1つとして、児童生徒によるICT活用を取り入れたり、情報モラルに関わる内容を道徳や学級活動等で取り上げ、学校全体で取り組みましょう。

(ICT:Information and Communication Technology・・・コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報コミュニケーション技術のこと)

情報教育の3つの要素

- A 情報活用の実践力(基本的な操作・情報手段の適切な活用)
- B 情報の科学的な理解(情報手段の特性と情報活用の評価・改善)
- C 情報社会に参画する態度(情報モラル)

○基本的な操作とは・・・

キーボードなどによる文字の入力、電子ファイルの保存・整理、インターネットの閲覧、電子メールの送受信 などの操作

○情報手段を適切に活用できるようにするための学習活動とは・・・

文章の編集・図表の作成、様々な方法での情報の収集・調査・比較、情報手段を使った交流、調べたもののまとめ・発表などの活動

○情報モラルを身に付けるための学習活動とは・・・

情報発信による他人や社会への影響、ネットワーク上のルールやマナーを守ることの意味、情報には自他の権利があること、情報には誤ったものや危険なものがあること、健康を害するような行動などについて考えさせる活動

本書は、「教育の情報化に関する手引き」(平成22年文部科学省)を基に作成しました。詳しくは、Webサイトをご覧ください。検索:「文部科学省 教育の情報化に関する手引き」

対象学年	基本的な操作	適切な活用	情報モラル	身に付けさせたい力
第3学年	○			<ul style="list-style-type: none"> ・キーボードから文字を入力することができる。 ・電子ファイルの保存ができる。
第4学年	○			<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを閲覧することができる。
	○			<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルカメラやICレコーダーなどを操作することができる。
第5学年		○		<ul style="list-style-type: none"> ・文章を編集したり図表を作成したりすることができる。
		○		<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを閲覧し、文字や画像などの情報を収集して調べたり比較したりすることができる。
		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを閲覧し、文字や画像などの情報を収集したり調べたり比較したりすることができる。 ・情報を有効に活用することが大切であることを考えることができる。
第6学年		○		<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを閲覧し、文字や画像などの情報を収集したり調べたり比較したりすることができる。
		○		<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことや考えたことをわかりやすく発信することができる。
		○		<ul style="list-style-type: none"> ・画像などの情報を比較し、まとめることができる。
			○	<ul style="list-style-type: none"> ・情報には著作権などの自他の権利があることを理解することができる。
			○	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク上のルールやマナーを守ることの意義を理解することができる。
中学校		○		<ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決するために自ら効果的な情報手段を選んで必要な情報を収集・判断・表現・処理し、発信することができる。
			○	<ul style="list-style-type: none"> ・収集及び発信した情報に対する責任を知り、情報モラルについて考えることができる。
			○	<ul style="list-style-type: none"> ・安全と健康を踏まえて、情報通信ネットワークを利用することができる。

小学校低学年では、教師がICTを活用し、学習課題への興味・関心を高めたり、学習内容をわかりやすく説明したりしていきましょう。また、漢字や計算などのデジタル教材を活用することで、基礎・基本の確実な定着を実現しましょう。

教科	学習内容例
国語	ローマ字に関わる学習で、 ワープロソフトウェア を用い、キーボード上に正しく指を置いて、ローマ字入力し、適切なファイル名やフォルダ名を付けて、電子ファイルを保存する。
図工	親しみのある作品などの鑑賞で、美術作品を美術館などの Webサイト で閲覧し、作品を比較する。
社会	地域の生産や販売に携わっている人々の働きに関わる学習で、 デジタルカメラやICレコーダー などを用いて、見学したことやインタビューしたことを記録する。
国語	情報発信の責任に関わる学習で、情報には自他の権利があることを知り、 引用 した文章などの出典を必ず明記する。
算数	帯グラフと円グラフに関わる学習で、 表計算ソフトウェア を用いてグラフで表現し、数量をわかりやすく表す。
理科	天気の変化に関わる学習で、 インターネット で気象衛星からの情報や数日間の天気の様子を調べる。
社会	我が国の情報産業や情報化した社会の様子の単元の学習で、 ・情報産業や情報化した社会の様子について、 インターネット で調べる。 ・情報化のもたらす様々な影響などをもとに、情報社会において、主体的に情報を活用することの大切さを考える。
国語	目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む学習で、適切な本や文章を選ぶために、学校図書館の他、 インターネット を利用する。
社会	我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子に関わる学習で、 ワープロやプレゼンテーションソフトウェア などを用いて、調べたことやまとめたことを受け手にわかりやすく発表する。
理科	土地のつくりと変化に関わる学習で、 プレゼンテーションソフトウェア を用いて、複数の視点からの写真を組み合わせてわかりやすくまとめる。
図工	作品の製作にあたり、有名な作品だけでなく、自分たちの作品にも 著作権 があることを知り、著作権を守ることについて考えさせる。
道徳	ネットワーク上のルールとマナーに関わる学習で、相手の顔が見えないメールと、顔を合わせた会話との違いを考え、 情報発信時の注意点 を考える。
技術	メディアの特徴と利用方法、制作品の設計に関わる学習で、適切なソフトウェアを選択し、多様なメディアを複合し、目的に応じた制作品を設計する。
技術	収集・発信した情報に対する責任に関わる学習で、情報通信ネットワークにおける知的財産の保護の必要性和ルールやマナーの遵守について考える。
学活	健全な情報通信ネットワークの利用に関わる学習で、情報通信ネットワークを安全に、健康的に利用するにはどうすればよいか、加害者・被害者・依存などの側面から考える。

これらの具体例以外にも、多くのICT活用の場面が各教科等にたくさんあります。授業実践事例集やG-T a K (マルチメディアコンテンツ集)を参考に、各教科等における情報教育を充実させていきましょう。

【基礎・基本習得プロジェクト会議 委員】

江 森 英 世	群馬大学教育学部教授(附属小学校長)
西 園 大 実	群馬大学教育学部教授(附属中学校長)
中 澤 四 郎	安中市教育委員会教育長
阿佐見 純	榛東村教育委員会教育長
清 水 英 明	前橋市立中央小学校長
立 見 康 彦	前橋市立箱田中学校長
堀 澤 勝	総合教育センター所長
松 本 昭 彦	学校人事課長
須 藤 隆	特別支援教育室長
林 康 宏	健康体育課長
中 村 和 雄	西部教育事務所長
久 保 信 行	義務教育課長

【はばたく群馬の指導プラン：実践の手引き 作成協力者(校長)】

青 木 博	前橋市立敷島小学校	時 澤 秀 明	前橋市立南橋中学校
岡 野 健	前橋市立山王小学校	山 口 和 良	前橋市立粕川中学校
飯 島 仁 志	前橋市立桂萱小学校	中 島 啓 元	伊勢崎市立第三中学校
小 泉 勝 司	前橋市立桃木小学校	上 原 志之夫	渋川市立伊香保中学校
下 山 千代美	前橋市立駒形小学校	根 岸 保 夫	榛東村立榛東中学校
中 島 直 人	伊勢崎市立殖蓮第二小学校	角 田 博 之	玉村町立玉村中学校
関 根 和 子	高崎市立北小学校	富 岡 栄	高崎市立第一中学校
平 澤 寛	高崎市立倉賀野小学校	町 田 秀 幸	高崎市立豊岡中学校
荻 野 佳 子	高崎市立京ヶ島小学校	新 井 康 正	高崎市立入野中学校
里 見 立 夫	富岡市立小野小学校	牛 木 雅 人	東吾妻町立坂上中学校
高 麗 典 子	安中市立秋間小学校	下 田 洋 一	みなかみ町立藤原中学校
千 明 ふさ子	沼田市立利根東小学校	山 野 直 樹	太田市立強戸中学校
笛 田 敏 行	昭和村立東小学校	荒 居 幸 子	みどり市立東中学校
武 藤 哲 也	太田市立太田小学校		

【はばたく群馬の指導プラン：実践の手引き 作成協力者(教諭)】

平山佳輝 前橋市立荒子小学校
 浅沼利行 前橋市立滝窪小学校
 矢島 栄 伊勢崎市立宮郷小学校
 前島智世 玉村町立南小学校
 小川深可 高崎市立京ヶ島小学校
 平井裕美 藤岡市立藤岡第二小学校
 渡邊恭司 富岡市立一ノ宮小学校

高橋浩美 安中市立細野小学校
 奥木芳明 中之条町立沢田小学校
 今井由香利 沼田市立利根西小学校
 新島英幸 太田市立沢野中央小学校
 石川貴子 館林市立第九小学校
 井戸貴子 邑楽町立長柄小学校

なお、県教育委員会においては、次の者が本書の作成に当たった。

久保信行 義務教育課長
 野村晃男 義務教育課指導主監
 鈴木佳子 // 補佐(教科指導係長)
 佐藤 明 // 補佐(生徒指導係長)
 田村総一 // 補佐(人権教育推進係長)
 白石直樹 // 指導主事
 春田 晋 //
 黒澤 ゆみ子 //
 中村宏基 //
 増茂孝行 //
 上林千秋 //
 栗原信義 //
 佐々木裕也 //
 細矢瑞左 //
 津久井貴之 //
 酒井暁彦 //
 長岡 誠 //
 石関和夫 //
 矢島 貢 健康体育課補佐(学校体育係長)
 一場明夫 // 指導主事
 橋 憲市 //
 上原広行 中部教育事務所主任指導主事
 佐藤和彦 // 指導主事
 石井俊明 //
 狩野大樹 //
 田村友子 //
 大谷葉月 //
 小池英雄 //
 綿貫 充 //
 吉崎 仁 西部教育事務所主任指導主事
 永田伊知郎 // 指導主事
 丸山尚子 //
 岩崎 聡 //
 井上高広 //
 清水さとみ //
 市村敏男 //

池田卓巳 西部教育事務所指導主事
 関口正一 //
 山田一彦 吾妻教育事務所主任指導主事
 小林克典 // 指導主事
 佐藤三枝子 //
 木檜徳子 //
 唐澤光貴 //
 市村武文 //
 木樽一秀 利根教育事務所主任指導主事
 角田 巧 // 指導主事
 阿部詩子 //
 佐々木 孝 //
 中島 潔 //
 高橋浩人 //
 吉田和夫 東部教育事務所主任指導主事
 石川雅規 // 指導主事
 栗田雅子 //
 松崎智幸 //
 藤倉慶之 //
 臼井一子 //
 木村淳史 //
 近藤照久 総合教育センター指導主事
 浅井広之 //
 竹澤昭吾 //
 飯島 隆 //
 福島 桂 //
 長沼祐子 //
 門倉 健 //
 委文弥生 //
 関 喜史 //
 足達哲也 //
 鶴見純也 //
 平形隆正 //
 小熊良一 //
 矢野 勉 //
 右井義人 //

(職名は平成25年4月1日現在)

たくましく生きる力をはぐくむ

はばたく群馬の指導プラン



実践の手引き

平成 26 年 3 月

編集・発行 群馬県教育委員会義務教育課

〒371-8570 群馬県前橋市大手町 1 丁目 1 番 1 号

TEL 027(226)4615

FAX 027(243)7759

印刷 朝日印刷工業株式会社

